

令和 6 年度業務実績報告書

令和 7 年 6 月

独立行政法人国立美術館

目 次

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	1
1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開	1
(1) 多様な鑑賞機会の提供	1
① 所蔵作品展	1
② 企画展	2
③ 国立映画アーカイブの映画上映会・展覧会	6
④ 国立西洋美術館本館の活用・公開	6
⑤ 地方巡回展等	7
(2) 美術創造活動の活性化の推進	8
① 公募団体等への展覧会会場の提供等	8
② 国が顕彰・育成してきた芸術家のための発表機会の提供	8
③ 新しい美術の動向や現代作家の積極的な紹介	8
④ 国際発信拠点として機能するための運用の見直し	9
(3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上	10
① 国立アトリサーチセンターにおける国内美術館所蔵作品等の情報の国内外への発信	10
② 国立美術館所蔵作品等のデジタル化・データベース化、所蔵作品検索システムの充実	11
③ 美術情報・資料の収集、レファレンス機能の充実	14
④ 我が国現代美術やメディア芸術の国際発信の推進、現存作家の国際発信支援等	16
(4) 教育普及活動の充実	18
① 幅広い学習機会の提供及びラーニングコンテンツ等の開発	18
② ボランティアや支援団体との相互協力等による教育普及事業及び企業や地域等との連携による事業の開発・実施等	21
③ 映画フィルム・資料の所蔵作品の活用	23
(5) 調査研究の実施と成果の反映・発信	24
① 調査研究一覧	24
② 調査研究成果の発信	25
(6) 快適な観覧環境の提供	29
① 高齢者、障がい者、外国人等を含めた入館者本位の快適な観覧環境の形成	29
② 入場料金、開館時間等の弾力化	31
③ キャンパスメンバーズ制度の実施	33
④ ミュージアムショップ、レストラン等の充実	33
2 我が国の近現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・活用・継承	36
(1) 作品の収集	36
① ナショナルコレクションの形成	36
② 所蔵作品の収集に係る取組状況	37
(2) 所蔵作品の保管・管理	41
① 収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応	41

② 防災対策の推進・充実	42
(3) 所蔵作品の修理・修復	43
(4) 所蔵作品の貸与	45
3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与	47
(1) 国内外の美術館等との連携・協力等	47
① 国内外の研究者の招へいによるシンポジウムの開催等	47
② 我が国の作家、美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力	47
③ 全国の美術館等との人的ネットワークの形成等	49
④ 国立アトリサーチセンターによる連携・協力	50
(2) ナショナルセンターとしての人材育成	54
① 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動	54
② 今後の美術館活動を担う中核的人材の育成	55
③ 映画保存のニーズに対応した人材育成	58
(3) 国内外の映画関係団体等との連携等	59
① 映画フィルム及び映画関連資料の収集	59
② 映画フィルム及び映画関連資料の保管・修復・復元	60
③ 映画フィルム及び映画関連資料の貸与等	61
④ 所蔵フィルム検索システムにおける公開実績	62
⑤ 国内外の映画関係団体等との連携・調整に係る取組状況	62
⑥ 我が国の映画助成システムの改善等に関する協力	62
⑦ 非フィルム資料のアーカイブ化に関する取組	62
⑧ ロケーションデータベースの運営	63
⑨ 情報発信、人材育成に係る機能強化	63
II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	64
1 業務運営の取組	64
2 組織体制の見直し	64
3 契約の点検・見直し	64
4 共同調達等の取組の推進	66
5 給与水準の適正化等	66
6 情報通信技術を活用した業務の効率化	66
III 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画等	68
1 自己収入の確保	68
2 保有資産の有効利用・処分	68
3 予算	68
4 収支計画	69
5 資金計画	70
6 貸借対照表	70

7	短期借入金	70
8	重要な財産の処分等	71
9	剰余金	71
IV	その他主務省令で定める業務運営に関する事項	72
1	内部統制・ガバナンスの強化	72
2	施設・設備に関する計画	73
3	人事に関する計画	74
4	関連公益法人	76
	別 表	77
	凡 例	78
	別表 1 所蔵作品展	79
	別表 2 企画展	81
	別表 3 映画上映会（国立映画アーカイブ）	84
	別表 4 展覧会（国立映画アーカイブ）	85
	別表 5 地方巡回展・巡回上映等	85
	別表 6 公募展示室における展覧会毎の入場者数	86
	別表 7 展覧会毎の批評・レビューの状況（掲載数及び掲載媒体数）	90
	別表 8 企画展示室における現代作家を採り上げた展覧会の実施回数及び採り上げた作家の人数	91
	別表 9 調査研究一覧	92
	別表 10 展覧会図録における執筆	101
	別表 11 研究紀要における執筆	103
	別表 12 館ニュースにおける執筆	105
	別表 13 館外の学術雑誌、学会等における調査研究成果の発信	109
	別表 14 美術作品購入一覧	140
	別表 15 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催	158
	別表 16 シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等とのネットワークの構築	161

（別紙）独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

(1) 多様な鑑賞機会の提供

第5期（令和3年度～令和7年度）中期目標に定める指標	
指標	・所蔵作品展及び企画展並びに国立映画アーカイブの上映会・展覧会の満足度調査を実施し、「良い」以上の回答率を、前中期目標期間実績と同程度の水準を維持するものとする。 ・国立美術館巡回展の満足度調査を実施し、「良い」以上の回答率を8割程度とする。 ・国立映画アーカイブの優秀映画鑑賞推進事業の満足度調査を実施し、「良い」以上の回答率を8割程度とする。
関連指標	・所蔵作品展及び企画展の入館者数 ・国立映画アーカイブの上映会及び展覧会の入館者数 ・国立美術館巡回展の入館者数／巡回先美術館数 ・国立映画アーカイブの優秀映画鑑賞推進事業の入館者数

※上記指標に係る実績は別表1～5を参照のこと。

多様な鑑賞機会の提供にあたっては、研究成果、利用者のニーズ等を踏まえ、国立美術館ならではの多様な美術作品鑑賞機会を提供するため、魅力ある質の高い所蔵作品展・企画展等を実施した。

① 所蔵作品展

所蔵作品展は、各館の特色を生かし、小企画展・テーマ展として行うものを含め、別表1のとおり積極的に実施した。

各館の取組の特徴は以下のとおりである。

ア 東京国立近代美術館

(本館)

19世紀末から今日に至る日本の近現代美術の流れをわかりやすく伝えるとともに、展示室ごとにテーマを設けて各時代の美術を新鮮な切り口から提示した。

4月からの会期においては、教育普及室との協働により、鑑賞のきっかけとなるような問いかけを示した特集を企画、国内外の来館者から好評を得た。9月からの会期では、シュルレアリスム宣言から100年の節目にあたり、マックス・エルンストの新収蔵品をはじめコレクションから国内外のシュルレアリスムの作品や資料を集めた「シュルレアリスム100年」、戦後の前衛美術において高い評価を得た芥川（間所）紗織の生誕100年関連展示などを行った。2月からの会期では、国際的な共同研究を前提に新収蔵となったジャン（ハンス）・アルプの石膏複製を紹介する企画などを行った。またギャラリー4においては、小企画としてジェルメーヌ・リシエを中心とした展示や「フェミニズムと映像表現」を実施し、年間を通して特色ある展示を多く開催し、新たな来館者層の獲得にもつながった。

(国立工芸館)

令和6年度の所蔵作品展は夏期及び冬期に開催した。夏期には「おとなとこどもの自由研究 工芸の光と影展」を開催した。手に触れることの出来ない光と影に量感を与えることができる工芸ならではの表現に着目し、人間心理にも働きかける現象として提示したものである。家族連れのか来館者向けに子供でも楽しめるようスタンプラリーやワークシート、また大人向けのセルフガイドである「自由研究ノート」等を用意した。

冬期には「反復」と「偶然」という、工芸及びデザインを特徴づけるふたつの性質に注目した展覧会を開催した。模様や造形の反復に加え、制作行為も反復運動によっている工芸の特質を明らかにした。また制作工程では火や温湿度といった自然現象に左右され偶然の産物である意匠が生まれ

ることもしばしばであり、相反するように見える反復と偶然という工芸やデザインの特徴を示した展覧会であった。

イ 京都国立近代美術館

令和6年度も所蔵作品展の多くの回で企画展とテーマを合わせた展示を開催した。「鉄斎を慕う洋画家たち」では、企画展「没後100年 富岡鉄斎」に合わせ、鉄斎が洋画家から高く評価を受けていたことに焦点を当て、鉄斎を慕った洋画家たちの作品を展示することで、企画展に新たな視点を加える構成とした。企画展「LOVE ファッション—私を着がえるとき」の会期中には「愛と欲望とファッション」と題して、元田敬三や都築響一の写真作品を展示した。特に元田敬三の作品は2019年に開催した企画展「ドレス・コード?—着る人たちのゲーム」での展示後に収蔵した作品であり、企画展が収集につながり、収集した作品が新たな企画展ともつながることを示し、美術館活動の有機的な連関を作品を通して伝えることができた。また、関西の他館の展覧会と連動する内容の展示も行った。第1回コレクション展の「ピカソとアルベール・グレーズ」は京都市京セラ美術館で開催された「キュビズム展—美の革命」と、第3回「志村ふくみと紬織」は滋賀県立美術館の「生誕100年記念 人間国宝 志村ふくみ展 色と言葉のつむぎおり」とそれぞれ関連した内容となっており、関西の公立館とのつながりが見える展示を行うことができた。

ウ 国立西洋美術館

令和5年度に引き続き、年代順を基本としつつテーマ性も兼ね備えた所蔵作品展示を行うとともに、小展示コーナー（Collection in Focus）を複数設けた。特定のモチーフや主題に着目して時代や地域を越えて作品を比較考察した小展示のほか、数年にわたる修復処置を終えて初公開にいたった旧松方コレクションのルネサンス絵画にフォーカスした小展示は、令和5年度に続いて好評を博した。

常設展示室内では小企画展を計4回開催した。そのうち「オーガスタス・ジョンとその時代 松方コレクションから見たイギリス絵画」では、日本では紹介される機会が少ない近代イギリス美術の諸相を松方コレクションという切り口から新たな光をあてるとともに、松方コレクションの研究成果の進展を示す学術的意義の高い展示となった。

エ 国立国際美術館

国立国際美術館の所蔵作品展は、いわゆる所蔵作品が常設展示化されたものではなく、企画展の会期にほぼ応じた会期設定のもと展示替えを行いながら実施している。近年は、従来以上にテーマ設定を強化し、特別購入予算による収蔵作品のお披露目や近年の新収作品の積極的な活用を意識した展示を行なっている。令和6年度はルイズ・ブルジョワの作品購入から「身体」をテーマにした「コレクション2 身体—身体」、また所蔵作品のジェンダー・バランスの見直しが大きなテーマになっている中で、女性作家だけではなくモチーフになった女性像をテーマにした「コレクション1 彼女の肖像」、さらにブルジョワ、ルース・アサワ、レオノール・アントゥネス等、特別予算による収蔵作品を起点に据えた「コレクション2 Undo, Redo わたしは解く、やり直す」を開催した。所蔵作品群に新たな切り口でテーマ設定することで、これまでとは異なる解釈や提示が実施できた。またテーマに沿った作品選定を進める上で、当館に欠けている作家、作品も浮上し、今後の収蔵計画の一助にもなった。

② 企画展

企画展では、世界の美術の新たな動向を紹介する展覧会や我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介し、国際的な美術動向に位置付ける展覧会、先端的な展覧会、作家・作品の再発見・再評価、我が国に所在するコレクションの積極的活用を目指した展覧会を、以下の点に留意し、別表2のとおり実施した。

- イ 国際的視野に立ち、アジア諸地域を含め海外の主要美術館と連携し、確固たる評価を得ている世界の美術や海外の美術の新たな動向を紹介するとともに、我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介し、国際的な美術動向に位置付ける展覧会等に積極的に取り組む。
 - ロ 展覧会テーマの設定や他の芸術文化との連携による展示方法等について方向性を提示することに取り組む。
 - ハ アニメ、マンガ、デザイン、建築、メディアアートなど我が国が世界から注目される新しい領域の芸術表現を積極的に取り上げ、最先端の現代美術への関心を促す。
 - ニ 国内の美術館と連携し、我が国に所在するコレクションの積極的活用を図る。
 - ホ 過去の埋もれていた作家・作品・動向の発見や再評価に取り組み、国際的な美術動向に位置付ける展覧会に積極的に取り組む。
- 各館の取組の特徴は以下のとおりである。

ア 東京国立近代美術館 (本館)

「TRIO パリ・東京・大阪 モダンアート・コレクション」では、パリ市立近代美術館、東京国立近代美術館、大阪中之島美術館という、20世紀のモダンアートを中心に収集してきた3館のコレクションから、共通点のある作品で3点1組のトリオを組むという、ユニークな展示方法を試みた。各トリオでは、日本と西洋の作家が文脈を越えて比較され、従来のような西洋から日本への一方通行的な影響関係を示すのではなく、同じ時代に活躍した異なる出自をもつ芸術家による作品の共通点とそれぞれの個性に斬新な角度から光を当てた。また、フランスで最大級の近現代美術コレクションを誇るパリ市立近代美術館と、関西の作家をはじめ海外の重要作品を多く所蔵する大阪中之島美術館と連携し、国内外のコレクションを積極的に活用することで、20世紀から21世紀にかけての日本の芸術的動向を海外の動向と比較することが可能となった。さらに、トリオという枠組みを採用することで、これまで展示の機会が少なく、あまり知られることのなかった作家の作品を新たな視点で捉え直し、広く紹介することができた。カタログでは、本展の趣旨を多角的に補完する論文を掲載するとともに、20世紀の国内外の美術動向をまとめた年表も制作した。

「ハニワと土偶の近代」は、近代美術館において「ハニワと土偶」を掲げた企画の意外性から、インパクトをもって受け入れられた。ハニワや土偶などの出土遺物は、前衛/伝統、分野を問わず、近代において美術や文学やサブカルチャーのモチーフとなり、幅広い領域で熱狂的なブームを巻き起こしてきた。本展覧会は、このような出土遺物を美的に鑑賞するという近代的な文化現象を、明治から現代まで時代背景とともに考察し、ハニワや土偶に向けられた視線の変遷を歴史的に辿るはじめての機会となった。美術史にとどまらず、工芸、建築、写真、映画、演劇、漫画、文学、伝統芸能、思想、教育まで幅広い分野を渉猟し、戦中・戦後の日本におけるアイデンティティをめぐる近代文化史、精神史として描き出すユニークな試みとして注目を集めた。展覧会図録は美術を中心に、文化史の舞台に躍り出たハニワや土偶といった出土遺物の系譜をまとめており、表紙のハニワの顔の型抜が愛らしい点、企画等総合的に高く評価され、第66回全国カタログ展において最高賞である経済産業大臣賞を受賞した。

(国立工芸館)

重要無形文化財「志野」の保持者・鈴木藏(1934-)は、薪窯でしか焼けないとされていた「志野」にガス窯で挑戦し、自然への畏敬の念を重んじつつ「新しくて、力強いもの」という造形思考を貫く中で、独自の美意識を映し出す作陶スタイルを確立した。「卒寿記念 人間国宝 鈴木藏の志野展」は、鈴木蔵の卒寿を記念して企画され、初期から最新作までを器形やテーマに分けて4章立てで紹介し、各章には1つずつコラムを設けて、素材や道具、特徴的な取り組みに加え、制作の拠り所となった安土・桃山時代の優品や、鈴木蔵の陶芸観を受け継ぐ長男・徹、三男・健の作品もあわせて展示紹介した。これらの展覧会構成により、鈴木蔵の作品の変遷に加え、古陶と現代を繋ぐ作陶姿勢や、自然観から生み出される造形思考を結びつけ、鈴木蔵の制作における特徴的なスタイルを浮かび上がらせる展覧会となった。またカタログにおいては、取材時に撮影した作陶や窯焚きの様子に加

えて、これまでの志野研究の足跡を示すテストピースや箱書の変遷なども掲載した。これにより、作品や文章だけでは伝えられない鈴木制作に対する姿勢や考え方などを視覚的に紹介することで、陶芸家・鈴木藏を深く読み解くことができる内容となった。

「心象工芸展」では、現代工芸家6名による、自身の心象風景を表現した74点の作品を紹介する展覧会を開催した。技術偏重ではなく、絵画や彫刻と同様に、作家の思いを表現した作品の存在を示すことで、工芸の幅広さを提示し、観覧者が自身の内面と向き合う機会を創出した。コンセプト重視の現代アートが行き詰まりを見せる中で、高い技術力に裏打ちされた日本の近現代工芸が、海外で高く評価されている背景を紹介する機会にもなった。さらに、来館者に作品の良さをより伝えられるよう「見せる」ことにこだわり、各作家ごとにテーマカラーを設定し、作家の個性や作品の特徴が伝わるよう工夫された展覧会となった。専門の照明デザイナーを導入し、作品の色味はもちろんのこと、作家の見せたい部分が強調されるような、しかし受け手を拒絶しないような空間づくりを意識した結果、一般の来館者の反応は良く、連携協力者会議の委員からは展示空間づくりの重要性を引き続き意識して作り込むよう助言があった。

イ 京都国立近代美術館

「没後100年 富岡鉄斎」は、富岡鉄斎の没後100年を記念して開催した。富岡鉄斎については、近年の学術研究により新たな知見がもたらされ、諸外国でも注目が高まりつつある一方、国内ではかつてほどの知名度を保っていない状況にある。こうした中で本展覧会の開催にあたっては、新知見を盛り込んで新たな鉄斎の像を提示するとともに、一般にも鉄斎が親しみやすく感じられるように工夫をし、企画を行った。作品選定においては、円熟期の重厚な代表作とともに初期の清新な作品にも注目し、従来の鉄斎展であまり取り上げられなかった花卉や蔬菜など親しみやすい画題の作品も取り上げるとともに、章構成にも工夫を凝らし、鉄斎の画業だけではなく、日常生活をも垣間見ることができるような構成とした。そのため、京都市内外の鉄斎ゆかりの個人コレクションや清荒神清澄寺鉄斎美術館の膨大なコレクションなどから、よりテーマに即した作品を選び、各コレクションをめぐる鉄斎の人間関係をも浮かび上がらせるようにした。会期中、米国の日本美術史研究者が視察に来日したほか、インバウンドや日本の若年層なども含めた多数の来館があったのは、巨匠としての鉄斎だけではなく京都の街中で生きた人物としての鉄斎を強調して展示を行った結果であると考えられる。

人は長い歴史の中で、着ることにさまざまな情熱を傾けてきた。「LOVE ファッション—私を着がえるとき」では、装いをめぐる憧れや熱狂、葛藤や矛盾をともなって発露する人間の内なる熱情や欲望を、ファッションに対する「LOVE」ととらえ、その多様なかたちを探った。京都国立近代美術館と京都服飾文化研究財団(KCI)による9度目のコラボレーションとなる今回の展覧会では、KCI所蔵の衣装コレクション約120点を中心に、服だけでは語りきれない人間の内なる欲望を描き出す現代美術や文学を織り交ぜ、人間が服を着ることの意味や奥深さについて改めて見つめ直す機会とした。会場では、「自然にかえりたい」「きれいになりたい」といった章タイトルのほか、11の古今東西の文学作品の引用テキストを掲出し、鑑賞者が自分事としてテーマを受け止めながら展覧会を楽しめるよう工夫した。さらに会場での撮影を全面的に容認したことで、来場者によるSNS投稿が促され、広報面での効果も得られた。開幕にあわせて刊行した展覧会カタログには、全作品の図版を収録するとともに、企画キュレーターや研究者による論考や小論をバイリンガルで掲載し、展覧会内容への理解をより深める構成とした。

ウ 国立西洋美術館

「内藤コレクション 写本—いとも優雅なる中世の小宇宙」は、国立西洋美術館が所蔵する写本コレクション「内藤コレクション」を一堂に展示したものであり、カタログ・レゾネの刊行と連携させた企画として実施した。そのため最新の研究成果を活用することができた。写本という芸術ジャンルについて、その機能も含めた解説を加えることにより、この芸術ジャンルの魅力を広めることができたと考える。国立西洋美術館は中世から20世紀前半に至る西洋美術の流れを体系的・通史的に概観できる施設を目指しており、中世からルネサンスにかけて数多く制作された写本芸術の

理解を広めるうえで、本展覧会はきわめて大きな意義を持ったといえる。本展覧会が成功を収めたことは目標の約 1.5 倍にのぼる入館者数が物語る通りである。

「モネ 睡蓮のとき」では、クロード・モネ晩年の芸術に焦点を当て、とりわけ「大装飾画」の連作に関連する〈睡蓮〉を中心に、その展開を精緻に跡付けつつ、モネ晩年の造形表現の革新性と多様性、画家の個人史および社会史的な背景にも光をあてた。また、国立西洋美術館のコレクションの多くは、松方コレクションに由来するモネ晩年の作品が多数含まれるが、本展覧会は、それらの作品と密接な関連性をもつ同時期の作例とを比較展示することで、モネの画業における位置付けを再検証・再認識する機会ともなった。会場では一般来館者向けに平易な解説を付し、来館者アンケートでも高い評価を得た。一方、図録では、作品の政治的コンテクストや美術市場との関係、日本との文化交流史、素材と技法をめぐる科学分析など、多角的な観点から国内外の研究者による充実した論考を収録し、高い学術性を確保した。

エ 国立国際美術館

「梅津庸一 クリスタルパレス」は梅津庸一のこれまでのあゆみを振り返る一種の回顧展であるが、単にそのキャリアを顕彰することを目的としたものではない。むしろ作家の仕事をとおして、美術館という場の可能性と限界を浮かび上がらせることを主たる目的としている。大量の出品作品群、作品と展示空間とが渾然とする会場施工、出入口が一体化した回遊形式の動線などは、まだ若い梅津の、今後の展開への余白を確保しておくための戦略であり、展示室ごとに雰囲気を変える会場構成は視覚的にも楽しさがあり、硬軟織り交ぜながら多様な問いを来館者に投げかけるものとなった。会期中には、アーティストトーク、ギャラリートークに加え、計 5 本の対談を実施し、対談相手は企画担当者に加え、現代美術を専門とする美術史家、ビジュアル系音楽に精通するフリーライター、哲学者などと幅広く、通常の現代美術展では扱いにくいテーマにも果敢に踏み込んだ点が特徴的であった。この作家の多面的な性格を、単純化することなく捉えるためのヒントを与える機会になったと考えられる。

「ノー・バウンダリーズ」は、当初予定していた特別展が主要作品の借用不可などにより中止した事態を受け、国立国際美術館の所蔵作品を活用した特別展として企画、開催した。現代社会において概念化されている「境界」をテーマに取り上げ、国内外で活躍する現代美術作家が作品を通じていかに既成概念を超え、多様性や共生の価値を新たに提示しているかを示した。これは同時に、現代美術がいかに現代社会の課題に対する方策を提示し得るかを探る試みでもある。出展作品には、映像、写真、インスタレーションといった表現方法を多く含むことにより、最先端の現代美術の動向を示すことも出来た。また、展示には各作家の解説パネルを掲示し、所蔵作品でありながらも当館では初出品となる作品を中心に、作品に対する解説により鑑賞者の理解が深まることを目指した。さらに、近年の当館のコレクション形成を反映して、国内また欧米圏のみならずアジア他地域出身の作家や女性やクィア作家も含めることで、現代美術の多様性を体現する展示となった。

オ 国立新美術館

「田名網敬一 記憶の冒険」は、田名網敬一の作品を全 11 章の時系列構成で紹介した回顧展であり、近年海外での評価が高まってきているなか、日本でのまとまった紹介が遅れていただけに、まさに待望の展覧会であったといえる。画業の全貌を 500 点以上の作品で見せる網羅的な展示構成により、田名網の創作活動を包括的に知ることのできる貴重な機会となった。また、香港の M+、アメリカの MoMA とウォーカーアートセンターの 3 館に所蔵されている田名網のカラージュ作品を本展のために借用することができたことで、海外での受容と評価の一端を示すことにも成功した。晩年にかけて多岐にわたるメディアを使用して横断的に制作を続けた田名網の作品を時系列で見せることで、学術的な観点での作品分析の俎上に乗せる契機ともなった。戦争をテーマにした作品が多いが、結果的には鮮やかな色彩とポップなイラストの作風、没入的な展示方法によって幅広い来館者層が楽しめる空間を創出することができた。

「荒川ナッシュ医 ペインティングス・アー・ポップスターズ」は、アメリカ在住のパフォーマン・アーティスト、荒川ナッシュ医によるアジア地域では初となる美術館での個展であること

もに、国立新美術館にとって初めてのパフォーマンス・アーティストの個展であり、彼の全方位の活動を検証する新しい形式の展覧会である。本展覧会は個展でありながら、荒川は、敬愛する画家たちの絵画を核として、子育て、LGBTQUIA、いわき、音楽、パスポートなどの9つのセクションを構成した。彼の故郷いわき市で被災した東日本大震災の経験や、日本から米国に変えた国籍の問題などアイデンティティに関わる課題や、ジェンダーやディアスポラなど世界中で議論されている諸問題を、美術の歴史も織り込みながら等身大で構成した。また絵画に触発されて、65歳以上のシニアや子供たちとのパフォーマンスも実施するなど、来館者が楽しみながら参加できる機会と社会問題の検証を取り込んだ本展は、展覧会の在り方についても新たな視点を示すことができた。

③ 国立映画アーカイブの映画上映会・展覧会

国立映画アーカイブの映画上映会・展覧会は、別表3及び別表4のとおり実施した。

そのうち特色ある上映会・展覧会として、上映会は「没後50年 映画監督 田坂具隆」を開催した。1920年代から1960年代にかけて、誠実かつヒューマニズムに満ちた作風で多くの名作を残した映画監督田坂具隆（1902-1974）は、戦前には、山本有三原作の『真実一路』（1937年）、『路傍の石』（1938年）といった子供を見つめた文芸作品を世に問い、戦争映画においても人間描写に重きを重視する姿勢を貫いた。広島で被爆し原爆症を抱えながらも戦後の映画界に復帰した田坂は、石原裕次郎・中村錦之助・佐久間良子といったスターを育成するとともに、『はだかっ子』（1961年）や『ちいさこべ』（1962年）などで小さき者へ温かい眼差しを注ぎ続けた。国立映画アーカイブで初となる田坂の人と仕事に光を当てた展覧会と同時開催した本上映会では、『更生』（1927年）から遺作『スクラップ集団』（1968年）まで、現存するすべての田坂作品を集めるとともに、公私ともに田坂を支えた俳優の瀧花久子など、ゆかりの人々の作品も含め、41作品（32プログラム）を上映する大規模な企画となり、その偉大な業績を多面的に検証する貴重な機会となった。

展覧会は「日本映画と音楽 1950年代から1960年代の作曲家たち」を開催した。日本映画に携わった諸芸術分野のエキスパートの中でも、幅広い音楽を数多く提供し続けた作曲家たちの功績は特に大きい。作曲家たちにおいても、映画に携わる仕事は自らの創作意欲を実践に移せる貴重な機会であり、生み出された諸作品は演奏会用の作品とは一味違う魅力に溢れている。本展覧会は、撮影所システムのもと各社がとりわけ映画を量産していた1950年代から1960年代に映画界で活躍した作曲家たちを取り上げ、自筆譜や製作資料などの資料のほか実際の楽曲を通じてその功績を顕彰した。また、展覧会と連動して大規模な特集上映企画も開催し、展示のみならず上映の面からも日本映画と音楽家たちとの緊密な関わりについて、直接的かつ多面的に提示することを試みた。さらに5月25日には、開館以来初となる演奏会「映画音楽がやってきた！『日本映画と音楽』特別演奏会」を長瀬記念ホール OZU にて催し、映画ファンを超えた幅広い層に国立映画アーカイブの活動を認知させることで新たな来館者層の獲得を試みるとともに、ホールの活用について新たな可能性を提示することができた。

④ 国立西洋美術館本館の活用・公開

令和6年11月13日国立西洋美術館講堂において世界遺産資産7カ国による「第10回国際常設会議」を開催し、前庭整備や保全状況を報告した。

ミュージアムショップやレストラン「すいれん」に設置されている創建部材のルーバーを、スマートフォンで観ることができるコンテンツ「ゆびさきでめぐる世界遺産ーぐるぐる国立西洋美術館ー」No. 6及び7を公開した。

世界遺産パンフレットを刷新、ミュージアムショップにおいて瀧本幹也氏撮影によるポストカードの販売を開始し、ル・コルビュジエの設計理念や創建部材が多く残る部分のデジタル公開や印刷物を刷新することで建築作品の理解が深まる機会を提供した。

⑤ 地方巡回展等

国立美術館の所蔵作品を効果的に活用し、地方における鑑賞機会の充実及び美術の普及を図るとともに全国の公私立美術館等の活動の充実と作品活用の促進に資するため、全国の公私立美術館等と連携して、国立美術館巡回展を実施した。

令和6年度は担当館である京都国立近代美術館が、静岡市美術館及び長崎県美術館を会場として、2つの巡回展を実施した。静岡市美術館では、近代写真の父アルフレッド・スティーグリッツを起点として、19世紀末から現在に至るまでの約100年にわたる多様な写真表現の変遷をたどる内容であり、写真史を通史で見せる大規模な展覧会「写真をめぐる100年のものがたり 京都国立近代美術館コレクションを中心に」を実施し、京都国立近代美術館の写真コレクションを中心にしつつ、写真史を紹介する上で不足している部分を、東京国立近代美術館や国立国際美術館の協力のもと両館の所蔵品を加えることで、充実した内容の展覧会とすることができた。長崎県美術館では、京都で育まれてきた工芸の歴史を「超絶技巧からモダンへ」というキーワードによって紐解き、明治時代から第二次世界大戦終戦の昭和20年までの作品を紹介する展覧会「超絶技巧からモダンへ ―京都・近代工芸の新展開―」を実施し、陶磁器や漆工品、金工品、染織品などの工芸を大規模に扱う展覧会がなかった長崎県美術館において初めての本格的な工芸展となった。

また、国立映画アーカイブにおいて、「優秀映画鑑賞推進事業」を全国各地で実施した。平成元年度から実施している本事業は、優れた日本映画の鑑賞の機会を広く国民に提供し、映画保存への理解を深めることを目的に、文化庁および全国各地の教育委員会、公共文化施設等と連携・協力して開催している35mmフィルムを主とした日本映画の巡回上映事業である。令和6年度も会場のお大半は映画館が無くなった地域の公共ホールであり、開始時は北海道から沖縄まで全国99会場でスタートしたが、台風や会場設備の故障などで2会場が中止となった。新たな会場として、大正時代に開設された映画館など地域の文化財的な施設も加わり、本事業を活用して各地で映画文化の醸成を含めた文化活動に成果をあげている。また、多くの会場から長い間要望されていたデジタルプログラムの導入については、令和6年度は、初めて株式会社KADOKAWAの協力を得て『羅生門』『雨月物語』『不知火校校』『座頭市物語』の1プログラムをDCP（デジタルシネマパッケージ）でも提供できるようにし、2会場でDCP上映が行われた。

令和6年度の地方巡回展及び巡回上映等は、別表5のとおりである。

さらに、国立アトリサーチセンターにおいて、以下の取組を行った。

全国の公私立美術館等の活動の充実と作品活用の促進に資する取組として、各地の美術館のコレクションの活性化も視野に入れた新しい事業として、（1）国立美術館全館と、地方の美術館1館とが協働し、両者のコレクションを特定のテーマのもとに企画構成した展覧会「国立美術館 コレクション・ダイアログ」、（2）地方の美術館のコレクション展示に、関連する国立美術館コレクションを1点ないし数点加えることで、地方美術館のコレクションの魅力を引き出す特集展示「国立美術館コレクション・プラス」の2つの事業を開始し、（1）については令和7年度の実施に向けて、国立工芸館と岐阜県美術館との間で準備を進めた。（2）については、令和6年度は栃木県立美術館で「コレクション展Ⅲ 刑部人とギュスターヴ・クールベ 風景画家たちの眼」を実施し、同館の所蔵する刑部人の作品に国立西洋美術館の所蔵するクールベの作品を加えて比較展示を行った。

(2) 美術創造活動の活性化の推進

第5期（令和3年度～令和7年度）中期目標に定める指標	
指標	・国立新美術館（国立アートセンター）の公募展示室の予約率は、展覧会の国際的な評価の向上を図りつつ100%を目指すものとする。
関連指標	・国立新美術館（国立アートセンター）における全国的な活動を行っている美術団体等への展覧会会場の提供に係る取組状況。（公募展団体数） ・公募展示室における展覧会毎の入場者数 ・展覧会毎の批評・レビューの状況（掲載数及び掲載媒体数） ・新聞社・テレビ局・公募展以外の主体への展示室貸し出し件数 ・企画展示室において現代作家を採り上げた展覧会の実施回数及び採り上げた作家の人数 ・国が顕彰・育成してきた芸術家の展覧会の実施件数

※本項目はすべて国立新美術館に関する指標である。

※関連指標の2、3、5点目は別表6～8参照。

① 公募団体等への展覧会会場の提供等

公募展団体数	83 団体	年間予約室数	3,500 室／年	予約率	100.0%
公募展事業収入	305,942,700 円	入館者数	1,000,061 人		

全国的な活動を行っている美術団体等への展示室の提供を上記のとおり行った。また、令和8年度に公募展示室を使用する80団体（野外展示場のみ使用団体を含む。）3,444室を決定したほか、美術に関する新たな創造活動の展開や国際発信、芸術家の育成等を支援し、我が国の美術創造活動の活性化に資するため、令和9年度以降の貸出運営見直しに係る、ワーキングを実施した。

② 国が顕彰・育成してきた芸術家のための発表機会の提供

国が顕彰・育成してきた芸術家のための発表機会の提供として、展覧会を3件実施した。主な成果は以下のとおりである。

- ・パフォーマンス作家、荒川ナッシュの個展「荒川ナッシュ 絵・ペインティングス・アー・ポップスターズ」では、荒川ナッシュが様々な作家とのコラボレーションのなかで「私」という主体を再定義し、パフォーマンスとして表現するという独自の方法論を持つ作家であるため、個展でありながら、他の現代作家の活動が荒川ナッシュとのコラボレーションとして紹介され、現代美術の表現の多様なあり方を発信する機会ともなった。
- ・パブリックエリアを活用した無料の小企画シリーズ「NACT View」では、新進芸術家海外留学制度（2008年）を経てベルリンを拠点に活動する和田礼治郎のインスタレーションを前年度に引き続き実施し、幅広い層の来館者に現代美術に触れる機会を提供した。

③ 新しい美術の動向や現代作家の積極的な紹介

- ・「CLAMP 展」では、1989年に漫画家としてデビューして以来、35年の長きにわたりユニットという異色の体制で制作し続けてきた女性4人組の創作集団 CLAMP の活動を、貴重な原画約800点を通じて紹介した。国立新美術館における漫画・アニメ作家の個展のなかで、初めて女性作家を取り上げた展覧会でもあり、日本の漫画文化の豊かさと多様性を国内外に示したことの意義は極めて大きい。
- ・「田名網敬一 記憶の冒険」は、デザイン、映像、アニメーション、絵画、立体作品など多領域を横断する稀有な活動を約60年にわたり繰り広げてきた田名網敬一の国内初の大規模個展として、特筆に値する。残念ながら本展覧会開幕の二日後に作家が逝去し、作家自身が監修した最後の展覧会となった。初期から最新作まで約500点の網羅的な出品内容、内外の研究者の論文や精度の高いデータを掲載したカタログ、国際シンポジウムの実施などにより、田名網の活動の全体像を紹介するほぼ初めての機会となった。

- ・「荒川ナッシュ医 ペインティングス・アー・ポップスターズ」では、日本出身でアメリカ在住のパフォーマンス・アーティスト、荒川ナッシュ医の活動をアジア圏の美術館では初となる個展として紹介し、会期中はほぼ毎日アーティスト自身によるパフォーマンスやトークを開催した。荒川ナッシュは欧米の主要美術館や国際展で確かな評価を得てきたが、日本では展示・発表の機会が限られていたため、その活動の多様な側面を大規模な個展として紹介し、かつ入場無料とすることで幅広い層に観覧を促したことには大きな意義がある。
- ・新聞社・テレビ局・公募展以外の主体への展示室等貸し出し件数については、302 件であった。

④ 国際発信拠点として機能するための運用の見直し

国立新美術館が国際発信拠点として機能するため、公募展示室の使用の在り方について見直しを行っている。国際発信の拠点として機能するため、公募展示室を利用する美術団体等については、「国際公募を行い、海外在住者からの出品作品の受け入れを行っている」ことを条件とし、令和7年4月より募集を開始する予定。

(3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上

第5期（令和3年度～令和7年度）中期目標に定める指標	
指標	・ホームページアクセス件数の合計は、前中期目標期間の実績以上とする。 ・デジタル化した所蔵作品データの公開率（画像データ）は、前中期目標期間の実績以上とする。 ・デジタル化した所蔵作品データの公開率（テキストデータ）は、前中期目標期間の実績以上とする。 ・アトライブラリーの利用者数（オンライン利用含む） ・現代美術やメディア芸術の国際展等へ出展・参加する作家等に対する支援等の件数は、27件程度とする。 ・美術に関する重要な文献の翻訳・国際発信件数は、40件程度とする。 ・全国美術館収蔵品サーチへの登録件数は、30館、85,000件程度とする。 ・メディア芸術データベースの登録件数は、60,000件程度とする。
関連指標	・国際アートフェスティバルへの出展等、メディア芸術作品等の国際発信に向けた取組件数

① 国立アトリサーチセンターにおける国内美術館所蔵作品等の情報の国内外への発信

・全国美術館収蔵品サーチ登録件数

<登録館数>

新規登録館数	第5期新規登録館累計	目標登録館数（第5期）	前年度末登録館累計	本年度登録館累計
14	60	30	198	212

<登録件数>

新規登録件数	第5期新規登録累計	目標登録件数（第5期）	前年度末登録累計	本年度登録累計
156,535	296,702	85,000	287,307	443,842

従来は日本近現代に限定していた収録範囲を地域・時代ともに広げ、国内外の19世紀以降の作品を対象に含めることとし、あわせて「日本アーティスト事典」に未収録の作家の作品も収録する方針に更新した。これにより大幅なデータ追加が可能となり、その数は15万件を超えるものとなった。

このほか、新たに公私立美術館の参加協力を得ることができた。

・メディア芸術データベース登録件数

登録件数	第5期新規登録累計	目標件数（第5期）	前年度末登録累計	本年度登録累計
164,542	205,432	60,000	1,069,786	1,234,328

ユーザーにとっての利便性向上を目指し、令和6年1月に公開した新公開サイトに関し検索機能の拡張、データのCSV出力機能の実装等の機能拡張を行う一方、管理システムの軽量化を図った。また、一層のデータ拡充を目指し、国立国会図書館（マンガ分野・ゲーム分野）、明治大学米沢嘉博記念図書館・現代マンガ図書館、熊本マンガミュージアムプロジェクト（マンガ分野、カルチャー・コンビニエンス・クラブ、リストDB、全録サーバー、脚本アーカイブズ（アニメーション分野）、CEDiL・CESA（ゲーム分野）、慶應義塾大学アート・センター（メディアアート分野）から提供を受けてデータを新規追加した。

② 国立美術館所蔵作品等のデジタル化・データベース化、所蔵作品検索システムの充実

・ホームページアクセス件数

館名	アクセス件数（ページビュー）	
	実績	目標※
本部	735,328	1,329,241
国立アトリサーチセンター	237,797	-
東京国立近代美術館（国立工芸館含む）	7,652,594	5,951,959
京都国立近代美術館	2,835,415	4,243,023
国立映画アーカイブ	2,092,729	1,385,168
国立西洋美術館	9,208,899	16,108,316
国立国際美術館	2,132,873	2,810,293
国立新美術館	11,393,214	14,564,307
合計	36,288,849	46,392,307

※ 目標値は前中期目標期間の平均値である。

・所蔵作品データ等のデジタル化と公開

館名	画像データ					テキストデータ				
	デジタル化件数		累積公開	公開率		デジタル化件数		累積公開	公開率	
	新規	累計	件数	実績	目標	新規	累計	件数	実績	目標
東京国立近代美術館（本館）	165	12,077	8,310	59.6%	56.7%	149	12,575	12,551	89.9%	87.1%
国立工芸館	92	5,250	4,471	105.0%	87.2%	85	5,434	5,173	121.5%	114.6%
京都国立近代美術館	451	9,947	9,947	72.0%	60.1%	281	16,098	16,098	116.5%	118.4%
国立映画アーカイブ	-	-	-	-	-	8,095	314,385	-	-	-
国立西洋美術館	22	4,714	4,714	70.5%	71.8%	22	5,151	5,151	77.1%	76.6%
国立国際美術館	135	9,019	5,159	62.6%	61.6%	82	9,749	8,808	106.9%	103.8%
合計	865	41,007	32,601	69.4%	63.4%	8,714	363,392	47,781	101.8%	100.0%

【注1】「デジタル化件数」は、各館のローカルシステムにおける画像及びテキストデータの登録件数である（国立映画アーカイブについては、ローカルシステムである NFAD への映画フィルム及び映画関連資料のテキストデータ登録件数を掲載している。）。

【注2】「累計公開件数」は、「独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム」（<http://search.artmuseums.go.jp/>）における画像及びテキストデータの公開件数である。

【注3】上表のほか、東京国立近代美術館ではホームページ内「作品検索」（<https://www.momat.go.jp/collection>）において作品のテキストデータ 12,395 件及び画像データ 11,571 件、国立工芸館ではホームページ内「作品検索」（<https://www.momat.go.jp/craft-museum/collection>）において作品のテキストデータ 5,261 件及び画像データ 5,127 件、京都国立近代美術館では「京都国立近代美術館収蔵品データベース」（<https://jmapps.ne.jp/momak/>）において作品のテキストデータ 16,098 件及び画像データ 14,722 件、国立映画アーカイブでは「国立映画アーカイブ所蔵映画フィルム検索システム」（<http://nfad.nfaj.go.jp/>）において日本劇映画のテキストデータ 8,207 件、国立西洋美術館では「国立西洋美術館所蔵作品データベース」（<http://collection.nmwa.go.jp/artizeweb/>）において作品のテキストデータ 6,684 件及び画像データ 7,746 件、国立新美術館では「ANZAI フォトアーカイブ」（<https://www.nact.jp/anza/index.php>）においてアーカイブズ資料のテキストデータ 3,217 件を公開している。

※ 国立工芸館、京都国立近代美術館、国立国際美術館では、複数で一揃いの作品を個別に掲載している場合等があるため、画像及びテキストデータの公開率が高くなっている。

特記事項

ア 法人全体・国立アトリサーチセンター

法人ホームページアクセス件数については、令和5年度とアクセス集計方法が変更となり、Cookie 同意しない場合はPV 数を計測しない方式での集計となるため、数字上大幅な減となっているが、令和7年度については今年と同様の計上となるため経年比較が可能となる見込みである。なお、従来同様の集計（別ツール）ではPV 数 2,142,530 となっており、実質的にはアクセス増大の状況。

各館において、所蔵作品のデジタル化を進め、より良質で多様なコンテンツの提供を進める取組みのもと、令和5年度に引き続き、国立アトリサーチセンターを中心に「所蔵作品総合検索システム」に収録する収蔵作品の著作権調査等を行い、同システム収録画像の充実を図った。国立美術館の公開情報資源を一元的に検索・閲覧できるシステム「国立美術館サーチ（試験公開版）」については、機能向上策を検討し、その一環として検索結果の絞り込み機能の充実を図った。

イ 東京国立近代美術館

（本館）

平成8年以来、国立情報学研究所（NII）が提供する NACSIS-CAT に参加し、展覧会カタログを中心とする美術資料の書誌データ流通に貢献した。平成16年からは、当館をはじめとする在京国立美術館、国立博物館、東京都歴史文化財団の美術館、博物館等で構成される美術図書館連絡会（ALC: The Art Library Consortium）に加盟し、同会が維持管理する美術図書館横断検索（ALC Search）への情報連携を行っている。また、ミュージアム・アーカイブの整備を進め、法人文書ファイル管理簿等との整合性が図れるよう関係部署と調整し、図書検索システムでの情報管理を継続するとともに、「JAIR Cloud」を用いて「東京国立近代美術館リポジトリ」の整備に努めた。さらに「ERDB-JP」（電子リソース管理データベース）への登録を引き続き行ない、Cinii Research と連動した電子コンテンツへのアクセス向上に寄与し、当館の活動を広く周知している。また、アトライブラリ所蔵資料の中から貴重書「アネリー・ジュダ・ファイン・アート旧蔵貴重書コレクション」（162冊）、自館刊行の展覧会カタログ（64冊）のデジタル化に取り組んだ。

（国立工芸館）

所蔵作品総合検索システム等における作品情報・画像の公開については、令和5年度に引き続き、モノクロ画像のカラー画像への差替え作業を行った。加えて、画像のない作品に関しても撮影できたものから順次登録・公開を進めることができた。

さらに工芸館ウェブサイト内「作品検索」件数については、前年度登録できなかった情報についても整理・登録することができたため、大幅に公開件数を増やすことができた。合わせて、「作家一覧」についても検索窓を追加するなどして、利便性をあげることができた。

両システムに登録している画像のモノクロからカラーへの差し替え、未登録画像の新規登録については引き続き進めていくとともに、「見る・読む・聞く」のコンテンツに関しても内容の充実を図っていく。

ウ 京都国立近代美術館

国立アトリサーチセンターが推進する総合検索システム整備の一翼を担うため、所蔵作品データベース整備とともに、作品画像のデジタル化や新規のデジタル撮影を進めている。データベース整備においては、年々増加し続ける新収蔵作品等のデータ入力だけでなく、過去に入力されたデータの見直しを行い、最新研究成果に基づく修正や充実を行うとともに、利用者のための利便性の向上も図っている。なお、所蔵作品データベースとしてクラウド型データベースを活用することにより、データの新規入力・修正からその公開までの間のタイムラグを解消した。その結果、京都国立近代美術館ホームページから常に最新データを検索することができるようになっている。

エ 国立映画アーカイブ

令和元年度に開設した配信サイト「映像でみる明治の日本」に、明治後期に仏・リュミエール社が日本で撮影した記録映画 29 作品を追加した。また、令和 4 年度に開設した、国立映画アーカイブのフィルム・コレクションのより大規模な公開を行うプラットフォーム「フィルムは記録する—国立映画アーカイブ歴史映像ポータル—」に 63 作品を追加し、サイトの拡充を行った。さらに、令和 7 年 3 月 28 日には、館所蔵の新派、新劇、新国劇関連の映画や資料を公開するサイト「はじまりの日本劇映画 映画 meets 新派・新劇・新国劇」を開設し、9 作品を公開した。

映画関連資料については、「みそのコレクション」の映画館プログラムのデジタル化作業を継続するとともに、寄贈済み資料に遡及して今後のウェブ公開に向けたデータ整理作業を実施した。

また令和 5 年度に開設した、館所蔵の映画関連資料を包括的に公開する WEB サイト「映画遺産—国立映画アーカイブ映画資料ポータル—」の第 2 弾として、「みそのコレクション」より映画館プログラム 5,682 点のメタデータとそれらのうち 4,449 点の全ページ画像の高精細な画像と詳細なデータを公開した。また第 3 弾として、同コレクションより映画館チラシ 873 点のメタデータのうち 865 点の画像を公開した。

オ 国立西洋美術館

公式ホームページでは CMS 機能を活用し、運営・事業に係る情報を即時発信した。継続して館内情報のデジタル化を進め、デジタルサイネージによる情報提供、二次元コードを活用した所蔵作品展・企画展内の作品解説、音声ガイド等を多言語で提供した。

なお、令和 5 年度から大幅にアクセス件数が増加した理由として、歴代 4 位の入館者数を記録した「モネ 睡蓮のとき」ページへのアクセスが集中したことも挙げられる。

公式 SNS では、4 媒体(Facebook、X(旧 Twitter)、YouTube、Instagram)にて、国立西洋美術館の事業・活動や収蔵品について積極的な情報発信(日英バイリンガル)に努めた。投稿内容は、収蔵品・建築・歴史や常設・自主展紹介の定期投稿に加え、デジタルコンテンツとル・コルビュジエ建築を紹介するシリーズ投稿「Behind the Architecture」、企画展・自主企画展に関連したコンテンツ制作・配信(例:「内藤コレクション」、「モネ 睡蓮のとき」動画解説シリーズ)や常設ミュージアムショップとの共同投稿をおこなったほか、令和 5 年度に引き続き女性作家に関する国際キャンペーン「#5WomenArtists」に参加し、更なるファン獲得と来館訴求に繋げた。

令和 6 年度の投稿数は 386 件(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日の Facebook データ)、令和 5 年度の投稿数 447 件と比較すると 13.6%減少となったが、リーチ数は 162.9 万と、令和 5 年度と比較し 95.4%増だった。またフォロワー数は、Facebook で 36,424(2024/3/31)から 39,956(2025/3/31)、X(旧 Twitter)で 93,543 から 116,668、Instagram で 27,804 から 39,934、YouTube で 6,040 から 7,756 といずれも著しく増加した。

カ 国立国際美術館

所蔵作品及び作家、さらには過去の展覧会や刊行物ほか資料など、国立国際美術館の活動に関する種々の情報を横断的に検索できる「NMAO サーチ」を公開している。平成 16 年 11 月に大阪・中之島へ移転する前の展覧会情報も多く含む本システムにより、当館活動に対する理解が深まり、ひいては、我が国の戦後美術に関する調査研究にも資すると考えている。令和 6 年度はとりわけ、所蔵作品の作家に係る情報の更なる充実を図るべく、システムの改修を実施した。作家名の検索から、当該作家の制作した作品、参加した展覧会、関連資料が調べられるようになったことで、利便性がより向上したと考える。

キ 国立新美術館

撮影セットを導入し、経年劣化や製本方法などにより物理的に脆く、弱くなった資料 48 点(498 コマ)のデジタル化を行った。また、ANZAï フォトアーカイブの写真資料(6 点)を「没後 20 年 東野芳明と戦後美術」展(富山県美術館、2025 年 1 月 25 日～4 月 6 日)に出品およびカタログ掲載し、「ヤシャ・ライハート旧蔵「蛍光菊」関係資料のデジタル画像(1 点)」を「大分県立美術館

開館 10 周年記念展 vol.1 『LINKS 一大分と、世界と。』展（大分県立美術館、2025 年 4 月 26 日～6 月 22 日）にカタログ掲載し、情報発信に努めた。その他、研究論文、展覧会準備のための調査等を目的とし、デジタル画像を提供した（予約閲覧（14 点）、特別資料閲覧（25 点））。内製による撮影環境を整えたことにより、予約閲覧対象の脆弱資料のデジタル化を進めることができた。

③ 美術情報・資料の収集、レファレンス機能の充実

ア 美術情報・資料の収集及び情報サービスの提供

館名	収集件数 (冊)	累計件数 (冊)	図書室等 利用者数 (人)	図書室等のオンラ イン利用数 (件)
東京国立近代美術館 (本館)	3,046	163,957	4,233	1,874,055
国立工芸館	2,268	37,399	1,022	564,608
京都国立近代美術館	832	38,179	1	244,267
国立映画アーカイブ	1,325	56,228	2,024	1,612,794
国立西洋美術館	1,412	56,771	174	440,748
国立国際美術館	1,283	60,383	13	146,807
国立新美術館	2,520	170,540	35,395	1,798,651
合計	12,686	583,457	42,862	6,681,930

【注 1】上記の図書室等のほか、東京国立近代美術館は本館 4 階（令和 2 年度より新型コロナウイルス感染防止のため停止していたが、令和 4 年 10 月にリニューアルし再開した）、京都国立近代美術館は 4 階、国立西洋美術館は 1 階、国立国際美術館は地下 1 階に図録等を閲覧できる情報コーナーを設けている。

【注 2】平成 30 年 11 月 3 日より京都国立近代美術館及び国立国際美術館では事前予約制による資料閲覧を開始したため、予約閲覧利用者数を「図書室等利用者数」の欄に記載している。

【注 3】「図書室等のオンライン利用数」は蔵書検索 (OPAC) のアクセス数又は検索数、リポジトリ閲覧件数、パスファインダー閲覧数のうち該当するものの合計値である。

特記事項

(ア) 東京国立近代美術館

(本館)

企画展、所蔵作家・作品、近現代美術に関する資料の収集（寄贈交換事業を含む）を積極的に行い、展覧会活動の推進に役立てた。「美術評論家連盟資料」、「アネリー・ジュダ・ファイン・アート旧蔵貴重書コレクション」を公開した。引き続き、「NACSIS-ILL（図書館間相互利用サービス）」に参加し、遠隔による文献複写サービスに取り組み、28 件対応した。ウェブサイト内で連載企画「研究員の本棚」「アトライブラリ所蔵資料の紹介」「カタログトーク」を公開し、美術資料に関する情報発信に努めた（これらは『現代の眼』（639 号）に収録）。アトライブラリ内において、企画展ごとに関連資料の特集展示を行った。「Family Day こどもまっと」（9 月 21 日）において、絵本の読み聞かせイベントに取り組んだ。当館開催の MOMAT コレクション展や企画展、また、茨城県近代美術館、埼玉県立近代美術館で開催された展覧会に所蔵資料の貸出を行った。北米美術図書館協会 (ARLIS/NA) のスタディ・ツアーの一環でアトライブラリの視察対応を行った（10 月 25 日）。前年度に引き続き、書架の狭隘化対策として民間倉庫を継続的に利用した。休館期間を活用し、閉架書庫の老朽化に伴う電動書架（計 6 か所）の内 2 か所の改修工事を行うなどのメンテナンスに取り組んだ。

(国立工芸館)

令和 5 年度に引き続きライブラリ内の閲覧資料と開催する展覧会関連資料の収集を行った。今年度は 3 つの所蔵作品展と 1 つの企画展が開催されたが、企画展「心象工芸展」については、現代の若手作家の作品を取り扱っていたこともあり、まとまった資料がないため作家や研究員の協

力を得て資料の収集を行った。また、所蔵作品展については、当館所蔵作品について知ってもらえるような参考図書の選定を行った。

寄贈に関しては、以前寄贈いただいた清家清氏の受講ノートのデジタル化を行い、デジタル化したものを当館ウェブサイトにて公開した。また、杉浦非水旧蔵資料に関しては花と暮らす展の同時開催となったテーマ展示「本と暮らす」において展示を行い当館所蔵資料の一部を公開することができた。普段公開できない貴重な資料を公開することで、今後の工芸研究や展覧会への興味を高めていけるよう所蔵資料の有効活用については今後も模索していきたい。

(イ) 京都国立近代美術館

図書資料は主に寄贈により増加し続けているが、保管場所に限界があることや、隣接する京都府立図書館や各機関リポジトリを活用できることから、近現代の美術・工芸に関するものに限定して収蔵することとしている。寄贈のほかにも、令和6年度開催「LOVE ファッションー私を着がえるとき」展に向けた研究資料として『Open the window』横山奈美（2023年）等の書籍を、京都国立近代美術館収蔵作品研究に資する資料として『速水御舟大成』〔補遺版〕吉田耕三ほか監修（2023年）を購入した。また、雑誌『視覚障害：その研究と情報』を定期購入し、教育普及活動での美術鑑賞プログラム 創造推進事業「感覚をひらく」の参考資料として活用した。

図書データベース整備については、継続して新規・遡及登録を行い情報の拡充化を進めた。特に、今まで未登録であった逐次刊行物（18タイトル）の新規・遡及登録を開始し、資料全般にわたるアクセス向上を図った。閲覧複写サービスについては1件の申し込みがあり、過不足のない情報提供に務めた。

(ウ) 国立映画アーカイブ

図書室では、映画文献に関する一定の網羅性を目指して、映画関連の新刊書と雑誌を収集するとともに、未所蔵の古書や戦前の雑誌など貴重な映画文献の購入、さらに一般の書籍流通ルートには乗らない刊行物の収集にも努めている。令和6年度もそうした未収蔵の文献を購入したが、中でも古書店からの購入として特筆すべきは戦前期の稀少映画雑誌の創刊号であり、他の雑誌欠号の入手にも努めた。

図書所蔵情報の公開については新着書籍の登録を例年通り行えただけでなく、洋書の遡及登録も進めることができた。

図書室運営については、令和6年度は特段の制度的な変化はなかったが、令和5年度に利用者自らが複写を行うようにした新制度は順調に機能しており、バックヤードでの作業時間が増えたことから映画文献収集家有田嘉伸氏より受けた蔵書の下整理を確実に進めることができた。

(エ) 国立西洋美術館

松方コレクション関連の資料を積極的に収集するという方針のもと、松方コレクションの形成に関わる書簡資料を収集したほか、ル・コルビュジエ関連、キュビズム関連等、国立西洋美術館の建築ならびに所蔵作品に関連した重要書籍を積極的に収集した。これらは研究資料としてだけでなく、展示利用も見込まれ、展覧会活動の推進に大いに寄与するものである。

研究資料センターを通じて館外の研究者へ学術情報を提供したほか、15件（168枚）の遠隔複写に対応し、情報サービスを広く提供することに努めた。加えてゲティ財団と連携してオンライン美術資源ポータルサイト「ゲティ・リサーチ・ポータル」に参加し、所蔵する松方コレクション研究資源の電子公開を実現した。令和4年度に公開した林忠正宛書簡群のデジタル公開サイトには、新たに書簡の翻刻テキスト170通を追加公開した。また美術史学の主要な文献データベース「Art & Architecture Source」へ国立西洋美術館研究紀要の収録論文情報を提供開始し、調査研究成果の情報発信を一步前進させた。

一方で当館展覧会ポスターのデジタル化にも引き続き取り組むなど、デジタル技術を活用した館の歴史資料の保存にも引き続き取り組んでいる。

(オ) 国立国際美術館

所蔵作家及び作品、それから特別展に関連する文献資料を中心に収集を行い、展覧会場内で閲覧に供した。また、新収候補の作家や作品に関する文献資料を集め、補完することで、質量ともに充実した作家・作品情報の構築を可能ならしめたと考える。他方、令和5年度に引き続き、令和6年度もアーカイブズ資料の収集を積極的に進めている。逝去した日本の現代美術作家や、関西に拠点を置く現代美術画廊の旧蔵資料群は、研究者の調査に資するのみならず、展覧会等において、展示物としても大いに活用されると考える。

(カ) 国立新美術館

近現代美術および隣接領域に関する図書・逐次刊行物・展覧会カタログの収集を行った。特に日本の展覧会カタログについては網羅的、遡及的収集に努め、国内約400、国外約100の美術館・博物館・図書館と展覧会カタログの相互寄贈関係を維持している。令和6年度は、瀬木慎一関係資料（資料群番号：SC029）、「田名網敬一 記憶の冒険」展関連資料（資料群番号：SC047）を新たに公開した。また、展覧会情報検索「アートコモンズ」のクラウド化およびアクセシビリティの向上のためリニューアルを行い、10月24日に公開を開始した。都道府県（空間）と開催年（時間）の軸から展覧会情報にアクセスする入口を設け、より直感的にデータにアクセスできるようになった。

大学との連携事業として、慶應義塾大学アート・センターの「アート・アーカイヴ特殊講義」を春学期・秋学期の2回実施し、春学期は6月12日に慶應義塾大学アート・センターで講義を行い、秋学期は12月10日に当館で所蔵資料を用いた授業を行った。山岸信郎関係資料に含まれる「点展」関連の写真を授業の履修学生とともに分析し、その成果を今後も蓄積していく予定である。

イ 東京国立近代美術館アートライブラリと国立新美術館アートライブラリーの在り方の見直し

東京国立近代美術館アートライブラリと国立新美術館アートライブラリーの在り方について、継続して両館の担当者間で意見交換を行った。

東京国立近代美術館アートライブラリは研究基盤としての機能や美術館の作品（近現代美術）に沿った資料収集という方針があり、他方国立新美術館アートライブラリーは情報資料収集・提供事業の一環として「専門図書館を誰もが利用できる図書館に」という方針を掲げており、利用者層や所蔵資料の性質に相違があり、それぞれが果たす役割も異なっている。両館ともに美術図書室の活動は美術館の活動と密接に結びついており、特性の異なる図書室の機能のみを切り出して統廃合することは、決して利用者の利便性の向上に繋がらないことを確認した。そのうえで既に図書館システムの共同調達など協力関係にあることや、収集資料の調整などを継続して協議していくことを前提に、両館の特性を活かしつつ、相補的な関係による現行の体制を維持していくことと結論付けた。

④ 我が国現代美術やメディア芸術の国際発信の推進、現存作家の国際発信支援等

ア 現代美術やメディア芸術の国際展等へ出展・参加する作家等に対する支援等

件数	第5期累計	目標件数（第5期）
28	46	27

令和6年度はⅠ期4国際展、Ⅱ期2国際展の計6国際展（のべ28アーティスト）を採択し、支援を継続している。「アルル国際写真フェスティバル2024」では、日本の現代写真を集める3展のうち東日本大震災を扱った企画（フィリップ・セクレア、天田万里奈共同キュレーション）を支援し、「ハワイ・トリエンナーレ2025」ではオアフ島以外にも会場が拡大され、各地で日本人作家の作品が紹介された。その他、沖縄出身のアーティストらが参加した「2024 釜山ビエンナーレ」、環境問題や異種コミュニケーションの可能性を問う作家が取り上げられた「バンコク・アート・ビエンナーレ2024」、アジア太平洋地域で最も影響力のある「第11回アジア・パシフィック・トリ

エンナーレ」、詩人や音楽家を含め幅広いジャンルのアーティストが参加する「アジア・トリエンナーレ・マンチェスター2025」など、多様性に富む世界各地の国際展の支援を実現した。

イ 美術に関する重要な文献の翻訳・国際発信

戦後日本現代美術の未英訳重要文献を翻訳対象として、テーマや時代に基づき文化庁アートプラットフォーム事業で選定された文献群から 11 件を翻訳し、オンライン公開可能な形式に整えた。文献は美術評論、アーティストのエッセイ、対談、インタビューなど多岐にわたり、曹良奎〔曹良奎〕・針生一郎「北朝鮮に帰った曹良奎：その現実と絵画/自己と表現の問題」、榎木野衣「後美術論〈第二部・流浪篇〉第 1 回 再考『悪い場所』（前編）」、ホンマエリ（キュンチョメ）「声枯れるまで：参加作家の声」などを含み、戦後日本現代美術における思想や実践を海外に発信するための基盤づくりを行った。

ウ 国際アートフェスティバルへの出展等、メディア芸術作品等の国際発信に向けた取組件数

件数	54	うちメディア芸術に関するもの（件）※	3
----	----	--------------------	---

令和 6 年度は、アジア、オセアニア、ヨーロッパなど広範な地域における国際展を対象に、多様な視点と時事的なテーマを持つ企画への支援を実現した。災害の記憶や環境問題、植民地主義的視点の再検討、異文化間の対話といった現代的課題に対し、日本のアーティストが独自の表現をもって応答・発信する機会を創出している。支援作家のうち、映像、サウンドインスタレーション等メディア芸術に分類される作品展示をした作家をメディア芸術に関するものとしてカウントした。また、戦後日本現代美術に関する未英訳の重要文献 11 件を翻訳・公開可能な形式で整備し、ウェブサイトでの公開も順次進めており、理論と実践の両面から日本現代美術の国際的な発信に複層的に取り組んでいる。

(4) 教育普及活動の充実

第5期（令和3年度～令和7年度）中期目標に定める指標	
指標	・講演会等のイベントの満足度調査を実施し、「良い」以上の回答率を8割程度とする。 ・教材化された素材の活用件数
関連指標	・教育普及事業参加者数

① 幅広い学習機会の提供及びラーニングコンテンツ等の開発

ア 幅広い学習機会の提供（講演会、ギャラリートーク、アーティスト・トーク等）

新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、オンラインも活用し、年齢や理解の程度に応じたきめ細かい多様な事業を展開した。

館名	事業実施回数(回)	参加者数(人)	満足度調査実績
東京国立近代美術館（本館）	524	8,409	93%
国立工芸館	113	3,910	93%
京都国立近代美術館	88	3,266	91%
国立映画アーカイブ	166	12,042	91%
国立西洋美術館	279	9,066	95%
国立国際美術館	176	5,807	100%
国立新美術館	103	10,465	96%
合計	1,449	52,965	94%

【注】満足度調査実績は、「良い」「普通」「悪い」のうち「良い」と回答した者の割合である。

特記事項

(ア) 東京国立近代美術館

(本館)

企画展関連の講演会や所蔵品ギャラリーの展示と関連するイベントやプログラムなど、幅広い層の人々の美術鑑賞に対する関心を高める内容で実施した。学校対象のプログラムは、ガイドダンス、ギャラリートーク、レクチャー、「先生のための鑑賞日」と多岐にわたった。サマーフェス、春まつり、こどもまつりなどの全館イベントでは、「ぬいぐるみのお泊り会」、「絵本を開こう！」などのプログラムのほか、ボランティアによるハイライトツアーなどの特別プログラムを実施した。春まつりでは、英語トークや所蔵品ガイドに加えて、教育普及室職員による当館紹介ツアー（「ようこそ！ MOMAT へ」）、およびボランティアによる多言語（手話、フランス語、中国語）による鑑賞プログラムを実施した。

(国立工芸館)

出品作家による講演会やトークセッションを「鈴木蔵展」「工芸の光と影展」「心象工芸展」で実施した。また、石川県との連携や Adobe Foundation の助成により、作家主導のワークショップも実施。各回で作品の背景にある作家の素顔や制作の様子が窺える貴重な機会と高い評価を得ることができた。

(イ) 京都国立近代美術館

学校連携では、引き続き利用団体のニーズに合わせた学習支援を心がけた。特に令和6年度は教員研修の件数を増加させたことで、研修受講者の教員が団体来館を検討する動きにつながることができた。また令和5年度に引き続き、各企画展においてアーティストや外部講師や担当研究員による講演会を実施し、展覧会の内容をより深く紹介するほか、多様な視座で作家・作品の意義を考える機会を設けることができた。令和6年度もすべての展覧会で講演会、もしくはギャラリートークのいずれかをオンライン配信することで、遠方の方や足を運べない方など、幅広い層へ展覧会を知っていただく機会を提供した。また講演会に限らず、展覧会と関連した音楽コンサ

ートを実施することで、音楽と美術の両文化への関心層に向けて広く展覧会のアピールをすることができた。

(ウ) 国立映画アーカイブ

ラーニングコンテンツの提供として、令和5年度末に作成した所蔵作品展のセルフガイド1種類を追加し、新旧あわせて計4種類のセルフガイドを提供できるようにした。また、国立映画アーカイブのウェブサイト、「みんなの映画がっこう」として、自宅などで子供たちが自分たちで学べる教材を提供するページを新規作成し、第一弾として『なまくら刀』に関する教材をアップした。

コロナ禍以前に開催していた「映写ワークショップ」に替わる学習機会の提供として、フィルム映写マニュアルビデオ「NFAJ オンライン映写ガイド」を作成した。映写技師の学び直しや、若いアシスタントがフィルムの扱いを学ぶことができる内容で、どこでも見られるように、令和7年度にNFAJ YouTube チャンネルで公開する。

(エ) 国立西洋美術館

聴覚特別支援学校と連携してプログラム開発を行うと同時に、「スライドトーク」や「美術トーク」「ボランティアアート」などに手話通訳付きやロジャー（デジタル補聴援助システム）を貸し出すなど、既存のプログラムのアクセシビリティ向上を図った。

また、東京藝術大学やアンサンブル・サリクスとの協力を得て、所蔵作品について掘り下げるワークショップやコンサートを実施した。

加えて、多くの人が見聴できる動画や音声コンテンツの配信を行った。（「モネ展」の見どころを動画にした「Exhibition Highlights」（3件）、「西洋版画を視る」展で展示した技法動画（3件）、写本の楽譜を一部読み解き演奏した「記譜写本を歌う」（3件）、冬季限定の音声ガイド「キュレーター・ボイス」など。）

(オ) 国立国際美術館

展覧会関連アーティスト・トーク、講演会、ギャラリートーク、「中之島映像劇場」など、幅広い層の人々に対して、それぞれの興味関心に応じて参加できるプログラムを企画した。特に、展覧会出品作家によるトークや専門家による講演会は、参加者の展覧会や作品に対する関心をより高める機会となった。他にも、未就学児とその保護者、学校団体の児童生徒と教員、個人で来館する小中学生とその保護者、ケアを要する方など、それぞれが美術館の活動に参加できる内容で複数のプログラムを実施し、さまざまなバックグラウンドを持つ人々に多様な機会を提供した。学校や教育委員会とも連携し、鑑賞者の育成にも努めた。

(カ) 国立新美術館

令和7年度に開催されるM+香港との共同企画の企画展に先駆けて、「シンポジウム：日本の現代美術の変遷—1989年を起点として」をM+キュレーターほか国内外からゲストを招いて開催した。「荒川ナッシュ 医 ペインティングス・アー・ポップスターズ」では、展示室内でアーティスト本人によるパフォーマンスが多数行われたほか、毎週日曜日にファミリープログラム「メガメガサンデー」を開催して、700名以上の未就学児を含む約3,600名の来場者が展示室の床に絵を描くという非日常の体験を楽しみ、幅広い世代が現代美術表現に触れるきっかけとなった。

また、近隣の学校を休館日に招待する「かようびじゅつかん」においては、初めてワークショップを実施し、3校183名の児童と教員がアーティストの荒川ナッシュ氏と100メートルの絵画を制作した。子供たちが鑑賞者だけでなく表現者の立場を経験する貴重な機会となった。

イ 幅広い人々を対象としたラーニングコンテンツの開発・提供
・教材化された素材の活用件数

館名	教材化された素材の活用件数	内訳
東京国立近代美術館（本館）	6	・MOMAT コレクション展では、来館した小・中学生（学校団体での来館含む）に「MOMAT コレクション こどもセルフガイド」、幼児に「MOMAT コレクション みつけてビンゴ！（日・英）」を無料配布した。 ・小中学生向けセルフガイドのデジタル版である「MOM@T Home こどもセルフガイド（日）」「MOM@T Home Self-Guide（英）」を配信し、展示室内外から、大人を含む誰でもがアクセスできる環境を整えた。 ・「ハニワと土偶の近代」展ジュニアセルフガイドを作成し、展覧会会期に無料配布した。 ・「MOMAT まるごと探検隊 たんけんカード（仮）」を作成し、「Family Day こどもまっくと」関連プログラム「MOMAT まるごと探検隊」で活用した。
国立工芸館	6	・「工芸の光と影展」では、中学生以下を対象としたセルフガイドを会期中無料配布した。 ・「心象工芸展」では、中学生以下を対象としたワークシートを配布した。 ・また、以下は校外学習等の専用教材を作成・配布した。 「鈴木蔵展」セルフガイドの配布。 「工芸の光と影展」金沢市等との共同制作によるワークシートを配布。
京都国立近代美術館	19	・令和5年度に引き続き、学校現場や大学へのアートカードの貸出を行い、授業や研究で活用いただいた。 ・京都国立近代美術館では、視覚障害のある方に向けた鑑賞ツールとして所蔵作品の触察ツール「さわるコレクション」を継続的に制作している。現在 12 種類あり、令和6年度も盲学校やライトハウス、希望する個人への無料配布を行った。 ・令和6年度には新たに、中学生までの子供に向けた所蔵作品の鑑賞ツール「もまっくコレクションカード」を、全6種類・各 200 部制作した。8月に実施した「ファミリーアワー」・「美術館のお仕事たいけん」に合わせて制作し、コレクション展会場で無料配布して展示室内で使用いただいた。
国立映画アーカイブ	5	『こども映画館』では、令和4年度以降に作成した3種類の「NFAJ セルフガイド」を子供たち全員に配布し、上映前後の解説で、セルフガイドを利用して所蔵作品展を楽しめる旨の説明も行った。その結果、「こども映画館」終了後に所蔵作品展見学を希望する子供は、セルフガイド配布を行っていなかった令和4年度までの1日あたりの平均は 16.5 人だったが、令和6年度は平均 31.5 人となり、所蔵作品展ではセルフガイドに書き込みながら展示を楽しむ光景が長時間にわたってみられた。また、研究員による映写機の解説も特別に実施し、子供たちが積極的に研究員に質問するなど活況を呈した。また、国立映画アーカイブのウェブサイト、「みんなの映画がっこう」として、自宅などで子供たちが自分たちで学べる教材を提供するページを新規作成し、第一弾として『なまくら刀』に関する教材をアップした。
国立西洋美術館	6	・「国立西洋美術館 展示・触地図ガイドブック」（2021 年度作成） 国立西洋美術館のインフォメーションでも配布を開始し、ウェブサイトでその旨告知した。 ・「アクティビティ・ブック」（2021 年度作成） 所蔵作品展や建物を楽しむアクティビティをまとめた学校団体向けのワークシート。ウェブサイトに掲載。印刷して事前学習、もしくは来館当日に使用可能。 ・「ジュニア・パスポート」（新規3件「写本展」、「モネ展」、「西洋版画、どこから見るか？展」）小中学生用のセルフガイドを作成。来館時に観覧券として配布する他、pdf ファイルを国立西洋美術館ウェブサイトにも掲載した。

国立国際美術館	6	・『アクティビティ・ブック』（日本語版、「やさしい日本語」英語併記版）：スクールプログラムおよび国内外問わず個人向けの鑑賞サポートツール ・『アクティビティ・シート』：スクールプログラム向け鑑賞サポートツール ・『国立国際美術館すぐろく よく見て感じて！ Take a Good Look!』（日英併記）：国内外問わず個人向けの事後活動サポートツール ・『びじゅつかんまるごと発見シート』：未就学児を持つファミリー向け美術館体験ツール
国立新美術館	3	学校等を対象に実施している「鑑賞ガイダンス」および「施設ガイダンス」において、企画展にあわせて制作した鑑賞ガイド『遠距離現在 Universal / Remote ○オのためのミニガイド』や『リビング・モダニティ 住まいの実験 1920s-1970s ガイドブック』、子供向け施設ガイド『てくてくマップ』を事前または当日配布し、学校での事前学習や当日の鑑賞活動において活用した。 施設ガイドはリニューアルも行い、『国立新美術館 施設ガイド 建物がおしごと中！』を新たに制作した。令和7年度より本格的に活用していく。

国立アトリサーチセンターでは、アートカードのより一層の普及のため、第5版を出版社と共同発行し、アートカードを全国の書店や通信販売で入手できるようにした。各国立美術館の学校利用時の貸し出し以外は、ウェブサイトの申込フォームを経由してラーニンググループから直接貸し出しを行った。また、国立美術館の所蔵作品 65 点が高精細画像で搭載されたデジタル教材「鑑賞素材 BOX」の著作権許諾を更新し、引き続き学校の授業で利用できるようにした。

さらに、あらゆる人が美術館にアクセスできる機会を充実させるため、ミュージアムにおけるアクセシビリティについて学ぶeラーニング講座「ミュージアム・アクセシビリティ講座 ふかふかTV」を開設した。美術館関係者だけでなく幅広い分野から 1,500 名が登録し、全7回の配信講座を視聴して課題を提出した 681 名には修了証を発行した。令和5年度に刊行した『ミュージアムの事例（ケース）から知る！学ぶ！合理的配慮のハンドブック』を教材として活用し、国内4つの公立美術館における事例をもとに、合理的配慮と情報保障について基礎的な知識が身につく講座とした。また、主に発達障害のある人とその関係者を対象とした社会学習ツール「Social Story（ソーシャルストーリー）」について、国立美術館版を制作したノウハウをもとに、国内3つの公立美術館のソーシャルストーリー制作に協力した。加えて、「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」を、ラーニンググループが取りまとめて実施し、報告書をウェブサイトに掲載した。

② ボランティアや支援団体との相互協力等による教育普及事業及び企業や地域等との連携による事業の開発・実施等

ア ボランティアや支援団体との相互協力等による教育普及事業

館名	ボランティア登録者数(人)	参加者数(人)	ボランティア参加者数(人)
東京国立近代美術館（本館）	49	5,622	944
国立工芸館	35	683	103
京都国立近代美術館	15	-	-
国立西洋美術館	51	5,389	820
国立国際美術館	14	571	28
国立新美術館	61	2,185	104
合計	225	14,450	1,999

特記事項

(ア) 東京国立近代美術館 (本館)

ボランティア活動では、49 人のガイドスタッフが、474 回の事業を実施し、5,622 人の参加者に日本語、英語、その他の鑑賞プログラムを実施した。ボランティアの延べ活動人数は 944 人だった。現在登録中のボランティアを対象としたフォローアップ研修は、外部講師による講座や録

画配信での座学により、合計6回実施し、活動の質の向上をはかった。令和6年度より毎年ボランティアを採用し、より多くの人材を輩出していくことになった。公募で全18人を新採用し、2月から養成研修を開始した（令和7年度7月まで研修予定）。

（国立工芸館）

ボランティアはオンラインプログラムの実施のほか、ワークショップの運営、また講演会等の参加者対応など多方面において有効活用することができた。本年度は石川県移転後2回目の募集を行い、養成研修を経て令和7年度より活動を予定している。

Adobe Foundation による助成はファミリープログラムの要となり、それぞれ制作体験を基軸とする活動によって未就学児から中学生までの来館者にとって美術館での滞在時間を有意義なものとすることができた。「工芸の光と影展」で配布したセルフガイドも同助成による。

（イ）京都国立近代美術館

京都市内博物館施設連絡協議会及び京都市教育委員会が主催する「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」を受講・修了された方が所属する、京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」からボランティアを受け入れ、来館者へのアンケート調査回収、集計に携わってもらうことで、ボランティアの経験、知識の向上等に協力できた。

（ウ）国立映画アーカイブ

恒例の小中学生対象の「こども映画館」とV4 各国大使館および文化センターとの共催企画「V4 中央ヨーロッパ子ども映画祭」を開催し、前者では弁士の語りと生演奏によるライブパフォーマンス付きで無声映画を鑑賞するプログラムと、舟之川聖子氏のファシリテーションによる子供参加型企画「感想を話し合ってみよう」「弁士をしてみよう」を行い、後者ではポーランド広報文化センターによる上映前トークのプログラムで、教育事業の充実をはかることができた。また、国立映画アーカイブのウェブサイトにも、「みんなの映画がっこう」として、自宅などで子供たちが自分たちで学べる教材を提供するページを新規作成し、第一弾として、大井将生氏（人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館）の監修を得て『なまくら刀』に関する教材を公開した。

（エ）国立西洋美術館

6期のボランティア・スタッフが令和5年度の養成研修を経て令和6年度より活動を開始し、年間を通じて「美術トーク」、「建築ツアー」、「スクール・ギャラリートーク」「どようびじゅつ」を実施することができた。6期ボランティア・スタッフがトークをする様子を一人ずつスタッフが確認し、フィードバックのための研修会を実施した他、「美術トーク」や「ボランティアアート」に手話通訳をつけることに先立ち、現在活動している5期・6期ボランティアを対象に、手話を第一言語とするアーティストを招き、研修会を行った。

（オ）国立国際美術館

国立国際美術館ボランティアの育成とともに、協力を得ることにより、美術館鑑賞プログラムの参加者へ提供する内容の充実を図った。また、大阪国際児童文学振興財団との連携により、未就学児とその保護者対象の「ちっちゃなこどもびじゅつあー 〜絵本もいっしょに〜」を実施し、聞こえない、聞こえにくい子供を対象とする回では、NPO こめっこ（特定非営利活動法人 手話言語獲得習得支援研究機構）と連携を図り、美術館で手話を学ぶ機会を創出した。

（カ）国立新美術館

61名の学生がボランティアとして登録し、美術館主催のワークショップや講演会・シンポジウムの運営補助、「建築ツアー」スタンダードコースのガイド、機材整理など様々な事業において活動した。

三菱商事株式会社との協働により、「マティス 自由なフォルム」展において「障がいのある方のための特別鑑賞会」を開催した。

株式会社日本設計のボランティア有志と協働し、「建築ツアー 歩く・見る・知る美術館」のマスターコース、および「こどもたんけんツアー2024」を実施した。

「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」では、任意団体と協働し、「田名網敬一 記憶の冒険」を視覚に障がいのあるナビゲーターとともにグループで対話しながら鑑賞した。

イ 企業や地域等との連携による事業の開発・実施等

国立アトリサーチセンターにおいて、超高齢社会における孤独孤立や認知症といった社会的課題に対応する「共生社会をつくるアートコミュニケーション共創事業」（JST 科学技術振興機構）の研究成果展開事業、共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)に参画し、研究機関・企業・自治体等と連携して研究を推進した。11 月には東京藝術大学・川崎市民ミュージアムと連携して「写真の中のかわさき」展を実施するとともに認知症フレンドリーのワークショップ「写真の中を旅しよう-Museum Trip」を開催した。2 月には文部科学省主催のプレ万博事業に「Hello Future! 100 年ミュージアム」を出展し、文化的処方の提案を行った。

また東京藝術大学と共同でウェブサイト「ああとも TODAY」を運営し、文化的処方に関する記事 14 本を掲載した。ガイドブック『文化的処方のはじめの一步』を刊行した。

③ 映画フィルム・資料の所蔵作品の活用

国立映画アーカイブでは、所蔵作品を上映する「こども映画館」で、令和 6 年度は国立映画アーカイブ初の企画として、初日と最終日の上映後に子供参加型企画を開催した。初日の「感想を話し合ってみよう」のアンケート結果は 4 段階のとてもよい・よい・まあまあ・よくなかったのうち「とてもよい」「よい」の回答は保護者と子供ともに 83 パーセントとなった。最終日の「弁士をしてみよう」では、「とてもよい」「よい」は 95 パーセント（保護者）、66 パーセント（子供）の割合となり、鑑賞するだけにとどまらない所蔵作品活用の試みとして、一定の成果をあげることができた。また、京都国立近代美術館との共催「MoMAK Films」や国立国際美術館との共催「中之島映像劇場」に加え、ニューヨークの映像美術館（MoMI）、ジャパン・ソサエティ、国際交流基金ニューヨーク事務所との共催で「Hiroshi Shimizu（映画監督：清水宏）」を開催し、27 作品を上映するアメリカ最大規模の清水宏大回顧上映を、館所蔵 20 作品の提供によって実現した。

京都国立近代美術館では、国立映画アーカイブとの共催による映画上映会「MoMAK Films」を実施した。令和 6 年度は午前と午後の 2 回上映とすることで、多くの方にご来場いただくことができた。5 月には、「逃走者たち」と題して 1980 年に公開されたアメリカ映画を上映した。8 月は小森はるか監督の『ラジオ下神白』及び小森監督セレクションの作品 2 本を上映し、小森監督によるアフタートークなども開催した。11 月の上映会では、同時開催の展覧会「LOVE ファッションー私を着がえるとき」と関連した作品を上映した。2 月は「彷徨の映画たち」と題して『第七官界彷徨 尾崎翠を探して』などを上映した。

(5) 調査研究の実施と成果の反映・発信

第5期（令和3年度～令和7年度）中期目標に定める指標	
指標	・調査研究活動の成果に基づき、所蔵作品展において、前中期目標期間実績程度の展示替えを実施する。
関連指標	・調査研究活動の成果の多様な方法による公開に係る取組状況。（調査研究成果の公開方法・公開件数） ・映画のデジタル保存・活用等に関する調査研究の取組状況（調査研究の取組件数）

① 調査研究一覧

国立美術館における美術作品の収集・展示・保管、教育普及、情報の収集・提供その他の美術館活動の推進を図るため、各館において調査研究を実施し、その成果を美術館活動の充実に生かした（計143件）。個々の調査研究については別表9を参照。また、展示替えについては別表1を参照。

特記事項

ア 国立アトリサーチセンター

- ・稲庭彩和子（主任研究員）と鈴木智香子（研究員）が中心となって進めた、アクセシビリティに関する調査・研究では、文化庁委託事業による「ミュージアム・アクセシビリティ講座 ふかふかTV」（全7回のオンライン配信）の1,500人の登録者に、合理的配慮など基本理論や各地の実践例を伝えたほか、NCAR シンポジウム003「美術館のアクセシビリティ」を通じて全国の美術館関係者に広く発信する基盤となった。

イ 東京国立近代美術館

（本館）

- ・『ハニワと土偶の近代』展図録（花井久穂・成相肇が執筆・編集）が第66回全国カタログ展（主催：経済産業省、文部科学省）で経済産業大臣賞を受賞した。

ウ 京都国立近代美術館

- ・大長智広（主任研究員）が中心となって編集・執筆した『生誕120年 人間国宝 黒田辰秋 一木と漆と螺鈿の旅』展図録は、木工芸の分野で初の人間国宝となった作家の歩みを多数の重要作品によってたどり、作家・作品に関する詳細な情報を収録するとともにその造形思考を深く分析し、今後の研究における基本文献となることが期待できる。
- ・梶岡秀一（学芸課長）が中心となって編集・執筆した『没後100年 富岡鉄斎』展図録は、この作家の代表作はもちろんのこと、従来の回顧展や画集で取り上げられる機会の乏しかった作品も多く取り上げ、120顆もの印章をはじめとする制作の道具や遺愛品、旧蔵書、筆録など多数の資料も交え、今後の研究における基本文献となることが期待できる。
- ・宮川智美（任期付研究員）が編集・執筆に加わった『倉俣史朗のデザインー記憶のなかの小宇宙』展図録は、機能性や形態を主眼としたデザインの画一性から脱して記憶や夢のイメージに基づく新たなデザインを展開した作家の作品と思考を、多くの資料を交えて浮かび上がらせ、今後の研究における基本文献となることが期待できる。

エ 国立映画アーカイブ

- ・デジタルアーカイブ事業の推進や映像アーカイブの中心的存在としての活動が評価され、令和6年8月26日に国立国会図書館と内閣府知的財産戦略推進事務局の主催でオンライン開催された「デジタルアーカイブフェス 2024～活用最前線!～」において、国立映画アーカイブへ「デジタルアーカイブジャパン・アワード2024」が授与された。

オ 国立西洋美術館

- ・川瀬祐介（主任研究員）が担当した「スペインのイメージ」展が 2024 年度の西洋美術財団賞を受賞した。
- ・山根あおい（任期付研究員）による論文「ギュスターヴ・クールベ〈狩人のための連作〉解釈の試み」が 2024 年度の美術史学会論文賞を受賞した。
- ・秋田美緒（任期付研究員）が学位論文「美術科教育と地域美術館活動を両立させるアーティスト・イン・スクール事業ー地域行政組織に属するコーディネーターの視点からー」によって筑波大学より博士(芸術学)の学位を得た。

カ 国立国際美術館

- ・橋本梓（主任研究員）が執筆した『ザ・プレイ 流れの彼方』（水声社）について、国立国際美術館の「現代美術スタディーズ」シリーズから刊行された。1967 年に結成され関西を中心に活動している The Play を、印刷物や写真、映像などの記録資料をもとに執筆、その活動の全貌をあらわにした単著として、今後のプレイ研究の発表に資すると期待される。
- ・福元崇志（主任研究員）が中心となって編集・執筆した『梅津庸一 クリスタルパレス』展図録は、絵画から陶芸、素描、版画、映像と多様な表現領域を手がける現代美術作家の活動を、論考や詳細な活動歴を編纂し、日本で開催された初の大規模個展に際して発行された図録として今後の研究における基本文献となりうる。

キ 国立新美術館

- ・「CLAMP 展」の図録には、マンガを専門とする担当研究員が CLAMP の歴史的評価を試みる論考を執筆した。CLAMP は国内外で高い評価・知名度を得ている創作集団だが、これまで学術的な評価に言及した文献がなかったため、このたびの図録は今後のマンガ研究において基本文献となることが期待される。
- ・「田名網敬一 記憶の冒険」展の図録には、作家の多彩な活動を多角的に検証できるよう、担当研究員の論文に加え、内外の複数の研究者の論文、作家インタビュー、詳細な参考文献一覧など掲載した。また、図録の編集段階でかなりの作品の制作年や技法の誤りを発見したため、正確を期した作品データを図録に収めることができた。学術界では論じられる機会が限られていたこの作家について、精度の高い情報と学術的分析が凝縮された初めての出版物として、今後の研究で参照されることが予想される。

② 調査研究成果の発信

ア 館の刊行物による調査研究成果の発信

各館において、以下のとおり展覧会図録、研究紀要、館ニュース等を刊行し、研究成果を発信した。それぞれの項目における研究員の執筆事項については別表 10～12 を参照。

(冊)

館名	展覧会図録	研究紀要	館ニュース	パンフレット・ガイド等	
				パンフレット・ガイド	その他
国立アトリサーチセンター	0	1	0	3	3
東京国立近代美術館（本館）	3	1	2	3	0
国立工芸館	1			8	0
京都国立近代美術館	5	0	7	1	2
国立映画アーカイブ	0	0	4	24	1
国立西洋美術館	3	1	3	5	2
国立国際美術館	3	0	4	3	2
国立新美術館	4	1	－	2	2
合計	19	4	20	49	12

イ 館外の学術雑誌、学会等における調査研究成果の発信

各館において、以下のとおり学会、学術雑誌等において研究成果を発信した。それぞれの項目における研究員の執筆事項については別表 13 を参照。

(件)

館名	学会等発表	論文等発表件数			
		学術書籍、研究 報告書等の発行	論文掲載 (査読有り)	論文掲載 (査読無し)	その他
国立アトリサーチセンター	29	1	0	6	13
東京国立近代美術館（本館）	42	5	0	16	52
国立工芸館	11	2	0	11	20
京都国立近代美術館	19	2	0	13	11
国立映画アーカイブ	35	1	1	2	37
国立西洋美術館	10	3	1	7	14
国立国際美術館	9	2	0	9	14
国立新美術館	3	0	0	4	11
合計	158	16	2	68	172

ウ インターネットによる調査研究成果の発信

(ア) 国立アトリサーチセンター

以下の記事を NCAR ホームページ上に掲載した。

- ・ ICON「専門的規範と判断・倫理」【和訳】（主任研究員 鳥海秀実）
- ・【保存修復ワークショップ開催報告】「文化財保存修復に関するワークショップ—写真の識別と保存について—」（主任研究員 鳥海秀実）
- ・【報告書】「文化財修復処置に関するワークショップ—モジュラー・クリーニング・プログラムの利用について—」（主任研究員 鳥海秀実）
- ・ Single Thread Bonding による破れたキャンバスの補修（土師広氏による記事の紹介）（主任研究員 鳥海秀実）
- ・【保存修復 講演会動画】「アナログ写真の発展と文化遺産としての写真の保存」（主任研究員 鳥海秀実）
- ・ 科学調査を用いた杉浦非水のポスター研究（主任研究員 中尾優衣）
- ・【DEAI 調査レポート】「DEAI とミュージアム—アメリカ博物館連盟の報告書をふりかえって」（客員研究員 伊東俊祐）
- ・ 2023 年度「美術館に関する意識調査」調査結果
- ・「美術館に関する意識調査」2015 年～2023 年調査結果一覧

(イ) 東京国立近代美術館（本館・国立工芸館）

『現代の眼』の収録論文を東京国立近代美術館ウェブサイト上に掲載した。

『現代の眼』および『東京国立近代美術館研究紀要』の収録論文を東京国立近代美術館リポジトリ上に掲載した。

(ウ) 京都国立近代美術館

- ・ 京都国立近代美術館の各展覧会に関連して開催した記念講演会及びトークセッションは全て、館の YouTube アカウントにおいてオンライン同時配信を行った。配信データは、ホームページ上にアーカイブ化され、常時閲覧可能としている。
- ・ 京都国立近代美術館の各展覧会のギャラリー・トークは全て、館の Instagram アカウントにおいて LIVE 配信し、ホームページ上でアーカイブ化している。

- ・以上の公開データは全て、京都国立近代美術館ホームページに設置した「おうちで MoMAK」ページに集約し、各展覧会や教育普及事業に関するページと相互にリンクさせることで、検索・閲覧しやすい環境を整えている。

(エ) 国立映画アーカイブ

- ・令和元年度に開設した配信サイト「映像でみる明治の日本」について、令和7年2月25日に新たに特集ページ「リュミエール社が撮った明治の日本」を作り、29作品を加えたほか、令和4年度に開設した配信サイト「フィルムは記録する 一国立映画アーカイブ歴史映像ポータル」に新たに63作品を加えて拡充を行った。さらに、初期日本劇映画を対象とした新しい配信サイト「はじまりの日本劇映画 映画 meets 新派・新劇・新国劇」を令和7年3月28日に立ち上げ、専門家による論考や関連資料と共に9作品を公開した。
- ・小ホールにて開催した東京国際映画祭との共催「TIFF 映画教育国際シンポジウム 2024 《世界のこどもたちが映画を待っている》～社会課題と向き合う映画教育～」を東京国際映画祭公式 YouTube チャンネルで公開した。
- ・「ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント マグネティック・テープ・アラート：磁気テープ映像の保存に向けてできること」のビデオレクチャー、講演、ディスカッションを、当館公式 YouTube チャンネルおよび HP にて公開した。
- ・過去の教育事業「映画製作専門家養成講座」で実施した第1回1997（平成9）年度「日本映画の技と匠」（総合プロデューサー：野上照代）の計6回の講座の採録を館 HP から PDF にて公開した。
- ・館 HP に「マグネティック・テープ・アラート」の情報発信頁を作り、国内外の関連記事および当館で開催したイベントの動画や配布資料、ビデオテープのデジタル化業者一覧などを公開した。
- ・令和5年5月10日に開設した映画関連資料の高精細なデジタル画像を公開する新しいウェブサイト「映画遺産 一国立映画アーカイブ映画資料ポータル」の第2弾として故御園京平氏寄贈の「みそのコレクション」より映画館プログラム5,682点（画像あり4,449点/メタデータのみ1,233点）を令和6年5月29日に公開した。また、第3弾として、故御園京平氏寄贈の「みそのコレクション」より映画館チラシ873点を令和7年2月26日に公開した。
- ・館 HP の「NFAJ デジタル展示室」において、以下のデジタル展示を公開した。
「第31回 スチル写真で見る「失われた映画たち」― 田坂具隆監督篇(1)」 (R7. 2. 15)
「第32回 スチル写真で見る「失われた映画たち」― 田坂具隆監督篇(2)」 (R7. 3. 15)
- ・望ましい映画資料アーカイブの構築に向けて、映画分野の展覧会キュレーションに関する発表、デジタルアーカイブ構築における著作権、地域と連携した特撮映画資料保存の取組み、映画資料アーカイブの重要性をテーマにしたセミナーなど、多様なプログラムにより「全国映画資料アーカイブサミット 2025」を令和7年1月24日にオンラインで開催した。

(オ) 国立西洋美術館

- ・インターネット上の「国立西洋美術館出版物リポジトリ」（自館ホームページにもリンク）を通じて『国立西洋美術館研究紀要』収録の研究論文ならびに『国立西洋美術館報』最新号を公開した。

(カ) 国立国際美術館

- 『国立国際美術館ニュース』を自館 HP にも掲載し、掲載された執筆論文や作家によるテキストなどを幅広く提供する機会を設けている。

(キ) 国立新美術館

- ・国立新美術館ホームページにおいて『令和5年度活動報告』を公開した。

- ・企画展「遠距離現在 Universal / Remote」の関連イベントとして、本展参加作家2名（ヒト・シュタイエル、トレヴァー・パグレン）による対談を開催し、アーカイヴ動画（日・英）を当館 YouTube チャンネルで配信した。
- ・企画展「田名網敬一 記憶の冒険」の関連イベントとして、内外の様々な分野の研究者や作家を招聘したシンポジウムを開催し、アーカイヴ動画（日・英）を当館 YouTube チャンネルで配信した。
- ・令和7年秋開催予定の「日本の現代美術」展関連イベントとして、米国および香港より日本現代美術の研究者・キュレーターを招へいしたシンポジウムを開催し、アーカイヴ動画（日・英）を当館 YouTube チャンネルで配信した。
- ・国立新美術館ホームページにおいて「NACT YOUTH PROJECT 2023 新美塾！」の記録集および活動記録動画を公開した。
- ・国立新美術館ホームページにおいて「第10回 かようびじゅつかん—荒川ナッシュ医ワークショップ “メガどうぞご自由にお描きください”」記録動画を公開した。

(6) 快適な観覧環境の提供

第5期（令和3年度～令和7年度）中期目標に定める指標	
指標	・快適な観覧環境の提供に係る取組状況。（入館者に対する満足度調査の「良い」以上の回答率を、前中期目標期間実績と同程度の水準を維持するものとする。）
関連指標	・サインや作品解説等の多言語化に向けた取組件数。

館名	観覧環境に対する満足度調査における「良い」以上の回答率	目標 (第4期中期目標期間実績)
東京国立近代美術館（本館）	90.6%	78%
国立工芸館	88.3%	
京都国立近代美術館	86.1%	
国立映画アーカイブ	87.1%	
国立西洋美術館	85.6%	
国立国際美術館	77.7%	
国立新美術館	86.3%	

【注】満足度調査は、回答を「良い」「普通」「悪い」のいずれかに分類し、集計している。

国民に親しまれる美術館を目指し、各館において、動線の改善や鑑賞しやすさ、理解のしやすさに配慮するための工夫を行った。

また、子供連れで来館しやすい美術館を目指し、各館にて子供連れ来館者のための特別開館や会館前1時間の特別開館、また子供向けの特別企画など、周囲を気にせず楽しんでいただける環境を用意するとともに、「こどもファスト・トラック」（小学生以下の子供連れ来館者の優先入場）を実施した。

① 高齢者、障がい者、外国人等を含めた入館者本位の快適な観覧環境の形成

※多言語化に向けた取組件数は74件である。以下、多言語化に向けた取組には下線を付する。
(第4期中期目標期間中の平均件数は60件である。)

<各館共通実施事項>

- ・多言語による館案内表示
- ・多言語による館内リーフレット、ミュージアムカレンダー等の配布（国立映画アーカイブを除く）
- ・英語による館内放送の実施（一部の放送を除く）（国立映画アーカイブを除く）
- ・所蔵作品展・企画展における展示解説（章解説パネル・キャプション・作品リスト等）の多言語化（原則として日本語のほか英語・中国語・韓国語に対応）
- ・所蔵作品展・企画展における音声ガイドの多言語化（原則として日本語のほか英語・中国語・韓国語に対応）（国立映画アーカイブを除く）
- ・多言語対応の案内用デジタルサイネージの設置（国立新美術館を除く）
- ・QRコード読み取り式の電子アンケート（日本語・英語）を導入
- ・クレジットカード及び電子マネー（Suica及びPASM0等）による観覧券の窓口販売（館により対応は異なる）
- ・多目的トイレ、エレベータ・エスカレータ、スロープの設置
- ・車椅子の貸出、ベビーカーの貸出
- ・身体障がい者用駐車スペースの提供（国立国際美術館を除く）
- ・盲導犬、介助犬の同伴による観覧
- ・インフォメーションカウンターに筆談ボードを設置
- ・主に発達障害のある方とその家族に向けた、やさしい文章と写真による来館案内冊子「ソーシャルストーリー」を各館ウェブサイトに掲載
- ・オストメイト対応の設備を設置

- ・自動体外式除細動器（AED）の設置
- ・観覧者の休憩のための椅子を展示室に配置
- ・授乳室の設置（国立映画アーカイブを除く）
- ・無料Wi-Fiの提供

＜各館の実施事項＞

- ・電話による展覧会情報案内（ハローダイヤル）の多言語化（日本語・英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語）【東京国立近代美術館（本館・国立工芸館）、国立映画アーカイブ、国立西洋美術館、国立新美術館】
- ・多言語による所蔵作品展チケットのオンライン販売を実施【東京国立近代美術館（本館・国立工芸館）、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館】
- ・QRコード決済サービス（訪日外国人向け）による観覧券の窓口販売を開始【東京国立近代美術館（本館）、国立西洋美術館、国立国際美術館】
- ・東京都が実施する「ウェルカムカード」に参加し、外国人来館者の所蔵作品展観覧料を割引【東京国立近代美術館（本館）、国立映画アーカイブ、国立西洋美術館】
- ・地下鉄の対象の乗車券の提示により割引等を実施するサービス「ちかとく」の英語版に参加【東京国立近代美術館（本館）、国立西洋美術館】
- ・国立美術館6館紹介パンフレットの多言語化（日本語・英語・中国語・韓国語）【法人本部】
- ・館内サインの拡大、所蔵作品展における「重要文化財」のキャプション表示の追加、ホームページ上の重要文化財作品の特設解説ページ設置、所蔵作品展における小中学生向けこどもセルフガイドの配布、自主企画展における無料音声ガイドアプリの提供、所蔵作品展におけるスマートフォンアプリによる4ヶ国語（日本語・英語・中国語・韓国語）の章解説・作品解説の提供、訪日外国人に向けた、英語による鑑賞・異文化交流プログラム「Let's Talk Art!」の実施【東京国立近代美術館（本館）】
- ・作品名・作家名にふりがなを入れた会場キャプションの設置及び作品リストの配布、夏季所蔵作品展における児童生徒を対象とした「セルフガイド」（日本語・英語）・一般観覧者向けリーフレット（日本語・英語）及び冬季所蔵作品展における一般観覧者向けリーフレット（日本語）の作成・配布、スマートフォンアプリによる章解説・作品解説の多言語での提供【東京国立近代美術館（国立工芸館）】
- ・美術館ニュース『見る』の配布、免震装置付有機EL照明による展示ケースの設置、自主企画展チケットのオンライン販売の実施【京都国立近代美術館】
- ・特集展示「NFAJ コレクションでみる 日本映画の歴史」における児童生徒向けの「ジュニア・セルフガイド」の配布、所蔵作品上映におけるバリアフリー上映を実施（視覚障がい者向け音声ガイドの使用、聴覚障がい者向け字幕投影及び磁気ループシステム使用）、企画上映について、前売券の販売【国立映画アーカイブ】
- ・企画展における児童生徒向けの「ジュニア・パスポート」を配布、館広報物（館ニュース『Zephyros』の最新号及びバックナンバー）の配布及びホームページ掲載、「世界遺産パンフレット」（日本語・英語・中国語・韓国語）の配布、グーグル「Arts&Culture」アプリによる主要所蔵作品解説（日本語・英語・中国語・韓国語）の無料配信の実施、建築デジタルコンテンツの多言語化（英語・中国語・韓国語）、企画展におけるQRコードを活用した3ヶ国語（英語・中国語・韓国語）の章解説・作品解説の提供【国立西洋美術館】
- ・各階のトイレに点字案内板を設置、安全仕様のキッズルーム（地下1階）の設置及び同所における幼児向け絵本の常設、学校団体児童生徒および国内外問わず個人向け『アクティヴィティ・ブック』（日本語版、「やさしい日本語」英語併記版）、『アクティヴィティ・シート』（日本語）、国内外問わず幼児向け『国立国際美術館すごろく よく見て感じて！ Take a Good Look!』（日英併記）、未就学児を持つ家族向け『びじゅつかんまると発見シート』（日本語）の配布【国立国際美術館】
- ・QRコード決済サービスによる観覧券の窓口販売を導入、点字ブロック（正門から正面入口、地下

鉄口から西入口（インターホンを設置））及び点字表示（エレベータ内ほか）の設置、補聴器等への磁気誘導無線システムの講堂内への設置（専用受信機 10 台）、託児サービスの実施、文字を大きくし見易くしたフロアガイド「大きな文字の利用案内」の館内配布、企画展における児童生徒向け鑑賞ガイドの配付及び子供向け施設ガイド『てくてくマップ』の配布及びホームページ掲載、地域の学校を対象として休館日の展示室を無料で開放する「かようびじゅつかん」を実施、外国人来館者向けの翻訳サービス「ポケットーク」を導入、講演会・シンポジウム等における手話通訳の導入、利用者がスマートフォン等の端末で視聴できるウェブアプリ「国立新美術館建築ガイドアプリ CONIC」を配信、QR コードを活用した作品解説キャプションの多言語化（日英中韓）【国立新美術館】

② 入場料金、開館時間等の弾力化

＜各館共通実施事項＞

- ・国際博物館の日（5 月 18 日）に関連し、所蔵作品展及び国立映画アーカイブの展覧会の観覧料を無料化（当日休館日であった館を除く）
- ・文化の日（11 月 3 日）における所蔵作品展及び国立映画アーカイブの展覧会の観覧料を無料化（当日休館日であった館を除く）
- ・所蔵作品展、自主企画展及び国立映画アーカイブの展覧会における高校生以下及び 18 歳未満の観覧料を無料化
- ・所蔵作品展及び企画展における夜間開館（原則として毎週金曜・土曜日 20 時まで）を実施

＜各館の実施事項＞

ア 東京国立近代美術館

（本館）

- ・東京都が実施する「家族ふれあいの日」に参加し、毎週土曜、日曜に優待券を提示した高校生以下の子供を連れた家族に所蔵作品展の観覧料割引を実施
- ・東京メトロ、都営地下鉄ワンデーパスによる所蔵作品展の観覧料割引を実施
- ・JAF 会員券の提示による所蔵作品展の観覧料（個人一般）割引を実施（企画展も展覧会により割引実施）
- ・企画展（「中平卓馬 火一氾濫」「TRIO パリ・東京・大阪 モダンアート・コレクション」「ハニワと土偶の近代」「ヒルマ・アフ・クリント展」）において、各種観覧料割引を実施
- ・所蔵作品展については引き続き「5 時から割引」（夜間割引）を実施
- ・通訳案内士の所蔵作品展・企画展（展覧会による）の無料観覧
- ・「アートフェア東京 2025」の特別協力美術館として、令和 6 年 3 月 6 日～9 日について、当該イベントの参加者に対し、「ヒルマ・アフ・クリント展」及び所蔵作品展観覧料を無料又は割引とした。
- ・一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォームが主催するイベント「アートウィーク東京」に協力し、令和 6 年 11 月 5 日～10 日について、当該イベント参加者に対し、ハニワと土偶の近代展及び所蔵作品展観覧料を無料又は割引とした。

（国立工芸館）

- ・通訳案内士の所蔵作品展・企画展（展覧会による）の無料観覧
- ・所蔵作品展及び企画展において各種観覧料割引を実施
- ・いしかわ文化の日（10 月 20 日）における観覧料割引を実施
- ・学生のまちパスポート『学パス』（いしかわ・かなざわ文化施設入館証）により、石川県内の大学・短大・高専に在学する 1 年生を対象に、観覧料無料を実施

イ 京都国立近代美術館

- ・企画展を開催しない土曜日における所蔵作品展の観覧料を無料化

- ・「関西文化の日」（11月18日、19日）における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・京都国立博物館、京都市京セラ美術館、京都文化博物館と組織する「京都ミュージアムズ・フォー」において、各館の友の会と相互割引を実施
- ・奈良国立博物館、国立民族学博物館及びMIHO MUSEUMの友の会と相互割引を実施
- ・近隣の京都市京セラ美術館、細見美術館と連携し、相互割引を実施
- ・京都伝統産業ミュージアムと相互割引を実施
- ・JAF 会員証提示による企画展及び所蔵作品展の観覧料（個人一般）割引を実施
- ・朝日新聞グループ 朝日友の会、京都新聞トマト倶楽部、阪急阪神カード及び京阪カードの情報誌・ホームページに展覧会情報を掲載するとともに観覧料割引を実施
- ・企画展（「没後 100 年 富岡鉄斎」「倉俣史朗のデザインー記憶のなかの小宇宙」「LOVE ファッションー私を着がえるとき」「生誕 120 年 人間国宝 黒田辰秋一木と漆と螺鈿の旅」「〈若きポーランド〉ー色彩と魂の詩うた 1890-1918」）において、各種観覧料割引を実施
- ・第1回～第4回コレクション展及び企画展「没後 100 年 富岡鉄斎」「生誕 120 年 人間国宝 黒田辰秋一木と漆と螺鈿の旅」において、金曜日の 18 時以降の入館者に対して、夜間割引を実施

ウ 国立映画アーカイブ

- ・7階展示室の毎月末の金曜日（プレミアムフライデー）の 20 時までの開館延長。
- ・上映企画開催中の週 4～5 日について 18 時以降の上映を実施。

エ 国立西洋美術館

- ・東京都が実施する「家族ふれあいの日」に参加し、毎月第3土曜日、第3日曜日に優待券を提示した高校生以下の子供を連れた家族に所蔵作品展の観覧料割引を実施
- ・東京メトロ、都営地下鉄ワンデーパスによる所蔵作品展の観覧料割引を実施
- ・京成電鉄株式会社が実施する都内フリー乗車券「下町日和きっぷ」に参加し、所蔵作品展の観覧料割引を実施
- ・北総鉄道株式会社が実施する「北総・下町めぐりきっぷ」に参加し、所蔵作品展の観覧料割引を実施
- ・「東京・ミュージアムぐるっとパス 2024」に参画し、所蔵作品展の観覧料割引を実施
- ・「Kawasaki Free Sunday」（原則毎月第2日曜日）に所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・「にぎやかサタデー」（8月3日）に所蔵作品展及び自主企画展の観覧料を無料化
- ・有効期間中何回でも所蔵作品展を観覧できる「国立西洋美術館常設展パスポートチケット」の作成・発売
- ・4月30日（ゴールデンウィーク）、8月13日（お盆期間）、3月24日（桜花期）に臨時開館を実施
- ・「モネ 睡蓮のとき」会期中の毎週金曜日、土曜日及び会期末の2月1日～2月11日に夜間開館の延長を実施

オ 国立国際美術館

- ・所蔵作品展及び自主企画展における夜間開館時の観覧料割引を実施
- ・原則毎月第一土曜日における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・関西文化の日における所蔵作品展の観覧料を無料化【11月16日（土）及び11月17日（日）】
- ・大阪観光局が発行する「大阪周遊パス」による所蔵作品展の観覧料無料化及び企画展観覧料割引を実施
- ・「ミュージアムぐるっとパス・関西」に参加し、所蔵作品展の観覧料無料化及び企画展観覧料割引を実施
- ・京都国立博物館、奈良国立博物館及び国立民族学博物館の友の会等と相互割引を実施

- ・朝日新聞グループ 朝日友の会、大阪市高速電気軌道株式会社、OSAKA メセナカード、京阪カード及びみずほプレミアムクラブの情報誌・ホームページに展覧会情報等を掲載するとともに観覧料割引を実施
- ・近隣ホテルとの連携を強化し、ホテル利用者に入場割引券を配布し、展覧会広報を行うとともに観覧料割引を実施。また、提携ホテルでの展覧会の半券持参等による特典を提供
- ・ゴールデンウィーク期間中に臨時開館を実施【4月29日（月）及び5月6日（月）】

カ 国立新美術館

- ・六本木アート・トライアングル参加館との観覧料の相互割引及び共通マップの作成・配布
- ・公募団体展と企画展の観覧料の相互割引を実施したほか、企画展において、各種観覧料割引を実施
- ・「東京・ミュージアム ぐるっとパス」に参加し、企画展観覧料割引を実施
- ・東京ミッドタウンと連携し、東京ミッドタウン内対象ショップへの展覧会の半券持参による特典提供を実施
- ・「アートウィーク東京」の参加施設として、令和6年11月7日（木）～11月10日（日）の期間中、当該イベントの参加者に対し、「田名網敬一 記憶の冒険」の観覧料を無料又は割引対応した。
- ・「アートフェア東京19」に協力し、令和7年3月19日（水）～3月31日（月）の期間中、当該イベントの参加者に対し、「リビング・モダニティ」展の観覧料を割引対応した。

③ キャンパスメンバーズ制度の実施

国立美術館全体の事業として平成18年12月から実施している、大学、短期大学、高等専門学校及び専修学校等を対象とした会員制度「国立美術館キャンパスメンバーズ」については、令和6年度は1校の新規加盟があり、合計107校となった。これは制度開始以来最高の加盟校数である。（利用者数90,362人）

④ ミュージアムショップ、レストラン等の充実

ミュージアムショップについては、企業との連携等により各館所蔵作品の図版等を活用したオリジナルグッズの開発に努め、ホームページにおいて展覧会図録やグッズの情報を紹介するなどの広報宣伝を行った。レストランについては、企画展にちなんだ特別メニュー等を提供した。各館の特徴的な取組は以下のとおりである。

ア 東京国立近代美術館

（本館）

- ・「美術館の春まつり」期間中、通常のショップに加えてポップアップショップを設置、花にちなんだ作品をモチーフとした商品等を販売し、好評だった。
- ・「美術館の春まつり」期間中、前庭に桜を眺めながら休憩ができる床几台を設置した。
- ・レストラン「ラー・エ・ミクニ」が「MOMAT サマーフェス」の期間中、各種ドリンクや軽食の提供に加え、夜はビアバーとしても楽しんでもらえるようにした。「美術館の春まつり」期間中はキッチンカーを前庭に配置し、特製お花見弁当や軽食を提供し、イベントを盛り上げた。

（国立工芸館）

国立美術館唯一の直営ミュージアムショップとして、販売活動を通じて「日本のものづくり」の魅力を国内外に発信することを目指し、管理・研究部門協働によって各地の工芸やデザインの優品を選び、商品解説や制作者紹介の充実にも努めた。また、北陸地域や工芸にゆかりのある企業との連携によるオリジナルグッズを制作したり、展覧会内容に合わせたグッズのラインナップを都度変えることにより、利用者に工芸に対する興味をより持ってもらうようきっかけ作りを意識した。令和6年度は新規で3社とコラボをし、8点の商品制作を実現した。

また、国立工芸館は、移転当初からカフェや自動販売機などがなく、多くの来館者から飲食に関する要望が寄せられていた。カフェに関しては建物内におけるスペース確保が困難なことから、令和6年11月29日（金）に景観条例に配慮し建物裏手に新たに自動販売機を設置した。来館者サービス提供とともに、県駐車場利用者やタクシーの往来がある動線上に配置したため、外部資金獲得としても期待を寄せている。

イ 京都国立近代美術館

- ・ミュージアムショップにおいて、展覧会関連グッズ及び関連書籍のコーナーを設け、「倉俣史朗のデザインー記憶のなかの小宇宙」、「LOVE ファッションー私を着がえるとき」ではオリジナルグッズを企画・製作し販売した。また、京都国立近代美術館の創造推進事業『CONNECTs』では、障害のある方が制作した商品を集めた特設コーナーを設けた。
- ・OK パスポートを提示した来館者に対し、開催中の展覧会図録、コレクション作品のオリジナルポストカードの10%割引を実施した。
- ・レストランにおいて、企画展にあわせた期間限定メニューを全展示で販売した。友の会・JAF 会員・ミュージアムぐるっとパス関西・岡崎手帳提示又は十石舟乗船券提示の方に10%割引サービスを実施した。また国内外の観光客に向け京野菜・京焙じ茶・抹茶など京都ならではの食材を使用しニーズに対応した。

ウ 国立映画アーカイブ

令和2年度に館内整備を行い、1階エントランスホールの総合受付に併設したミュージアムショップを開設し、オリジナルグッズの製作を行った。引き続き令和6年度もNFAJ ニュースレター及び展覧会図録等や展覧会・上映会関連グッズの販売を実施した。

エ 国立西洋美術館

- ・所蔵作品を用いたオリジナルグッズ（お菓子缶、マグネット、ペーパーファイル、ブックカバー他）を新たに制作・販売するとともに、自主企画展オリジナルグッズ（A4 クリアファイル、トートバッグ、スマホリング他）の制作・販売により、展覧会の広報及び来館者サービスに貢献した。
- ・自主企画展「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？——国立西洋美術館65年目の自問 | 現代美術家たちへの問いかけ」「内藤コレクション 写本ーいとも優雅なる中世の小宇宙」、企画展「モネ 睡蓮のとき」において展覧会特別コースを開発・提供し、観覧環境の充実を図り、来館者が展覧会とあわせて楽しむことができる機会を設けた。また、冬季の来館促進イベント「美術館でクリスマス」開催中にはクリスマス限定メニューを提供し、館と連携して来館者の満足度を高める取り組みを実施した。

オ 国立国際美術館

- ・ミュージアムショップでは、すべての展覧会で、それぞれの内容や出品作家に合わせた関連書籍、グッズのコーナーを設け、商品の充実させた。特に特別展「梅津庸一 クリスタルパレス」では、展示している楽曲「unknown teller」（梅津庸一氏とヴィジュアル系バンド「DIAURA」の共同制作）を会場限定盤として販売した。
- ・レストランでは、展覧会に合わせたコラボレーションメニューを提供するなど、来館者サービスの向上を図った。

カ 国立新美術館

- ・ミュージアムショップ内ギャラリーにおいて、「しあわせ招くネコのカタチ展」、5年ぶりとなるうつわ展、ほか作家やグループの展示を美術館との連携により5展開催し、合わせて関連商品の展示販売を実施した。
- ・ミュージアムショップにおいて、各展覧会の来館客層に合わせた催事展開を実施した。
- ・遠距離現在展開催時に1階ショップにて図録と関連書籍の販売を行った。

- ・レストランにおいて、マティス展、CLAMP 展など企画展に合わせて各階店舗にてコラボレーションメニューを展開した。

2 我が国の近現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・活用・継承

(1) 作品の収集

第5期（令和3年度～令和7年度）中期目標に定める指標	
指標	・所蔵作品の収集に係る取組状況。 （美術作品購入点数、美術作品寄贈点数、美術作品年度末所蔵作品数） ・所蔵作品整理に係る取組状況（レジストラ等専門的職員の充当人数） ・国立各館間での管理換及び長期貸与の件数

① ナショナルコレクションの形成

ナショナルコレクションの形成については、従来の各館の収集方針を再検討しながら令和4年11月に定めた「独立行政法人国立美術館収集方針」及び同方針に基づく現代の美術作品の同時代収集の推進方針にのっとり、リサーチと協議を重ねて既存のコレクションの手薄な部分を補うことに努めた。その結果、ジェンダーバランスへの配慮として寺内曜子、白井美穂、ジェニファー・リー（イギリス）、沖潤子、風間サチコ、手塚愛子、田部光子、ルース・アサワ（日系アメリカ人）ら女性作家の作品を充実させるとともに、地域的多様性にも積極的に目を向けパク・ソボ（韓国）、ユエン・グァンミン（台湾）、ミン・ウォン（シンガポール）、ソピアップ・ピッチ（カンボジア）などアジア諸国の重要作家の作品収集をはかった。

また西洋古典絵画でも、ラヴィニア・フォンターナ（イタリア）、フェーデ・ガリツィア（イタリア）ら女性作家作品を収集し、さらに工芸では海外流出のおそれのある北大路魯山人や金森宗七らの作品の収集も行い、法人全体のコレクションを充実させることができた。これらの作品は令和7年度以降に各館において積極的に公開していく予定である。

・所蔵作品整理に係る取組状況（レジストラ等専門的職員の充当人数）

令和6年度充当人数（人）	令和6年度新規	0	総数	2
--------------	---------	---	----	---

※上記は常勤職員の人数である。このほか特定研究員1名、研究補佐員1名雇用

特記事項

レジストラについてはこれまで国立国際美術館で主任研究員1名、国立西洋美術館で主任研究員1名が配置されていたが、令和6年度に法人全体で新規で配置された者はいない。両館ではレジストラが収蔵庫からの作品の出し入れに関わる管理・記録、輸送の調整、作品の貸与・借用に伴う調整等を行っている。修復に関しては、国立西洋美術館では修復担当者の業務となるが、国立国際美術館ではレジストラが作品状態点検、修復の必要性の判断を行い外部の専門家への手配まで担当する。以上の業務について、法人内の他館は専門職を置かず、研究員が数年おきに係を交代しつつその任にあたっている。国立西洋美術館ではまた、作品移動の調整の円滑化のために、出入庫記録の記録作成方針の標準化とDXの推進、システム構築を行い、国内美術館の規範となる作品管理体制の確立を目指している。

・国立各館間での管理換及び長期貸与の件数

国立各館間での管理換及び長期貸与の件数（件）	5
------------------------	---

特記事項

国立西洋美術館の所蔵するバーナード・リーチ作品3点を国立工芸館に長期貸与したほか、令和5年度に国立工芸館で開催した、国立各館のコレクションを活用した企画展「印刷／版画／グラフィックデザインの断層 1957-1979」を、令和6年度には京都国立近代美術館においても開催した。また国立工芸館の所蔵する工芸作品を東京国立近代美術館の所蔵作品展で公開するなど、国立美術館相互の作品活用に努めた。

② 所蔵作品の収集に係る取組状況

作品の収集は、国立美術館の役割を踏まえ、法人全体及び各館の収集方針に基づき、各館の調査・研究活動を通じて収集すべき美術作品を検討した後、外部の有識者による美術作品購入選考委員会等の審査を経た上で実施している。また、法人内で各館の収集予定やその緊急性等について情報交換を行うことにより、適時適切な収集に努めている。

令和6年度の購入予算（法人共通）の使途については、海外への流出可能性など緊急度の高さや作品の品質と希少性等の観点から法人全体で協議し、決定している。

館名	購入点数	購入金額（円）	寄贈点数	年度末 所蔵作品数	年度末 寄託品数
東京国立近代美術館（本館）	78	1,183,779,718	114	13,954	247
国立工芸館	40	166,272,000	60	4,259	139
京都国立近代美術館	70	338,616,560	212	13,813	1,598
国立西洋美術館	60	1,383,568,720	167	6,683	96
国立国際美術館	29	535,253,918	9	8,241	62
合計	277	3,607,490,916	562	46,950	2,142

館名		令和6年度の収集方針
東京国立近代美術館	本館	19世紀末から今日に至る日本の近現代美術の流れを、国際的な関連を交えつつ通史的・体系的に示すために、その十全な展観に必要な不可欠な歴史的価値を有する作品・資料の収集に努める。またジェンダーバランスや地域性といった同時代的に重要な視点を常に踏まえ、将来的にその時代を象徴しうるような先駆的作品の確保に努める。 ア 1970年代以降の日本と海外の作品の収集 イ 日本の美術に影響を与えた海外作家の作品の収集 ウ 1900～1940年代の日本画作品の収集
	国立工芸館	ア 近現代の日本の工芸作品及びデザイン作品の体系的・通史的概観を可能とし、かつ世界との関係を示すため必要な時代や国・地域の作品の充実を図る。 イ 性別・年齢の偏りを是正するよう配慮しつつ時代精神を映し出す優品を積極的に収集するよう努める。 ウ 日本工芸の近代化を示す作品の補充と、個々の表現を模索し多様な展開を見せる、戦後から現代に至る重要な作品の収集を中心とする。
京都国立近代美術館		ア 近現代の工芸全般、日本画、油彩画、版画、彫刻、写真など多様なジャンルの作品資料を収集し、将来における横断的美術史研究と総合的展観に資する体系的コレクションの形成に努める。 イ その際、優れた女性作家の作品を積極的に収集し、美術館活動におけるジェンダーバランスの是正を目指す。 ウ また、美術における京都を含む西日本の歴史的文化的重要性に鑑み、その地域性に立脚した作品や、世界の美術との影響関係の検証に不可欠な作品の収集に努める。
国立西洋美術館		ア 中世から20世紀前半の西洋美術の流れの体系的・通史的概観を可能とするのに必要不可欠な時代や地域の作品の充実を図り、女性作家の作品も積極的に収集する。 イ 松方旧蔵品の調査研究の成果に基づきつつ収集する。 ウ ヨーロッパ版画史を通覧できるよう、多様な様式や主題の作品の系統的収集を行う。
国立国際美術館		日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするため、国際的な交流が極めて盛んになった1945年以降の国内外の現代美術作品の収集を次の点について留意しながら積極的に行う。 ア 国内外の同時代性の高い先端的な美術作品の収集

	イ ジェンダー・バランスの是正や非欧米地域の動向、国内の地域バランスに配慮した作品収集 ウ 今後の美術史に寄与する現代美術作品の体系的な収集
--	---

特記事項

ア 東京国立近代美術館

(本館)

〈購入〉

横山大観の初期代表作《迷児》（1902 年）、韓国の抽象表現を牽引した朴栖甫の《描法 No. 2-74》（1974 年）、イタリアの彫刻家メダルド・ロッソの最重要作《Ecce Puer（この少年を見よ）》（1920-25 年）を購入した。いずれも国立美術館全体のコレクションのなかで多様な活用が見込まれる優品である。日本画では、画家のキャリア全盛期に制作された甲斐莊楠音《白百合と女》（1920 年）、油彩では、日本のポップ・アートを代表するタイガー立石（立石紘一・立石大河亞）による《Mao's Ecstasy》（1970 年）の購入が大きな成果である。近年重点的に取り組む女性作家の作品の充実として、彫刻では多田美波、寺内曜子、豊嶋康子、白井美穂、版画では嶋田美子、写真では石川真生など、多様な時代とジャンルの作品を購入し、着実な成果をあげた。同じく近年計画的に取り組む地域的多様性への配慮として、朴栖甫に加えて、韓国実験美術の重要作家ソン・ヌンギョンの写真作品を購入したほか、石川真生、真喜志勉という戦後の沖縄の美術を代表する作家の作品を購入できたことも大きな前進である。

〈寄贈〉

日本画では、長く寄託としてお預かりしてきた、日展日本画を代表する作家の一人・杉山寧《コレレー》（1964 年）をご寄贈いただいた。小振りながら画業ピークの時期に当たる良品であり、すでに所蔵する杉山の作品と共に活用が見込まれる。油彩では、もの派の代表的作家・李禹煥の近作《応答》（2022 年）を、作家本人よりご寄贈いただいた。コレクションに欠けていた傾向や時代の作品であり、より十全に作家のキャリア全体を通覧することが可能となった。また福田豊四郎、野見山暁治、山口華楊それぞれによる素描をご寄贈いただいたが、いずれも当館がすでに所蔵している作品の準備段階で制作されたものである。完成作と共に活用することで、より充実した展覧が可能となった。資料として受け入れたジャン（ハンス）・アルプの石膏 11 点は、アルプ財団よりご寄贈いただいたもので、ブロンズや石彫制作の過程で作られた石膏複製である。作家の制作プロセスを明らかにする重要な資料であると共に、将来的な国際的協働リサーチを前提とした寄贈ということからも意義深い。

(国立工芸館)

〈購入〉

北大路魯山人《織部蟹絵丸平向付》と金森宗七《花鳥文様象耳付大花瓶》を購入した。北大路魯山人晩年の代表作といえる向付と、明治時代の日本の工芸技術の粋を示す優品を収蔵できたことで、国立工芸館のコレクションの欠落を補い、また作品の海外流出を防いだという点でも国立の美術館としての役割を果たした意義のある購入であった。

加えて二十代堆朱楊成、稲木東千里、木村芳郎、中田真裕、佐々木類など幅広い年代にわたり現代工芸の多彩な様相を示す作品を幅広く収集することができた。さらに特筆すべき点として、「未来へつなぐ陶芸—伝統工芸のチカラ展」や「心象工芸展」などの展覧会出品作を重点的に購入したことが挙げられる。研究の成果としての展覧会から収集へとつなげたことで、若い世代の作家にも目配りしつつ、年代、ジャンルともにバランスの取れた収蔵を進めることができた。

〈寄贈〉

まとまった作品受贈として加藤唐九郎の茶碗、高橋禎彦によるガラス作品を収蔵することができた。加藤唐九郎作品は主に 1960 代後半～1970 代半ばに制作された作品でいずれの作品も加藤唐九郎の制作の独創性や幅広さを感じさせる優品である。高橋禎彦作品は 1987 年から 2019 年までの 30 年以上にわたり作家の造形思考の変遷と、ガラスによる表現の多様性を伝える構成となっている。第 39 回日本伝統工芸展出品作である中川衛作品など入手が困難で資料的な価値が高い作品

を収蔵することができた。いずれもコレクションの欠落を埋めるとともに、今後の研究に寄与することが期待される。

イ 京都国立近代美術館

〈購入〉

松田権六《蒔絵勇馬図平卓》（1937年）及び《蒔絵竹に雀図二段卓》（1968年）、鎗木清方《ためさるゝ日》（1918年）の3点とともに、エドワード・J. スタイケン《グレタ・ガルボ》（1928年）などアーノルド・ギルバート氏旧蔵の写真コレクション計25件（51点）、また、現代作家同時代購入の枠では、八代清水六兵衛《RELATION96-B》（1996年）や小林正和《WIND-4（風-4）》（1975年）、風間サチコ《McColoniald シリーズ》4点組（2003年）など18点を購入した。漆芸の松田権六も日本画の鎗木清方も、京都の作家ではないが、それぞれの分野の最重要人物であり、京都国立近代美術館が主な収集対象とする京都の工芸や絵画と比較し関連付けることのできる作家である。ギルバート氏の写真コレクションについては、京都国立近代美術館は既に1,050点を収蔵しているが、今回購入したのは故ギルバート氏が当時は手放せなかった特に大切なものばかりであり、この収蔵によってコレクションの真価を見せることができるようになったといえる。

〈寄贈〉

令和6年度にも多数の寄贈があったが、中でも特筆に値するのは、洋画家の油彩・水彩・素描などのコレクションが一括寄贈されたことである。青木繁《エスキース》や松本竣介《風景（代々木駅裏口）》（1947年頃）など展覧会でも馴染みの作品や、安井曾太郎《湯河原風景（晩秋の湯河原）》（1952年）や小出楢重《裸女》（1928年）など遺作展に出品されて以降は見る機会がなくなっていた作品、村山槐多《静物》（1915年）や中村彝《芍薬図》など新たに見出された作品を含む計48点のコレクションである。これまで京都国立近代美術館で収蔵する機会のなかった作家の作品が多数あり、コレクション展や館外への貸与などで大いに活用できると期待される。富岡鉄斎《群仙図》（1892年）を含む羽倉可亭旧蔵の書画資料も一括寄贈された。平成24年度の「山口華楊展」に出品された山口華楊の代表作《七面鳥》（1953年）が寄贈されたほか、令和5年度の「走泥社再考」「小林正和とその時代」や令和6年度の「倉俣史朗のデザイン」「LOVE ファッション」など京都国立近代美術館が近年開催した展覧会において展示された作品が多数寄贈されたことも、令和6年度の特色である。

ウ 国立西洋美術館

〈購入〉

中期計画に記された国立西洋美術館の収集方針に則って購入を行った。とくに近年力を入れてきた女性作家の作品の収集という観点からは、フェーデ・ガリツィアとラヴィニア・フォンターナという希少なオールドマスターの女性画家2人の作品を一度に取得できたことは特筆に値する。版画については、継続して収集を続けているレンブラント、ベランジュ、デューラーの版画を購入できたことでコレクションの厚みが増した。とくにデューラーは《小受難伝》は彼の版画連作を語る上でも当時の信仰と芸術の関係を考える上でも欠かすことのできない重要な作品であるが、出版時のテキスト入りの初版の全点揃いという点で非常に稀である。今回の購入は国立西洋美術館の版画収集においても画期的なものといえる。

〈寄贈〉

ジュエリーデザイナーの梶光夫氏より148点のエマーユ作品の寄贈を受けた。19世紀後半からアール・ヌーヴォーの時代である20世紀初頭のフランスで制作された作品が中心である。国立西洋美術館にとっては、まとまった数の工芸品としては2012年の橋本コレクション以来の収蔵となる。国内では極めて稀なエマーユ・コレクションの受け入れによって、国立西洋美術館の装飾芸術のコレクションに新たなジャンルを加えるとともに、1900年前後のフランス近代美術の厚みを増すことができた。

エ 国立国際美術館

〈購入〉

ルース・アサワ《無題（S. 317、壁掛け式、中央部は開いた五芒星と枝が重なり合う形にワイヤーを縛ったもの）》を購入することができた。本作は、日系移民二世であるアメリカの女性立体造形作家、アサワの大型作品である。本国のみならず国際的に再評価が進むアサワの作品を、そのルーツである日本国内で初めて収蔵することが叶った。これにより、海外日系人作家についての更なる調査研究を進展し、グローバルな美術史における日本の位置づけをより明らかなものとしていきたい。この他、近年積極的に収集を進めている非欧米地域出身作家として、ミン・ウォン（シンガポール）、ソピアップ・ピッチ（カンボジア）、袁廣鳴（ユエン・グァンミン）（台湾）、キム・アヨン（韓国）の作品を購入することができた。女性作家としては、福岡市美術館に遺族が長らく寄託していた田部光子の初期の佳作や、アメリカのモーリーン・ギャレスの絵画作品など、未収蔵であった重要作家の作品をコレクションに加えることができた。

〈寄贈〉

国外で先行して評価が進むも、国内においてはパブリック・コレクションに収蔵されていない今井麗の洋画を受贈することができた。国立国際美術館は現代絵画に関する調査研究を継続的に行っているが、今回の収蔵はこうした研究に資するものである。また、具体美術協会のメンバーで、当館のコレクションには未収蔵であった浮田洋三の洋画作品を受贈した。田部光子の旧蔵になる小沢剛の《なすび画廊—会田誠展》は、90年代以後の日本の現代美術において不可欠な小沢と会田（いずれも所蔵作家）の交流を示すとともに、田部の所蔵歴も含めて重要な作品の受贈となった。杉本博司が当館所蔵のアルベルト・ジャコメッティ彫刻作品を撮影した《Past Presence 091, Yanaihara I, Alberto Giacometti》は、当館が制作に協力したことから受贈した。同作家の作品は既に20点以上所蔵しているが、未収蔵であった「Past Presence」シリーズからの初収蔵となった。

(2) 所蔵作品の保管・管理

第5期（令和3年度～令和7年度）中期目標に定める指標	
指標	・ 保管環境等の改善等に係る取組状況。 （各館の収蔵庫の収納率。）

保管施設の狭隘・老朽化への対応として、外部倉庫の活用、関係機関等との協議、既存の収蔵庫等保管施設の改修、額縁及び作品の整理による保管スペースの確保等を進め、保管環境の改善を行った。

また、平成31年3月に策定した「収蔵庫等保管施設の狭隘・老朽化対応に係る方針」に基づき、ナショナルセンターとして担う役割にふさわしい機能を有する新たな収蔵施設の設置に向けた検討を進めた。

① 収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応

ア 東京国立近代美術館 （本館）

収納率：約165%

従来どおり、館外の倉庫に作品の一部を預けたり、作品貸与や所蔵作品展示により作品を庫外に出したりして最低限やりくりしている。倉庫の賃料の値上がりへの対応、および新規収蔵作品の保管場所を確保するには継続的な予算の増額が必須である。令和4年度に定められた「現代の美術作品の同時代収集」が始まり、大型作品の収集は予想を超えて増加している。また適正な収納率をすでに大幅に超えているため、作品の出し入れに相当の時間を要することも多く、きわめて作業効率が悪い状況である。

（国立工芸館）

収納率：約100%

石川の収蔵庫は、令和3年度までに移転した工芸作品で収納率が100%を超えており、令和5年度から石川県金沢市内の民間倉庫に作品の移送を進め、令和6年度に全作品の移送が完了した。現在、作品は国立工芸館内の収蔵庫、石川県金沢市内の民間倉庫の2ヶ所に分蔵して保管している。石川の収蔵庫および金沢市内の民間倉庫では、空気の対流の妨げにならないよう、作品の配置を検討し、また庫内清掃の徹底やサーキュレータの併用など、でき得る限りの環境保全に努めている。しかし、すでに棚の間の通路にも作品を置かざるを得ない狭隘状態で、毎年作品点数が増加するなかで適切な環境を維持することが難しく苦慮している。

イ 京都国立近代美術館 収納率：約197%

収納率が200%を超えるのは時間の問題ではあるが、従来どおり、館内の収蔵庫においては収蔵方法を適宜見直し、少しでも多くの作品を収納できるように工夫することにより、保存環境の改善と維持に努めている。また、館内の収蔵庫には収まりづらい作品（主に、館内の収蔵庫へ収納すれば他の収蔵品の運用を妨げる恐れがあるような大型作品）や、展示・貸与の機会がやや少なめの作品については、作品の状態を考慮しつつも、館外の民間倉庫を活用することにより、館内の収蔵庫における収納状況に無理が生じないように努めている。民間倉庫の借用には経費上の限界があるうえ、使用できる面積にも余裕があるわけでもないが、ここでも収蔵方法も適宜見直すように努める。

ウ 国立西洋美術館 収納率：約90%

- ・ 保存修復室メンバーで第2収蔵庫絵画ラックにかかっている作品及び絵画ラックレール上部/下部/奥の徹底清掃を行い、清潔に保つことにより適切な保管環境の整備に努めた。
- ・ 適切な保管環境の整備：バックヤードに関しては例年どおり、トラップを仕掛けて文化財害虫のモニタリングを定期的に行い、現状調査と問題点の把握に努めた。

エ 国立国際美術館

収納率：約 137%

民間倉庫の借用面積を令和 6 年度より 30 平米程度増床し、8 点の大型作品を移動して館内の収蔵スペースの改善を行った。これにより、民間倉庫には計 50 点の作品が保管されている。また、絵画ラックや棚に空きがない状況でも安全に保管できるよう、昨年度新規収蔵した作品を中心に保管箱を作成した。館内の収蔵関連施設として、汎用額や作品の交換用部品、映像機材等を保管する展示室倉庫の整理作業と IPM 清掃を実施し、収蔵庫内の備品を展示室倉庫へ移動、整理して収蔵庫内のスペース確保を図った。しかし、令和 6 年度新規収蔵した作品だけで 20 平米程度の床面積が新たに必要となっており、収蔵庫全体が引き続き稠密であることに変わりはない。

② 防災対策の推進・充実

館名		避難訓練等の実施日
東京国立近代美術館	本館	(本館) 令和 7 年 3 月 11 日 (火) (分室) 令和 7 年 3 月 12 日 (水)
	国立工芸館	令和 7 年 2 月 17 日 (月)
京都国立近代美術館		令和 6 年 10 月 28 日 (月)
国立映画アーカイブ		(本館) 令和 6 年 7 月 18 日 (木) (相模原分館) 令和 6 年 11 月 26 日 (火)
国立西洋美術館		令和 7 年 3 月 26 日 (水)
国立国際美術館		令和 7 年 2 月 25 日 (火)
国立新美術館		令和 6 年 10 月 1 日 (火)、令和 7 年 3 月 25 日 (火)

(3) 所蔵作品の修理・修復

第5期（令和3年度～令和7年度）中期目標に定める指標	
指標	・所蔵作品についての修理、修復に係る取組状況。（所蔵作品の修理・修復数）

所蔵作品等の保存状況について、各館の連携・調整を行い、特に緊急に処置を必要とする作品について重点的に修理・修復を行った。

・所蔵作品の修理・修復実績

館 名		修理・修復点数
東京国立近代美術館	本館	231点（絵画23点、水彩8点、素描2点、版画6点、彫刻3点、写真188点、資料・その他1点）
	国立工芸館	5点（工芸5点）
京都国立近代美術館		92点（絵画9点、版画77点、工芸5点、資料・その他1点）
国立西洋美術館		136点（絵画36点、素描30点、版画33点、彫刻3点、工芸11点、書籍23点）
国立国際美術館		577点（絵画7点、水彩1点、版画11点、彫刻3点、写真33点、工芸2点、デザイン1点、資料・その他519点）

特記事項

ア 国立アトリサーチセンター

国立美術館における科学調査および保存修復活動の促進を目指し、国立国際美術館が所蔵する作品の材質の一部として用いられた鉛の劣化について、奈良文化財研究所の協力を得て調査を行った。また令和5年度に行った国立工芸館所蔵の杉浦非水のポスター作品の科学調査について、5月15日に研究会を開いて国立美術館の担当者間で情報共有するとともに、文化財保存修復学会、『東京国立近代美術館研究紀要』において成果を公表した。

イ 東京国立近代美術館

（本館）

熊岡美彦《珠江口掃海》（1940年）はアメリカ合衆国より無期限貸与された戦争記録画の1点で、支持体に5cmもの破れが生じていた。シドニーのニュー・サウス・ウェールズ州立美術館で開催されたキャンバス画修復に関するワークショップに参加した修復家の土師広氏と協働し、土師氏が修得した最新の単糸接着（Single Thread Bonding）の技術を用いて処置を施した。ワークショップはゲティ保存研究所のプロジェクト“Conserving Canvas Initiative”の枠組みで開催されたもので、国立アトリサーチセンターを通じて公募された。令和7年度以降、お披露目の展示を行うとともに、今回得られた専門的知見を修復業界で広く共有する機会を設けたい。ジャン（ハンス）・アルプ《地中海群像》（1941/65）は大理石による彫刻作品で、経年により表面に染み込んだような汚れが生じていた。寒天を主成分とするジェル状のパックを用いて薬剤を浸透させる方法により、大理石本来の美観を復元できたことで、所蔵する明治、大正時代の他の大理石作品の処置についても見通しが得られた。その他、油彩、水彩、版画を中心に、令和6年度も各ジャンルについて着実に所蔵作品の保存修復とその公開に努めることができた。

（国立工芸館）

陶磁器作品を中心に修復を行った。そのうち、河井寛次郎《辰砂扁壺》、八木一夫《漂流》は平成30年度東京国立近代美術館工芸館巡回展会期中の北海道地方の地震によって微少な損傷を受けた作品であったが、この度の修復により展示可能な状態となった。作品本来の質感を損なうことなく、かつ鑑賞に全くの妨げのない状態に修復された。いずれも工芸館を代表する作品であり、今後の所蔵作品展や作品貸し出しにて活用していきたい。

また、ハンス・コパー《砂時計型花瓶》は口縁部にわずかにカケがあったため、令和7年度のルーシー・リー展での出品に向け、カケた箇所を補填を行った。これにより、工芸館での展示はもちろん、巡回展での出品も可能となった。

ウ 京都国立近代美術館

黒崎彰の版画作品 76 点のマット装を行ない、8 月 1 日からポーランドの日本美術・技術博物館（Manggha）で開催された「AKIRA KUROSAKI: In Search of Form and Color」展へ安全に貸し出すことが可能となった。中村康平《記憶回路 A－I・II》の破損したパーツを修理して作品に接着して原状を回復、また、使用され、汚れや破損のある状態で収蔵したままとなっていた小合友之助の着物類 4 点を繕い・修復、それぞれ展示できる状態とした。その他に、特別修復予算を利用して、不動茂弥と山崎隆の日本画作品を修理した。いずれもご遺族からの寄贈作品であったが、戦前から戦後にかけて、日本画の概念を拡張すべく、素材的に無理をしているため、通常の日本画よりも傷みが多く、このまま放置していると、作品自体が崩壊する可能性もあったため、収蔵後すぐに手当が出来て安堵した。戦前から戦後の前衛的な日本画を検証する展覧会が増えてきつつあるなかで、安心して貸し出せるようになったので、他の美術館にとっても意味のある修復である。

エ 国立西洋美術館

絵画作品 36 点（額縁だけの保存修復も含む）、版画・素描などの紙作品合わせて 64 点、彫刻 3 点、工芸 11 点などの保存修復作業を行った。

年度当初の作業計画に入れていた既存収蔵作品の保存修復を遂行するだけでなく、ルイ＝レオポルド・ボワイエ《トロンプ・ルイユ：クリストフ・フィリップ・オベルカンフの肖像》（P. 2024-0001）、ラヴィニア・フォンターナ《アントニエッタ・ゴンザレス》（P. 2024-0004）、フェーデ・ガリツィア《ホロフェルネスの首を持つユディット》（P. 2024-0005）など、令和5年度後半または令和6年度内に入手した絵画作品の保存修復作業を保存修復室所属の職員が行って、いち早く所蔵作品展に出すことで、新規収蔵作品をタイムリーに来館者に鑑賞してもらえる機会を供与できた。

版画・素描などの紙作品も、既存のジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ《ローマの景観》61 点をコレクターが冊子状にまとめていたシリーズを3年間かけて解体・修復を行う3年目にあたり、61 点全点の保存修復・マット装が終了した。これまで冊子状の時は1回の展示につき1作品しか展示できなかったが、複数点数の作品が同時に展示に出せる状態となった。

オ 国立国際美術館

関西の前衛グループ「具体美術協会」での活躍や、その後の渡米時期の活動が高く評価される作家の作品であるヨシダミノル《The Orange Tent》（1966 年）について、絵具層の固着強化、クリーニング、補彩、ワニス塗布を行った。本作品は長く個人宅で保管されていたため、カビ痕や汚れが多数付着して鑑賞の妨げとなっていたが、今回の処置により、本来の鮮やかな色彩や光沢を取り戻すことができた。

作品を構成する要素として、作品映像を投影するための映写機が含まれる映像作品であるシブリアンガイヤール《Artefacts》（2011 年）について、映写機の音響機材の状態調査とメンテナンス、展示用フィルムの状態調査を行った。映写技師による機材メンテナンスが必要なため展示が困難であり、平成25年に特別展に出品して以来展示の機会がなかったが、今回のメンテナンスにより、令和7年度開催予定の当館特別展に出品が可能となった。

(4) 所蔵作品の貸与

第5期（令和3年度～令和7年度）中期目標に定める指標	
指標	・所蔵作品の貸与に係る取組状況。（所蔵作品の貸与件数）
関連指標	・所蔵作品の活用割合（展示、貸与及び特別観覧の合計の所蔵品と寄託品の合計に占める割合） ・国立美術館所蔵作品の国内外美術館への長期貸与契約件数

所蔵作品について、各館においてその保存状況や展示計画を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に実施した。

・所蔵作品の貸与に係る取組状況／国内美術館所蔵作品の国内外美術館への長期貸与契約件数

館名	貸出		貸出のうち長期貸与（※）		特別観覧	
	件数	点数	件数	点数	件数	点数
東京国立近代美術館（本館）	69	382	15	96	206	378
国立工芸館	17	114	2	8	23	66
京都国立近代美術館	57	888	14	107	80	148
国立西洋美術館	16	214	3	7	100	174
国立国際美術館	20	96	1	2	29	116
合計	179	1,694	35	220	438	882

※ 「長期貸与」とは、国内外を問わず貸出期間が半年以上のものである。

・所蔵作品の活用割合（展示、貸与及び特別観覧の合計の所蔵品と寄託品の合計に占める割合）

館名	所蔵作品の活用割合
東京国立近代美術館（本館）	12.4%
国立工芸館	11.6%
京都国立近代美術館	11.2%
国立西洋美術館	21.7%
国立国際美術館	7.7%

特記事項

ア 東京国立近代美術館（本館）

「横山大観展」（福井県立美術館）、「生誕150年記念 菱田春草展」（福井県立美術館）、「没後100年 中村彝展」（茨城県近代美術館）、「生誕150年記念 上村松園」（大阪中之島美術館）など、回顧展に必須となる代表作を多く貸与し、その顕彰に寄与した。また「瑛九」（横須賀美術館）へ18点、「パウル・クレー展」（愛知県美術館ほか）へ16点、「ジアート・オブ・ザ・リアル」（鳥取県立美術館）へ22点など大規模な出品協力を行った。「没後100年 富岡鉄斎」（京都国立近代美術館ほか）、「荒川ナッシュ医」（国立新美術館）などへ出品し、独立行政法人国立美術館内での相互活用において成果を挙げた。海外へは、「Sanyu and French」（国立歴史博物館（台湾））、「Yayoi Kusama」（National Gallery of Victoria（オーストラリア））、「The Atomic Age」（Musée d'Art Moderne de Paris（フランス））などに作品貸与し、当館コレクションの充実ぶりを国際的に発信できた。

（国立工芸館）

岐阜県現代陶芸美術館で開催された「生誕130年 荒川豊蔵展」展に特別協力として初期から晩年までの荒川豊蔵の代表作18点を貸与した。また、京都国立近代美術館と豊田市美術館で開催された「生誕120年 人間国宝 黒田辰秋一木と漆と螺鈿の旅」に黒田辰秋の作品12点、国立新美術館と兵庫県立美術館で開催される「リビング・モダニティ 住まいの実験」に工業デザ

イン作品 10 点を貸与し、それぞれ展示内容の充実に寄与した。さらに、東京国立近代美術館「MOMAT コレクション展」の一部で継続している工芸・デザイン作品の展示では、「アール・デコの精華」と題したテーマ展示の開催にあたり、寄託品を含むルネ・ラリックのガラスと同時代の国内の工芸家による金工作品など計 20 点を貸与し、東京都内において国立工芸館のコレクションを紹介する機会として有意義なものであった。

イ 京都国立近代美術館

国内で開催された展覧会に大きく寄与した例として、松柏美術館の「上村三代の恩師たち」に竹内栖鳳《蕭条》(1904 年頃)など 16 点、大分県立美術館「LINKS -大分と、世界と。」に土田麦僊《巴里の女》(1923 年)など 20 点、パナソニック汐留美術館の「ウィーン・スタイルービーダーマイヤーと世紀末 ライフスタイルとしてのデザイン」にオットー・ヴァーグナー《『ニーダーエステライヒ州立精神施療院附属教会(シュタインホーフ教会)建設完成解説書』》(1907 年)など 18 点を貸与した。

また、京都国立近代美術館が開催した「没後 100 年 富岡鉄斎」の巡回館(富山県水墨美術館、碧南市藤井達吉現代美術館)に富岡鉄斎《富士遠望図・寒霞溪図》(1905 年)など 16 点、同じく「LOVE ファッションー私を着がえるとき」の巡回館(熊本市現代美術館、東京オペラシティ・アートギャラリー)に笠原恵実子《Untitled Slit#1》(1995 年)など 11 点、同じく「生誕 120 年 人間国宝 黒田辰秋ー木と漆と螺鈿の旅ー」の巡回館(豊田市美術館)に黒田辰秋《朱蒔粉塗鹿花文文庫》(1925 年)など 22 点を貸与した。

ウ 国立西洋美術館

国立西洋美術館での開催後に札幌芸術の森美術館に巡回した「内藤コレクション 西洋の写本」(写本 139 点)、郡山市立美術館「奇想の版画 1500-1650」(版画 18 点)、三重県総合博物館「パール」(工芸 18 点)など多くの貸出要請に応えたほか、国立アトリサーチセンター「コレクション・プラス」事業で栃木県立美術館に油彩 2 点を貸与、国立工芸館に工芸・素描計 3 点を長期貸与するなど、法人内連携も通じて積極的に所蔵品を活用し、地方での鑑賞機会の充実に貢献した。また、学術的に評価の高いゴーガン展(豪・キャンベラ、米・ヒューストン)、ゴッホ展(英・ロンドン)への貸出を通じて、国立西洋美術館のコレクションの質の高さを国内外へアピールし、海外主要館とのネットワーク強化にもつなげた。これらの作品貸出情報は国立西洋美術館 SNS でもバイリンガルで発信し、積極的な貸出をアピールしつつ、貸与先での鑑賞を促した。

なお、一部の貸出には国立アトリサーチセンター協力のもと開発したリニューザブル・クレートを活用したり、クーリエ数の削減に協力したりするなど、世界の美術館界の潮流をふまえ、サステナビリティを意識した作品貸与に努めている。

エ 国立国際美術館

韓国国立現代美術館で開催された「Connecting Bodies: Asian Women Artists」展へ、田中敦子《地獄門》(1965-69 年)他、絵画や写真など計 5 点を貸与した。アジアの女性作家による現代美術が一堂に会する国際的な展覧会で、日本の戦後美術において重要な位置を占める女性作家の代表作を紹介することができた。

また、大阪中之島美術館、埼玉県立近代美術館で開催された「没後 30 年 木下佳通代」展に、木下佳通代《LA '92-CA700》(1992 年)他、木下作品計 8 点を貸与した。本展は関西を拠点に活躍した作家の国内初の大規模個展であり、主要作品の出品によって作家の再評価に貢献することができた。

3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

(1) 国内外の美術館等との連携・協力等

第5期（令和3年度～令和7年度）中期目標に定める指標	
指標	・国立美術館巡回展の満足度調査を実施し、「良い」以上の回答率を8割程度とする。 ・国立映画アーカイブの優秀映画鑑賞推進事業の満足度調査を実施し、「良い」以上の回答率を8割程度とする。 ・国内外美術関係者向けワークショップへの国外からの参加者数は、30名程度とする。
関連指標	・国立美術館巡回展の事業数及び会場数 ・国立映画アーカイブの優秀映画鑑賞推進事業の実施回数 ・国立美術館巡回展の入館者数 ・国立映画アーカイブの優秀映画鑑賞推進事業の入館者数 ・国内外の美術館関係者との研究会の開催や研究者との交流等に係る取組状況。 （所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催回数、国内外の研究者の招へい等に基づくセミナー・シンポジウムの開催回数。）

※ 指標1、2点目及び関連指標1～4点目については別表5、関連指標5点目については別表15、16を参照。

各館において国内外の研究者を招へいし、展覧会の開催等に合わせ各種講演会・セミナー・シンポジウムを開催し、展覧会等の紹介や企画に関連し、海外の美術館との連携・協力を図った。また、国立アートリサーチセンターでは、国内の美術館関係者と海外の美術館関係者をつなぐハブとして、国内の国公立美術館関係者等を海外に派遣する事業や、海外の美術関係者を招聘する事業を新たに開始した。

また、全国的美術館等の運営に対する援助、助言を適時行うとともに、地方巡回展の開催、企画展の共同主催やそれに伴う共同研究等を通じて、関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に取り組んだ。

① 国内外の研究者の招へいによるシンポジウムの開催等

国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築を図るため、セミナー・シンポジウムを以下のとおり開催した。

館名	所蔵作品等に関する セミナー・シンポジウムの開催回数	国内外の研究者の招へい等に基づく セミナー・シンポジウムの開催回数
国立アートリサーチセンター	-	15
東京国立近代美術館（本館）	3	3
国立工芸館	2	9
京都国立近代美術館	0	13
国立映画アーカイブ	0	4
国立西洋美術館	5	9
国立国際美術館	2	5
国立新美術館	-	6
合計	12	64

※詳細については別表15、16を参照。国立アートリサーチセンターの取組については④で詳述。

② 我が国の作家、美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力

ア 国立アートリサーチセンター

グローバルに活躍できるクリエイター等の育成支援を推進するために文化庁の補助金によって設置された文化芸術活動基盤強化基金による「JUMP アーティスト+キュレーター国際協働プログ

ラム」(令和6～8年度)を独立行政法人日本芸術文化振興会から受託し、実施している。初年度は、米ロサンゼルス現代美術館、豪シドニーのニューサウスウェールズ州立美術館、ポルトガル・リスボンのCAM-グルベンキアン・モダンアートセンターの海外協力先3館と、高知県立美術館、滋賀県立美術館、山口情報芸術センターの国内3館のキュレーターとがそれぞれペアを組み、リサーチとディスカッションを重ね、育成対象とする日本の若手アーティストの選出に臨んだ。メンター(各館の館長やディレクターおよび国立アートリサーチセンター長)が若手キュレーターやアーティストの作品制作から発表までを伴走支援するという枠組みを設け、国立アートリサーチセンターが一連のプロセスを推進した。

イ 京都国立近代美術館

共同研究「上方文化サロン：人的ネットワークから解き明かす文化創造空間 1780-1880」の成果として、大英博物館の日本ギャラリーにて「City life and salon culture in Kyoto and Osaka, 1770-1900」を開催した。また、展覧会図録として発行した『Salon culture in Japan: making art, 1750-1900』の執筆にも協力した。

ウ 国立映画アーカイブ

- ・イェール大学東アジア研究センター(米国)との共催上映を、フィルムセンターの時代にFIAF会員のイェール・フィルム・アーカイブと連携しながら、平成24年2月の時代劇特集、平成27年1月の犯罪映画特集と開催してきた。令和6年2月から4月にかけて開催した「Comic Legacies on the Japanese Silver Screen(日本映画における喜劇の遺産)」は、国立映画アーカイブとして初めての同センターとの共催上映であり、海外では鑑賞機会の少ない日本喜劇映画を、1920年代から2000年代まで歴史的に回顧する試みである。最終日には、『かもめ食堂』(2006年、荻上直子監督)と『進め!ジャガーズ 敵前上陸』(1968年、前田陽一監督)の上映とともに、荻上監督とのQ&Aや、イェール大教員、国立映画アーカイブ主任研究員(富田美香)らの報告とパネルディスカッションなど、日本映画史への理解を深める企画をおこなった。
- ・シネマテーク・フランセーズ(フランス)との共催で特集上映「Kenji Misumi(三隅研次監督特集)」を開催した。会期は4月18日から5月26日までの予定であったが、好評ゆえに5月29日から6月10日までの追加上映を行い、全58回の上映で合計1万超の入場者を記録する結果となった。本特集は、平成27年度に当館で開催した大回顧展「映画監督 三隅研次」を土台に、上映した映画51本とテレビドラマ「必殺」シリーズ19本から、テレビ作品を除くなど若干の変更を加えた52作品で構成。毎回満席に近く、終映時にほぼ毎回拍手が起こるほどの好評を博し、国立映画アーカイブから提供した34本の35mmプリントの美しさにも賛辞や感謝の声が多く寄せられた。
- ・ニューヨークの映像美術館(MoMI)とジャパン・ソサエティ、および国際交流基金ニューヨーク事務所との共催企画で、FIAF加盟機関のカリフォルニア大学バークレー美術館・パシフィックフィルムアーカイブも含む3会場で清水宏監督の特集上映を開催した。『按摩と女』(1938年)などの有名作や、日本国外初上映となる『明日は日本晴れ』(1948年)など全27作品(NFAJ所蔵作品は20作品)を上映するアメリカ最大規模の清水宏特集として好評を博し、とくに5月16日のジャパン・ソサエティでの『蜂の巣の子供たち』(1948年)は定員260席の会場が満席となった。また、国立映画アーカイブ主任研究員(大澤浄)が上映前にイントロダクションを計4回行うなど、清水宏の国際的な評価をさらに高めることができた。

エ 国立国際美術館

- ・韓国国立現代美術館で開催されたアジアの女性作家をテーマにしたグループ展「Connecting Bodies: Asian Women Artists」(会期:令和6年9月3日～令和7年3月3日)に協力し、作品の貸与を実施するとともに、当館の橋本梓(主任研究員)が発行図録に論考を執筆した。

- ・韓国国立現代美術館で開催された映像上映プログラム「Asian Film and Video Art Forum 2024」（令和6年9月4日～9月6日）の開催に馬定延（客員研究員）が協力し、所蔵作家の田中功起の映像作品紹介、作家対談に参加した。

③ 全国の美術館等との人的ネットワークの形成等

ア 地方巡回展の開催（再掲）

地方巡回展及び巡回上映等は、別表5のとおり実施した。

イ 企画展・上映会等の共同主催と共同研究

館名	共同主催件数	機関数	共同研究件数	機関数
東京国立近代美術館（本館）	1	1	2	3
国立工芸館	1	1	1	4
京都国立近代美術館	6	6	7	12
国立映画アーカイブ	14	127	14	125
国立西洋美術館	3	5	3	5
国立国際美術館	-	-	1	3
国立新美術館	3	4	3	4
合計	28	144	31	156

ウ 国内外の美術館等との保存・修復に関する連携・協力等

（ア）京都国立近代美術館

- ・国立アートリサーチセンター主催による、写真作品の修復・保存に関する講演会「アナログ写真の発展と文化遺産としての写真の保存」に会場を提供した。講演者であるゲノラ・フュリック氏と白岩洋子氏に京都国立近代美術館所蔵の写真作品を見ていただき、担当学芸員と意見交換をした。

（イ）国立映画アーカイブ

- ・アイルランド映画協会（国際フィルムアーカイブ連盟加盟機関）から、同会所蔵日本映画フィルム1本の永久貸与を受けた。

（ウ）国立西洋美術館

- ・令和5年度に実施した国立工芸館所蔵のポスター作品を対象とした科学調査（国立アートリサーチセンター作品活用グループが中心になって実施している国立美術館所蔵作品の科学調査によるもの）の結果について、文化財保存修復学会で発表。また、国立近代美術館紀要にて成果を公表した。
- ・保存修復室室長と保存科学室室長がデンマーク国立美術館を訪問し、保存修復室や保存科学室を見学するとともに、ハンマースホイ《ピアノを弾く妻イーダのいる室内》（国立西洋美術館所蔵）の保存や修復についてアドバイスを受けた。
- ・保存修復室室長と保存科学室室長がオランダ・アムステルダム国立美術館を訪問し、同美術館に貸し出しをした際に行われたフェルメール《聖プラクセディス》（寄託作品）の科学調査の報告を受けた。
- ・国立アートリサーチセンターが毎年開催している保存修復ワークショップについて、令和7年度のテーマの提案、講師の紹介、内容の方向性決定、資機材などの準備を行った。午前中の講義は東京文化財研究所にて行い、午後のワークショップを令和7年10月下旬に当館彫刻修復室で行う予定である。

(エ) 国立国際美術館

- ・奈良文化財研究所埋蔵文化財センター保存修復科学研究室、国立アトリサーチセンターと共同で、ジャスパー・ジョーンズ《パン》（1969年）、河口龍夫《関係-種子・鉛の畑》（1989年）の劣化に関する科学分析調査を行った。
- ・現代美術の保存修復に関する共同研究として東京藝術大学と連携し、公益財団法人福武財団における所蔵品管理・保存修復体制の調査を行った。

④ 国立アトリサーチセンターによる連携・協力

- ・国内外美術関係者向けワークショップへの国外からの参加者数（人）

参加者数	第5期参加者数累計	目標（第5期）
7	41	30

（内訳）

	ワークショップタイトル	開催日	参加者数	うち海外からの参加者
1	NCAR トーク 001：木戸龍介さん、島袋道浩さんとタイラ ンド・ビエンナーレ チェンライ 2023 を語る	令和6年8月3日	31	0
2	法人向けアーティスト・ワークショップ＜1＞ 流 麻二 果『日本の色』	令和6年8月28日	23	0
3	NCAR シンポジウム 003 美術館のアクセシビリティー 共生社会に向けて、対話の ある“合理的配慮”とは？	令和6年9月23日	172	0
4	NCAR レクチャー 002 アナログ写真の発展と文化遺産としての写真の保存	令和6年10月26日	55	1
5	文化財保存修復に関するワークショップー写真の識別と 保存についてー	令和6年10月29日～ 31日	36	1
6	MUSEUM TRIP 写真の中を旅しよう！	令和6年11月16日	20	0
7	NCAR トーク 002：オーストラリアにおけるアートシー ンのいま：ニュー・サウス・ウェールズ州立美術館のコレ クションを中心に	令和6年11月22日	28	1
8	MUSEUM TRIP 写真の中を旅しよう！	令和6年11月23日	20	0
9	こどもタッチ&トーク☆しまじろうがみた・さわったア レやコレ	令和6年11月24日	65	0
10	法人向けアーティスト・ワークショップ＜2＞ SPREAD 『Life Type』	令和6年12月11日	6	0
11	NCAR トーク 003：アルル国際写真フェスティバル～ア ーティスト&キュレーター・トーク	令和7年1月17日	31	0
12	NCAR シンポジウム 004・第7回多摩美術大学アートアー カイヴシンポジウム「マルセル・デュシャン《大ガラス》 レプリカをめぐる一ストックホルム、ロンドン、東京、 パリ」	令和7年3月1日	150	3
13	NCAR シンポジウム 005 「美術館の持続可能な運営モデルとは？～寄附・寄贈の 可能性」	令和7年3月7日	222	0
14	企業・団体向けプログラム プレ体験（トライアル）	令和7年3月17日	13	0
15	NCAR トーク 004：ボンピドゥー・センター デザイン・産 業部キュレーター、オリヴィエ・ゼトゥン氏を迎えて	令和7年3月26日	71	1

※ 参加者数は海外からの招へい者数と聴講者数の合計。海外からの参加者数はそのうち招へい者数。

国立アートリサーチセンターにおいて、以下のとおり取り組んだ。

(センター長室)

- ・美術館を取り巻く近年の重要課題である「アクセシビリティの向上」「持続可能な運営」をテーマとして取り上げ、NCAR シンポジウム 003「美術館のアクセシビリティ―共生社会に向けて、対話のある“合理的配慮”とは？」、NCAR シンポジウム 005「美術館の持続可能な運営モデルとは？～寄附・寄贈の可能性」の2つのシンポジウムを開催し、美術界以外の関係者（福祉関係者、企業関係者等）も交えて、具体的な事例の紹介や意見交換を行った。

(作品活用促進グループ)

- ・国立美術館コレクションを活用した新しい事業「国立美術館 コレクション・プラス」をスタートさせ、栃木県立美術館において、同館所蔵の刑部人の作品に加えて、国立西洋美術館が所蔵するギュスターヴ・クールベの作品2点を展示した。
- ・東京文化財研究所との共催で、美術館・博物館・図書館等の担当職員や保存修復専門家を対象に、「文化財保存修復に関するワークショップ―写真の識別と保存について―」を開催した。海外から講師を招へいし、講義と実技により、写真の予防的保存に関する知見を深めることができた。また一般への教育普及として、講演会「アナログ写真の発展と文化遺産としての写真の保存」を京都国立近代美術館にて開催し、記録動画をウェブサイト上に公開している。ウェブサイトにはその他、令和5年度ワークショップの報告書、令和5年度の作品科学調査の報告、国内修復家の海外修復研修の成果報告などの記事を掲載し、保存修復に関する幅広い情報発信を行った。

(情報資源グループ)

- ・リサーチポータル「アートプラットフォームジャパン」内の全国美術館収蔵品サーチ「SHŪZŌ」において、全国の美術館の協力のもと、レコードの追加登録を行い、ナショナルセンターとして、国内美術館コレクションの可視化を図った。
- ・「日本アーティスト事典」では、一部の作家レコードについて、美術館学芸員等、外部研究者の協力を得ながら、詳細な解説文とレファレンス情報の追加・公開を行った。

(ラーニンググループ)

- ・あらゆる人が美術館にアクセスできる機会を充実させるため、ミュージアムにおけるアクセシビリティについて学ぶeラーニング講座「ミュージアム・アクセシビリティ講座 ふかふかTV」を配信した。全国の幅広い分野から1,500名が受講者として登録し、全7回の配信講座を視聴して課題を提出した681名には修了証を発行した。教材として令和5年度に刊行した『ミュージアムの事例（ケース）から知る！学ぶ！合理的配慮のハンドブック』を活用、滋賀県立美術館・金沢21世紀美術館・東京都庭園美術館・東京都美術館の事例をもとに、合理的配慮と情報保障について基礎的な知識が身につく講座とした。
- ・超高齢社会における孤独孤立や認知症といった社会的課題に対応する「共生社会をつくるアートコミュニケーション共創事業」（JST COI-NEXT 事業）に参画し、研究機関・企業・自治体等と連携して研究を推進した。11月には東京藝術大学・川崎市民ミュージアムと連携して「写真の中のかわさき」展で認知症フレンドリーのワークショップを開催した。2月に東京で開催した文部科学省主催のプレ万博事業に「Hello Future! 100年ミュージアム」を出展し、文化的処方への提案を行った。
- ・東京藝術大学と共同でウェブサイト「ああとも TODAY」を運営し、文化的処方に関する記事14本を掲載した。ガイドブック『文化的処方のはじめの一步』を刊行した。
- ・国立美術館各館と協力のうえ、全国の学校教員、教育委員会関係者及び学芸員を対象とした「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」を開催し、報告書をウェブサイトに掲載した。

(国際発信・連携グループ)

- ・文献翻訳事業の成果発表の場として、アメリカ・カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校およびイギリス・オックスフォード大学において、日本の現代美術の文献を主題としたシンポジウム開催をサポートしたほか、国際グループの事業に関わるアーティストや研究者、キュレーターが登壇するNCAR トークを年4回開催し、事業内容を広く一般に知らしめる機会を新たに創設した。
- ・令和5年度に開始した多摩美術大学アートアーカイヴセンターとの共同研究（東京大学駒場博物館とも連携）において、マルセル・デュシャンの《大ガラス》のレプリカを所蔵する3つの美術館関係者らを招聘する国際シンポジウムを開催し、作品保存やレプリカの位置づけ及び活用に関する知見を共有する貴重な機会を創出した。
- ・日本のアーティストの国際的な発信を強化し、海外における日本美術の価値向上を図るため、主要な国際展に出品するアーティストを支援する事業も2年目を迎え、令和6年度はアルル国際写真フェスティバルを皮切りに6つの国際展に出展した延べ28人のアーティストに対し、出展に係る費用の一部を支援した。
- ・日本の美術関係者と海外の主要な美術館との人的ネットワークを構築することを目的に開始したナショナルミュージアム・ネットワーキング事業では、国立美術館の研究員をはじめ、公立美術館、研究者、インディペンデント・キュレーターを含む日本の美術専門家を台湾に9名、オーストラリアに10名派遣し、現地の美術館を視察するとともに、現地の専門家とのネットワーク構築を図った。
- ・日豪学芸員交流事業では、シドニーのニューサウスウェールズ州立美術館よりシニア・キュレーターを2週間にわたって招聘し、日本近代美術におけるキュビズムの受容に関する研究をサポートした。
- ・新規事業として開始した国立美術館×ポンピドゥーセンター交流事業では、国立西洋美術館の研究員を1か月間パリに派遣するにあたり、諸調整および窓口業務を担当した。また、パリから日本に1か月間キュレーターを招聘した際には、研究活動へのアテンドや通訳を務め、事業の円滑な推進に努めた。

(社会連携促進グループ)

- ・企業・団体と美術館の接点の多様化、関心の裾野拡張を目的として、国立美術館の各館と連携した「企業・団体向け アートプログラム」＜参加型・協働型＞を開発・実施した。
- ・「企業・団体向け アートプログラム」＜参加型＞の第1弾として、国立新美術館と「法人向けアーティスト・ワークショップ」を2種類開発し、企業に向けて有料で提供した。本プログラムでは、ビジネスパーソンがアーティストの創造的表現と思考に触れ、表現活動を体験することを通じて多様な価値観や新しいものの見方を知り豊かで柔軟な思考を育むことを目指すと同時に、アーティストに対しても有料プログラムであること・企業との接点の創出、という2点により広義の活動支援と位置付けた。
- ・「企業・団体向けアートプログラム」＜参加型＞の第2弾として、国立工芸館と「企業・団体向けプログラム」を開発し、令和7年度からの運用開始を目指してプレ体験（トライアル）を実施した。日本の工芸・デザインの魅力をレクチャー形式でビジネスパーソンに伝えるとともに、国内他地域・海外からのビジネスユースに応える内容とすることで、観光都市金沢に立地する国立美術館として文化観光振興に資する。
- ・「企業・団体向け アートプログラム」＜協働型＞として、企業と美術館がそれぞれのリソースを活用し、協働でアートプログラムを組成・提供する枠組みを整えた。（株）ベネッセコーポレーションの協力のもと、国立工芸館において「こどもタッチ&トーク☆しまじろうがみた・さわったアレやコレ」を実施した。

(デジタルクリエイティブ担当)

- デジタル技術による国立美術館各館への連携事業として、東京国立近代美術館所蔵作品展 MOMAT コレクションにおけるコンテンツ支援「スクリーン投影型 3D インタラクティブコンテンツ（展示名称：再現 VR）」（3 スクリーン分）の設計・製作・実装を行った。
- デジタル技術による国立美術館各館への連携事業として、国立西洋美術館と国立美術館ファンドレイジングが企画したクラウドファンディングサイト「みんなの 3D ロダン図鑑」におけるコンテンツ支援「4K 動画コンテンツ（インタビュー形式／6 作品）」の撮影・構成・製作を行った。

(2) ナショナルセンターとしての人材育成

第5期（令和3年度～令和7年度）中期目標に定める指標	
指標	・指導者研修参加者に対する満足度調査を実施し、「良い」以上の回答率を前中期目標期間と同程度の水準を維持するものとする。
関連指標	・指導者研修実施回数 ・今後の美術館活動を担う中核的な人材や映画保存のニーズに対応した人材の育成に係る取組状況（インターンシップ受入人数、キュレーター研修受入人数）

① 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動

ア 教育普及活動の充実に資する教材やプログラムの開発・実施・普及、実践者の育成・研修

(ア) 国立アトリサーチセンター

- ・あらゆる人が美術館にアクセスできる機会を充実させるため、ミュージアムにおけるアクセシビリティについて学ぶ e ラーニング講座「ミュージアム・アクセシビリティ講座 ふかふかTV」を開設した。美術館関係者だけでなく幅広い分野から1,500名が登録し、全7回の配信講座を視聴して課題を提出した681名には修了証を発行した。令和5年度に刊行した『ミュージアムの事例（ケース）から知る！学ぶ！合理的配慮のハンドブック』を教材として活用し、国内4つの公立美術館における事例をもとに、合理的配慮と情報保障について基礎的な知識が身につく講座とした。
- ・主に発達障害のある人とその関係者を対象とした社会学習ツール「Social Story（ソーシャルストーリー）」について、国立美術館版を制作したノウハウをもとに、国内3つの公立美術館のソーシャルストーリー制作に協力した。
- ・「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」を、ラーニンググループが取りまとめて実施し、報告書をウェブサイトに掲載した。

(イ) 東京国立近代美術館

(本館)

「先生のための鑑賞日」を実施し、計529名が観覧した。

(国立工芸館)

石川県教員総合研修センターとの共同開催で、県内の教員研修を実施した。参加者はいずれも美術教育への関心が深い教員ばかりであったが、工芸鑑賞の指導の経験は少なく、修了アンケートでも有意であったことが報告されている。1回23名が参加、2名が視察。

(ウ) 京都国立近代美術館

- ・令和6年度に実施した指導者向けの研修等は、下記2件を含む計5件を実施し、173名の参加があった。
- ・8月5日（月）に、京都市教育委員会、京都市立中学校教育美術部会、京都市図画工作 教育研究会との共催で、京都市内の小中学校教員を対象に、鑑賞教育の充実を目指した研修会「令和6年度 図画工作科・美術科夏季連携講座」を休館日に実施し、56名の参加があった。
- ・1月31日（金）に、京都府教育委員会との共催で、京都府内の小中学校教員を対象に、対話による作品鑑賞や美術館と連携したカリキュラムマネジメントを学ぶための研修会を実施し、31名の参加があった。

(エ) 国立西洋美術館

- ・企画展会期ごとに設定している「先生のための観覧日」は内容を改定し、金曜・土曜の夜間に申込者が無料観覧できることとして実施した。
- ・教員向け研修では全7団体からの申込みにより実施。教育普及室および国立アトリサーチセンターが開発するツールの普及だけでなく、所蔵作品展の楽しみについて再考する内容とした。

小中高校および特別支援学校と幅広く対応している。特に小中においては図工美術に限らない教員の参加があった。

- ・国立科学博物館が主催する「教員のための博物館の日」に参画し、申込者に所蔵作品展を無料開放するほか、主催館内で設置される情報コーナーにて展覧会資料を配布・ツールの展示などを行った。
- ・明晴学園（聴覚特別支援学校）に向けて教員研修を行い、スクール・ギャラリートークの目的を共有した。

（オ）国立国際美術館

大阪府教育センター（大阪府の小・中学校、一部府立高等学校、府立支援学校の図工・美術担当教員対象）、大阪市教育センター（大阪市の中学校美術科教員対象）、大阪府公立小・中学校美術教育研究会（大阪府の小・中学校教員対象）と連携し、それぞれ、終日及び半日の内容で、今後の美術館と学校が連携した鑑賞活動をより一層推進させることを目的に実施した。また、「先生のための鑑賞プログラム」を各展覧会で開催し、教員が具体的に相談できる場を持つなど、美術館活用につなげる機会を用意した。

（カ）国立新美術館

- ・板橋区立図画工作部会に所属する教員向けにガイダンスを実施（7月10日開催、22名参加）
- ・港区立小中学校初任研修の一環としてガイダンスを実施（7月24日開催、46名参加）

イ 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施等

国立美術館は、美術教育の一翼を担うナショナルセンターとして「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」を実施している。同研修は、学校や美術館で鑑賞教育に携わる教員、学芸員に対して実践的な研修を行うもので、修了者が研修の成果を各地域の学校等、現場で実践することで、鑑賞教育の充実を図っている。各地域の学校と美術館との連携強化を図るとともに、全国の児童生徒に対する鑑賞教育の充実に貢献している。

19年目となる「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」は東京で開催し、コロナ禍以前の規模と同程度の98名が修了した。グループワークでは小学校、中学校、高校のグループに加え、引き続き特別支援教育をテーマにしたグループを作り、障害の種類、度合いが様々な児童・生徒に対してどのような鑑賞や授業ができるのか、参加者同士で議論を深めた。

また、本研修の記録まとめた報告書をリニューアルし、ウェブサイトで公開した。

- ・会期：令和6年7月29日～7月30日（2日間）
- ・修了者数：98名（小学校教諭21名、中学校教諭16名、高等学校教諭16名、中高一貫校2名、特別支援学校教諭等8名、指導主事13名、学芸員22名）
- ・参加者の満足度：99.0%（目標：98.8%）

② 今後の美術館活動を担う中核的人材の育成

国立美術館においては、美術館活動を担う中核的な人材を育成するため、選考方法、カリキュラムの内容、実際の指導等の検討を行い、大学院生等を対象としたインターンシップや美術館員（学芸員）の研修としてキュレーター研修を行った。

ア インターンシップ等の実施

館名	キュレーター研修 受入人数	インターンシップ 受入人数	博物館実習 受入人数
東京国立近代美術館（本館）	3	5	－
国立工芸館	1	0	－
京都国立近代美術館	3	6	－
国立映画アーカイブ	－	2	12

国立西洋美術館	2	3	-
国立国際美術館	2	6	-
国立新美術館	1	6	-
合計	12	28	12

特記事項

(ア) 東京国立近代美術館

(本館)

<キュレーター研修>

3名を受け入れ、以下のとおり実施した。

- ・令和6年5月13日から9月27日まで（うち10日間）、三菱一号館美術館の学芸員1名を受け入れ、所蔵作品の及び企画展作品の点検、展示室・収蔵庫における作品管理、展示に関する作業等の研修を行った。
- ・令和6年5月13日から令和7年2月7日まで（うち11日間）、茨城県近代美術館の学芸員1名を受け入れ、所蔵作品展及びの展示に関する作業、企画展の記者内覧会の見学、各研究員との意見交換等の研修を行った。
- ・令和7年1月14日から17日、2月17日から21日まで（9日間）、愛知県美術館の学芸員1名を受け入れ各、各分野における作業の見学や、各担当研究員との意見交換を行った。

<インターンシップ>

「学芸／コレクション」近現代美術2名、写真1名「学芸／企画展」1名、「美術館教育」1名を受け入れ、以下のとおり実施した。なお、実地研修とオンライン研修を織り交ぜながらインターン活動を行い、各分野の研究員が全分野のインターンに対し各々の業務等をオンラインでレクチャーする機会も設けた。インターンのうち2名は美術館に就職し、人材育成につながった。

- ・「学芸／コレクション」近現代美術分野のインターンは所蔵作品展展示替えの補助や修復作業、作品撮影の見学、作品の貸出・返却等の補助を行った。
- ・「学芸／コレクション」写真分野のインターンは貸出作品のコンディションチェック、額装作業、作品カード作業等の補助を行った。
- ・「学芸／企画展」分野のインターンは企画展の関連資料データ入力・スキャン・校正作業の補助、イベント補助を行った。
- ・「美術館教育」分野のインターンは来館者向けプログラム、ガイドスタッフ（ボランティア）養成等の教育普及に係る事業の補助を行った。

(国立工芸館)

<キュレーター研修>

1名を受け入れ、以下のとおり実施した。

- ・茅ヶ崎市美術館から1名を受け入れ、前後期のべ10日間の研修をした。主な内容は下記のとおり：工芸作品の点検、取り扱い、展示、ライティングおよびアートライブラリでの資料調査。

<インターンシップ>

学校団体の受け入れやワークショップの準備、セルフガイドの作成補助などを行ったが、インターン生の都合により、8月で活動を終了とした。

(イ) 京都国立近代美術館

<キュレーター研修>

令和6年5月27日～6月9日（うち5日間）で京都市学校歴史博物館学芸員1名、令和6年8月19日～23日（5日間）で枚方市立御殿山生涯学習美術センター学芸員1名、令和6年9月2日～9月14日（うち12日間）で公益財団法人静岡新聞・静岡放送文化福祉事業団駿府

博物館学芸員1名を受け入れ、コレクション展や企画展の展示撤収作業及び作品の取り扱い、作品返却作業、作品修復に係る企画競争のための説明会の研修、他館展覧会見学、教育普及・広報活動等についての研修等を行った。

<インターンシップ>

京都および大阪の大学院生6名を受け入れた。各自の関心分野や専門領域を踏まえ、展覧会準備の補助や教育普及プログラムの運営補助、鑑賞ツール制作業務などに従事した。また広報業務の一環として美術館のSNSにて所蔵作品紹介を発信したほか、SNS上での展覧会への反応を集計する作業等にも従事した。

(ウ) 国立映画アーカイブ

<インターンシップ>

5月15日から7月26日の約2か月間に1名、また、7月30日から8月27日の約1か月間に1名、それぞれ映画、映画アーカイブを研究している大学院生の計2名をインターンとして受け入れ、学芸課の4室で研修を行った。研修では、上映会・展覧会等の実施に関わる業務、映画フィルム及び関係資料の収集・保存・整理に関わる研修などを行った。

<博物館実習>

8月13日から8月17日までの5日間、定員の12名を受け入れた。実習内容は、初日に総務課および学芸課による映画アーカイブの概要講義と施設見学、二日目からは学芸課の映画室、展示・資料室、上映室、教育・発信室の4室で1日ずつ、映画フィルム及び関係資料の収集・保存・整理、上映会・展覧会・教育普及・広報等の実施に関わる研修を行った。

(エ) 国立西洋美術館

<キュレーター研修>

年間を通じて学芸員2名を受入れ、以下のとおり実施した。

- ・受入機関〔研修日数〕…日本郵政歴史博物館〔4日間〕、熊本県立美術館〔11日間〕
- ・研修分野…学芸全般

<インターンシップ>

令和6年5月～10月まで大学院生3名を受入れ、以下のとおり実施した。

- ・受入機関〔人数〕…学習院大学大学院〔1名〕、中央大学大学院〔1名〕、筑波大学大学院〔1名〕
- ・研修分野…西洋美術史、教育普及、保存修復・保存科学

(オ) 国立国際美術館

<キュレーター研修>

2名を受入れ、以下のとおり実施した。

- ・令和6年5月24日（金）～10月9日（水）（うち4日間）の間で、京都芸術大学の学芸員1名を受入れ、現代美術の展示作業の流れについて研修を行った。
- ・令和6年11月6日（水）～11月8日（金）（3日間）の間で、東京都写真美術館の学芸員1名を受入れ、現代美術の取り扱いと教育普及活動について研修を行った。

<インターンシップ>

6名を受入れた。受入れの内訳は、「学芸」2名、「美術館教育」2名、「映像関係」1名、「情報資料」1名。「学芸」分野のインターンは特別展、所蔵作品展の運営に関する業務の補助を、「美術館教育」のインターンは教育普及に係る事業の補助を、「映像関係」分野のインターンは「中之島映像劇場」運営の補助を、「情報資料」分野のインターンは、図書登録から装備、配架作業補助を行った。

(カ) 国立新美術館

＜キュレーター研修＞

令和6年8月1日～10日に徳島県立近代美術館の学芸員1名を受け入れ、展覧会の企画決定に至るまでのプロセスやキュレーション方法、教育普及や広報対応に関する研修を行った。

＜インターンシップ＞

展覧会、教育普及、広報の3部門で将来美術館等の機関での就業を志す大学生・大学院生6人を受け入れた。展覧会部門では企画展「田名網敬一」および「荒川ナッシュ医」でのカタログの編集作業やパフォーマンス実施補助等、教育普及部門では建築ツアーやワークショップといったイベント運営補助や参加者アンケートの集計等、広報部門ではSNS投稿案の作成や記者発表会での運営補助等の研修を行った。

③ 映画保存のニーズに対応した人材育成

映写技師の高齢化や映写機材メンテナンスが年々深刻化していくなかで、映写技術者の育成が喫緊の課題となっていることから、令和6年度は、コロナ禍以前に開催していた「映写ワークショップ」の再開ではなく、いつでもどこからでも学ぶことができる、より有効な育成ツールとして、映写マニュアルビデオ「NFAJ オンライン映写ガイド」シリーズを作成し、当館 YouTube チャンネルで公開する方針に転換した。

具体的な対象は、映写ワークショップと同様に、優秀映画鑑賞推進事業での映写業務を担当しているプロの映写技師から、そのアシスタント層までを設定し、令和6年度は第一弾としてフィルムを傷めることなく映写するための「映写準備」の回を作成した。

(3) 国内外の映画関係団体等との連携等

第5期（令和3年度～令和7年度）中期目標に定める指標	
指標	- 映画・映像作品の収集・保管に係る取組状況。（映画フィルム購入本数、映画フィルム寄贈本数、映画フィルム年度末所蔵本数、所蔵フィルム検索システムにおける新規公開件数、所蔵フィルム検索システムにおける累計公開件数） - 国内外の映画関係団体等との連携・調整に係る取組状況。（「全国映画資料館録」更新版を中期目標期間中に刊行する。） 以上の指標については、第4期中期目標期間と同程度の水準を維持するものとする。 - ロケーションデータベースの登録件数は、1,700件程度とする。 - ロケーションデータベースの利用者数は、839,000人程度とする。
関連指標	- 振興会におけるアーツカウンシル機能との連携を通じて実施したプログラムディレクター・プログラムオフィサーと映画製作団体等との意見交換会の件数 - 非フィルム資料のアーカイブ化の取組における成果に基づき実施した展示等の回数

※令和4年度は「全国映画資料館録」更新版を刊行していない。

① 映画フィルム及び映画関連資料の収集

	購入本数	購入金額	寄贈本数	年度末所蔵本数	年度末寄託本数
令和6年度	99	124,001,412	2,777	90,126	19,322
第4期中期目標 期間実績（※）	152	－	970	83,744	－

※購入本数及び寄贈本数は平均値であり、年度末所蔵本数は令和2年度末の数値である。

令和6年度の収集方針
映画を芸術作品のみならず、文化遺産として、あるいは歴史資料として、網羅的に収集することを目指し、日本映画の収集を優先しながら、時代を問わず散逸や劣化、滅失の危険性が高い映画フィルム等及び上映事業や国際交流事業に必要な映画フィルム等の収集を行う。なお、収集に当たっては、自主製作映画等企業の管理下に置かれない映画の収集にも配慮することとし、受贈については、デジタル素材の受入れも継続しながら、映画のデジタル化に伴い散逸の危機に瀕しているフィルム原版の受入れも重点的に実施することとする。映画資料については、日本映画に関わるものを中心に、作品レベルでの網羅性を向上させるとともに、映画史の調査研究に資する幅広い種類の資料の収集を行う。加えて、本年度は特に次の点について留意する。 ア 歴史資料として貴重な無声期の映画作品について、デジタル復元を実施する。 イ 国立映画アーカイブが所蔵する歴史的映像等のデジタル化と配信への取り組みを継続し、サイトの充実を図る。 ウ フィルム、デジタルともにオリジナルフォーマットを重視した収集を行う。

特記事項

〈購入〉

上映企画に伴う映画フィルム購入に関しては、「日本映画と音楽 1950年代から1960年代の作曲家たち」に伴い、『花嫁の峰 チョゴリザ』（1959年）等4作品、4本のフィルムを購入し、芥川也寸志や松村禎三ら著名作曲家が映画で達成した重要な仕事を収集することができた。また、「没後50年 映画監督 田坂具隆」に伴い、『湖の琴』（1966年）等6作品、10本のフィルムを購入し、日本映画の巨匠に関するコレクションの欠落を埋めることができた。また「日本の女性映画人（3）——1990年代」に伴い、『UNLOVED』（2002年）等8作品、8本のフィルムと、『ルッキング・フォー・フミコ』（1993年）等11作品のデジタル上映用及び保存用素材を購入し、1970年代以降の独立系製作会社や個人の映像作家による貴重な文化記録映画や自主映画の重要作を収集することができた。

その他、戦前は劇映画のメジャー作、戦後は中小プロダクションで教育映画を量産し、日本映画の多様性を支えた重要作家・木村荘十二について、5作品、10本のフィルムを購入することができたことも、非常に意義があった。

〈受贈〉

令和6年度の映画フィルムの寄贈受け入れ本数は、2,777本、30件であり、作品種別ごとに重要な大型寄贈がみられた。日本劇映画では、令和5年度に続き東映株式会社から241作品（382本）の寄贈（『花嫁と乱入者』（1949年）の16mmプリントを除き、すべて原版）を受けたことに加え、国際放映株式会社からも20作品（101本）の原版寄贈を受け、1950～60年代の日本映画の大手映画会社作品の原版収集がさらに充実することとなった。日本テレビ映画では、手塚プロダクションからテレビアニメの嚆矢である「鉄腕アトム」シリーズ（1963～66年）の原版をはじめとした409作品（985本）を受贈したほか、柳原良平の遺族から、柳原の代表的アニメーション26作品（30本）を受贈した。日本文化・記録映画では、高度経済成長期において地方自治体のPR映画や旧建設省関係の道路や河川、トンネルなどの大型工事記録映画を製作した、文化映画新社旧蔵の原版やプリント190作品（313本）の寄贈を受けたことも特筆に値する。さらに、日本ニュース映画では、京都市から「京都ニュース」各号（1956～94年）をはじめとしたニュース映画等399作品（625本）を受贈し、地方ニュース映画のコレクションが大きく充実することとなった。外国劇映画では、配給会社のギャガ株式会社から、日本語字幕付きプリントを多数含む108作品（180本）の寄贈を受け、1990～2000年代における外国映画受容の多様性を跡付ける、意義深い寄贈となった。

映画関連資料については、例年通り映画会社・個人などから多種の資料寄贈を受けている。令和6年度収蔵した主要な寄贈資料としては、一般財団法人草月会より製作資料、脚本など勅使河原プロダクション旧蔵品3,314点、久松正明氏より写真、製作資料など久松静児監督旧蔵品10,673点、松竹株式会社よりロビーカードなど7,426点、有限会社和田誠事務所よりアニメーション映画『MURDER!』セル画など244点、中川洋吉氏より洋書・洋雑誌、和雑誌など433点、白倉民子、白倉誠子両氏よりスナップ写真ほか撮影監督飯村正旧蔵品317点等が挙げられる。

② 映画フィルム及び映画関連資料の保管・修復・復元

修理・修復本数
フィルム 79 点（映画フィルムデジタル復元 1 点、ノイズリダクション等 18 点、不燃化作業 33 点、映画フィルム洗浄 27 点）

特記事項

令和6年度は映画フィルムのデジタル復元を1件行った。栗原奈名子監督のドキュメンタリー『ルッキング・フォー・フミコ』（1993年）は、画原版が通常の16mmネガフィルムであるのに対し、音原版は35mm幅で左右二帯に音情報が記録されているという、特殊な形状をしていたため、フィルム複製は不可能であった。そこで、画原版をデジタル化し、残されたDATテープから音を抜いて合わせることで、デジタル上映素材（DCP）を作製することで、ビデオとフィルムのハイブリッドな技術によって製作された1990年代の映画作品を復元することが可能となった。また作製にあたっては、デジタル技術により傷を修復し、新たに日本語タイトルを補った。

また、令和6年度は、日本劇映画、外国劇映画、外国文化・記録映画の各分野で、コレクションの欠落を埋めることができた。斎藤寅次郎監督の無声メロドラマ『明け行く空』（1929年）と辻吉郎監督の活劇『沓掛時次郎』（1929年）は、共に現存作品の稀なサイレント期の名匠の重要作であり、日本映画史の見直しを迫る画期的な発見である。また、戦前に東和商事が輸入した『資本家ゴルダール』（1931年、ジュリアン・デュヴィヴィエ監督）や『幼年時代』（1938年、マルク・ドンスコイ監督）といった名作の日本語字幕付可燃性プリントを不燃化することができた。さらに1960年に国立近代美術館が受領したリュミエール社撮影の記録映画『明治の日本 1896-1900』について、複製を行い新たなプリントを制作することにより、さまざまな運用が可能になった。配信サイト「映像でみる明治の日本」に配信作品を追加したのも、そうした成果の一つである。

映画関連資料については、年度ごとに材質や劣化状況に応じてさまざまな専門家に依頼して修復を行うとともに、アーカイブ用の資料保存ケースを購入して長期保存を図っている。令和6年度の具体的な案件としては、『カメラを持った男』（1929年）ほか袋一平コレクション（初期ソビエト映画）のポスターや、尾上松之助主演作ほか戦前・戦後期の重要な映画ポスターの修復、戦前期の映画館プログラムの脱酸性化作業、所蔵作品展展示品の中で長期展示に対応するためのレプリカ作成、澤村四郎五郎絹本肉筆画の修復などを行った。スタッフによる作業としても、公開・貸出頻度の高いポスターなどへの和紙を用いた簡易修復、脆弱なシナリオ等冊子に対する保存ケースの作成、接着したスチル写真の剥離などの措置を講じている。

③ 映画フィルム及び映画関連資料の貸与等

・映画フィルム

貸出		特別映写観覧		複製利用		データ利用	
件数	点数	件数	点数	件数	点数	件数	点数
79	162	59	151	45	79	16	29

・映画関連資料

貸出		特別観覧	
件数	点数	件数	点数
9	93	68	1,618

特記事項

映画フィルム等の貸与については、海外の貸与先は、アメリカ合衆国、ヨーロッパ諸国、東アジア諸国に多く、FIAF加盟機関の利用が3割ほどであった。チネマ・リトロバート映画祭「吉村公三郎特集」、フィルモテカ・デ・カタルーニャとフィルモテカ・デ・ガリシアの「羽田澄子レトロスペクティブ」、フィルムポディウムや国際交流基金パリ日本文化会館の相米慎二特集等、日本の映画作家の特集上映が各国で行われたほか、香港国際映画祭協会「シネファン 2024 年 11/12 月：日本映画祭」、韓国映像資料院「第13回国際交流基金映画祭シネマ×文学」等、文学作品を基にした日本の映画作品の特集上映が開催された。また、マーキー・アーツ ミシガンシアター「弁士演奏とサイレント映画」、ジャパン・ソサエティー「弁士の伝統と銀幕」等、アメリカ合衆国においてサイレント映画の活弁付き上映が増えている傾向がある。国内は例年通り、ラピュタ阿佐ヶ谷をはじめとした都内名画座への貸出が多いが、シネ・ヌーヴォ（大阪）、神戸映画資料館、福岡市総合図書館、シネマ四国、湯布院映画祭等、全国への貸出を行った。国内外問わず、実写とアニメーション両方の無声映画の貸出は一定数あり、活弁や伴奏をつけて上映が行われた。

特別映写観覧については、例年通り大学の研究試写が過半数であるが、NP0 法人日本映画映像文化振興センターや日本映画撮影監督協会等の映画関連団体による研究試写や、番組制作のための参考試写も行われた。また海外の大学による研究試写も多く、海外件数は10件と例年を上回った。

複製利用については、関東大震災関連の映像利用が急増した令和5年度と比べて実績数は減少し、令和4年度と同等に戻った。規則改正により利用料の料金体系を見直した影響により、件数ごとの単価は上昇している。パッケージ販売や配信を目的としたデジタルマスター作成のための利用、上映用プリント作成のための利用、映像制作のためのフッター利用のほか、美術館等での展示のための利用も多く見られ、令和7年度以降に全国で巡回展覧会が行われる「藤田嗣治 絵画と写真展」（東京ステーションギャラリー、名古屋市美術館、茨城県近代美術館、札幌芸術の森美術館）の利用が目立った。また、海外の映像制作者が当館配信サイトで配信作品を視聴し、ドキュメンタリー映画や配信映像のためにフッター利用を行った事例も複数件あった。

令和6年度から新たに運用が開始された配信作品等データ利用については、テレビ番組・映画等の映像制作のためのフッター利用が主であった。

映画資料の貸与については、日本でも数少ない常設の映画関連展示施設である鎌倉市川喜多映画記念館への貸出が案件の数として目立っているが、令和6年度は東京都美術館「懐かしさの系譜―大正から

現代まで」展への映画ポスター12点、調布市郷土資料館「銀幕が映す実篤文学」展への諸資料17点のほか、神奈川近代文学館や横浜美術館への貸与も特筆される。資料の特別観覧については、出版社・教育機関・テレビ局などの要望に対し、資料画像の提供や研究者による熟覧などの形で所蔵資料へのアクセスに応じている。

④ 所蔵フィルム検索システムにおける公開実績

映画フィルム（テキストデータ） 公開実績	新規公開実績	累計公開件数
	162	8,207

⑤ 国内外の映画関係団体等との連携・調整に係る取組状況

上映企画については、メキシコ国立自治大学（UNAM）フィルモテカ、メキシコ・シネテカ・ナショナル、メキシコ映画機構（IMCINE）と上映企画「メキシコ映画の大回顧」を、アダム・ミツケヴィチ・インスティテュート（ポーランド）と上映企画「映画監督 アンジェイ・ワイダ」を開催したほか、令和6年度も「東京国際映画祭」、「ぴあフィルムフェスティバル」と上映企画または映画祭の共同開催を実施した。展示企画においては、「映画監督 アンジェイ・ワイダ」で日本美術技術博物館 Manggha、アダム・ミツケヴィッチ・インスティテュートと共催し、またクラクフ国立美術館、ポーランド広報文化センターの協力を得た。また「映画監督 田坂具隆」では午牛会の協力を得た。

映画関連資料については、令和6年度の「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」において国立映画アーカイブ研究員が京都府京都文化博物館、須賀川特撮アーカイブセンターほか映画資料保存施設を訪問するなど、各地の映画資料館・専門図書館・研究機関と映画資料の保存に関する情報の収集や交換を行った。また、同事業の一環として「全国映画資料アーカイブサミット2025」を開催し、研究員が主導的な役割を果たした。

⑥ 我が国の映画助成システムの改善等に関する協力

振興会におけるアーツカウンシル機能との連携を通じて実施したプログラムディレクター・プログラムオフィサーと映画製作団体等との意見交換会の件数（件）	14 件
--	------

プログラムディレクター（PD）とプログラムオフィサー（PO）を配置し、日本芸術文化振興会におけるPD、POとして、文化芸術振興費補助金による日本映画製作支援事業や芸術文化振興基金による国内映画祭等への助成等について、制度の見直しや公募・審査への協力、助成作品の完成確認等を行った。また、助成対象活動の成果把握・分析や映画製作団体、関係者等との意見交換を実施して、分野の現状や課題の把握に努め、助成システムの改善に取り組んだ。その他、同振興会の実施する映画分野を含む人材育成等の事業に携わる他、アーツカウンシル機能の制度や成果の検証、報告書の作成に協力した。

⑦ 非フィルム資料のアーカイブ化に関する取組

非フィルム資料のアーカイブ化の取組における成果に基づき実施した展示等の回数（件）	2 件
--	-----

本事業は、日本の歴史的・文化的価値のある非フィルム資料のアーカイブ構築に向けその保存及び活用を図るための望ましい仕組みの在り方について調査研究等を行い、非フィルム資料のアーカイブに係る中核拠点形成を図るため、当該分野のネットワーク化を推進し、分野全体のアーカイブの構築・運営や共同利用の促進等を行うことを目的としている。

令和6年度は東北、関東、関西の資料館、映像制作会社等を現地調査し、資料の所在に関する情報を収集した。調査で発掘された資料の利活用実証展示として、「日本映画史探検！《新東宝／国際放映》と《近代映画協会》の歩み」を開催した。デジタルアーカイブ化による保存や利活用の検討のため、神戸映画資料館、木下恵介記念館が所蔵する資料をデジタル化し、一部を実証展示で公開した。

令和5年度一般公開した「映画資料所在地情報検索システム（JFROL）」に、新たに神戸映画資料館の映画資料データを連携、7館の協力所蔵館の映画資料データ横断検索を可能とした。また、「全国映画資料アーカイブサミット2025」をオンライン開催してセミナーやシンポジウムを実施した。

⑧ ロケーションデータベースの運営

<登録件数>

新規登録件数	第5期新規登録件数累計	目標登録件数（第5期）	登録件数累計
350	1,060	1,700	12,470

<利用者数>

本年度利用者数	第5期利用者数累計	目標利用者数（第5期）
1,119,091	2,992,687	839,000

本事業は「全国ロケーションデータベース（JL-DB）」に、全国各地域のフィルムコミッション（FC）が保有・蓄積しているロケーション情報を集約して検索性を高めることで、日本国内における映画撮影の促進及び日本映画の創造活動の活性化を図り、また、日本の魅力あるロケーションの発信を行うことを目的としている。国内ロケ地情報及びロケ撮影に係る行政機関等への許認可手続き等の情報を更新し、新規登録を行って情報内容の充実を図った。また、JL-DBの利用促進やFC体制強化に係る取り組みとして、研修やセミナー、ヒアリング、国内外のイベントでのPR活動等を実施したほか、JL-DBハンドブックの作成、バーチャルロケハンの実証調査を行った。

⑨ 情報発信、人材育成に係る機能強化

令和4年度に展示・資料室及び教育・発信室に新たに配置された人員2名により、国立アトリサーチセンター及び国立各美術館との連絡調整及び事業の企画、立案、実施に向けた取り組みを行い、令和6年度も引き続き、その基礎的かつ専門的な調査研究を行った。

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の取組

● 一般管理費及び業務経費の削減状況

(単位：千円)

区分	前中期目標期間 最終年度	当中期目標期間	増減率
	令和2年度	令和6年度	
一般管理費物件費及び業務経費物件費	2,410,288	2,327,734	△3.43%

特記事項

当中期目標期間終了年度（令和7年度）において、前中期目標期間の最終年度（令和2年度）と比べて、運営費交付金を充当して行う事業について一般管理費物件費及び業務経費物件費の合計を5%削減することを目標としている。（ただし、美術作品購入費、美術作品修復費及び土地借料等の特殊要因経費（令和3年度以降に既定経費化されたものを含む。）は対象外。）

令和6年度の一般管理費物件費及び業務経費物件費の合計は、令和2年度に比し3.43%減少している。

2 組織体制の見直し

独立行政法人の組織ガバナンス強化の観点から、本部体制の強化に努めるとともに、独立行政法人の業務運営の柔軟性を生かし、より一層のサービス向上及び組織の機能向上を実現するため、組織体制の見直しを進めた。

国立工芸館では、工芸室を工芸・デザイン第一室に、修復室を工芸・デザイン第二室にそれぞれ改めるとともに東京分室を廃止し、6室体制を5室に再編成した。令和2年の工芸館金沢移転以降、東京に収蔵作品の半数が残っていたことから金沢・東京の2拠点スタートとなっていたが、令和6年6月末完了で作品移転を終了する方向で計画を進めたため、業務体制を金沢1拠点とし本来の国立工芸館としての館運営を推し進めた。併せて作品保管・管理、作品修復など作品廻りに関する業務を明確化させた。

3 契約の点検・見直し

(1) 調達等合理化の推進

「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成27年5月25日総務大臣決定）に基づき、事務・事業の特性を踏まえ、PDCAサイクルにより、公正性・透明性を確保しつつ、自律的かつ継続的に調達等の合理化に取り組むため、令和6年度独立行政法人国立美術館調達等合理化計画を策定した。

① 令和6年度の調達実績

ア 令和6年度の調達全体像

(単位：件、千円)

	令和5年度		令和6年度		比較増△減	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
競争入札等	(25.8%)	(43.4%)	(28.5%)	(45.6%)	(24.0%)	(11.7%)
	75	3,757,570	93	4,193,821	18	436,251
企画競争・公募	(21.0%)	(10.3%)	(18.7%)	(10.7%)	(1.7%)	(10.1%)
	60	894,107	61	979,630	1	85,523
競争性のある契約（小計）	(46.4%)	(53.7%)	(47.2%)	(56.3%)	(14.1%)	(11.2%)
	135	4,651,677	154	5,173,452	19	521,775
競争性のない随意契約	(53.6%)	(54.5%)	(52.8%)	(43.7%)	(10.3%)	(0.2%)
	156	4,006,361	172	4,020,045	16	13,684
合 計	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(9.0%)	(6.2%)
	291	8,658,038	326	9,193,497	35	535,459

(注1) 計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

(注2) 比較増△減の()書きは、令和6年度の対令和5年度伸率である。

イ 令和6年度の一者応札・応募状況

(単位：件、千円)

		令和5年度		令和6年度		比較増△減	
2者以上	件数	48	(35.3%)	47	(30.5%)	△1	(△2.1%)
	金額	1,076,460	(23.1%)	568,692	(11.0%)	△507,768	(△47.2%)
1者以下	件数	87	(64.7%)	107	(69.5%)	20	(23.0%)
	金額	3,575,218	(76.9%)	4,604,759	(89.0%)	1,029,541	(28.5%)
合 計		135	(100.0%)	154	(100.0%)	19	(14.1%)
		4,651,677	(100.0%)	5,173,452	(100.0%)	521,775	(11.2%)

(注1) 計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

(注2) 合計欄は、競争契約（一般競争、指名競争、企画競争、公募）を行った計数である。

(注3) 比較増△減の()書きは、令和6年度の対令和5年度伸率である。

② 契約監視委員会の審議状況

監事及び外部有識者で構成される契約監視委員会を2回実施（書面審査1回含む）し、令和6年度調達等合理化計画策定及び令和6年における契約の点検見直しを行ったところ、指摘事項はなかった。

- ・一者応札の検証実施件数：93件

③ 調達等合理化検討チームによる点検

新たに随意契約（少額随契を除く。）を締結することになった案件について、本部事務局長を総括責任者とする調達等合理化検討チームにおいて事前点検（緊急の場合は事後点検）を行い、競争性のない随意契約に関して真にやむを得ないものかの確認を行うことで契約の適正化に努めた。

- ・事前点検：4件

④ 不祥事の発生 of 未然防止・再発防止のための取組

本部事務局、東京国立近代美術館、国立工芸館、京都国立近代美術館、国立映画アーカイブ、国立西洋美術館、国立国際美術館及び国立新美術館を対象として、契約方法の妥当性、固定資産等の管理、債権・債務の管理、前年度指摘事項のフォローアップ等について、監査員による内部監査を行った。内部監査の実施により、不適正な会計処理の未然防止と、効率的な取組の情報共有を図り、法人全体の業務効率化に努めた。

- ・内部監査実施件数：8件

(2) 民間委託の推進

① 一般管理部門を含めた組織・業務の見直しと民間委託の推進

次のとおり民間委託による業務の効率化を行い、限られた人員及び予算の中で、効率的な施設設備の維持及び来館者サービスの向上を図った。

- (ア) 会場管理業務、(イ) 設備管理業務、(ウ) 清掃業務、(エ) 保安警備業務、
- (オ) 機械警備業務、(カ) 収入金等集配業務、(キ) レストラン運営業務、
- (ク) アートライブラリー運営業務、(ケ) ミュージアムショップ運営業務、
- (コ) 美術情報システム等運営支援業務、(サ) ホームページサーバ運用管理業務、
- (シ) 展覧会アンケート実施業務、(ス) 省エネルギー対策支援業務、
- (セ) 展覧会情報収集業務、(ソ) 映写等請負業務

② 広報・普及業務の民間委託の推進

次のとおり民間委託を行い業務の効率化を図った。

- (ア) 情報案内業務、(イ) 広報物等発送業務、(ウ) 交通広告等掲載、
- (エ) ホームページ改訂・更新業務、(オ) 特設サイト等、
- (カ) ラジオ CM 等を利用した総合的な広報宣伝業務、
- (キ) 講堂音響設備オペレーティング業務、(ク) 画像貸出業務

4 共同調達等の取組の推進

周辺機関や法人間で連携し、共同調達を行うことで、契約事務等の効率化を図った。国立西洋美術館は周辺の機関と連携し、電子複写機賃貸借及び保守、コピー用紙及びトイレットペーパー、廃棄物処理、古紙売買契約、トイレ用洗浄・脱臭器具の賃貸借について共同調達を実施した。東京国立近代美術館、国立映画アーカイブ及び国立新美術館はトイレットペーパーの共同調達を実施し、周辺の機関と連携して、コピー用紙の共同調達を実施した。東京国立近代美術館、国立映画アーカイブ、国立西洋美術館及び国立新美術館は電気の共同調達を実施した。京都国立近代美術館は周辺の機関と連携し、コピー用紙及びトイレットペーパーの共同調達を実施した。国立国際美術館は、周辺の機関と連携し、コピー用紙の共同調達を実施した。

5 給与水準の適正化等

(1) 人件費決算

決算額 1,259,399 千円（対令和5年度比較 102.6%）

※人件費は常勤職員を対象とし、退職金、福利厚生費を含まない。

(2) 給与体系の見直し

令和6年度においては、国家公務員の給与改定に準拠し、①人事院勧告による官民較差等の状況を踏まえ、俸給水準を平均3.0%引き上げ（令和7年1月期において令和6年4月に遡及して引き上げ）、②期末手当支給割合及び勤勉手当成績率の引き上げ（年間0.1ヶ月分※各手当に0.05ヶ月分ずつ配分）の改定等を実施した。

また、国立美術館の職員が行う職務は、国の行政職俸給表（一）又は研究職俸給表の適用を受けるものと同等の職務であるとみなし、給与についても上述の通り一般職給与法に準拠した給与制度で支給してきていることを前提に、これらとの比較を行った。

① 一般職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

【ラスパイレス指数（令和6年度実績）】

対国家公務員・・・（年齢勘案） 94.1
（年齢・地域・学歴勘案） 86.4

② 研究職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

【ラスパイレス指数（令和6年度実績）】

対国家公務員・・・（年齢勘案） 93.8
（年齢・地域・学歴勘案） 92.3

(3) 令和6年度の役職員の報酬・給与等について

別紙「独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について」を参照。

6 情報通信技術を活用した業務の効率化

在宅勤務等の「働く場所の拡張」に対応するため、オンラインストレージサービスやチャット／ミーティングツール（Microsoft 社 OneDrive や Teams）の活用を進め、在宅勤務者や外部関係者との情報共有やオンライン会議を積極的に実施し、業務の効率化を図った。

令和4年度に引き続き、在宅勤務時に館内情報システムを利用するためのリモートアクセスサービスにより、在宅勤務の促進を図った。

そのほか、メール利用等において外部データセンターが提供するサーバ機能及びセキュリティ機能により、安全かつ安定した業務運用を実現した。また、法人内ネットワークの回線多重化により、通信障害を回避するように構成したネットワークを引き続き運用している。

各館のホームページサーバーについてはクラウド化を推進し、システムの継続的かつ安定的な運用の基盤を整備し、運用している。

なお、令和7年度から運用する次期ネットワークに向けて、館内外を問わず、安全な業務遂行を実現するためのクラウドセキュリティサービスの導入を開始した。

Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画等

1 自己収入の確保

入場料収入 1,107 百万円、公募展事業収入 306 百万円、不動産賃貸収入 165 百万円、その他事業収入 235 百万円等により、1,820 百万円の展示事業等収入を獲得し、予算額として定めた目標値である 1,679 百万円を達成した。外部資金については、オンライン寄附サイトでの寄附の募集、クラウドファンディングの実施などを通じて、個人からの支援獲得に努めた。企業・法人等にも働きかけ、各館の子ども向け事業に対する寄附金を獲得するなど多様な支援獲得に努めた。

会費収入及びクラウドファンディングによる外部資金獲得の令和 6 年度における合計額は 83 百万円であり、第 5 期中期目標期間累積額は 289 百万円である。

（前中期目標期間累積実績額 287 百万円）

2 保有資産の有効利用・処分

保有する資産について、美術館の事業・運営に影響のない範囲で積極的な講堂等の外部貸出やエントランスロビーの活用に努めた。また、保有する資産のうち不要な資産はない。

3 予算

（単位：百万円）

区 分	予算額	決算額	増△減額
収入			
運営費交付金	8,050	8,050	0
展示事業等収入	1,679	1,820	140
施設整備費補助金	100	425	325
文化芸術振興費補助金	0	5	5
受託収入	0	344	344
寄附金収入	650	1,156	506
計	10,479	11,799	1,320
支出			
運営事業費	9,729	11,469	△1,740
人件費	1,537	1,348	189
一般管理費	954	1,308	△354
事業部門経費	7,238	8,813	△1,575
うち美術振興事業費	3,693	3,448	245
うちナショナルコレクション形成・継承事業費	2,264	3,978	△1,714
うちナショナルセンター事業費	1,282	1,388	△106
施設整備費	100	425	△325
文化芸術振興費	0	5	△5
受託事業費	0	344	△344
寄附金事業費	650	576	74
計	10,479	12,820	△2,341

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

特記事項

一般管理費については、前年度から繰り越した運営費交付金債務の業務達成により、354 百万円の支出増となっており、ナショナルコレクション形成・継承事業費については、前年度予算に係る作品の購入等により 1,714 百万円の支出増になっている。

施設整備費補助金は、前年度から繰り越された工事の完了により、予算額より 325 百万円の支出増となった。

寄附金については、1,156 百万円を獲得し、令和 6 年度に 576 百万円を支出した。

4 収支計画

(単位：百万円)

区 分	計画額	決算額	増△減額
費用の部			
経常費用	8,732	8,338	394
人件費	1,430	2,259	△829
一般管理費	1,108	854	254
事業部門経費	5,428	4,689	739
うち美術振興事業費	3,676	3,165	511
うちナショナルコレクション形成・継承事業費	673	683	△10
うちナショナルセンター事業費	1,079	841	238
寄附金事業費	650	437	213
減価償却費	116	98	18
収益の部			
経常収益	8,732	8,612	△120
運営費交付金収益	6,102	5,679	△423
展示事業等の収入	1,679	1,820	141
受託収入	0	344	344
寄附金収益	650	437	△213
資産見返負債戻入	116	96	△20
補助金等収益	0	5	5
施設費収益	0	62	62
引当金見返に係る収益	185	169	△16
経常損益		274	274
臨時損益		3	3
当期純損益		270	270
前中期目標期間繰越積立金取崩額		0	0
当期総利益		270	270

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

5 資金計画

(単位：百万円)

区分	計画額	決算額	増△減額
資金支出	10,479	13,410	△2,931
業務活動による支出	10,297	11,673	△1,376
投資活動による支出	182	1,737	△1,555
財務活動による支出	0	0	0
資金収入	10,479	12,427	1,948
業務活動による収入	10,379	11,059	680
運営費交付金による収入	8,050	7,773	△282
展示事業等による収入	1,679	1,758	79
受託収入	0	294	294
補助金等収入	0	9	9
寄附金収入	650	1,156	506
投資活動による収入	100	1,368	1,268
施設整備補助金による収入	100	1,368	1,268
資金増減額		△982	
資金期首残高		6,773	
資金期末残高		5,791	

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

6 貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部		負債及び純資産の部	
資産の部		負債の部	
I 流動資産	6,552	I 流動負債	6,455
II 固定資産		II 固定負債	1,590
1. 有形固定資産	212,388		
2. 無形固定資産	29	負債合計	8,046
3. その他の固定資産	1,269		
固定資産合計	213,687	純資産の部	
		I 資本金	81,019
		II 資本剰余金	130,219
		III 利益剰余金	955
		純資産合計	212,193
資産の部 合計	220,239	負債及び純資産の部 合計	220,239

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

7 短期借入金

実績なし。

8 重要な財産の処分等

実績なし。

9 剰余金

(1) 当期末処分利益の処分計画

(単位：円)

区分	金額
I 当期末処分利益 当期総利益	270,485,427
II 利益処分額 独立行政法人通則法第44条第3項により 主務大臣の承認を受けようとする額	270,485,427

(2) 利益の生じた主な理由

支出の抑制等による。

(3) 目的積立金の使用状況

実績なし。

(4) 積立金（通則法第44条第1項）の状況

(単位：円)

使途の内訳	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
積立金	147,583,548	24,204,488	0	171,788,036
前中期目標期間繰越積立金	386,766,711	0	0	386,766,711
目的積立金	12,131,806	113,718,278	0	125,850,084

IV その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 内部統制・ガバナンスの強化

(1) 内部統制の充実・強化

① 理事長がリーダーシップを発揮できる環境の整備

国立美術館が有する美術館施設や運営費交付金等を有効に活用して戦略的、効果的、かつ効率的で適正な管理運営を確保するため、内部統制・ガバナンスの強化に努めている。

理事長の意思決定を補佐するため、理事長及び理事をもって組織する理事会を原則毎月開催し、国立美術館の運営に関する基本方針のほか、中期計画・業務評価・予算・人事等の重要事項を審議した。

本部には、理事が兼任する事務局長を置き、事務局の企画立案機能の充実を図るとともに、各館横断的な調査研究業務及びその他の学芸に係る専門的な重要事項に係る業務を掌理する学芸調整役を配置し、各館が有機的に連携し、効果的・効率的な業務を遂行しうる体制を整備している。法人内会議（経営会議、研究系管理職を中心とした学芸課長会議、事務系管理職を中心とした法人課長等会議）を通じて、役員及び各館の館長はもとより、法人各職員に対するミッションの周知及び情報共有を図っている。

また、予算配分に関しては、法人全体としての作品購入予算や修復予算、人件費等を本部が一括管理し、戦略的・機動的な執行を図っているほか、令和6年度は理事長裁量経費を計上し、職員の海外派遣や情報システムの整備等への機動的配分や、各館の自己収入増へのインセンティブとして自己収入実績に応じた再分配など、理事長のリーダーシップによる資源配分の強化を図った。

内部統制に関しては、平成29年度に制定された「独立行政法人国立美術館内部統制規則」に基づき、国立美術館に対する社会的信頼の確保及び国立美術館における内部統制の推進のため、国立美術館内部統制委員会を開催した。本委員会では、内部監査及び監事監査の結果について情報共有と意見交換を行い、内部統制機能の強化に努めた。

さらに、外部の有識者で組織し、国立美術館の管理運営に関する重要事項について理事長の諮問に応じて審議し、理事長に対して助言する独立行政法人国立美術館運営委員会を開催し、令和5年度事業実績並びに、令和6年度事業計画について説明聴取の上、意見交換を行った。

② 組織全体で取り組むべき重要な課題（リスク）の把握

法人内の会議において情報共有及びリスクの把握に努めているほか、法人全体で取り組むべき重要な課題（リスク）に対応するため、法人で取り組むべき重要な課題（リスク）について、見直しに取り組んでいる。

そのほか、法人の事業継続計画の作成を進めるとともに、外部有識者で構成する運営委員会や外部評価委員会の開催を通じて、外部の視点からのリスクの把握に努め、監事や会計監査人との意見交換を通じて法人運営に影響を及ぼすリスクの把握に努めている。

(2) 情報セキュリティ

情報資産の安全な運用管理実現のために、「情報システムの整備及び管理の基本的な方針」（令和3年12月24日デジタル大臣決定）にのっとり、適切な整備及び管理を行い、保有する情報については、法令等に基づき適切に情報の開示を行うとともに、政府の方針を踏まえた適切な情報セキュリティ対策を推進するなど、責任ある体制を構築するために必要な措置の実行に努めた。令和5年度に改定された「政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準群」に基づき、法人の情報セキュリティ体制の整備を進めるとともに、情報セキュリティ委員会を開催し、国立美術館の情報セキュリティ対策実施状況の把握・情報セキュリティ対策実施計画の協議及び推進を行うなど、情報セキュリティの実現に取り組んだ。

令和6年度は、外部の機関による監査を実施し、情報セキュリティに関するマネジメント及び情報システムの脆弱性を検査する「ペネトレーションテスト（疑似的な攻撃によるテスト）」により国立美術館の情報セキュリティの状況について改善すべき課題を得て、早急に対応すべき一部の問題点については情報システムの修正等の対応を行った。今後、監査において指摘された事項に対する改善に努めていく。また、令和7年度から稼働する次期法人ネットワークに合わせて、国立美術館全体とし

て統一したセキュリティ設定の下で PC を運用するための端末管理システムの導入及び運用についての実証試験を行った。

さらに、情報セキュリティ研修等の機会を設け、法人全体の情報セキュリティ意識の底上げに努めるとともに、頻発している情報漏えい、情報改ざん等につながる悪意のあるソフトウェアが添付されたメール等への注意喚起等を随時に行うとともに、標的型メール攻撃訓練を実施し、その結果について情報セキュリティ委員会にて報告した。

(3) 内部統制・ガバナンスの強化に係る取組状況の検証

① 監事監査

監事 2 名が経営会議その他重要な会議に出席するほか、役職員から事業の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、財務及び業務についての状況を調査している。また、会計監査人から会計監査人の監査方法及びその結果について説明を受け、会計帳簿等の調査を行い、財務諸表、事業報告書及び決算報告書について検討を加え、いずれも適正であることを確認するとともに、業務の執行に関する法令遵守等の状況についても確認している。

令和 6 年度においては令和 6 年 6 月 26 日に期末監査を実施したほか、各館に対し期中監査を以下のとおり実施した。

令和 6 年 10 月 30 日：国立国際美術館

令和 6 年 11 月 14 日：国立映画アーカイブ

令和 6 年 11 月 25 日：国立工芸館

なお、監査結果報告については速やかに法人内に周知し、運営改善に生かすとともに、報告書において意見が付された場合には、速やかに対応し、その状況を随時監事に報告している。

このほか、「独立行政法人、特殊法人等監事連絡会」第 3 部会へ監事 2 名が参加している。

② 内部監査

本部事務局、東京国立近代美術館、国立工芸館、京都国立近代美術館、国立映画アーカイブ、国立西洋美術館、国立国際美術館及び国立新美術館を対象として、契約方法の妥当性、固定資産等の管理、債権・債務の管理、前年度指摘事項のフォローアップ等について、監査員が以下のとおり実地監査に当たった。

令和 6 年 8 月 21 日：本部事務局、東京国立近代美術館

令和 6 年 8 月 2 日：国立工芸館

令和 6 年 8 月 26 日：京都国立近代美術館

令和 6 年 8 月 19 日：国立映画アーカイブ

令和 6 年 8 月 6 日：国立西洋美術館

令和 6 年 9 月 5 日：国立国際美術館

令和 6 年 8 月 9 日：国立新美術館

なお、監査結果報告については速やかに理事長、監事、理事及び各館長へ周知している。また、監査結果報告書において意見が付された場合には、改善措置を講じている。

③ 外部評価

外部有識者で構成し、国立美術館の単年度ごとの業務の実績に関する評価を行う独立行政法人国立美術館外部評価委員会を 2 回（書面審議 1 回含む）開催し、令和 5 年度事業実績について説明聴取の上、審議し外部評価報告書を取りまとめている。外部評価報告書については法人ホームページにて公表している。

2 施設・設備に関する計画

東京国立近代美術館本館パッケージエアコン更新等工事、京都国立近代美術館バリアフリー改修等工事、京都国立近代美術館空調設備整備等工事、国立西洋美術館本館冷温水発生機分解整備等工事、国立西洋美術館直流電源装置等更新工事、国立新美術館入退室管理設備更新等工事、国立新美術館パッケージ

アコン更新等工事を竣工した。また、平成 19 年度から継続している国立新美術館の土地購入を、予算措置に応じて行った。

3 人事に関する計画

(1) 職員採用等の状況

令和 6 年度の常勤職員数は 147 名である（令和 6 年 4 月 1 日時点）。令和 6 年度においては、中間生成物保存活用委託事業等の新規事業対応や法人内業務の諸課題解決を図るための本部事務組織の体制強化を目的に、常勤職員の募集・採用を進めた。（令和 6 年度新規採用 9 名）

職種別人員の増減状況（過去 5 年分）各年度 4 月 1 日時点の在籍者数

（単位：人）

職種	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
定年制研究系職員	56	54	58	65	67
定年制事務系職員	57	57	63	72	75
定年制技能・労務系職員	1	1	1	1	1
指定職相当職員	5	5	5	5	4

また、国立美術館では、継続的な業務の見直しや人員の再配置も行っている。さらに、大学のテニユアトラック制度を参考に、平成 23 年度より制度化した任期付研究員制度や、平成 26 年度に整備した特定有期雇用職員制度（専門的事項の調査研究を行う研究職及び専門的な知識と経験等を有する専門職）等を活用し、本部及び各館に必要な人員の配置に努めた（任期付研究員及び特定有期雇用職員の新規採用 20 名）。職員の採用にあたっては、幅広い経歴を有する社会人経験者の中途採用を積極的に行い、職員の多様化を推進している。

人事・給与制度については、公務員の給与改定に関する取扱いについて（平成 18 年 10 月 17 日閣議決定）に基づき、公務員の例に準じて措置、対処している。令和 6 年度も俸給等の改定（引上げ）を行い、世間の動向に応じた対応を実施した。また、子の看護や配偶者出産時の子の養育のための特別休暇における対象年齢の上限を延長し、育児支援制度の拡充を図った。

事務系職員については、法人内各館の異動のほか、文化庁、国立大学法人及び他の独立行政法人との間で定期的な人事交流を行い、組織の効率化と個々の職員の能力の発揮とその向上を考慮して人事配置を行った。また、学芸系職員についても、任期付研究員の常勤職員への登用や、法人内異動など、適正な人事配置に努めた。

(2) 職員の研修等

① 新規採用者・転任者職員研修

主に新規採用者（非常勤職員を含む）・外部機関からの転入者を対象として、新任職員研修をオンライン形式で実施した。（令和 6 年度実施 研修参加者 94 名）

② 職員研修の実施（括弧内は参加人数）

令和 6 年度においては、組織マネジメント力強化のため、新たに「管理職向けハラスメント防止研修」を対面にて実施した。当該研修は管理職にある者については受講必須とし、全体で 30 名の参加者を得た。また、令和 7 年度より職員人事評価制度を新規導入するにあたり、制度に対する理解を深め、有意義且つ円滑な制度運営を実現するために、「被評価者研修」を e ラーニング形式にて行った。（受講者 156 名）なお、評価者に対する対面研修を令和 7 年度早々に実施予定としている。

その他、法人内研修として実施した取り組みは以下のとおりである。（括弧内は参加人数）

- ・「ダイバーシティ推進研修」（347 人）
- ・「生涯生活設計セミナー（退職準備型）」（5 人）

③ 外部の研修への派遣（括弧内は参加人数）

ア 本部（事務局、国立アトリサーチセンター）

- ・国立公文書館主催「令和6年度 公文書管理研修Ⅰ」（6人）
- ・国立公文書館主催「令和6年度 公文書管理研修Ⅱ」（4人）
- ・国立公文書館主催「令和6年度 アーカイブズ研修Ⅰ」（4人）
- ・文化庁主催「ミュージアム・PR（パブリックリレーションズ）研修」（1人）
- ・フランス国立文化遺産研究所主催「キャンバス画のミスト・ライニング裏打ち法研修」（1人）

イ 東京国立近代美術館

（本館）

- ・国立公文書館主催「令和6年度 アーカイブズ研修Ⅲ」（1人）
- ・独立行政法人国立文化財機構文化財活用センター主催「令和6年度博物館・美術館等保存担当学芸員研修（基礎コース）」（1人）

（国立工芸館）

- ・独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館主催「令和6年度 I P M研修」（2人）
- ・公益財団法人日本博物館協会主催「第72回全国博物館大会」（1人）
- ・文化庁主催「令和6年度図書館等職員著作権実務講習会」（1人）
- ・一般社団法人全国美術館会議主催「第39回学芸員研修会」（1人）
- ・独立行政法人国立文化財機構文化財活用センター主催「令和6年度博物館・美術館等保存担当学芸員研修（基礎コース）」（1人）

ウ 京都国立近代美術館

- ・国立公文書館主催「令和6年度 公文書管理研修Ⅰ」（1人）
- ・国立公文書館主催「令和6年度 公文書管理研修Ⅱ」（1人）
- ・財務省会計センター主催「第53回会計事務職員契約管理研修」（1人）
- ・総務省関東管区行政評価局主催「令和6年度情報公開・個人情報保護・公文書管理制度の運用に関する研修」（2人）
- ・人事院主催「第47回近畿地区課長補佐研修」（1人）

エ 国立映画アーカイブ

- ・国立大学協会東京地区支部及び関東・甲信越地区支部主催「令和6年度東京地区及び関東・甲信越地区国立大学法人等係長研修」（1人）
- ・国立公文書館主催「令和6年度 公文書管理研修Ⅰ」（1人）

オ 国立西洋美術館

- ・国立公文書館主催「令和6年度 公文書管理研修Ⅰ」（1人）
- ・国立公文書館主催「令和6年度 公文書管理研修Ⅱ」（1人）
- ・文化庁主催「令和6年度文化財行政講座」（1人）
- ・公益財団法人日本博物館協会主催「第72回全国博物館大会」（3人）
- ・文化庁主催「令和6年度図書館等職員著作権実務講習会」（1人）
- ・文化庁主催「令和6年度ミュージアム・パブリックリレーションズ研修」（2人）
- ・パナソニック汐留美術館主催「第23回学芸員照明研究会」（2人）
- ・東京国立博物館主催「北米・欧州におけるミュージアムの先駆的活動調査並びに国内ミュージアムの事例報告会」（4人）
- ・東京大学主催「2024年度東京大学次世代リーダー育成研修」（1人）
- ・東京都博物館協議会・日本博物館協会東京支部及び全国科学館連携協議会主催「令和6年度研修会（2回目）」（1人）

- ・公益財団法人日本博物館協会主催「博物館新登録制度：疑問や課題の解決相談会」（１人）
- ・一般社団法人全国美術館会議主催「第 39 回学芸員研修会」（１人）
- ・公益財団法人日本博物館協会主催「令和 6 年度研究協議会 講演会」（１人）

カ 国立国際美術館

- ・文化庁主催「令和 6 年度文化財行政講座」（２人）
- ・人事院主催「第 62 回近畿地区係長研修」（１人）
- ・国立公文書館主催「令和 6 年度 公文書管理研修Ⅰ」（２人）
- ・国立公文書館主催「令和 6 年度 公文書管理研修Ⅱ」（１人）
- ・国立公文書館主催「令和 6 年度 アーカイブズ研修Ⅰ」（１人）
- ・国立公文書館主催「令和 6 年度 アーカイブズ研修Ⅲ」（１人）
- ・総務省行政評価局主催「令和 6 年度 公的部門における DX 人材育成研修」（１人）
- ・大阪労働局主催「業務委託・請負適正化／労働者派遣法セミナー」（１人）

キ 国立新美術館

- ・国立公文書館主催「令和 6 年度 公文書管理研修Ⅰ」（１人）
- ・国立公文書館主催「令和 6 年度 公文書管理研修Ⅱ」（１人）
- ・財務省会計センター主催「第 62 回政府関係法人会計事務職員研修」（１人）
- ・財務省会計センター主催「第 53 回会計事務職員契約管理研修」（１人）
- ・文化庁主催「令和 6 年度図書館等職員著作権実務講習会」（２人）

4 関連公益法人

該当なし。

別 表

凡 例

- ・各館名の略称は以下を用いる。

NCAR：国立アーツリサーチセンター (National Center for Art Research)

MOMAT：東京国立近代美術館 (National Museum of Modern Art, Tokyo)

MOMAK：京都国立近代美術館 (The National Museum of Modern Art, Kyoto)

NFAJ：国立映画アーカイブ (National Film Archive of Japan)

NMWA：国立西洋美術館 (The National Museum of Western Art)

NMAO：国立国際美術館 (The National Museum of Art, Osaka)

NACT：国立新美術館 (The National Art Center, Tokyo)

別表1 所蔵作品展

館名	開催日数（日）		展示替回数		出品点数	入館者数		満足度	
	実績	年度計画	実績	年度計画		実績	目標	実績	目標
東京国立近代美術館（本館）	259	259	5	5	1,357	227,698	170,000	92.6%	77.4%
国立工芸館	128	127	3	3	365	19,519	22,400	96.0%	
京都国立近代美術館	285	283	4	4	754	121,249	94,400	79.2%	
国立西洋美術館	275	275	3	3	769	690,302	560,000	93.3%	
国立国際美術館	111	245	2	3	254	45,446	92,000	79.1%	
合計	1,058	1,189	17	18	3,499	1,104,214	938,800	88.0%	

※ 「満足度」とは、満足度調査における「良い」以上の回答率を指し、合計欄に記載の値は平均値である。
以下同じ。

※ 展示替回数の第5期中期目標数値は4.6回（第4期中期目標期間実績）

※ 所蔵作品展における小企画展・テーマ展は以下のとおり。

館名	タイトル（出品点数）	会期	年度内開催日数
東京国立近代美術館（本館）	新収蔵&特別公開 ジェルメーヌ・リシエ《蟻》（29点）	令和6年1月23日～ 令和6年4月7日	6
	新収蔵&特別公開 ジェルメーヌ・リシエ《蟻》インターナショナル編（49点）	令和6年4月16日～ 令和6年8月25日	113
	フェミニズムと映像表現（9点）	令和6年9月3日～ 令和6年12月22日	97
	フェミニズムと映像表現（8点）	令和7年2月11日～ 令和7年6月15日	43
国立工芸館	おとなとこどもの自由研究 工芸の光と影展（133点）	令和6年6月18日～ 令和6年8月18日	55
	反復と偶然展（134点）	令和6年12月17日～ 令和7年2月24日	57
	移転開館5周年記念 花と暮らす展（98点）	令和7年3月14日～ 令和7年6月22日	16
京都国立近代美術館	鉄斎を慕う洋画家たち（14点）	令和6年3月14日～ 令和6年5月26日	48
	特集：横尾忠則—反復とスター—（37点）	令和6年6月11日～ 令和6年8月25日	66
	シュルレアリスム宣言100周年（30点）	令和6年9月13日～ 令和6年12月1日	69
	身体のうちそと（12点）	令和6年9月13日～ 令和6年12月1日	69
	生誕130年 甲斐庄楠音（23点）	令和6年12月6日～ 令和7年3月9日	76
	コロマン・モーザーの装飾デザインとウィーン世紀末（68点）	令和6年12月6日～ 令和7年3月9日	76
国立西洋美術館	真理はよみがえるだろうか：ゴヤ〈戦争の惨禍〉全場面（82点）	令和6年2月27日～ 令和6年5月26日	49
	西洋版画を視る—リトグラフ：石版からひろがるイメージ（39点）	令和6年6月11日～ 令和6年9月1日	73
	オーガスタス・ジョンとその時代—松方コレクションから見た近代イギリス美術（26点）	令和6年10月5日～ 令和7年2月11日	108

	梶コレクション展—色彩の宝石、エマーユの美（203点）	令和7年3月11日～ 令和7年6月15日	19
	「『クレート』—美術作品の輸送を支える箱」（1点）	令和6年2月27日～ 令和7年2月11日	230
	「Collection in FOCUS ルドヴィーコ・カラッチ《ダリウスの家 族》初公開」（1点）	令和6年2月27日～ 令和7年2月11日	230
	「Collection in FOCUS ユディットとサロメ」（2点）	令和6年2月27日～ 令和7年2月11日	207
	「Collection in FOCUS 印象派とナビ派の装飾画」（4点）	令和6年2月27日～ 令和7年2月11日	230
	「Collection in FOCUS 糸を紡ぐ女性の表象：カヴァッリーノとセ ガンティーニ」（2点）	令和6年2月27日～ 令和7年2月11日	207
国立国際美術館	コレクション2 身体—身体（84点）	令和6年2月6日～ 令和6年4月8日	6
	コレクション1 彼女の肖像（103点）	令和6年11月2日～ 令和7年1月26日	67
	コレクション2 Undo, Redo わたしは解く、やり直す（67点）	令和7年2月15日～ 令和7年6月1日	38

別表2 企画展

館名	展覧会名	開催日数		入館者数		満足度		企画 観点	共催者
		実績	目標	実績	目標	実績	目標		
東京国立近代美術館（本館）	中平卓馬 火一氾濫	6 (55)	6 (55)	8,251 (36,670)	2,000 (18,000)	84.0%	85.6%	ホ	朝日新聞社
	TRIO パリ・東京・大阪 モダンアート・コレクション	83	84	97,768	98,000	83.9%		イ、ニ、ホ	大阪中之島美術館、日本経済新聞社、テレビ東京、BSテレビ東京
	ハニワと土偶の近代	73	72	83,055	64,000	75.8%		イ、ニ、ホ	NHK、NHK プロモーション、毎日新聞社
	ヒルマ・アフ・クリント展	25	25 (91)	28,976	43,200 (162,000)	-		イ、ホ	日本経済新聞社、NHK
	小計	187	187	218,050	207,200	80.9%			
国立工芸館	卒寿記念 人間国宝 鈴木藏の志野展	57 (69)	57 (69)	7,873 (9,881)	12,100 (14,600)	87.9%	85.6%	ニ、ホ	NHK エンタープライズ中部、北國新聞社
	心象工芸展	75	75	12,907	22,000	89.4%		ロ、ハ	-
	小計	132	132	20,780	34,100	88.8%			
京都国立近代美術館	没後100年 富岡鉄斎	48	48	28,363	16,000	91.6%	85.6%	ニ	清荒神清澄寺鉄斎美術館、毎日新聞社、京都新聞
	倉俣史朗のデザインー記憶のなかの小宇宙	60	60	28,333	28,000	95.0%		ハ、ニ、ホ	朝日新聞社
	LOVE ファッションー私を着がえるとき	63	63	37,659	42,000	92.2%		ロ、ハ	公益財団法人京都服飾文化研究財団(KCI)
	生誕120年 人間国宝 黒田辰秋ー木と漆と螺鈿の旅ー	61	61	23,554	27,000	96.1%		ニ	-
	〈若きポーランド〉ー色彩と魂の詩 1890-1918	6 (79)	6 (79)	2,099 (42,000)	3,000 (42,000)	-		イ、ホ	クラフ国立博物館、NHK京都放送局、NHK エンタープライズ近畿、京都新聞

	小計	238	238	120,008	116,000	93.8%			
国立西洋美術館	ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？—国立西洋美術館 65 年目の自問 現代美術家たちへの問いかけ	37 (56)	37 (56)	37,673 (54,663)	20,000 (30,000)	76.1%	85.6%	ロ、ニ	—
	内藤コレクション 写本—いとも優雅なる中世の小宇宙	67	67	80,084	54,000	91.5%		ニ、ホ	朝日新聞社
	モネ 睡蓮のとき	108	108	807,566	480,000	88.1%		イ	マルモッタン・モネ美術館、日本テレビ放送網、読売新聞社、BS日テレ
	西洋絵画、どこから見るか？—ルネサンスから印象派まで サンディエゴ美術館 vs 国立西洋美術館	19 (79)	19 (79)	50,431 (164,000)	40,000 (164,000)	—		イ、ロ	サンディエゴ美術館、日本経済新聞社、TBS、TBS グロウディア、テレビ東京
	小計	231	231	975,754	594,000	87.3%			
国立国際美術館	古代メキシコ —マヤ、アステカ、テオティワカン	32 (80)	32 (80)	69,329 (137,585)	40,000 (100,000)	98.8%	85.6%	イ	NHK 大阪放送局、NHK エンタープライズ近畿、朝日新聞社
	梅津庸一 クリスタルパレス	107	108	23,915	30,000	78.9%		イ	—
	線表現の可能性	67	67	20,938	19,000	82.3%		ホ	—
	ノー・バウンダリーズ	32 (86)	32 (86)	10,185 (24,000)	9,000 (24,000)	—		ロ、ハ	—
	小計	238	239	124,367	98,000	96.9%			
国立新美術館	マティス 自由なフォルム	50 (91)	50 (91)	157,931 (262,734)	160,000 (290,000)	94.6%	85.6%	イ	ニース市マティス美術館、読売新聞社、日本テレビ放送網
	遠距離現在 Universal / Remote	56 (79)	56 (79)	26,958 (34,979)	22,000 (30,000)	88.7%		イ、ロ、ニ	—
	CLAMP 展	72	72	248,005	110,000	95.7%		ハ	CLAMP 展製作委員会

	田名網敬一 記憶の冒険	84	84	88,274	101,000	97.4%		ホ	朝日新聞社、 独立行政法人 日本芸術文化 振興会、文化 庁
	荒川ナッシュ医 ペインティ ングス・アー・ポップスター ズ	42	42	43,683	22,000	82.9%		イ、 ロ	－
	リビング・モダニティ 住ま いの実験 1920s-1970s	12	12 (91)	16,895 (108,000)	14,000	－		ロ、 ニ、 ホ	東京新聞、独 立行政法人日 本芸術文化振 興会、文化庁
	小計	316	316	581,746	429,000	93.8%			
合計		1,342	1,343	2,040,705	1,478,300	90.3%			

※ 別表2に記載の「企画観点」は以下のとおり。（別表3及び4についても同様。）

- (イ) 国際的視野に立ち、アジア諸地域を含め海外の主要美術館と連携し、確固たる評価を得ている世界の美術や海外の美術の新たな動向を紹介するとともに、我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介し、国際的な美術動向に位置付ける展覧会等に積極的に取り組む。
- (ロ) 展覧会テーマの設定や他の芸術文化との連携による展示方法等について方向性を提示することに取り組む。
- (ハ) メディアアート、アニメ、マンガ、デザイン、建築など我が国が世界から注目される新しい領域の芸術表現を積極的に取り上げ、最先端の現代美術への関心を促す。
- (ニ) 国内の美術館と連携し、我が国に所在するコレクションの積極的活用を図る。
- (ホ) 過去の埋もれていた作家・作品・動向の発見や再評価に取り組み、国際的な美術動向に位置付ける展覧会に積極的に取り組む。

※ 会期が年度をまたぐものは、通期の数値を括弧書きで記載している。以下同じ。

別表3 映画上映会（国立映画アーカイブ）

上映会名		上映日数		上映回数	入館者数		満足度		企画 観点	共催者
		実績	目標	実績	実績	目標	実績	目標		
1	生誕100年 高峰秀子	24	24	54	8,694	6,500	96.8%	91.5%	ニ	－
2	サイレントシネマ・デイズ2024	6	6	12	1,492	1,000	75.8%		ロ	－
3	日本映画と音楽 1950年代から1960年代の作曲家たち	56	56	129	15,982	13,000	95.4%		ロ	－
4	返還映画コレクション (2) 一第一次／二次・劇映画篇	22	22	49	6,492	5,500	94.4%		ホ	－
5	第46回びあフィルムフェスティバル2024	13	13	52	5,017	3,000	95.8%		ロ	一般社団法人PFF、 公益財団法人川喜多 記念映画文化財団、 公益財団法人ユニジ ャパン
6	没後50年 映画監督 田坂具隆	30	30	68	9,578	8,000	91.4%		ホ	－
7	TIFF/NFAJ クラシックス 映画監督 吉田喜重	6	6	12	999	1,500	81.3%		イ	東京国際映画祭
8	映画監督 アンジェイ・ワイダ	15	15	30	4,483	4,000	92.0%		イ	アダム・ミツキエヴ イチ・インスティテ ュート
9	メキシコ映画の大回顧	30	30	60	7,360	8,500	96.0%		イ	メキシコ国立自治大 学（UNAM）フィルモ テカ、メキシコ・シ ネテカ・ナシオナ ル、メキシコ映画機 構（IMCINE）
10	日本の女性映画人（3） —1990年代	36	36	75	6,713	7,500	97.6%		イ	－
11	NFAJ コレクション 2025 春 ——横浜と映画	9	9	18	2,349	1,500	94.6%		ロ	－
合計		247	247	559	69,159	60,000	93.9%			

別表4 展覧会（国立映画アーカイブ）

展覧会名		開催日数		入館者数		満足度		企画観点	共催者
		実績	目標	実績	目標	実績	目標		
1	日本映画と音楽 1950年代から1960年代の作曲家たち	112	112	7,492	6,500	92.5%	93.8%	ホ	－
2	没後50年 映画監督 田坂具隆	68	68	3,690	3,500	95.7%		ホ	－
3	映画監督 アンジェイ・ワイド	81	81	5,232	4,500	91.3%		イ	日本美術技術博物館 Manggha、アダム・ミツ キューヴィチ・インステ イテュート
合計		261	261	16,414	14,500	92.8%			

別表5 地方巡回展・巡回上映等

地方巡回展 （企画館：京都国立近代美術館）	開催館	開催日数	入館者数	満足度調査	
				実績	目標
写真をめぐる100年のものがたり 京都国立近代美術館コレクション を中心に	静岡市美術館	39	7,437	68.6%	80.0%
超絶技巧からモダンへ 京都・近 代工芸の新展開	長崎県美術館	55	7,794	80.7%	80.0%
合計		94	15,231	74.7%	
優秀映画鑑賞推進事業 （企画館：国立映画アーカイブ）	会場数	開催日数	入館者数	満足度調査	
				実績	目標
令和6年度優秀映画鑑賞推進事業	97	183	24,542	91.0%	80.0%
巡回上映会・展覧会名 （企画館：国立映画アーカイブ）	会場数	開催日数	入館者数	満足度調査	備考（会場）
Comic Legacies on the Japanese Silver Screen（日本映画におけ る喜劇の遺産）	1	3	191	－	イエール大学人文科学ク アドラングル内アリス・ シネマ（米国コネチカッ ト州ニューヘイヴン）
Kenji Misumi （三隅研次監督特集）	1	32	10,012	－	シネマテーク・フランセ ーズ（フランス・パリ）
Hiroshi Shimizu（映画監督：清 水宏）	3	42	3,727	－	①映像美術館（MoMI） ②ジャパン・ソサエティ ③カリフォルニア大学バ ークレー美術館・パシフ ィックフィルムアーカイ ブ
MoMAK Films 2024	1	8	418	94.1%	京都国立近代美術館
こども映画館 スクリーンで見る 日本アニメーション！	6	13	852	－	①前橋シネマハウス（群 馬県前橋市） ②シネマテークたかさき （群馬県高崎市） ③鎌倉市川喜多映画記念 館（神奈川県鎌倉市） ④パフィオうわじま（宇 和島市学習交流センタ

					一) (愛媛県宇和島市) ⑤シネ・ヌーヴォ (大阪市) ⑥ 邑の映画会 (群馬県邑楽町)
メキシコ映画の大回顧①	1	18	832	-	福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ
メキシコ映画の大回顧②	1	11	1,098	-	京都府京都文化博物館フィルムシアター
第 27 回中之島映像劇場「1970 年」	1	1	195	100.0%	国立国際美術館
合計	15	128	17,325	97.1%	

別表 6 公募展示室における展覧会毎の入場者数

タイトル (主催団体名)		会期	年度内		会期全体	
			開催日数 (日)	入館者数 (人)	開催日数 (日)	入館者数 (人)
1	第 77 回 日本アンデパンダン展 (主催：日本美術会)	令和 6 年 3 月 20 日～ 令和 6 年 4 月 1 日	1	990	12	10,920
2	公募第 64 回 日本南画院展 (主催：公益社団法人 日本南画院)	令和 6 年 3 月 20 日～ 令和 6 年 4 月 1 日	1	292	11	5,575
3	白日会創立百周年記念展 (主催：白日会)	令和 6 年 3 月 21 日～ 令和 6 年 4 月 1 日	1	1,305	12	16,162
4	第 83 回 創元展 (主催：一般社団法人 創元会)	令和 6 年 4 月 3 日～ 令和 6 年 4 月 15 日	12	11,710	12	11,710
5	第 77 回 示現会展 (主催：一般社団法人 示現会)	令和 6 年 4 月 3 日～ 令和 6 年 4 月 15 日	12	11,511	12	11,511
6	第 83 回 水彩連盟展 (主催：水彩連盟)	令和 6 年 4 月 3 日～ 令和 6 年 4 月 15 日	12	8,446	12	8,446
7	第 110 回記念 光風会展 (主催：一般社団法人 光風会)	令和 6 年 4 月 17 日～ 令和 6 年 4 月 29 日	12	14,853	12	14,853
8	第 101 回 春陽展 (主催：一般社団法人 春陽会)	令和 6 年 4 月 17 日～ 令和 6 年 4 月 29 日	12	18,839	12	18,839
9	第 39 回 全国公募書道展 (主催：現代日本書家協会)	令和 6 年 4 月 17 日～ 令和 6 年 4 月 29 日	12	4,798	12	4,798
10	第 98 回 国展 (主催：国画会)	令和 6 年 5 月 1 日～ 令和 6 年 5 月 13 日	12	65,257	12	65,257
11	第 119 回 太平洋展 (主催：一般社団法人 太平洋美術会)	令和 6 年 5 月 15 日～ 令和 6 年 5 月 27 日	12	13,057	12	13,057
12	76 回 三軌展 (主催：三軌会)	令和 6 年 5 月 15 日～ 令和 6 年 5 月 27 日	12	11,200	12	11,200
13	DESIGN MUSEUM JAPAN 展 2024～集めてつなごう 日本のデザイン～ (主催：NHK プロモーション・独立行政法人 日本芸術文化振興会、文化庁)	令和 6 年 5 月 16 日～ 令和 6 年 5 月 26 日	10	8,844	10	8,844
14	第 7 回 国際公募 東京アート工芸 2024 (主催：一般社団法人 東京アート工芸)	令和 6 年 5 月 16 日～ 令和 6 年 5 月 26 日	10	8,288	10	8,288

15	第14回 世界平和芸術家協会展 (主催：世界平和芸術家協会)	令和6年5月17日～ 令和6年5月26日	9	9,549	9	9,549
16	第80回記念 現展 (主催：現代美術家協会)	令和6年5月29日～ 令和6年6月10日	12	10,293	12	10,293
17	第93回 第一美術展 (主催：第一美術協会)	令和6年5月29日～ 令和6年6月10日	12	12,136	12	12,136
18	第38回 日洋展 (主催：一般社団法人 日洋会)	令和6年5月29日～ 令和6年6月10日	12	11,517	12	11,517
19	第23回 国際公募国際墨画会展 (主催：一般社団法人 国際墨画会)	令和6年6月12日～ 令和6年6月24日	12	11,816	12	11,816
20	第49回 日本自由画壇展 (主催：日本自由画壇)	令和6年6月12日～ 令和6年6月24日	12	5,600	12	5,600
21	第28回 日仏現代国際美術展 (主催：サロン・ブラン美術協会)	令和6年6月12日～ 令和6年6月24日	12	6,690	12	6,690
22	第57回 たぶろう展 (主催：たぶろう美術協会)	令和6年6月12日～ 令和6年6月24日	12	5,205	12	5,205
23	第52回 「日本の書展」東京展 (主催：公益財団法人 全国書美術振興会)	令和6年6月13日～ 令和6年6月23日	10	10,262	10	10,262
24	第63回 書象展 (主催：書象会)	令和6年6月13日～ 令和6年6月23日	10	5,726	10	5,726
25	公募第39回 日本水墨院展 (主催：日本水墨院)	令和6年6月26日～ 令和6年7月7日	11	10,040	11	10,040
26	第43回 日本教育書道藝術院同人書作展 (主催：日本教育書道藝術院)	令和6年6月26日～ 令和6年7月7日	11	5,694	11	5,694
27	第58回 貞香書展 (主催：貞香会)	令和6年6月26日～ 令和6年7月7日	11	5,367	11	5,367
28	2024・27th 国際公募アート未来展 (主催：アート未来)	令和6年6月26日～ 令和6年7月8日	12	4,285	12	4,285
29	第63回 蒼騎展 (主催：蒼騎会)	令和6年6月26日～ 令和6年7月8日	12	9,666	12	9,666
30	第51回 日象展 (主催：日本表象美術協会)	令和6年6月26日～ 令和6年7月8日	12	5,444	12	5,444
31	千紫会 公募 万紅展 (主催：千紫会)	令和6年6月27日～ 令和6年7月7日	10	6,271	10	6,271
32	第2回 蛙園会書展 (主催：蛙園会)	令和6年6月27日～ 令和6年7月7日	10	6,411	10	6,411
33	第75回 毎日書道展 (主催：一般財団法人 毎日書道会・毎日新聞社)	令和6年7月10日～ 令和6年8月4日	23	32,819	23	32,819
34	第25回 高校生国際美術展 (主催：特定非営利活動法人 世界芸術文化振興協会)	令和6年8月7日～ 令和6年8月18日	11	8,825	11	8,825
35	第71回 新美術展 (主催：一般社団法人 新美術協会)	令和6年8月7日～ 令和6年8月19日	12	3,003	12	3,003
36	第7回 日美展 (主催：公益財団法人 国際文化カレッジ)	令和6年8月8日～ 令和6年8月17日	9	14,540	9	14,540
37	第56回 現代書作家協会展 (主催：現代書作家協会)	令和6年8月8日～ 令和6年8月18日	10	4,751	10	4,751

38	第 74 回 学展 (主催：日本学生油絵会)	令和 6 年 8 月 8 日～ 令和 6 年 8 月 18 日	10	4,380	10	4,380
39	第 25 回 日本・フランス現代美術世界展 (主催：JIAS 日本国際美術家協会)	令和 6 年 8 月 8 日～ 令和 6 年 8 月 18 日	10	9,869	10	9,869
40	第 40 回 読売書法展 東京展 (主催：読売書法会・読売新聞社)	令和 6 年 8 月 23 日～ 令和 6 年 9 月 1 日	9	15,281	9	15,281
41	第 108 回 二科展 (主催：公益社団法人 二科会)	令和 6 年 9 月 4 日～ 令和 6 年 9 月 16 日	12	72,743	12	72,743
42	第 87 回 新制作展 (主催：新制作協会)	令和 6 年 9 月 18 日～ 令和 6 年 9 月 30 日	12	43,315	12	43,315
43	第 79 回 行動展 (主催：行動美術協会)	令和 6 年 9 月 18 日～ 令和 6 年 9 月 30 日	12	18,432	12	18,432
44	第 88 回 自由美術展 (主催：自由美術協会)	令和 6 年 10 月 2 日～ 令和 6 年 10 月 14 日	12	11,524	12	11,524
45	第 70 回 一陽展 (主催：一陽会)	令和 6 年 10 月 2 日～ 令和 6 年 10 月 14 日	12	13,951	12	13,951
46	第 58 回 一期展 (主催：一期会)	令和 6 年 10 月 2 日～ 令和 6 年 10 月 14 日	12	7,357	12	7,357
47	第 91 回 独立展 (主催：独立美術協会)	令和 6 年 10 月 16 日～ 令和 6 年 10 月 28 日	12	19,258	12	19,258
48	第 77 回 二紀展 (主催：一般社団法人 二紀会)	令和 6 年 10 月 16 日～ 令和 6 年 10 月 28 日	12	23,045	12	23,045
49	第 29 回 瓦・造形展 (主催：瓦・造形会)	令和 6 年 10 月 17 日～ 令和 6 年 10 月 28 日	11	753	11	753
50	第 11 回 日展 (主催：公益社団法人 日展)	令和 6 年 11 月 1 日～ 令和 6 年 11 月 24 日	21	79,208	21	79,208
51	JAGDA 国際学生ポスターアワード 2024 (主催：公益社団法人 日本グラフィックデザイン協会)	令和 6 年 11 月 27 日～ 令和 6 年 12 月 9 日	12	9,329	12	9,329
52	第 96 回 新構造展 (主催：一般社団法人 新構造社)	令和 6 年 11 月 27 日～ 令和 6 年 12 月 9 日	12	6,844	12	6,844
53	第 49 回 秋耕展 (主催：一般社団法人 秋耕会)	令和 6 年 11 月 27 日～ 令和 6 年 12 月 9 日	12	5,203	12	5,203
54	21 世紀アートボードレス展 Monumental (主催：21 世紀アートボードレス展実行委員会)	令和 6 年 11 月 28 日～ 令和 6 年 12 月 7 日	9	16,760	9	16,760
55	第 14 回 躍動する現代作家展 (主催：一般社団法人 空間芸術 TORAM)	令和 6 年 11 月 28 日～ 令和 6 年 12 月 8 日	10	2,517	10	2,517
56	2024 年度 第 49 回全国伝統的工芸品公募展 (主催：一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会)	令和 6 年 11 月 29 日～ 令和 6 年 12 月 9 日	10	7,757	10	7,757
57	第 5 回 カルチャー芸術展 (主催：株式会社カルチャー)	令和 6 年 11 月 29 日～ 令和 6 年 12 月 9 日	10	13,098	10	13,098
58	ナナ展 (主催：一般社団法人 七草會)	令和 6 年 11 月 29 日～ 令和 6 年 12 月 9 日	10	4,144	10	4,144
59	第 31 回 雪舟国際美術協会展 (主催：一般社団法人 雪舟国際美術協会)	令和 6 年 12 月 11 日～ 令和 6 年 12 月 22 日	11	10,218	11	10,218

60	第49回 土日会展 (主催：土日会)	令和6年12月11日～ 令和6年12月23日	12	4,419	12	4,419
61	Idemitsu Art Award 展 2024 (主催：Idemitsu Art Award 事務局・出光興産株式会社)	令和6年12月11日～ 令和6年12月23日	12	6,073	12	6,073
62	第37回 国際架橋書展 (主催：特定非営利活動法人 国際架橋書会)	令和6年12月11日～ 令和6年12月23日	12	3,123	12	3,123
63	第42回 白峰社書展 (主催：白峰社)	令和6年12月11日～ 令和6年12月23日	12	5,082	12	5,082
64	第53回 公募全書芸展 (主催：株式会社 全日本書芸文化院)	令和6年12月12日～ 令和6年12月23日	11	6,042	11	6,042
65	第73回 独立書展 (主催：公益財団法人 独立書人団)	令和6年1月15日～ 令和6年1月20日	6	17,823	6	17,823
66	第37回 平泉展 ～楽しい手作り～ (主催：特定非営利活動法人 平泉会)	令和7年1月22日～ 令和7年2月3日	12	9,577	12	9,577
67	第47回 国際書画展 (主催：国際書画連盟)	令和7年1月22日～ 令和7年2月3日	12	7,726	12	7,726
68	第41回 産経国際書展 新春展 (主催：産経国際書会)	令和7年1月22日～ 令和7年2月3日	12	3,108	12	3,108
69	第13回 シャドーボックス展 (主催：シャドーボックス展実行委員会)	令和7年1月23日～ 令和7年2月1日	9	10,424	9	10,424
70	国際公募展 美は国境を越えて 2025 (主催：国際墨友会)	令和7年1月23日～ 令和7年2月2日	10	7,091	10	7,091
71	第6回 和紙ちぎり絵創作展 (主催：株式会社ハクビ 和紙ちぎり絵学院)	令和7年1月23日～ 令和7年2月3日	11	1,626	11	1,626
72	第23回 NAU21世紀美術連立展 (主催：NAU21世紀美術連立協会)	令和7年2月5日～ 令和7年2月16日	11	10,348	11	10,348
73	東京書作展 選抜作家展 2025 (主催：東京書作展 東京新聞)	令和7年2月5日～ 令和7年2月16日	11	4,057	11	4,057
74	第57回 等迦展 (主催：美術団体 等迦会)	令和7年2月5日～ 令和7年2月17日	12	7,809	12	7,809
75	第69回 新槐樹社展 (主催：新槐樹社)	令和7年2月5日～ 令和7年2月17日	12	5,974	12	5,974
76	第65回 日本書作院展 (主催：日本書作院)	令和7年2月6日～ 令和7年2月16日	10	11,507	10	11,507
77	第34回 全日本アートサロン絵画大賞展 (主催：全日本アートサロン絵画大賞展実行委員会・産経新聞社)	令和7年2月6日～ 令和7年2月17日	11	3,535	11	3,535
78	第50回 あきつ会書道展 (主催：あきつ会)	令和7年2月7日～ 令和7年2月16日	9	3,705	9	3,705
79	第65回 現日春季書展 (主催：現日会)	令和7年2月19日～ 令和7年3月3日	12	5,546	12	5,546
80	2024年度 第48回 東京五美術大学 連合卒業・修了制作展 (主催：東京五美術大学（東京造形大学・日本大学芸術学部・武蔵野美術大学・多摩美術大学・女子美術大学）)	令和7年2月21日～ 令和7年3月2日	9	17,136	9	17,136

81	DOUBLE ANNUAL 2025 (主催：京都芸術大学)	令和7年2月22日～ 令和7年3月2日	8	6,089	8	6,089
82	2025 汎美展 (主催：汎美術協会)	令和7年3月5日～ 令和7年3月17日	12	8,466	12	8,466
83	第61回 創玄展 (主催：公益社団法人 創玄書道会)	令和7年3月6日～ 令和7年3月16日	10	19,613	10	19,613
84	第78回 日本アンデパンダン展 (主催：日本美術会)	令和7年3月19日～ 令和7年3月31日	12	13,103	12	13,103
85	公募第65回 日本南画院展 (主催：公益社団法人 日本南画院)	令和7年3月19日～ 令和7年3月31日	12	4,541	12	4,541
86	第101回 白日会展 (主催：白日会)	令和7年3月20日～ 令和7年3月31日	11	16,232	11	16,232

※ 「2024年度 第48回 東京五美術大学 連合卒業・修了制作展」の入館者数は参考値

別表7 展覧会毎の批評・レビューの状況（掲載数及び掲載媒体数）

展覧会名		新聞	その他（※）	合計
1	マティス 自由なフォルム	11	26	37
2	遠距離現在 Universal / Remote	19	32	51
3	CLAMP 展	9	31	40
4	田名網敬一 記憶の冒険	40	40	80
5	荒川ナッシュ医 ペインティングス・アー・ポップスターズ	22	20	42
6	NACT View 04 和田礼治郎：FORBIDDEN FRUIT	0	2	2
合計		101	151	252

※ 「その他」は雑誌、ウェブ掲載数である。

別表8 企画展示室における現代作家を採り上げた展覧会の実施回数及び採り上げた作家の人数

展覧会（回）	6回	作家（人）	57人	
展覧会名		作家名		会期
1	遠距離現在 Universal / Remote	井田大介、徐冰（シュ・ビン）、トレヴァー・パグレン、ヒト・シュタイエル、ジョルジ・ガゴ・ガゴシツェ、ミロス・トラキロヴィチ、地主麻衣子、ティナ・エングホフ、チャ・ジェミン、エヴァン・ロス、木浦奈津子		令和6年3月6日～ 令和6年6月3日
2	CLAMP 展	CLAMP		令和6年7月3日～ 令和6年9月23日
3	田名網敬一 記憶の冒険	田名網敬一		令和6年8月7日～ 令和6年11月11日
4	荒川ナッシュ医 ペインティングス・アー・ポップスターズ	荒川ナッシュ医、フォレスト・荒川ナッシュ、ケルスティン・ブレチュ、トニー・コンラッド、千葉雅也、レイディ・チャーチマン、ブルース・コナー、マヤ・デレン、ニコール・アイゼンマン、キム・ゴードン、ハトリ・ミホ、セリア・ホランダー、カール・ホルムキュビスト、石川隼大、石川昇、ミヨコ・イトウ、桂ゆき、河原温、ユタ・クータ、丸木俊（赤松俊子）、寺尾紗穂、南川史門、森大志郎、村瀬歩、オスカー・ムリーリョ、ルイス・ニシザワ、シルケ・オットー＝ナツプ、ローラ・オーエンズ、ゲラ・パタシュリ、ダン・ポストン、セス・プライス、斎藤玲児、トレパー・シミズ、白髪富士子、エイミー・シルマン、田中敦子、富井玲子、フリーダ・トランゾ・イエーガー、ユナイテッド・ブラザーズ（荒川ナッシュ医＋荒川智雄）、八重樫ゆい、吉原治良		令和6年10月30日～ 令和6年12月16日
5	NACT View 04 和田礼治郎：FORBIDDEN FRUIT	和田礼治郎		令和6年1月24日～ 令和6年6月10日 ※パブリックスペースで展示
6	六本木アートナイト2024	小寺創太、ジェニファー・ウェン・マ		令和6年9月27日～ 令和6年9月29日 ※パブリックスペースで展示

別表9 調査研究一覧

ア 国立アートリサーチセンター			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	国立美術館所蔵作品の科学調査	コレクションの保存	国立国際美術館、奈良文化財研究所、国立西洋美術館、東京国立近代美術館、東京文化財研究所
2	美術作品の保存に関する研究	コレクションの保存	国立美術館各館
3	文化財修復処置に関するワークショップーモジュラー・クリーニング・プログラムの利用についてー」の報告書作成	コレクションの保存	東京文化財研究所
4	保存修復専門家向けの基礎科学の英文テキストの翻訳	コレクションの保存	東京文化財研究所
5	現代美術作品の保存に関する研究	コレクションの保存	国立美術館各館および外部研究協力者等
6	国立美術館の所蔵品を活用した展覧会	国立美術館巡回展、国立美術館 コレクション・プラス	国立美術館各館、栃木県立美術館
7	写真の保存に関するワークショップ、講演会	コレクションの保存	東京文化財研究所、京都国立近代美術館
8	国内美術館収蔵品の調査と情報収集	ウェブサイト「アートプラットフォームジャパン」（以下、APJ）の「全国美術館収蔵品サーチ（SHŪZŌ）を通じて公開	全国の美術館
9	日本のアーティストに関する調査と情報収集	APJの「日本アーティスト事典」を通じて公開	外部研究協力者等
10	日本の画廊に関する調査と情報収集	APJの「日本の画廊・アートスペース」を通じて公開	外部研究協力者等
11	日本のアート分野レファレンス・ツールの調査と情報収集	APJを通じて公開	—
12	国立美術館所蔵作品に関する画像・歴史的情報等の公開データの拡充	独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムを通じて公開	法人各館
13	独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムと、国立国会図書館が運営するジャパンサーチ、文化庁文化遺産オンラインとの連携の継続維持	ジャパンサーチ、文化遺産オンラインを通じて公開	国立国会図書館、文化庁
14	超高齢社会に向けた、福祉・医療分野との共同研究 「共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点」 （科学技術振興機構：産学が連携した研究開発成果の展開 研究成果展開事業 共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）共創分野（本格型）2023年4月－2032年3月 研究課題リーダー稲庭彩和子）	多様なオーディエンス層への対応：ウェブサイト「ああとも TODAY」運営、展示・出展	東京藝術大学、他
15	超高齢社会に向けた、地域行政との共同調査	川崎市民ミュージアムの写真資料を基にした展示とワークショップ	川崎市
16	高齢者の美術館利用や作品鑑賞の効果測定	高齢者フレンドリーのワークショップ実施	川崎市・東京藝大

17	美術館のアクセシビリティについての調査	多様なオーディエンス層への対応：「ミュージアム・アクセシビリティ講座 ふかふかTV」	滋賀県立美術館、他
18	先進的な教育普及プログラムやコンテンツの調査研究	ラーニングの充実：指導者研修の充実、報告書の刊行	法人各館
19	多様性、公平性、アクセシビリティ、包摂性に関する調査	多様なオーディエンス層への対応：DEAI リサーチラボによるウェブサイトへの記事掲載	—
20	日本の美術館に関する一般的な意識調査（2024 年度）	美術館に関する意識を広く確認することを目的として実施	—
21	1920-50 年代のデザイン／工芸の実践に関する基礎的研究 （科研費 基盤 C 研究代表者：中尾優衣、令和 3 年度～令和 6 年度）	作品及び文献調査、『東京国立近代美術館研究紀要』29 号にて研究成果の一部を発表	武蔵野美術大学 美術館・図書館、一般財団法人 印刷図書館
22	若年層における美術館やアート全般に対する意識調査	15～25 歳の若年層における、美術館やアート全般に対する意識を確認することを目的として実施	—
イ 東京国立近代美術館			
（本館）			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	中平卓馬に関する総合的な研究	「中平卓馬 火一氾濫」展を企画構成、開催、図録を発行	—
2	東京、大阪、パリにおける近代美術の比較研究	「TRIO」展を企画構成、開催、図録を発行	大阪中之島美術館、パリ市立近代美術館
3	ハニワ・土偶と近代美術に関する研究	「ハニワと土偶の近代」展を企画構成、開催、図録を発行	—
4	ヒルマ・アフ・クリントと 20 世紀の抽象美術	「ヒルマ・アフ・クリント」展を企画構成、開催、図録を発行	ヒルマ・アフ・クリント財団
5	戦時下のメディア空間と戦争画	「コレクションを中心とした特集 記録をひらく 記憶をつむぐ」展の資料展示に反映	—
6	戦後美術とジェンダー	「アンチアクション展」を企画構成、開催、図録を発行	豊田市美術館、兵庫県立美術館
7	速水御舟資料の調査研究	紀要での成果発表	川越市立美術館、小林古径記念美術館他
8	「MOMAT コレクション」	—	—
9	「MOMAT コレクション 特集：美術館の春まつり」	—	—
10	デジタルカメラによる作品撮影及び画像アーカイブ構築のための撮影機材の比較	—	西川茂（写真家）
11	「ジャン（ハンス）・アルプ資料の調査研究」	—	アルプ財団（ドイツ）
12	美術館におけるデジタル・アーカイブの構築	—	—
13	学校・生涯学習団体を対象とする鑑賞教育の推進	年間を通じた学校の受け入れ	—
14	企画展示やコレクション展関連のワークショップ、鑑賞ガイド等の推進	美術課と教育普及室との共同で、教育的な配慮を含めたハイライトコーナーの新たな展示方法を提案	—

15	ビジネスパーソン、特別支援学校、訪日外国人など、特定の層に向けての鑑賞プログラムの推進	対面・無料での英語による鑑賞プログラム「Let's Talk Art」が定着した。企業向けのプログラムも実施。特別支援学校との連携も実施した。	—
16	ガイドスタッフ、英語ファシリテータによる鑑賞プログラムの質の向上のための研修の推進	—	—
(国立工芸館)			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	鈴木藏と桃山の陶芸	「卒寿記念 人間国宝 鈴木藏の志野展」の企画、図録の発行	江別市セラミックアートセンター、東根市美術館、富山県水墨美術館、岐阜県現代陶芸美術館
2	国立工芸館と周辺美術館・博物館との連携について	観覧料金の相互割引	石川県立美術館、金沢21世紀美術館、金沢市立中村記念美術館ほか
3	現代工芸における心象表現について	「心象工芸展」企画構成、図録	—
4	石川の若手工芸家に関する調査研究	「心象工芸展」企画構成、図録	—
5	美術館の宣伝・広報活動	SNS 発信およびそれに伴うフォロワー数の増加	金沢21世紀美術館、パナソニック汐留美術館ほか
6	工芸作品における製作技術と造形表現の関係について	「反復と偶然展」企画構成、リーフレット	—
7	児童を対象とする工芸作品の鑑賞教育の推進	「おとなとこどもの自由研究 工芸の光と影展」子供向けセルフガイド	—
8	工芸制作における言語活動の推進について	研究授業の共同開催	石川県図工・美術教育研究会、石川県教育総合研修センター
9	工芸作品の鑑賞における高精細デジタル鑑賞システムの作成について	2D 鑑賞システムへの追加データの実装	株式会社 DNP アートコミュニケーションズ
10	所蔵作品のデータベース構築とその活用について	所蔵作品の適切な管理と活用	—
11	工芸館におけるデジタル・アーカイブの構築	デジタル・コンテンツの整備を行い、将来的なデジタル・アーカイブの構築の準備を進めた	—
12	近代日本における中国陶磁研究への新たな視座—小森忍の活動を通して	令和7年度開催予定の展覧会にて研究成果の一部を発表予定	科学研究費補助金、5年目
13	植物文様作品を中心とした所蔵作品調査	「花と暮らす展」企画構成、リーフレット	—
ウ 京都国立近代美術館			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	所蔵作品（工芸）に関する研究	コレクション展に反映	—
2	小林正和と1970年代以降のファイバーアートの展開について	展覧会「小林正和とその時代—ファイバーアート、その向こうへ」を企画構成、開催、図録を発行	岡山県立美術館、ギャラリー・ギャラリー

3	富岡鉄斎に関する研究	展覧会「没後 100 年 富岡鉄斎」を企画構成、開催、図録を発行	鉄斎美術館、碧南市藤井達吉現代美術館、富山県水墨美術館
4	版画とグラフィックデザインの交錯と境界：1950-70 年代の日本を中心に	展覧会「印刷／版画／グラフィックデザインの断層 1957-1979」を企画構成、開催、小冊子を発行	国立工芸館、国立アートリサーチセンター
5	倉俣史朗のデザインとその思想に関する研究	展覧会「倉俣史朗のデザインー記憶のなかの小宇宙」を企画構成、開催、図録を発行	富山県立美術館、世田谷美術館、クラマタデザイン事務所
6	ファッションとアートにおける自然・身体・アイデンティティをめぐる研究	展覧会「LOVE ファッションー私を着がえるとき」を企画構成、開催、図録を発行	京都服飾文化研究財団、熊本市現代美術館、東京オペラシティアートギャラリー
7	黒田辰秋に関する研究	展覧会「生誕 120 年 人間国宝 黒田辰秋ー木と漆と螺鈿の旅ー」を企画構成、開催、図録を発行	豊田市美術館
8	上方文化サロン：人的ネットワークから解き明かす文化創造空間 1780-1880	コレクション研究、コレクション展に反映	大英博物館、立命館大学アート・リサーチセンター
9	「若きポーランド (Young Poland)」についての総合的研究ー日本美術との関連に注目して	展覧会「〈若きポーランド〉ー色彩と魂の詩 1890-1918」を企画構成、開催、図録を発行	クラクフ国立博物館
10	堂本印象に関する研究	展覧会「没後 50 年 堂本印象 自在なる創造」の開催に向けて準備を進めた	富山県水墨美術館
11	日本映画を中心とする研究	国立映画アーカイブ (NFAJ) との共催による映画上映会「MoMAK Films」を実施	国立映画アーカイブ
12	児童生徒を対象とする鑑賞教育	美術館を活用した学習支援活動の実施など	京都市図画工作教育研究会、京都市立中学校教育研究会美術部会
13	障害の有無に関わらず多感覚で享受できるユニバーサルな美術鑑賞プログラム	障害の有無に関わらず多感覚で享受できるユニバーサルな美術鑑賞プログラムの企画実施など	国立民族学博物館、京都大学総合博物館、京都府立盲学校、京都市立芸術大学、大阪教育大学
14	美術館の教育普及活動	展覧会に関連したワークショップの開催	ー
15	20 世紀後半の現代陶芸の動向についての基礎的研究 (科研費 基盤研究 C 研究代表者：宮川友美、令和 3 年度～令和 7 年度)	コレクション展に反映	科学研究費補助金、4 年目
エ 国立映画アーカイブ			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	メキシコ映画の歴史	特集上映「メキシコ映画の大回顧」を企画、開催	メキシコ国立自治大学 (UNAM) フィルモテカ、メキシコ・シネテカ・ナショナル、メキシコ映画機構 (IMCINE)
2	映画俳優高峰秀子の映画	特集上映「生誕 100 年 高峰秀子」を企画、開催	ー

3	日本映画における女性の役割の歴史	特集上映「日本の女性映画人（3）—1990年代」を企画、開催	—
4	アメリカから返還された映画	返還映画コレクション（2）——第一次／二次・劇映画篇」を企画、開催	—
5	外国映画を中心とする無声映画	特集上映「サイレントシネマ・デイズ 2024」を企画、開催	—
6	日本映画の古典	特集上映「TIFF/NFAJ クラシックス 映画監督 吉田喜重」を企画、開催	東京国際映画祭
7	日本の自主映画	第46回ぴあフィルムフェスティバル 2024」を企画、開催	一般社団法人 PFF、公益財団法人川喜多記念映画文化財団、公益財団法人ユニジャパン
8	日本映画と作曲家たちのかかわり	特集上映・展覧会「日本映画と音楽 1950年代から 1960年代の作曲家たち」を企画、開催	—
9	映画監督田坂具隆の業績	特集上映・展覧会「没後 50 年 映画監督 田坂具隆」の開催	—
10	映画監督アンジェイ・ワイダの業績	特集上映・展覧会「映画監督 アンジェイ・ワイダ」を企画、開催	アダム・ミツキエヴィチ・インスティテュート、日本美術技術博物館 Manggha、マーメイドフィルム、クラクフ国立美術館、ポーランド広報文化センター
11	映画フィルムと映画資料のデジタル化ならびに保存と活用（※）	「NFAJ デジタル展示室」「日本アニメーション映画クラシックス」「映像でみる明治の日本」「関東大震災映像デジタルアーカイブ」「フィルムは記録する—国立映画アーカイブ歴史映像ポータル—」「映画遺産—国立映画アーカイブ映画資料ポータル—」「はじまりの日本劇映画 映画 meets 歌舞伎」「はじまりの日本劇映画 映画 meets 新派・新劇・新国劇」等検索・配信・公開サイトの運営	国立情報学研究所
12	映画製作専門家のオーラルヒストリー	オンラインサービス「映画製作専門家養成講座」	—
13	こどもを対象にした映画鑑賞・映画教育プログラム	「こども映画館 2024 年の夏休み★」、「V4 中央ヨーロッパ子ども映画祭」、こども映画館『スクリーンで見る日本アニメーション！』を企画、開催	—
14	磁気テープ映像の保存問題	ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント「マグネティック・テープ・アラート：磁気テープ映像の保存に向けてできること」を企画、開催	—
15	映写技術・復元、フィルム映写をテーマにした教育プログラム	オンラインサービス「NFAJ オンライン映写ガイド」	—
16	社会人を対象にした映画鑑賞プログラム	優秀映画鑑賞推進事業を実施	—
17	「ナショナル・フィルモグラフィ構築に向けた調査研究：塚田嘉信コレクションを活用して」（科学研究費補助金 2 年目）	国立映画アーカイブ企画・監修による資料復刻刊行（予定）に向けた業務を実施	—

オ 国立西洋美術館			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	ゴヤ〈戦争の惨禍〉	小企画展「真理はよみがえるだろうか：ゴヤ〈戦争の惨禍〉全場面」を企画構成、開催	—
2	石版画の技法と表現	小企画展「西洋版画を視るーリトグラフ：石版からひろがるイメージ」を企画構成、関連プログラムの実施	東京藝術大学
3	松方コレクションとオーガスタス・ジョンを中心とするイギリス美術	小企画展「オーガスタス・ジョンとその時代ー松方コレクションから見た近代イギリス美術」を企画構成、開催	—
4	所蔵のエマーユ・コレクション	小企画展「梶コレクション展ー色彩の宝石、エマーユの美」を企画構成、開催	—
5	ルドヴィーコ・カラッチ《ダリウスの家族》	所蔵作品展内小企画「Collection in FOCUS ルドヴィーコ・カラッチ《ダリウスの家族》初公開」開催	—
6	印象派とナビ派の装飾画	所蔵作品展内小企画「Collection in FOCUS 印象派とナビ派の装飾画」開催	—
7	輸送用クレートの構造	所蔵作品展内小企画「『クレート』ー美術作品の輸送を支える箱」開催	国立アトリサーチセンター、ヤマト運輸株式会社
8	ユディットとサロメ	所蔵作品展内小企画「Collection in FOCUS ユディットとサロメ」開催	—
9	糸を紡ぐ女性の表象：カヴァッリーノとセガ ンティーニ	所蔵作品展内小企画「Collection in FOCUS 糸を紡ぐ女性の表象：カヴァッリーノとセガ ンティーニ」開催	—
10	日本の現代美術作家	特別展「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？ー国立西洋美術館65年目の自問 現代美術家たちへの問いかけ」を企画構成、開催、図録を刊行	—
11	中世写本	「内藤コレクション 写本ーいとも優雅なる中世の小宇宙」展を企画構成、開催、図録を発行	札幌芸術の森
12	モネ《睡蓮》	「モネ 睡蓮のとき」展を企画構成、開催、図録を発行	マルモッタン美術館
13	ルネサンスから近代にいたる西洋絵画	「西洋絵画、どこから見るか？ールネサンスから印象派まで サンディエゴ美術館 vs 国立西洋美術館」展を企画構成、開催、図録を発行	サンディエゴ美術館
14	国立西洋美術館所蔵作品の材料・技法についての科学的調査	作品中の顔料（絵具）の同定、適切な保存のため	筑波大学、東京電機大学、明治大学
15	アクリルケースを用いた展示における反射グ レア低減手法の検討、輝度対比を考慮した美 術館照明手法の検討	展示室の照明の改善へ向けた研究	東京理科大学
16	輝度対比を考慮した美術館照明手法の検討	展示室の照明の改善へ向けた研究	東京理科大学
17	三越・伊勢丹ホールディングス所蔵・杉浦非 水のポスターに用いられている顔料の科学調 査	作品中の顔料（絵具）の調査。適切な保存のため	国立工芸館、東京電機大学、明治大学

18	美術館教育（鑑賞教育、ワークショップなどの学びを深めるためのアクティビティ、アクセシビリティの向上、教材の開発など）	ファミリープログラム、スクールプログラム、アクセス・プログラム、既存プログラムのアクセシビリティ向上、セルフガイド等の作成 など	—
19	カナダの美術館における DEIA の取り組みについて（Art Gallery of Ontario を中心に）	アクセシビリティの向上及びアクセス・プログラムをはじめとした幅広い層へのプログラム開発	Art Gallery of Ontario
20	「装飾的」なる概念を介した 19 世紀末美術と演劇の連動—ナビ派と芸術座を中心に（科研費、研究活動スタート支援、研究代表者：袴田紘代、令和 4～6 年度）	カタログレゼネ編纂者やナビ派研究者とのコンタクト、作品・文献・一次史料調査	—
21	美術作品や歴史資料中の膠着材の同定法の構築—方法の改善・発展と実践（科研費、基盤研究 C、研究代表者：高嶋美穂、令和元～6 年度）	作品中の膠着材の同定。適切な保存のため	筑波大学、（株）ニッピ・バイオマトリックス研究所
22	来歴の解明と文化財返還問題の国際的文脈からの松方コレクションの包括的研究（科研費、基盤研究 B、研究代表者：陳岡めぐみ、令和 6～10 年度）	松方コレクションの形成と返還をめぐる歴史的研究	—
カ 国立国際美術館			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	所蔵作品の研究	所蔵作品展の企画構成、作品の収集活動	—
2	現代美術の動向調査	所蔵作品展の企画構成、作品の収集活動	—
3	古代メキシコ文明について	「古代メキシコ—マヤ、アステカ、テオティワカン」を実施、古代メキシコ文明が現代美術に及ぼした影響について調査	東京国立博物館、九州国立博物館、メキシコ国立人類学博物館他
4	梅津庸一と 2000 年代以後の日本の美術について	「梅津庸一—クリスタルパレス」を実施	—
5	現代美術における線表現	「線表現の可能性」を実施	—
6	現代美術における「ホーム」の表象	「ホーム・スイート・ホーム」展の企画実施	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
7	現代美術における「境界（バウンダリー）」の概念表現について	特別展「ノー・バウンダリーズ」展での作家、作品解説の執筆	—
8	タイムベースド・メディアについて	中之島映像劇場の実施	—
9	国内外のアジアの女性作家の動向調査	「Connecting Bodies: Asian Women Artists」展（韓国国立現代美術館）への寄稿	韓国国立現代美術館
10	アジアにおける美術館活動について	各研究機関への研究員派遣による調査	韓国国立現代美術館、M+、ナショナル・ギャラリー・シンガポール、シンガポール美術館
11	1960 年代から 70 年代の関西を中心とした前衛美術、パフォーマンスやエフェメラを中心とした研究	平野重光旧蔵資料の調査及び受け入れ準備	—
12	プレイについて	「現代美術スタディーズ」に向けての調査と執筆	—
13	大阪と東アジア地域とに関連する現代美術の調査について	作品調査及び作品収集	—

14	国内若手作家の動向調査	特別展「プラカードのために」の企画	—
15	現代美術における映像表現（※）	作品及び文献調査	韓国国立現代美術館
16	展示室、収蔵庫環境についての調査	文化財害虫の生息調査とそれを受けての IPM 清掃の実施	—
17	鉛を用いた美術作品の構造と劣化に関する調査研究	所蔵作品の科学調査分析を実施	奈良文化財研究所、国立アトリサーチセンター
18	合成樹脂を用いた美術作品の劣化状態と保存、展示方法についての調査研究	国内美術館等の収蔵作品の劣化事例を調査し、所蔵品保存管理業務に反映	—
19	近現代アートの保存・継承に向けた収蔵品情報管理・共有システムの構築	国内美術館等の作品管理方法を実地調査し、収蔵庫整理業務に反映	東京藝術大学
20	美術館教育	スクールプログラム、教職員研修、未就学児対象美術館体験プログラム、発達段階別鑑賞プログラム、美術館体験サポートプログラム、だれもがアクセスしやすいユニバーサルプログラム、ワークショップ、ファミリー向け鑑賞制作プログラム、オンライン鑑賞プログラム、鑑賞サポートツール制作	—
21	児童生徒を対象とする鑑賞教育の推進	大阪府教育センター「美術館研修—鑑賞ワークショップ—」、大阪市教育センター「中学校美術科研修」の実施	大阪府教育センター、大阪市教育センター
22	所蔵作品に関する歴史的情報等の公開データの拡充、整備	NMAO サーチのコンテンツ拡充	—
23	現代美術に関する収集アーカイブズ構築と公開の為の方法論策定：画廊旧蔵資料調査から（科研費 研スタ 研究代表者：児玉茜、令和5年度～令和6年度）	収集された現代美術に関連する資料群の調査資源化	—
キ 国立新美術館			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	パンデミック下で顕在化した現代社会の諸傾向と国内外の美術動向について	企画展「遠距離現在 Universal / Remote」を開催し、図録を刊行した。	熊本市現代美術館、広島市現代美術館
2	アンリ・マティスについて	企画展「マティス 自由なフォルム」を開催し、図録を刊行した。	ニース市マティス美術館
3	CLAMP について	企画展「CLAMP 展」を企画、開催し、図録を刊行した。	—
4	田名網敬一と 1960 年代以降の現代美術について	企画展「田名網敬一 記憶の冒険」を企画、開催し、図録を刊行した。	—
5	荒川ナッシュ医について	企画展「荒川ナッシュ医 ペインティングス・アー・ポップスターズ」を企画、開催し、記録集を刊行した。	—
6	1920 年代から 70 年代を中心とする 20 世紀の住宅建築について	企画展「リビング・モダニティ 住まいの実験 1920s-1970s」を企画、開催し、図録を刊行した。	兵庫県立美術館
7	1990 年代・2000 年代の日本の現代美術について	企画展「時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010」（仮称）の開催に向けて準備を進めた。	M+（エムプラス）
8	イタリアを中心とするヨーロッパのハイジュエリーについて	企画展「ブルガリ カレイドス 色彩・文化・技巧」の開催に向けて準備を進めた。	—

9	1990年代から現代までのイギリス美術について	R7～R8年度の企画展に向けて準備を進めた。	テート美術館
10	パブリックスペースの展示について	国立新美術館のパブリックスペースを活用した小展示シリーズ「NACT View」として、「NACT View 04 和田礼治郎：FORBIDDEN FRUIT」を企画、開催し、リーフレットを刊行した。また、R7年度以降の展示に向けて作家調査を進めた。	—
11	森英恵について	R8年度の企画展に向けて準備を進めた。	島根県立石見美術館
12	ルネサンス美術について	R8年度の企画展に向けて準備を進めた。	ルーヴル美術館
13	日本の現代美術の動向	将来の展覧会に向けて調査を進めた。	—
14	海外の現代美術の動向	将来の展覧会に向けて調査を進めた。	—
15	美術館の教育普及事業（ワークショップ、鑑賞ガイド等）	アーティスト・ワークショップやユースプロジェクト、建築ツアー、学校を対象としたガイドダンス等を実施した。企画展に合わせて鑑賞ガイドを作成・配布した。	株式会社日本設計

※映画のデジタル保存・活用等に関する調査研究である。

別表 10 展覧会図録における執筆

ア 東京国立近代美術館			
(本館)			
タイトル		執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	「アカデミズムと「伝統的な日本」との狭間で：20 世紀前半にパリに渡った日本人芸術家たちの葛藤と挑戦」	横山由季子 (研究員)	TRIO パリ・東京・大阪 モダンアート・コレクション
2	論考「美術と「縄文」の 150 年」、コラム「「縄文」か「弥生」か?」、コラム「「縄文土器論」と藤本四八」、コラム「メキシコ・ショック」、コラム「ハニワと土偶とサブカルチャー」、章解説、作品解説、年表、参考文献	成相肇 (主任研究員)	ハニワと土偶の近代
3	巻頭論文「ハニワと土偶の近代一発見と忘却、再生装置としての出土遺物」、コラム「空なる眼、グラビア化するハニワ—和辻哲郎と藤本氏八」、コラム「ゆらぐ「自画像」—一明るいハニワ、暗いハニワ」、章解説、作品解説、年表、参考文献	花井久穂 (主任研究員)	ハニワと土偶の近代
4	巻頭論文「彼方よりの絵画」、章解説	三輪健仁 (美術課長)	ヒルマ・アフ・クリント展
(国立工芸館)			
タイトル		執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	「工芸と心象風景」、作品解説、作家解説	岩井美恵子 (工芸課長)	心象工芸展
2	「心象工芸展」、作品解説、作家解説	石川嵩紘 (特定研究員)	心象工芸展
3	「心象工芸展」、作品解説、作家解説、参考文献編集	宮川典子 (特定研究員)	心象工芸展
イ 京都国立近代美術館			
タイトル		執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	「富岡鉄斎はどのような人だったのか? 没後 100 年に向けて再考」、章解説、作品解説、賛文・印章の解説	梶岡秀一 (学芸課長)	没後 100 年 富岡鉄斎
2	「倉俣史朗の「思索への試作」——《メロディー・イン・F》を糸口に」、章解説、主要文献目録編集	宮川智美 (任期付研究員)	倉俣史朗のデザイン—記憶のなかの小宇宙
3	「〈私〉を着がえるとき——身体、アイデンティティ、そして欲望をめぐる」、作品解説	牧口千夏 (主任研究員)	LOVE ファッション—私を着がえるとき
4	作品解説	渡辺亜由美 (特定研究員)	LOVE ファッション—私を着がえるとき
5	「黒田辰秋における「工芸」——貫制作と個人作家をキーワードとして」、作品解説、作家略歴	大長智広 (主任研究員)	生誕 120 年 人間国宝 黒田辰秋—木と漆と螺鈿の旅—
6	関連年表、関連地図編集、英文和訳	小野真司 (任期付研究員)	〈若きポーランド〉—色彩と魂の詩 1890-1918
ウ 国立西洋美術館			
タイトル		執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	「モネの連作——展覧会、受容、美術市場」仏語和訳	陳岡めぐみ (主任研究員)	モネ 睡蓮のとき

2	「セーヌ河から睡蓮の池へ」「水と花々の装飾」「大装飾画への道」「交響する色彩」「さかさまの世界」	山根あおい (任期付研究員)	モネ 睡蓮のとき
3	「クロード・モネ作《睡蓮、柳の反映》の科学調査—微小破片が語る材料と技法」	高嶋美穂 (特定研究員)	モネ 睡蓮のとき
4	「松方幸次郎から国立西洋美術館へ——受け渡されたオールドマスター絵画収集のバトン」、作品解説	川瀬佑介 (主任研究員)	西洋絵画、どこから見るか
5	章解説2点、セクション解説6点、作品解説1点の英文和訳	久保田有寿 (特定研究員)	西洋絵画、どこから見るか？
6	「梶コレクションと梶コレクション展」、「リモージュ」、作品解説14点	飯塚隆 (主任研究員)	梶コレクション展—色彩の宝石、エマールユの美
エ 国立国際美術館			
タイトル		執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	「メル・ボックナーとの会話」(作家インタビュー)	植松由佳 (学芸課長)	コレクション2 特集展示:メル・ボックナー
2	「ビターな社会におけるホーム・スイート・ホームとは？」	植松由佳 (学芸課長)	ホーム・スイート・ホーム
3	「梅津庸一 未然の芸術」(論考)	福元崇志 (主任研究員)	梅津庸一 クリスタルパレス
4	「知られざる蒙古斑たちへ」「花粉を飛ばしたい!」「新しいひび」「現代美術産業」「パビリオン、水晶宮」(章解説)	福元崇志 (主任研究員)	梅津庸一 クリスタルパレス
オ 国立新美術館			
タイトル		執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	「「CLAMP 展」開催にあたって 創造と想像のキセキ」(執筆)	吉村麗 (特定研究員)	CLAMP 展
2	章解説2本(執筆)／略年譜(編集)	宮島綾子 (主任研究員)	田名網敬一 記憶の冒険
3	「イメージディレクターとしての田名網敬一—1950年代から60年代におけるデザインと美術の状況を背景に」、章解説10本、作品解説19本(執筆)	小野寺奈津 (特定研究員)	田名網敬一 記憶の冒険
4	作品解説10本(執筆)／主要展覧会歴、主要文献(編集)	伊澤拓人 (研究補佐員)	田名網敬一 記憶の冒険
5	「LAのポン酢」、章解説9本(執筆)	米田尚輝 (主任研究員)	荒川ナッシュ医 ペインティングス・アー・ポップスターズ
6	論文1本(翻訳)／主要展覧会歴、主要文献(編集)	亀田晃輔 (研究補佐員)	荒川ナッシュ医 ペインティングス・アー・ポップスターズ

別表 11 研究紀要における執筆

ア 国立アトリサーチセンター				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	ミュージアムへのアクセスを促す試み 国立美術館 のソーシャルストーリー制作を通して	鈴木智香子 (研究員)	令和4・5年度 国立アトリ サーチセンター活動報告・研究 紀要 Vol. 1	R6.12.23
2	ミュージアムへのアクセスを促す試み 国立美術館 のソーシャルストーリー制作を通して	伊東俊祐 (客員研究員)	令和4・5年度 国立アトリ サーチセンター活動報告・研究 紀要 Vol. 1	R6.12.23
3	展覧会情報に関する一考察：一過性の情報を残し検 索可能にするために	藤井糸子 (研究補佐員)	令和4・5年度 国立アトリ サーチセンター活動報告・研究 紀要 Vol. 1	R6.12.23
イ 東京国立近代美術館 (本館)				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「松本竣介《N 駅近く》を表と裏から見る」	大谷省吾 (副館長)	『東京国立近代美術館研究紀 要』29号	R7.3.31
2	〔資料紹介〕「第18回アメリカ抽象美術展」関連資 料	長名大地 (主任研究員)	『東京国立近代美術館研究紀 要』29号	R7.3.31
3	「シュルレアリスム宣言100年記念講演会」	長名大地 (主任研究員)	『東京国立近代美術館研究紀 要』29号	R7.3.31
4	〔資料紹介〕「速水御舟日記(1935年)・旅日記(1915- 1917年)・改訂滞欧日記(1930年)」	鶴見香織 (主任研究員)	『東京国立近代美術館研究紀 要』29号	R7.3.31
5	「弥生はどこへ行行った?——ハニワと土偶のあいだ の人体(あるいは岡本太郎「縄文土器論」が「土器 論」でなければならなかった理由について)」	成相肇 (主任研究員)	『東京国立近代美術館研究紀 要』29号	R7.3.31
6	「ジャン(ハンス)・アルプの彫刻制作における石 膏の役割と位置づけ」	小林紗由里 (研究員)	『東京国立近代美術館研究紀 要』29号	R7.3.31
7	〔資料紹介〕「女性と抽象 トークイベント」	横山由季子 (研究員)	『東京国立近代美術館研究紀 要』29号	R7.3.31
8	「福島秀子——絵画のワクをはみ出す目について」	杉崎友哉 (研究補佐員)	『東京国立近代美術館研究紀 要』29号	R7.3.31
(国立工芸館)				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	トークイベント「光と影で読み解く橋本真之の仕 事」	今井陽子 (主任研究員)	『東京国立近代美術館研究紀 要』第29号	R7.3.31
2	〔研究ノート〕「釜我敏子の型絵染について」	日南日和 (特定研究員)	『東京国立近代美術館研究紀 要』第29号	R7.3.31
ウ 国立西洋美術館				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「ラヴィニア・フォンターナ《アントニエッタ・ゴ ンザレスの肖像》に関する研究ノート」	渡辺晋輔 (学芸課長)	『国立西洋美術館研究紀要』 No.29	R7.3.31
2	新収作品紹介「ラヴィニア・フォンターナ《アント ニエッタ・ゴンザレスの肖像》」	渡辺晋輔 (学芸課長)	『国立西洋美術館研究紀要』 No.29	R7.3.31

3	新収作品紹介「フェーデ・ガリツィア《ホロフェルネスの首を持つユディット》」	川瀬佑介 (主任研究員)	『国立西洋美術館研究紀要』 No. 29	R7. 3. 31
4	「ろう学校を対象とした手話による対話型ギャラリートークの実践をめぐる一考察」	長谷川暢子 (研究補佐員)	『国立西洋美術館研究紀要』 No. 29	R7. 3. 31
エ 国立新美術館				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	教育普及活動における合理的配慮 国立新美術館での実践報告	真住貴子 (主任研究員)	国立新美術館研究紀要 No. 10	R6. 12. 13
2	講演会「展覧会にみるテート美術館のコレクション戦略」報告	山田由佳子 (主任研究員)	国立新美術館研究紀要 No. 10	R6. 12. 13
3	チャ・ジェミン(Jeamin Cha)の映像作品について	尹志慧 (特定研究員)	国立新美術館研究紀要 No. 10	R6. 12. 13

別表 12 館ニュースにおける執筆

ア 東京国立近代美術館				
(本館)				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「研究員の本棚 #5 近代日本美術史を研究するという こと」	大谷省吾 (副館長)	『現代の眼』639 号	R7. 3. 31
2	「研究員の本棚 #5 近代日本美術史を研究するという こと」	長名大地 (主任研究員)	『現代の眼』639 号	R7. 3. 31
3	「〈座談会〉「女性と抽象」展と「フェミニズムと映 像表現」展」	長名大地 (主任研究員)	『現代の眼』639 号	R7. 3. 31
4	「新しいコレクション：マックス・エルンスト 《砂 漠の花（砂漠のパラ）》1925 年」	長名大地 (主任研究員)	『現代の眼』639 号	R7. 3. 31
5	「新しいコレクション 小村雪岱《邦枝完二著「江戸 役者挿絵」》」	鶴見香織 (主任研究員)	『現代の眼』639 号	R7. 3. 31
6	「新しいコレクション 長谷川利行《大庭鉄太郎 像》」	成相肇 (主任研究員)	『現代の眼』639 号	R7. 3. 31
7	「所蔵品ガイド」と「Let's Talk Art!」ーコロナ禍 を経て変化したこと	端山聡子 (主任研究員)	『現代の眼』639 号	R7. 3. 31
8	「作品が出会う場所ーTRIO 展を企画して」	横山由季子 (研究員)	『現代の眼』639 号	R7. 3. 31
9	「〈座談会〉「女性と抽象」展と「フェミニズムと映 像表現」展」	横山由季子 (研究員)	『現代の眼』639 号	R7. 3. 31
10	「所蔵品ガイド」における対話のアウトライン	齊藤佳代 (特定研究員)	『現代の眼』639 号	R7. 3. 31
11	「資料紹介#6 初日カバー」	赤松千佳 (研究補佐員)	『現代の眼』639 号	R7. 3. 31
12	「資料紹介#7 Photographie」	小澤万紀 (研究補佐員)	『現代の眼』639 号	R7. 3. 31
13	「新しいコレクション 織田一磨《憂鬱の谷》」	森卓也 (研究補佐員)	『現代の眼』639 号	R7. 3. 31
(国立工芸館)				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	正村美里「鈴木藏-昭和から令和へ、転生する志野」 後記	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	現代の眼 639 号	R6. 7. 2
2	「工芸館で過ごす夏時間-子どもを育む鑑賞プログラ ムの試み-」	今井陽子 (主任研究員)	現代の眼 639 号	R6. 7. 2
3	田中信行「工芸の光と影-漆黒の闇-」後記	今井陽子 (主任研究員)	現代の眼 639 号	R6. 7. 2
4	「資料紹介 清家清「構成原理ノート」」	廣川晶子 (研究員)	現代の眼 639 号	R6. 7. 2
5	「新しいコレクション 板谷波山《彩磁紫陽花模様花 瓶》」	中川智絵 (任期付研究員)	現代の眼 639 号	R6. 7. 2
6	「新しいコレクション 釜我敏子《型絵染着物「秋草 文」》」	日南日和 (特定研究員)	現代の眼 639 号	R6. 7. 2
7	「新しいコレクション 桑田卓郎《白金彩梅華皮志野 茶堦》」	石川嵩紘 (特定研究員)	現代の眼 639 号	R6. 11. 8

8	福本潮子《時空3》含む作品解説9件、作家解説1件、技法解説1件	今井陽子 (主任研究員)	2D鑑賞システム	R7.3.5
9	田島比呂子《縮緬地友禅竹林鷺図訪問着 青東風》を含む作品解説2件	中川智絵 (任期付研究員)	2D鑑賞システム	R7.3.5
10	香取正彦《鑄銅花器》を含む作品解説4件	青木智子 (特定研究員)	2D鑑賞システム	R7.3.5
11	熊倉順吉《僧の座》含む作品解説3件	石川嵩紘 (特定研究員)	2D鑑賞システム	R7.3.5
12	高村豊周《鑄銅双耳花瓶》含む作品解説4件、作家解説1件	日南日和 (特定研究員)	2D鑑賞システム	R7.3.5
13	板谷波山《彩磁延寿文水指》を含む作品解説3件	宮川典子 (特定研究員)	2D鑑賞システム	R7.3.5
14	福本潮子含む作家解説5件	田中真希代 (研究補佐員)	2D鑑賞システム	R7.3.5
15	熊倉順吉含む作家解説4件	土井貴美子 (研究補佐員)	2D鑑賞システム	R7.3.5
16	栗木達介含む作家解説5件	頓宮佑佳 (研究補佐員)	2D鑑賞システム	R7.3.5
17	香取正彦含む作家解説6件	山本成子 (研究補佐員)	2D鑑賞システム	R7.3.5
18	林駒夫作家解説1件	相川加織 (研修生(金沢市主査))	2D鑑賞システム	R7.3.5
19	高村豊周作家解説1件	能木場貴也 (研修生(石川県庁専門員))	2D鑑賞システム	R7.3.5
イ 京都国立近代美術館				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「開館60周年記念インタビュー③ 大向務氏」	平井啓修 (主任研究員)	『京都国立近代美術館ニュース視る』530号	R6.5.20
2	「開館60周年記念インタビュー③ 大向務氏」	宮川智美 (任期付研究員)	『京都国立近代美術館ニュース視る』530号	R6.5.20
3	「開館60周年記念インタビュー④ やなぎみわ氏」	牧口千夏 (主任研究員)	『京都国立近代美術館ニュース視る』531号	R6.10.31
4	「開館60周年記念インタビュー④ やなぎみわ氏」	宮川智美 (任期付研究員)	『京都国立近代美術館ニュース視る』531号	R6.10.31
5	「開館60周年記念インタビュー⑤ 我原邦昭氏」	小倉実子 (主任研究員)	『京都国立近代美術館ニュース視る』531号	R6.10.31
6	「パリとプラハの出逢い シュルレアリスム宣言100周年」	小野真司 (任期付研究員)	『京都国立近代美術館ニュース視る』536号	R7.3.28
ウ 国立映画アーカイブ				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	チネマ・リトロバート映画祭を振り返って	岡島尚志 (館長)	『NFAJ ニューズレター』第24号	R6.4.1
2	労働者としての少女 戦前における高峰秀子の軌跡	大澤 浄 (主任研究員)	『NFAJ ニューズレター』第24号	R6.4.1

3	戦後日本の作曲家たちと映画産業の関わりー「3人の会」の場合	藤原征生 (特定研究員)	『NFAJ ニューズレター』第24号	R6. 4. 1
4	サンフランシスコ無声映画祭ーアメリカ映画文化の小さな至宝	岡島尚志 (館長)	『NFAJ ニューズレター』第25号	R6. 7. 1
5	再び言う、もはや「ノンフィルム」ではないー《アーカイブ拠点形成モデル事業》の現在	岡田秀則 (主任研究員)	『NFAJ ニューズレター』第25号	R6. 7. 1
6	日本人が作った現存最古のアメリカ映画	岡島尚志 (館長)	『NFAJ ニューズレター』第26号	R6. 10. 1
7	FIAF 会議 2024 報告 グローバル・サウスーデジタル時代の南北問題	大澤浄 (主任研究員)	『NFAJ ニューズレター』第26号	R6. 10. 1
8	『EUREKA』クロマティック B&W の復元 上野芳弘氏インタビュー	大澤浄 (主任研究員)	『NFAJ ニューズレター』第27号	R7. 1. 1
エ 国立西洋美術館				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	2024 年度のコレクション・イン・フォーカスについて	川瀬佑介 (主任研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第90号	R6. 5. 30
2	西洋版画を視るーリトグラフ：石版からひろがるイメージ	酒井敦子 (主任研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第90号	R6. 5. 30
3	内藤コレクション 写本ーいとも優雅なる中世の小宇宙	中田明日佳 (主任研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第90号	R6. 5. 30
4	クレートー美術作品の輸送を支える箱	高嶋美穂 (特定研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第90号	R6. 5. 30
5	クラウドファンディングプロジェクト「みんなの3Dロダン図鑑」をつくろう！実施中です	隈部理香子 (経営企画・広報 渉外室員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第90号	R6. 5. 30
6	新規展示の旧松方コレクション作品について	川瀬佑介 (主任研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第91号	R6. 9. 12
7	オーガスタス・ジョンとその時代ー松方コレクションから見た近代イギリス美術	陳岡めぐみ (主任研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第91号	R6. 9. 12
8	ふかぼり Collection in FOCUS 2024	秋田美緒 (任期付研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第91号	R6. 9. 12
9	モネ 睡蓮のとき	山耕あおい (任期付研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第91号	R6. 9. 12
10	「美術館でクリスマス」ー冬の美術館を楽しもう	白濱恵里子 (特定研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第91号	R6. 9. 12
11	来館者サービス向上のための取り組みー快適な鑑賞環境をめざして	反田みさと (経営企画・広報 渉外室員) 隈部理香子 (経営企画・広報 渉外室員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第91号	R6. 9. 12
12	2024 年度新規収蔵作品より ラヴィニア・フォンターナ《アントニエッタ・ゴンザレスの肖像》	渡辺晋輔 (学芸課長)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第92号	R7. 2. 28
13	梶コレクション展ー色彩の宝石、エマーユの美	飯塚隆 (主任研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第92号	R7. 2. 28
14	西洋絵画、どこから見るか？ールネサンスから印象派まで サンディエゴ美術館 vs 国立西洋美術館	川瀬佑介 (主任研究員)	『国立西洋美術館ニュース：ZEPHYROS』第92号	R7. 2. 28

15	2024 年度新規収蔵作品より フェーデ・ガリツィア 《ホロフェルネスの首を持つユディット》	川瀬佑介 (主任研究員)	『国立西洋美術館ニュー ス：ZEPHYROS』第 92 号	R7. 2. 28
16	あたらしい世界遺産パンフレット	福田京 (主任研究員)	『国立西洋美術館ニュー ス：ZEPHYROS』第 92 号	R7. 2. 28
17	特設サイト「みんなの 3D ロダン図鑑」の公開を楽し みにしてくださっている皆様へ	隈部理香子 (経営企画・広報 渉外室員)	『国立西洋美術館ニュー ス：ZEPHYROS』第 92 号	R7. 2. 28
オ 国立国際美術館				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	所蔵品紹介：ルイズ・ブルジョワ《カップル》	正路佐知子 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュー ス』253 号	R6. 6
2	「所蔵作家インタビュー 小西紀行」	安來正博 (研究員)	『国立国際美術館ニュー ス』253 号	R6. 6
3	「所蔵作家インタビュー 片山真理」	植松由佳 (学芸課長)	『国立国際美術館ニュー ス』254 号	R6. 9
4	「ユニバーサルプログラム「みる+（プラス）」周辺 で考えること」	藤吉祐子 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュー ス』254 号	R6. 9
5	所蔵品紹介：アストリッド・クライン《無題（私はし ゃべらない、、、）》	武本彩子 (任期付研究員)	『国立国際美術館ニュー ス』254 号	R6. 9
6	所蔵品紹介：ソピアップ・ピッチ《夜想曲 No. 1》	橋本梓 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュー ス』255 号	R7. 2
7	「一次元のメッセージー「線表現の可能性」展に寄せ てー」	安來正博 (研究員)	『国立国際美術館ニュー ス』255 号	R7. 2
8	「このピカソは本物ですか？ー国立国際美術館のこれ から」	島敦彦 (館長)	『国立国際美術館ニュー ス』256 号	R7. 3
9	所蔵品紹介：潘逸舟《わたしは家を運び、家はわたし を移す》	植松由佳 (学芸課長)	『国立国際美術館ニュー ス』256 号	R7. 3

別表 13 館外の学術雑誌、学会等における調査研究成果の発信

ア 国立アトリサーチセンター						
学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	文化芸術の鑑賞を通じた発達支援	日本臨床発達心理士会 資格更新研修会	一條彰子 (ラーニンググループリーダー)	R6. 5. 19	国立新美術館	100
2	博物館資料の目録（台帳）と資料デジタル化の取組みについて	公益財団法人日本博物館協会「博物館新登録制度：疑問や課題の解決相談会」	川口雅子 (情報資源グループリーダー)	R7. 2. 18	オンライン	500
3	派遣成果報告：日本資料専門家欧州協会年次大会（ブルガリア）	令和6年度ミュージアム専門職員等在外派遣事業オンライン成果報告会	川口雅子 (情報資源グループリーダー)	R7. 3. 3	オンライン	-
4	趣旨説明及び主要プラットフォームの紹介	第39回学会員研修会「所蔵作品情報の公開とプラットフォーム活用・連携の可能性」	川口雅子 (情報資源グループリーダー)	R7. 3. 7	損保ジャパン本社ビル	120
5	何のために作品情報を公開するのか	法政大学資格課程シンポジウム「博物館収蔵コレクションの新たな価値創造 ―公開・活用の可能性を探る―」	川口雅子 (情報資源グループリーダー)	R7. 3. 8	法政大学市ヶ谷キャンパス	100
6	美術館における合理的配慮について	東京都歴史文化財団 東京都美術館	稲庭彩和子 (主任研究員)	R6. 6. 17	東京都美術館	100
7	健康に良いクリエイティブな体験と「文化的処方」	横浜市芸術文化振興財団 横浜市民ギャラリーあざみ野	稲庭彩和子 (主任研究員)	R6. 8. 10	横浜市民ギャラリーあざみ野	25
8	アート×身体への着眼-クリエイティブヘルスの潮流と日本のミュージアムの現状-	東京藝術大学	稲庭彩和子 (主任研究員)	R6. 10. 3	東京藝術大学	50
9	ミュージアムにおける合理的配慮について	公益財団法人東京都歴史文化財団 江戸東京たてもの園	稲庭彩和子 (主任研究員)	R6. 10. 20	江戸東京たてもの園	25
10	公共的余暇施設における感覚に優しいセンサーフレンドリーな取組_発達障害をもつ子どものアクセシビリティの向上にむけた余暇支援	日本LD（学習障害）学会 第33回大会	稲庭彩和子 (主任研究員)	R6. 12. 2	神戸国際会議場	50
11	これまでの美術館の役割とこれからの役割	鳥取県立美術館	稲庭彩和子 (主任研究員)	R7. 3. 1	鳥取県立美術館	100

12	美術館のアクセシビリティ	北海道美術館学芸員研究協議会	稲庭彩和子 (主任研究員)	R7. 3. 6	東京藝術大学	60
13	みんぱく創設 50 周年記念国際シンポジウム「22 世紀のミュージアム—未来のコミュニケーション空間を創造する—」	国立民族学博物館	稲庭彩和子 (主任研究員)	R7. 3. 8	国立民族学博物館	150
14	文化的処方のはじめの一步	社会的処方 EXPO2025	稲庭彩和子 (主任研究員)	R7. 3. 9	川崎市コンベンションセンター	100
15	1930 年代日本の「前衛」地図	「館蔵品展 もっと魅せます！板橋の前衛絵画 シュルレアリスムとアブストラクト・アート」講演会	谷口英理 (主任研究員)	R6. 9. 7	板橋区立美術館	58
16	アーカイブズ所在調査の結果報告、今後の展望	全国美術館会議 第 39 回学芸員研修会	谷口英理 (主任研究員)	R7. 3. 7	SOMPO 美術館	-
17	国立工芸館の所蔵する杉浦非水のグラフィックデザインを対象とした科学的調査	文化財保存修復学会第 46 回大会	鳥海秀実 (主任研究員)	R6. 6. 22, 23	帝京大学八王子キャンパス	-
18	国立工芸館の所蔵する杉浦非水のグラフィックデザインを対象とした科学的調査	文化財保存修復学会第 46 回大会	中尾優衣 (主任研究員)	R6. 6. 22, 23	帝京大学八王子キャンパス	-
19	版画とグラフィックデザインの交錯と境界：1950-70 年代の日本を中心に	「グラフィック文化に関する学術研究助成」成果報告会	中尾優衣 (主任研究員)	R6. 12. 7	DNP 銀座ビル	35
20	ミュージアムにおける合理的配慮だれもが公平に、自分らしくミュージアムで学び楽しむために	2024 年国際博物館の日記念シンポジウム「学びと研究のための博物館」	鈴木智香子 (研究員)	R6. 5. 19	国立民族学博物館	100
21	文化へのアクセスをデザインする—ミュージアムと合理的配慮	神奈川県公立文化施設協会研修講演会	鈴木智香子 (研究員)	R6. 7. 4	神奈川県民ホール	40
22	ミュージアムと合理的配慮—文化体験へのアクセスをデザインする	奈良県立美術館および県立文化施設職員向け勉強会	鈴木智香子 (研究員)	R6. 8. 23	オンライン	20
23	文化・芸術体験へのアクセスをデザインする—合理的配慮について知る・学ぶ	全国公立文化施設協会	鈴木智香子 (研究員)	R6. 11. 19	高知県立県民文化ホール	60
24	ミュージアム体験へのアクセスをデザインする—合理的配慮について知る・学ぶ	公益財団法人東京動物園協会	鈴木智香子 (研究員)	R6. 11. 29	恩賜上野動物園	30
25	ミュージアムの多様な来場者にむけた合理的配慮について	東京都博物館協議会・日本博物館協会東京支部	鈴木智香子 (研究員)	R6. 11. 29	オンライン	60

26	アクセシビリティ勉強会	国立研究開発法人 科学技術振興機構 日本科学未来館	鈴木智香子 (研究員)	R6. 12. 4	日本科学未来館	50
27	「ミュージアムとアクセシビリティ」をテーマとしてワークショップ	一般財団法人地域創造	鈴木智香子 (研究員)	R6. 12. 26	千葉県立美術館	15
28	明治大学 学芸員養成課程特別講義	明治大学	伊東俊祐 (客員研究員)	R6. 10. 18	明治大学	100
29	アクセシビリティ勉強会	国立研究開発法人 科学技術振興機構 日本科学未来館	伊東俊祐 (客員研究員)	R6. 12. 4	日本科学未来館	50
雑誌等論文掲載						
学術書籍、研究報告書等の発行						
	タイトル		執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日	
1	【資料】2. ワークショップ概要「モジュラー・クリーニング・プログラム：4 日間にわたる研修の第一印象とその後の導入について」（和訳）		鳥海秀実 (主任研究員)	文化財修復処置に関するワークショップ—モジュラー・クリーニング・プログラムの利用について—	R7. 2. 14	
【査読無し】論文掲載（学術誌、美術雑誌、館外の展覧会図録等）						
	タイトル		執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日	
1	【特集】ローマ中央修復研究所における主要な修復作品リスト（修復記録写真アーカイヴに基づく）		鳥海秀実 (主任研究員)	『五浦論叢』31 号	R6. 11. 12	
2	1910-30 年代の日本における金銀インキの使用について—国立工芸館所蔵の杉浦非水のグラフィックデザインの調査から		鳥海秀実 (主任研究員)	『東京国立近代美術館研究紀要』29 号	R7. 3. 31	
3	版画とグラフィックデザインの交錯と境界—第 6 回東京国際版画ビエンナーレ展を中心に		中尾優衣 (主任研究員)	『DNP 文化振興財団 学術研究助成紀要』6 号	R6. 12. 7	
4	1910-30 年代の日本における金銀インキの使用について—国立工芸館所蔵の杉浦非水のグラフィックデザインの調査から		中尾優衣 (主任研究員)	『東京国立近代美術館研究紀要』29 号	R7. 3. 31	
5	2023 年度アート・ドキュメンテーション学会 第 16 回秋季研究集会：参加報告記		秋田奈美 (任期付研究員)	『アート・ドキュメンテーション研究』(32)	R6. 5	
6	2023 年度アート・ドキュメンテーション学会 第 34 回年次大会 活動紹介：参加報告記		藤代知子 (研究補佐員)	『アート・ドキュメンテーション研究』(32)	R6. 5	
その他の執筆（機関紙、雑誌、新聞、ウェブサイト等）						
	タイトル		執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日	
1	展覧会をめぐる課題		原田真由美 (副センター長)	美術の窓	R6. 5. 20	
2	Art Platform Japan: Fostering the Development of Research on Japanese Art		川口雅子 (情報資源グループリーダー)	North American Coordinating Council on Japanese Library Resources. Japanese Studies Spotlight	R7. 2. 21	

3	(新聞連載全5回)「ミュージアムで幸せになる。」①～⑤	稲庭彩和子 (主任研究員)	17紙(神戸新聞、埼玉新聞、佐賀新聞、信濃毎日新聞、山陰中央新報、長崎新聞、大分合同新聞、日本海新聞、東奥日報、山梨日日新聞、茨城新聞、秋田魁新報、千葉日報、新潟日報、高知新聞、中部経済新聞、岐阜新聞)	R6.4-11
4	文献紹介『教師が「教えない人」になれる時間』	稲庭彩和子 (主任研究員)	月刊「教育美術」	R6.7.31
5	認知症の方とその家族のQOLを高めるアート活動を推進する動きとは？	稲庭彩和子 (主任研究員)	令和6年度障害者等による文化芸術活動推進事業「アート+認知症やさしい美術鑑賞プログラム」2022.4-2025.3報告書	R7.3.31
6	茨城県天心記念五浦美術館「間島秀徳展 天地無常」を見て	田中正史 (主任研究員)	批評集 間島秀徳 天地無常 そこに新たな風景が	R7.1.31
7	小杉放菴——多彩なる画家	田中正史 (主任研究員)	列島の日本美術史(共著)	R7.3.30
8	西洋絵画の補彩について	鳥海秀実 (主任研究員)	文化財保存修復情報誌『みずのを』創刊号	R6.4.15
9	イタリアの補彩について	鳥海秀実 (主任研究員)	文化財保存修復情報誌『みずのを』創刊号	R6.4.15
10	【アートノートお悩みお助け辞典】頁5.「合理的配慮」とは？——だれもが文化芸術を楽しむ社会を実現するためのポイント解説	鈴木智香子 (研究員)	アートノート(東京芸術文化相談サポートセンター)note	R6.5.20
11	E2748 - NCAR シンポジウム 003「美術館のアクセシビリティ」<報告>	鈴木智香子 (研究員)	カレントウェーブエスポート	R6.10.31
12	アーキビスト養成・アーカイブズ学研コースへの思い：筆者の職歴を振り返って	秋田奈美 (任期付研究員)	『大阪大学アーカイブズニューズレター』第24号	R6.9
13	国立アトリサーチセンターと美術館の連携事業—デジタル技術を用いた鑑賞体験	小池秀樹 (特定研究員)	博物館研究	R6.12.25

イ 東京国立近代美術館

(本館)

学会等発表

	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「「共鳴」と「影響」はどうちがう？近代日本美術の評価をめぐる」	シンポジウム「美術交流と異文化の共鳴 西洋／日本を中心に」	大谷省吾 (副館長)	R6.9.15	大原美術館	180
2	討議司会「近代日本美術研究はどう変わったか」	明治美術学会 40周年国際シンポジウ	大谷省吾 (副館長)	R6.11.23	TODA HALL	196

		ム「明治から／明治へ：書き直し近代日本美術」				
3	東京国立近代美術館と／の西洋美術：展覧会とコレクションを通して	「日本の美術館と西洋近代美術」東京編	長名大地 (主任研究員)	R6. 4. 29	一橋大学大学院言語社会研究科	90
4	住み処の住人トーク	「エフェメラ：印刷物と表現」関連イベント	長名大地 (主任研究員)	R6. 5. 8	慶應義塾ミュージアム・コモンズ	20
5	『マックス・エルンスト 放浪と衝動』上映後トーク	「シュルレアリスム 100 年映画祭関連イベント」	長名大地 (主任研究員)	R6. 10. 12	ユーロスペース	50
6	「生誕 140 年展での「落葉」系作品」	「不朽の名作《落葉》誕生秘話シンポジウム	鶴見香織 (主任研究員)	R6. 9. 22	福井県立美術館	40
7	「上村松園の生涯と画業の意義について」	「生誕 150 年記念上村松園」展覧会関連講演会	中村麗子 (主任研究員)	R7. 3. 29	大阪中之島美術館	137
8	砂と想像力	鳥取大学「鳥取砂丘学」	成相肇 (主任研究員)	R6. 6. 4	鳥取大学	52
9	ゲストレクチャー	東京造形大学「アーティストとしての実践学」	成相肇 (主任研究員)	R6. 6. 11	東京造形大学	30
10	「ハニワと土偶の近代」	NHK 関連文化講演会	成相肇 (主任研究員)	R6. 11. 15	新宿歴史博物館	130
11	「ハニワと土偶の近代」	NHK 関連文化講演会	成相肇 (主任研究員)	R6. 11. 16	羽村市生涯学習センター ゆとろぎ	111
12	映画「掘る女ー縄文人の落とし物」アフタートーク	「ハニワと土偶の近代」＋映画「掘る女ー縄文人の落とし物」タイアップ企画	成相肇 (主任研究員)	R6. 11. 30	シネマ・チュプキ・タバタ	20
13	映画「掘る女ー縄文人の落とし物」アフタートーク	「ハニワと土偶の近代」＋映画「掘る女ー縄文人の落とし物」タイアップ企画	成相肇 (主任研究員)	R6. 11. 30	Morc 阿佐ヶ谷	15
14	3つのP (Pop、Painting、Post Modern)	太郎千恵蔵「Passion」展イベント	成相肇 (主任研究員)	R7. 2. 2	PARCEL	12
15	関連トーク	「(こどもの) 絵が 70 年残ることについて」展イベント	成相肇 (主任研究員)	R7. 2. 9	MEDIA SHOP	32

16	出版記念トーク	美術年鑑『だえん2024』出版記念イベント	成相肇 (主任研究員)	R7. 3. 29	アートかビー フンか白 厨	25
17	シンポジウム「いま、なぜ民藝なのか？」	「シアスター・ゲイツ展」関連プログラム	花井久穂 (主任研究員)	R6. 5. 11	森美術館	150
18	「アウト・オブ・民藝の芋蔓まつり スライドトーク民藝の100年」	「アウト・オブ・民藝ー「民」から芋蔓編 MINGEI のB面！」展関連企画	花井久穂 (主任研究員)	R6. 6. 15	公益財団法人せたがや 文化財団世 田谷文化生 活情報セン ター生活工 房	60
19	「雑誌メディアと「道具の美」：民藝と骨董趣味を事例に」（討論者として登壇）	日本メディア学会 2024年春季大会ワ ークショップ	花井久穂 (主任研究員)	R6. 6. 16	成蹊大学	40
20	「ハニワの発掘、現場は近代美術。一企画展「ハニワと土偶の近代」の裏側」	学芸員課程特別授 業 2024	花井久穂 (主任研究員)	R6. 10. 17	武蔵野美術 大学	110
21	映画「掘る女ー縄文人の落とし物」 アフタートーク	「ハニワと土偶の 近代」＋映画「掘 る女ー縄文人の落 とし物」タイアッ プ企画	花井久穂 (主任研究員)	R6. 10. 19	東京都写真 美術館ホー ル	20
22	「ハニワと土偶の近代」	NHK 関連文化講演会	花井久穂 (主任研究員)	R6. 10. 29	成増アクト ホール	450
23	映画「掘る女ー縄文人の落とし物」 アフタートーク	「ハニワと土偶の 近代」＋映画「掘 る女ー縄文人の落 とし物」タイアッ プ企画	花井久穂 (主任研究員)	R6. 11. 2	下高井戸シ ネマ	20
24	「ハニワと土偶の近代」	NHK 関連文化講演会	花井久穂 (主任研究員)	R6. 11. 8	品川区きゅ りあん	282
25	「中央/地方を読み直すー正史と外 伝、展示室と収蔵庫とその外側か ら」	明治美術学会 40 周 年国際シンポジウ ム「明治から／明 治へ：書き直し近 代日本美術」次世 代研究者フォーラ ム「視覚文化研究 をひらくー近代・ 日本・美術を越え て」セッション B 〈地域〉	花井久穂 (主任研究員)	R6. 11. 24	早稲田大学 小野記念講 堂	200
26	「中高生から見た美術」	東京造形大学写真 専攻領域 学外展シ ンポジウム	端山聡子 (主任研究員)	R6. 11. 18	BankART KAIKO	50

27	「ミュージアムにおけるボランティア-主体性を引き出すためのマネージメントとは」	明治大学博物館・南山大学人類学博物館連携事業シンポジウム「博物館の行く道」	端山聡子 (主任研究員)	R6. 12. 9	南山大学	70
28	「ゲルハルト・リヒターのドローイングについて」	アートト	榊田倫広 (主任研究員)	R6. 8. 4	アートト	10
29	「堀内悠希と榊田倫広による対談」	『堀内悠希 Q の旅』展 (十和田市現代美術館) 関連イベント	榊田倫広 (主任研究員)	R6. 9. 21	十和田市地域交流センター 大ギャラリー	5
30	四年卒業制作 プラン講評	公開講評会	榊田倫広 (主任研究員)	R6. 10. 11	東北芸術工芸大学	30
31	「国境を越えるアーティストと絵画の可能性」	アートト	榊田倫広 (主任研究員)	R6. 11. 30	アートト	10
32	「渡辺えつこ × 榊田倫広 アーティストトーク」	「Who's Afraid of Bild-ing 渡辺えつこ」展関連イベント	榊田倫広 (主任研究員)	R6. 12. 14	SOM GALLERY	15
33	東北芸術工芸大学卒業制作展 公開講評会	公開講評会	榊田倫広 (主任研究員)	R7. 2. 6	東北芸術工芸大学	30
34	「Alternative Vision: A Female Perspective: 女性写真家の不在をめぐって」	T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO: TALK SESSION	小林紗由里 (研究員)	R6. 10. 19	T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO (東京ミッドタウン八重洲)	20
35	「今、榎倉康二を考える」	「榎倉康二 没後 30 周年展」関連シンポジウム	佐原しおり (研究員)	R7. 3. 15	スペース 23°C	-
36	「TRIO パリ・東京・大阪 モダンアート・コレクション」展の見どころ	外国の美術と文化	横山由季子 (研究員)	R6. 6. 22	朝日カルチャーセンター新宿教室	30
37	「話したくなる展覧会「TRIO」美の三都物語」	「NIKKEI LIVE」	横山由季子 (研究員)	R6. 7. 18	オンライン	2270
38	「クロストーク 展覧会企画者が語る TRIO の魅力」	TRIO 展関連イベント	横山由季子 (研究員)	R6. 10. 5	大阪中之島美術館	100
39	第 2 回 BUG Art Award	公開最終審査	横山由季子 (研究員)	R6. 10. 8	BUG リクルートアートセンター	60
40	展覧会の資料調査	東京大学「資料文献調査法」ゲスト講師	横山由季子 (研究員)	R6. 10. 24	同志社大学	15
41	美術とジェンダー	同志社大学「ジェンダーと表象」ゲスト講師	横山由季子 (研究員)	R6. 11. 15	同志社大学	44

42	金沢美術工芸大学 大学院博士後期課程 1 年 研究制作展「空間・空間・空間・空間」	公開講評会	横山由季子 (研究員)	R7. 2. 22	石川県政記念しいのき迎賓館	10
雑誌等論文掲載						
学術書籍、研究報告書等の発行						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日		
1	東京国立近代美術館と／の西洋美術：展覧会とコレクションを通して	長名大地 (主任研究員)	『言語社会』19 号	R7. 3. 31		
2	大型石版画の《横浜上陸》と『ペリー艦隊日本遠征記』—鑑賞者／読者を 170 年前に誘うアプローチのススメ—	端山聡子 (主任研究員)	科学研究費助成事業基礎研究 C 研究成果報告書「開国黄・「虚像」による日本観の形成に関する基礎的研究：その方法論を中心に」	R7. 3. 27		
3	大辻清司の作品世界とこの写真集の構成について	増田玲 (主任研究員)	『大辻清司写真集成』(国書刊行会)	R. 6. 7. 24		
4	高倉大輔「monodramatic」シリーズの変遷をめぐって	小林紗由里 (研究員)	『写真批評』復刊第 2 号	R6. 10. 13		
5	斉藤里香—自己と世界の間（あわい）を木版画で探究	都築千重子 (研究員)	『版画芸術』206 号	R6. 12. 1		
【査読無し】論文掲載（学術誌、美術雑誌、館外の展覧会図録等）						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日		
1	入選作品 山口英紀《日本三名瀑—華厳の滝》2023 年 推薦文	中村麗子 (主任研究員)	『第 9 回 東山魁夷記念 日経日本画大賞展』図録（日本経済新聞社）	R6. 5. 25		
2	「aknown」	成相肇 (主任研究員)	『秋吉風人 Godchildren』	R6. 6. 22		
3	「自と画と像」	成相肇 (主任研究員)	『自画像：Reflections』カタログ（ギャラリー58）	R6. 11. 27		
4	「テーブルと帽子とボルダリング」、「彫刻の裏話」	成相肇 (主任研究員)	『Unknown Sculpture Series no.7』	R6. 12. 19		
5	「人間は絵をかく——障害者表現にまつわる用語の有効性について」	成相肇 (主任研究員)	キュレーションを公平に拡張する vol.1.3『（こどもの）絵が 70 年残ることについて』カタログ（一般財団法人 HAPS）	R7. 3. 28		
6	ハニワと土偶の近代を考える	花井久穂 (主任研究員)	『陶説』2024 年 10 月号 /No. 854	R6. 9. 30		
7	第 67 回 CWAJ 現代版画展選考会講評	花井久穂 (主任研究員)	第 67 回 CWAJ 現代版画展カタログ（2024 College Women's Association of Japan）	R6. 10. 16		

8	「大型石版画の《横浜上陸》と『ペリー提督日本遠征記』 —絵と記述を重ね合わせて読み解く—	端山聡子 (主任研究員)	特別展図録『かながわ へのまなざし』 神奈川 県立歴史博物館	R6. 8. 1
9	「Qの旅」紀行	榊田倫広 (主任研究員)	『堀内悠希 Qの旅』 (十和田市現代美術 館)	R7. 2. 28
10	「近藤亜樹の「イディオム」——「わたしはあなたに会 いたかった」シリーズについて	榊田倫広 (主任研究員)	『近藤亜樹：我が身を さいて、みた世界は』 (水戸芸術館 現代美術 ギャラリー)	R7. 3. 28
11	世界に触れ、世界に触れられる—石内都の写真について	増田玲 (主任研究員)	『石内都 STEP THROUGH TIME』展カタログ (大 川美術館)	R6. 8. 30
12	アンリ・カルティエ＝ブレッソン、アウグスト・ザンダ ー、ウォーカー・エヴァンズ、マーティン・パーの作品解 説、作家略歴	小林紗由里 (研究員)	『世界の20世紀写真 「人を撮る」：フジフ イルム・フォトコレク ション II：富士フィル ムグループ創立90周年 記念コレクション』	R6. 4. 1
13	「制御を超えたテクノロジーと向き合う——吉田志穂の 「印刷と幽霊」について」	小林紗由里 (研究員)	『吉田志穂 印刷と幽 霊 The Vestiges of the Unseen』	R7. 3. 14
14	「榎倉康二 作品保存の視点からみたメディウムの変遷」	佐原しおり (研究員)	『榎倉康二』カタログ	R6. 9. 1
15	東京国立近代美術館と版画の「今」(特集 それぞれの現 場 II)	都築千重子 (研究員)	『版画学会学会誌』第 53号(編集・発行：版 画学会事務局)	R7. 3. 31
16	「生成と消滅の青、巡回する線：石田尚志の《絵と窓の 間》をめぐって」	横山由季子 (研究員)	『石田尚志 絵と窓の 間』	R6. 8. 8
その他の執筆(機関紙、雑誌、新聞、ウェブサイト等)				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日
1	「破天荒には理由がある」	大谷省吾 (副館長)	『月刊アートコレク ターズ』	R7. 2. 25
2	「ヒルマ・アフ・クリント展」	三輪健仁 (美術課長)	『美術の窓』3月号	R7. 2. 20
3	「近代美術の眼：ハンス・リヒター《色のオーケストレー ション》」	長名大地 (主任研究員)	『読売新聞』(都内 版)	R6. 6. 8
4	「イベント報告「住処の住人トーク(第二弾)」につい て」、「「Rare Books from the Collection of Annely Juda Fine Art」の収蔵について」	長名大地 (主任研究員)	『Japan Cultural Research Institute Annual Report』9号 (特定非営利活動法人 JCRI)	R6. 10. 1
5	「シュルレアリスム100年映画祭 関連人物略歴」「シュル レアリスム100年映画祭 関連年表」	長名大地 (主任研究員)	『シュルレアリスム100 年映画祭』(トレノバ)	R6. 10. 1
6	「物質と偶然と」	成相肇 (主任研究員)	web かたばみ	R6. 4. 5

7	「近代美術の眼 長谷川利行《大庭鉄太郎像》」	成相肇 (主任研究員)	『読売新聞』(都内版)	R6. 4. 13
8	「遠近を見る」	成相肇 (主任研究員)	『形 forme』333 号	R6. 4. 30
9	「里山のバタイユ」	成相肇 (主任研究員)	『美術の窓』2024 年 5 月号	R6. 5. 20
10	書評 森村泰昌『生き延びるために芸術は必要か』	成相肇 (主任研究員)	共同通信	R6. 6. 23
11	「美の十選 新聞の鑑賞」1~10	成相肇 (主任研究員)	『日本経済新聞』	R6. 7. 3, 4, 5, 8, 9, 10, 11, 12, 15, 17
12	座談会「ハニワと土偶への「まなざし」」	成相肇 (主任研究員)	『東京人』2024 年 11 月号	R6. 10. 3
13	「垂直をみる」	成相肇 (主任研究員)	『形 forme』334 号	R6. 10. 7
14	ハニワと土偶の近代「岡本太郎《顔》」	成相肇 (主任研究員)	『毎日新聞』(東京版)	R6. 11. 6
15	ハニワと土偶の近代「桂ゆき《人と魚》」	成相肇 (主任研究員)	『毎日新聞』(東京版)	R6. 11. 13
16	「山下裕二×成相肇 美術展 2024 回顧&2025 展望」	成相肇 (主任研究員)	『芸術新潮』2024 年 12 月号	R6. 11. 25
17	A Gaze upon Haniwa and Dogu	成相肇 (主任研究員)	『Discuss Japan』 Japan Foreign Policy Forum (Web)	R6. 12. 6
18	「かくしてみる」	成相肇 (主任研究員)	『形 forme』335 号	R7. 2. 10
19	審査公表、作品評	成相肇 (主任研究員)	『アート・ミュージアム・プレス 2024』	R7. 2. 27
20	「1400 年後のリバイバル 埴輪に託された近代の夢」	花井久穂 (主任研究員)	『芸術新潮』2024 年 10 月号	R6. 9. 25
21	「出土モチーフの系譜追う」	花井久穂 (主任研究員)	『毎日新聞』(東京版)	R6. 9. 23
22	「描かれたハニワを探して東奔西走！ハニワ展覧会奮闘記。」	花井久穂 (主任研究員)	『東京人』2024 年 11 月号	R6. 10. 3
23	座談会「ハニワと土偶への「まなざし」」	花井久穂 (主任研究員)	『東京人』2024 年 11 月号	R6. 10. 3
24	ハニワと土偶の近代「都路華香《埴輪》」	花井久穂 (主任研究員)	『毎日新聞』(東京版)	R6. 10. 11
25	特集「100 年目の「民藝」。これからの民芸を考える」	花井久穂 (主任研究員)	『&Premium』2024 年 12 月号	R6. 10. 19
26	ハニワと土偶の近代「桑原喜八郎《埴輪の部屋》」	花井久穂 (主任研究員)	『毎日新聞』(東京版)	R6. 10. 20
27	ハニワと土偶の近代「斎藤清《埴輪》」	花井久穂 (主任研究員)	『毎日新聞』(東京版)	R6. 10. 28
28	「ハニワと土偶の近代」	花井久穂 (主任研究員)	『文化庁広報誌ぶんかる』	R6. 10. 28

29	A Gaze upon Haniwa and Dogu	花井久穂 (主任研究員)	『Discuss Japan』 Japan Foreign Policy Forum (Web)	R6. 12. 6
30	「落合多武の近年の絵画作品について——絵画のモダン、 ポストモダンのあとで 3」	榊田倫広 (主任研究員)	『コメント通信』No. 45	R6. 4. 30
31	「ポスト=メディウム・コンディションにおける絵画につい て その1——絵画のモダン、ポストモダンのあとで 4」	榊田倫広 (主任研究員)	『コメント通信』No. 50	R6. 9. 30
32	「「絵画」を再定義する物質的なアプローチ。ウェイド・ ガイトン インタビュー」	榊田倫広 (主任研究員)	『Tokyo Art Beat』	R6. 12. 24
33	「ポスト=メディウム・コンディションにおける絵画につ いて その2——絵画のモダン、ポストモダンのあとに 5」	榊田倫広 (主任研究員)	『コメント通信』No. 55	R7. 2. 28
34	書評 日高優『日本写真論：近代と格闘した三巨人』	増田玲 (主任研究員)	『週刊読書人』	R7. 8. 30
35	「「女性と抽象」展について—コレクションとジェンダ ー」	小林紗由里 (研究員)	『ZENBI：全国美術館会 議機関誌』	R6. 9. 1
36	「近代美術の眼 出光真子《主婦たちの一日》」	小林紗由里 (研究員)	『読売新聞』（都内 版）	R6. 12. 14
37	「視点 「気づき」の場としての映像—「フェミニズムと 映像表現」展」	小林紗由里 (研究員)	『美術の窓』	R7. 2. 19
38	「近代美術の眼：多田美波《Chiaroscuro》」	佐原しおり (研究員)	『読売新聞』（都内 版）	R6. 5. 11
39	「台湾もやもや紀行」	佐原しおり (研究員)	『パンのパン』vol. 4 (下)	R6. 5. 25
40	「佐原しおり評「オチ・オサム」展」	佐原しおり (研究員)	『美術手帖』（ウェブ 版）	R6. 7. 6
41	「「女性と抽象」展について—コレクションとジェンダ ー」	佐原しおり (研究員)	『ZENBI：全国美術館会 議機関誌』	R6. 9. 1
42	「東京ブロック：「欠落」を集める」	佐原しおり (研究員)	『ZENBI：全国美術館会 議機関誌』	R7. 2. 1
43	「近代美術の眼：清宮質文《深夜の蠟燭》」	佐原しおり (研究員)	『読売新聞』（都内 版）	R7. 2. 8
44	「おしゃべり美術展 TRIO パリ・東京・大阪 モダンア ート・コレクション」	横山由季子 (研究員)	『art NIKKEI』（ウェ ブサイト）	R6. 4. 3
45	「アートに会いに『TRIO パリ・東京・大阪 モダンア ート・コレクション』」	横山由季子 (研究員)	『大人のおしゃれ手 帖』6月号	R6. 5. 7
46	「TRIO パリ・東京・大阪 モダンアート・コレクション」	横山由季子 (研究員)	『美術の窓』6月号	R6. 5. 20
47	「ルネ・マグリット レディ・メイドの花束」	横山由季子 (研究員)	『PARTNER』6月号	R6. 5. 25
48	「有元利夫の絵画と音楽」	横山由季子 (研究員)	『新美術新聞』6月 15 日号	R6. 6. 10
49	「画家ピエール・ボナールの軌跡」	横山由季子 (研究員)	『画家ボナール ピエ ールとマルト』（映画 パンフレット）	R6. 9. 20
50	「3つの名前を持つ女性：マリア・ブルサン、マルト・ ド・メリニー、マルト・ソランジュ」	横山由季子 (研究員)	『画家ボナール ピエ ールとマルト』（映画 パンフレット）	R6. 9. 20

51	「近代美術の眼 吉澤美香《無題》」		横山由季子 (研究員)	『読売新聞』(都内版)	R6. 11. 9	
52	近代美術の眼「織田一磨《憂鬱の谷》」		森卓也 (研究補佐員)	『読売新聞』(都内版)	R7. 3. 8	
(国立工芸館)						
学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	講演会「志野の造形美―人間国宝 鈴木藏の作品世界とその魅力」	江別市セラミック アートセンター	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	R6. 6. 15	江別市セラ ミックア― トセンター 研修室	45
2	講演会「志野の魅力―人間国宝 鈴木藏の作陶と作品―」	東根市公益文化施 設まなびあテラス	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	R6. 8. 25	東根市美術 館	43
3	漆表現の現在 2024 シンポジウム「漆表現の展望と大学教育の役割」第1セッション「1990年代以降の漆造形表現」	漆表現の現在実行 委員会	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	R6. 10. 26	国立工芸館 多目的室	40
4	対談：土屋順紀を読みとく	日本工芸会染織部 会シン研究会	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	R6. 11. 12	石川県立美 術館ホール	76
5	トークイベント	高橋朋子展【遊ぶ 月】	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	R6. 11. 17	金源堂 2 階 ギャラリー	20
6	ポケモン×工芸展トークイベント	麻布台ヒルズギャ ラリー	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	R6. 12. 3	麻布台ヒル ズカフェ	30
7	講演会「志野の魅力―人間国宝 鈴木藏の作陶と作品―」	富山県水墨美術館	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	R6. 12. 7	富山県水墨 美術館 映 像ホール	47
8	「探究する工芸 Seek after KOGEI」	KOGEI Art Gallery 銀座の金沢 1 周年 記念特別トークイ ベント	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	R7. 2. 2	ハイアット セントリッ ク銀座東京 3F マルチ ファンクシ ョンエリア	50
9	「鈴木藏の志野展」の見どころ	日本陶磁協会オン ラインやきもの講 座	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	R7. 3. 15	Zoom オン ライン	40
10	「美術館を活用した鑑賞の学習の実際～工芸の魅力を生かして～」	令和 6 年石川県教 員総合研修センタ ー研修	今井陽子 (主任研究員)	R6. 12. 6	国立工芸館	29
11	「国立工芸館 工芸トークオンラインの試み」	第 62 回全国美術館 会議 教育普及研究 部会	今井陽子 (主任研究員)	R7. 3. 6	オンライン	74
雑誌等論文掲載						
学術書籍、研究報告書等の発行						
	タイトル		執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日	
1	―2022 年度第 49 回大会―基調講演「伝統陶芸の歩みと展開、そして未来」		唐澤昌宏 (国立工芸館長)	『東洋陶磁』第 54 号	R7. 3. 31	

2	漆表現の現在 2024 シンポジウム「漆表現の展望と大学教育の役割」第1セッション—1990年代以降の漆造形表現	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	『漆表現の現在 2024 - 漆へのまなざし -』記録集	R7. 3. 31
【査読無し】論文掲載（学術誌、美術雑誌、館外の展覧会図録等）				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日
1	「『陶狂』、田中佐次郎の茶碗」	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	『火の神と闘う 田中佐次郎展』図録	R6. 5. 28
2	「東京藝術大学における陶芸教育と藝大陶芸という物差し」	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	『第60回 杜窯会作陶展 東京藝術大学陶芸研究室在学生と卒業生による』展デジタルカタログ	R6. 8. 27
3	「荒川豊蔵と『志野』」	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	『生誕130年 荒川豊蔵展』図録	R6. 9. 13
4	「津金日人夢の『青瓷』」	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	『一青瓷一津金日人夢展』図録	R6. 9. 19
5	「やきものへの熱き想い—田中佐次郎の作陶」	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	『田中佐次郎展—縄文から未来へ—炎の陶芸家が創り出す壮大な美の世界』図録	R6. 9. 30
6	「釉裏金彩を極める—吉田美統の作陶」	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	『人間国宝『釉裏金彩』 吉田美統の景色』展図録	R6. 10. 18
7	「隠崎隆一の茶碗 素材と焼成が導く造形」	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	『隠崎隆一 茶碗』展図録	R6. 10. 29
8	「伝統とコンテンポラリーの衝突と融合。領域を超え、陶芸表現の可能性を広げる」	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	『美術手帖』第1104号	R7. 1. 1
9	「北陸は工芸の宝庫」	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	『淡交』981号 第79巻 第1号	R7. 1. 1
10	「加藤亮太郎の茶碗」	岩井美恵子 (工芸課長)	爲三郎記念館特別展「加藤亮太郎 半白記念展」図録	R6. 10. 1
11	「染織」	今井陽子 (主任研究員)	木田拓也監修『伝検公式テキスト：日本の伝統文化を総合的に学ぶ検定』時事通信出版局	R6. 10. 2
その他の執筆（機関紙、雑誌、新聞、ウェブサイト等）				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日
1	「金沢の伝統文化を支える工芸の魅力」	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	『第80回記念 金沢市工芸展記念誌』	R6. 6. 1
2	「十月日本祭 2024 に寄せて」	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	『日本の伝統美』展図録	R6. 10. 11

3	「色絵磁器の可能性—高橋朋子の金銀彩」	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	『高橋朋子【遊ぶ月】』DM	R6. 10. 15
4	「はじめに」	唐澤昌宏 (国立工芸館長)	『未来につなぐ日本の工芸品』	R7. 2. 18
5	「昔も今もアートと工芸は混在しています」(インタビュー記事)	岩井美恵子 (工芸課長)	G Q	R6. 4. 1
6	「工芸館の窓から [作家の心象風景思いはせ]」	岩井美恵子 (工芸課長)	読売新聞 (石川県版)	R6. 9. 14
7	「心象工芸展—いまを生きる作家の心」	岩井美恵子 (工芸課長)	ウェブサイト「キュレーターズノート」『art scape』	R6. 10. 2
8	「[工芸館の窓から] 心ざわめかせる 光と影」	今井陽子 (主任研究員)	『読売新聞』(石川県版)	R6. 7. 13
9	「[キュレーターズノート] ノート: 「工芸の光と影展」をみるための」	今井陽子 (主任研究員)	ウェブサイト『アート スケープ』大日本印刷 株式会社	R6. 7. 17
10	「[小規模図書館奮戦記]美術館のなかの図書館」	廣川晶子 (主任研究員)	『図書館雑誌』第 118 巻第 10 号 (通巻 1211 号)	R6. 10. 20
11	「[工芸館の窓から] 寄贈資料で作家再発見」	廣川晶子 (主任研究員)	『読売新聞』(石川県版)	R7. 3. 8
12	作家解説 倉俣史朗	三木敬介 (主任研究員)	ウェブサイト「ART PLATFORMS JAPAN」内 「日本アーティスト事 典」	R6. 10. 22
13	「[工芸館の窓から] 「反復」の安心 「偶然」の驚き」	三木敬介 (主任研究員)	読売新聞 (石川県版)	R6. 12. 14
14	「国立工芸館—工芸とデザインの美術館として」	三木敬介 (主任研究員)	ウェブサイト「キュレーターズノート」『art scape』	R7. 3. 13
15	「[工芸館の窓から] 目と心で味わう茶懐石の器」	中川智絵 (任期付研究員)	『読売新聞』(石川県版)	R6. 11. 23
16	「[工芸館の窓から] 心に浮かぶ景色 表現多様」	石川嵩紘 (特定研究員)	『読売新聞』(石川県版)	R6. 10. 12
17	「[工芸館の窓から] 「作品探し 子の探求心育む」	日南日和 (特定研究員)	『読売新聞』(石川県版)	R6. 8. 10
18	「[工芸館の窓から] 鑑賞し感想共有 理解深める」	宮川典子 (特定研究員)	『読売新聞』(石川県版)	R6. 6. 8
19	作家解説 海野勝珉	宮川典子 (特定研究員)	ウェブサイト「ART PLATFORMS JAPAN」内 「日本アーティスト事 典」	R6. 11. 14
20	「[工芸館の窓から] 子どもの目 本質楽しむ」	土井貴美子 (研究補佐員)	『読売新聞』(石川県版)	R7. 1. 11

ウ 京都国立近代美術館						
学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「S&K コレクションの加守田章二」	特別展「金重陶陽と加守田章二ー土味、造形、そして美ーS&K コレクションから」美術講座	福永治 (館長)	R6. 11. 16	華鵠大塚美術館	30
2	富岡鉄斎 万巻の書と万里の路	展覧会「没後 100 年 富岡鉄斎」記念講演会	梶岡秀一 (学芸課長)	R6. 7. 27	富山県水墨美術館	48
3	富岡鉄斎 万巻の書と万里の路	展覧会「没後 100 年 富岡鉄斎」記念講演会	梶岡秀一 (学芸課長)	R6. 10. 26	碧南市藤井達吉現代美術館	56
4	富岡鉄斎とやまと絵 篆刻家・羽倉可亭の関係資料とともに	第 10 回聖光文庫文化講座	梶岡秀一 (学芸課長)	R6. 12. 8	宝塚市立中央図書館	54
5	「走泥社展を開催して」	The Spring Art Fair 国際セミナー	大長智広 (主任研究員)	R6. 5. 2	陶溪川アートセンター (中国・景德鎮)	150
6	「今なぜ走泥社なのか」	走泥社再考展記念講演会	大長智広 (主任研究員)	R6. 5. 18	菊池寛実記念 智美術館	60
7	「生誕 120 年 人間国宝・黒田辰秋展」	京都新聞総合研究所提携講座 アートサロン	大長智広 (主任研究員)	R6. 10. 21	佛教大学	80
8	日本近代の一側面を京都から概観する	「超絶技巧からモダンへ 京都・近代工芸の新展開」展記念講演会	大長智広 (主任研究員)	R7. 2. 24	長崎県立美術館	85
9	Impact of Nagasaki school style on Kyoto and Osaka art	Symposium: Creative Collaborations in Kyoto, Osaka and Beyond, 1770-1900	平井啓修 (主任研究員)	R6. 9. 11	SOAS University of London	85
10	京都から見た大阪美術学校	大阪美術学校創立 100 年記念講演会 「大大阪モダニズムと大阪美術学校」	平井啓修 (主任研究員)	R6. 11. 23	枚方市総合文化芸術センターひらしんイベントホール	68
11	パトロンと美術家～芝川照吉の場合～	大阪大学ミュージアム・リンクス講座「大阪文化の多様性と創造性をさぐる ー地域の歴史に即してー」〈船	平井啓修 (主任研究員)	R7. 2. 15	大阪美術倶楽部	50

		場と美術 伝統と 今が会おう街)				
12	お月見トーク「野村仁とコスミック・センシビリティ」(聞き手)	野村仁「コスミック・センシビリティ」展関連イベント	牧口千夏 (主任研究員)	R6. 10. 17	アートコートギャラリー	20
13	MoMAK 写真コレクションの魅力	『写真をめぐる 100 年のものがたり』展関連講演会	牧口千夏 (主任研究員)	R6. 10. 19	静岡市美術館	42
14	見えない方とともに——京都国立近代美術館	NCAR シンポジウム 03「美術館のアクセシビリティ 対話のある“合理的配慮”とは？」	松山沙樹 (研究員)	R6. 9. 23	国立新美術館	150
15	あれもこれもそれもどれも、教育普及	芦屋市立美術館アートスタディプログラム「まなびはく」講座	松山沙樹 (研究員)	R6. 10. 15	芦屋市立美術館	20
16	京都国立近代美術館における鑑賞の取り組み	京都芸術教育フォーラム 2024 芸術の都「京都」で考える、未来につながる「鑑賞教育」	松山沙樹 (研究員)	R7. 1. 16	京都市京セラ美術館	100
17	「インターフェースとしての美術館の現場」	日本比較文学会関西支部	宮川智美 (任期付研究員)	R6. 11. 9	関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス、オンライン	会場：30 名 オンライン：67 名
18	The Work of Shiro Kuramata: A Microcosmos of Memory	ICOM ICDAD-Talk	宮川智美 (任期付研究員)	R6. 12. 3	オンライン	31
19	「アートでおしゃべり」対話型鑑賞プログラムを体験しよう！	市民の学び場 2024	渡川智子 (特定研究員)	R6. 11. 17	静岡市番町市民活動センター	30

雑誌等論文掲載

学術書籍、研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日
1	現在地につながる—日本とマティスの切り紙絵—	渡辺亜由美 (特定研究員)	21 世紀からみたマティス 思考の万華鏡 (カレイドスコープ)	R7. 2. 28
2	ジュディ・シカゴと彼女たちの物語	渡辺亜由美 (特定研究員)	民族芸術学会誌 arts/	R7. 3. 31

【査読無し】論文掲載(学術誌、美術雑誌、館外の展覧会図録等)

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日
1	「審査員講評」	福永治 (館長)	『第 26 回雪梁舎 フィレンツェ賞展』図録	R6. 7. 1

			(公益財団法人美術育成財団雪梁舎)	
2	「S&K コレクションの加守田章二」	福永治 (館長)	『金重陶陽と加守田章二ー土味、造形、そして美ーS&K コレクションから』図録 (公益財団法人タカヤ文化財団、華鶴大塚美術館)	R6. 10. 12
3	「京都府新鋭選抜展審査委員講評」	福永治 (館長)	『Kyoto Art for Tomorrow 2025ー京都府新鋭選抜展』図録 (京都府、京都文化博物館)	R7. 1
4	審査評 美術工芸品・オブジェ部門	大長智広 (主任研究員)	『第 120 回有田国際陶磁展』	R6. 4. 29
5	Commentary	大長智広 (主任研究員)	『2024 Gyeonggi Ceramics Biennale International Competition』	R6. 9. 3
6	The Significance of International Competitions and Contemporary Japanese Ceramics	大長智広 (主任研究員)	『2024 Gyeonggi Ceramics Biennale International Competition』	R6. 9. 3
7	「大長智広に聞く「現代陶芸」の原点とは？」	大長智広 (主任研究員)	『美術手帖』vol. 77 NO. 1104	R6. 12. 6
8	日本近代の一側面を京都から概観する	大長智広 (主任研究員)	『超絶技巧からモダンへ 京都・近代工芸の新展開』	R7. 1. 17
9	展覧会この一点 第 38 回 拭漆文欄木飾棚	大長智広 (主任研究員)	『民芸』第 866 号 2025 年 2 月号	R7. 2. 1
10	「京都画壇と着物図案ー平面と立体を行き来する職人の技ー」	大長智広 (主任研究員)	『美術の窓』499 号	R7. 3. 20
11	The Nagasaki School of painting	平井啓修 (主任研究員)	<i>Salon culture in Japan: making art, 1750-1900, The British Museum Press</i>	R6. 6
12	京都国立近代美術館の写真コレクション	牧口千夏 (主任研究員)	『写真をめぐる 100 年のものがたり』展図録、静岡市美術館	R6. 10. 1
13	“A tâtons, tisser jusqu’ aux frontières du visible …: Les défis de Uehara Michiko (Grouping, Weaving to the Frontiers of the Visible…: The Challenges of Uehara Michiko),”	宮川智美 (任期付研究員)	Laura Schwartz- Arenales ed., <i>Plus Léger que l’ Air: Le vol de la Libellule, Uehara Michiko (Lighter Than Air: The Flight of the Dragonfly, Uehara</i>	R6. 10. 1

			Michiko), exh. cat., Milano: 5 Continents Editions			
その他の執筆（機関紙、雑誌、新聞、ウェブサイト等）						
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名	発行年月 日		
1	「展覧会へようこそ（第 26 回雪梁舎フィレンツェ賞展）～ 若手の真摯な取り組み」	福永治 （館長）	『新潟日報』 朝刊（文化欄）	R6. 8. 6		
2	「第 60 回記念大分県美展日洋彫工展の審査評」	福永治 （館長）	『大分合同新聞』 朝刊（文化・アート欄）	R6. 10. 19		
3	「第 37 回京都美術文化賞講評」	福永治 （館長）	『美術京都』第 56 号 （公益財団法人 中信美 術奨励基金）	R7. 3. 31		
4	【作品紹介】横浜高島屋開店 65 周年記念「高野光正コレク ション 発見された日本の風景」エラ・デュ・ケイン《庭 園の喫茶》	梶岡秀一 （学芸課長）	毎日新聞社「アートの 森」	R6. 8. 9		
5	【作品紹介】横浜高島屋開店 65 周年記念「高野光正コレク ション 発見された日本の風景」笠木治郎吉《漁家の休 憩》	梶岡秀一 （学芸課長）	毎日新聞社「アートの 森」	R6. 8. 9		
6	「発見された日本の風景」展〈下〉外国人画家のテーマを 踏襲	梶岡秀一 （学芸課長）	神奈川新聞	R6. 8. 12		
7	アートダイアリー 生誕 120 年 人間国宝 黒田辰秋 木 と漆と螺鈿の旅	大長智広 （主任研究員）	文化庁広報誌 ぶんか る（文化庁 web）	R7. 1. 24		
8	サロンー煎茶会が生み出したもの	平井啓修 （主任研究員）	『大英博物館煎茶会パ ンフレット』（一茶庵）	R6. 8		
9	「かたちと塗り——西村圭功の漆」	宮川智美 （任期付研究 員）	『西村圭功』中長小西	R6. 6. 1		
10	【展覧会レビュー】春望 Gazing at Spring	渡辺亜由美 （特定研究員）	ウェブ版美術手帖	R7. 3 公開		
11	誰かと生きていくために 「大学生と学ぶ 対話型鑑賞ファシリテーション講座 2023」に参加して	渡川智子 （特定研究員）	京都芸術大学アート・ コミュニケーション研 究センター ウェブサ イト	R6. 4. 15		
エ 国立映画アーカイブ						
学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 （職名）	日付	場所	聴講者数 （人）
1	「アニメ映像アーカイブ」	「アニメアーカイ ブビジョン 2025 ～ すべてのアニメの 映像を未来へ～	入江良郎 （主任研究員）	R7. 2. 27	アニメ東京 ステーショ ン 特設会 場	43
2	『明日は日本晴れ』上映前解説	回顧展「映画監督 清水宏」	大澤浄 （主任研究員）	R6. 5. 17	ジャパン・ ソサエティ （米国ニュ ーヨーク 市）	168

3	『母情』上映前解説	回顧展「映画監督 清水宏」	大澤浄 (主任研究員)	R6. 5. 18	ジャパン・ ソサエティ (米国ニュー ーヨーク 市)	68
4	『しいのみ学園』上映前解説	回顧展「映画監督 清水宏」	大澤浄 (主任研究員)	R6. 5. 18	ジャパン・ ソサエティ (米国ニュー ーヨーク 市)	58
5	『歌女おぼえ書』上映前解説	回顧展「映画監督 清水宏」	大澤浄 (主任研究員)	R6. 5. 19	映像博物館 (米国ニュー ーヨーク 市)	50
6	『帰郷』上映前解説	第8回ナイトレ ート・ピクチャー・ ショー	大澤浄 (主任研究員)	R6. 5. 31	ジョージ・ イーストマ ン博物館 (米国ロチ ェスター 市)	500
7	『土と兵隊』再考	国立映画アーカ イブ 常設展ギャ ラリートーク	大澤浄 (主任研究員)	R6. 11. 2	国立映画ア ーカイブ展 示室	30
8	「ヒッチコックとストーリー ボード」	『ヒッチコックと ストーリーボー ド』出版記念イ ベント	岡田秀則 (主任研究員)	R6. 10. 7	オンライン	559
9	Kazuko Kawakita and the Development of Independent Film Showing in Japan From the NFAJ Paper Collection.in Japan From the NFAJ Paper Collection.	International Conference on the Historicizing Film Culture Movements and Film Archives	岡田秀則 (主任研究員)	R6. 10. 24	韓国映像資 料院	-
10	映画監督瀬川昌治	生誕百年喜劇映画 の名手 瀬川昌治	岡田秀則 (主任研究員)	R7. 1. 13	シネ・ヌー ヴォ	40
11	「再入門！映画資料ABC」	全国映画資料アー カイブサミット 2025	岡田秀則 (主任研究員)	R7. 1. 24	オンライン	152
12	映画『羅生門』—静かなる証言者た ち	映画『羅生門』ユ ニバーサル上映会	岡田秀則 (主任研究員)	R7. 3. 20	北区滝野川 会館	280
13	『犯罪者の手』上映前解説	巡回上映「メキシ コ映画の大回顧」	大傍正規 (主任研究員)	R7. 3. 2	京都文化博 物館フィル ムシアター	123
14	The Age of the Arthouse Movement -The Saison Group in the 80's	International Conference on the Historicizing Film Culture	富田美香 (主任研究員)	R6. 10. 24	韓国映像資 料院	-

		Movements and Film Archives				
15	Comic Legacies on the Japanese Silver Screen 日本映画における喜劇の遺産 パネルディスカッション	「Comic Legacies on the Japanese Silver Screen 日本映画における喜劇の遺産」主催：国立映画アーカイブ、イエール大学東アジア研究センター	富田美香 (主任研究員)	R6. 4. 20	イエール大学人文科学クアドラングル内アリス・シネマ (米国コネチカット州ニューヘイヴン)	103
16	『眠狂四郎 勝負』上映前トーク	「Kenji Misumi 三隅研次監督特集」主催：国立映画アーカイブ、シネマテーク・フランセーズ	富田美香 (主任研究員)	R6. 5. 11	シネマテーク・フランセーズ・ジョルジュ・フランジュ劇場	157
17	“私たちの映像”が喪失する前に—デッドラインは2025年	『視点・論点』NHK	富田美香 (主任研究員)	R6. 7. 2	NHK	—
18	「磁気テープ資料の活用・保存・デジタルファイル化について」パネル・ディスカッション司会	「ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント マグネティック・テープ・アラート：磁気テープ映像の保存に向けてできること」主催：国立映画アーカイブ	富田美香 (主任研究員)	R6. 10. 5	国立映画アーカイブ 長瀬記念ホール OZU	255
19	パネルディスカッション「社会課題と映画教育の可能性」司会	「TIFF 映画教育国際シンポジウム 2024 《世界の子どもたちが映画を待っている》～社会課題と向き合う映画教育～」	富田美香 (主任研究員)	R6. 11. 2	国立映画アーカイブ 小ホール	116
20	マグネティック・テープ・アラート：膨大な磁気テープ原版映像を失う前にできること	『日本写真学会 令和6年度 画像保存セミナー』主催：一般社団法人日本写真学会	富田美香 (主任研究員)	R6. 12. 13	東京都写真美術館 1階ホール	—
21	技術資料紹介 プリンター（焼付機）の世界	国立映画アーカイブ 常設展ギャラリートーク	三浦和己 (主任研究員)	R6. 10. 12	国立映画アーカイブ 6F	30
22	映画・映像ファイルのデジタル保存 — 国立映画アーカイブの取り組みについて —	デジタルアーカイブ学会	三浦和己 (主任研究員)	R6. 11. 2	東京大学 本郷キャンパス法科大	40

					学院 総合 教育棟	
23	『ラジオ下神白 あのとき あのまち の音楽から いまここへ』小森はる か監督アフタートーク	MoMAK Films 2024	玉田健太 (研究員)	R6. 8. 24	京都国立近 代美術館	31
24	第4回授業	「映像身体学とキ ャリア」	玉田健太 (主任研究員)	R6. 11. 28	立教大学新 座キャンパ ス	121
25	映画館プログラム入門	国立映画アーカイ ブ 常設展ギャラリ ートーク	宮本法明 (任期付研究 員)	R6. 7. 6	国立映画ア ーカイブ 展示室ロビ ー	23
26	地果て海尽きるまで 澤井信一郎監督 資料について	国立映画アーカイ ブ 常設展ギャラリ ートーク	宮本法明 (任期付研究 員)	R6. 9. 7	国立映画ア ーカイブ 展示室ロビ ー	25
27	日本映画史入門！ 常設展展示資料解 説	国立映画アーカイ ブ 常設展ギャラリ ートーク	宮本法明 (任期付研究 員)	R7. 1. 11	国立映画ア ーカイブ 展示室ロビ ー	35
28	『死後の世界の謎』上映前解説	巡回上映「メキシ コ映画の大回顧」	佐野亨 (特定研究員)	R7. 2. 7	福岡市総合 図書館映像 ホール・シ ネラ	-
29	『ロス・カイファネス』上映前解説	巡回上映「メキシ コ映画の大回顧」	佐野亨 (特定研究員)	R7. 2. 8	福岡市総合 図書館映像 ホール・シ ネラ	-
30	前田陽一がみた横浜	国立映画アーカイ ブ 常設展ギャラリ ートーク	佐野亨 (特定研究員)	R7. 3. 8	国立映画ア ーカイブ	-
31	「女性映画コレクティブ〈Colectivo Cine Mujer〉 作品集」上映前解説	巡回上映「メキシ コ映画の大回顧」	中西香南子 (特定研究員)	R7. 2. 5	福岡市総合 図書館映像 ホール・シ ネラ	-
32	『誰の女でもない』上映前解説	巡回上映「メキシ コ映画の大回顧」	中西香南子 (特定研究員)	R7. 2. 6	福岡市総合 図書館映像 ホール・シ ネラ	-
33	国立映画アーカイブにおけるデジタ ルデータ長期保存の実際	ジャパン・オーブ ンサイエンス・サ ミット 2024	中西智範 (特定研究員)	R6. 6. 21	国立情報学 研究所	-
34	ビデオテープ映像のデジタルファイ ル化とその保存について	ユネスコ「世界視 聴覚遺産の日」記 念特別イベント マグネティック・ テープ・アラート	中西智範 (特定研究員)	R6. 10. 5	国立映画ア ーカイブ・ 長瀬記念ホ ール OZU	255

35	『港の女』上映前解説	巡回上映「メキシコ映画の大回顧」	池元慎 (研究補佐員)	R7.3.1	京都文化博物館フィルムシアター	98
雑誌等論文掲載						
学術書籍、研究報告書等の発行						
	タイトル		執筆者氏名 (職名)	掲載誌名		発行年月 日
1	『芥川也寸志とその時代 戦後日本映画産業と音楽家たち』		藤原征生 (特定研究員)	単著 (国書刊行会)		R7.3.21
【査読有り】論文掲載 (学術誌、美術雑誌、館外の展覧会図録等)						
	タイトル		執筆者氏名 (職名)	掲載誌名		発行年月 日
1	吉澤商店倫敦支店長・立島清の足跡		入江良郎 (主任研究員)	『演劇研究』48号		R7.3.17
【査読無し】論文掲載 (学術誌、美術雑誌、館外の展覧会図録等)						
	タイトル		執筆者氏名 (職名)	掲載誌名		発行年月 日
1	Kikyo		大澤浄 (主任研究員)	『第8回ナイトレー ト・ピクチャー・ショ ー』カタログ		R6.5.29
2	返還映画コレクション特集と今後の展望		大傍正規 (主任研究員)	『神奈川大学評論』107号		R6.11.30
その他の執筆 (機関紙、雑誌、新聞、ウェブサイト等)						
	タイトル		執筆者氏名 (職名)	掲載誌名		発行年月 日
1	流転を生きる映画館たち		岡田秀則 (主任研究員)	書籍『人が集まる、文化が集まる！まちの個性派映画館』		R6.11.22
2	書評『P. C. L. 映画の時代 ニッポン娯楽映画の源流 1932-1937』		岡田秀則 (主任研究員)	「キネマ旬報」2025年3月号		R7.2.20
3	書評『淀川長治 「映画の伝道師」と日本のモダン』		岡田秀則 (主任研究員)	日本経済新聞朝刊		R7.2.22
4	マグネティック・テープ・アラート —ビデオテープの貴重な映像を失う前に—		富田美香 (主任研究員)	『ネットワーク資料保存』第135号 2024年6月号、日本図書館協会資料保存委員会		R6.6.1
5	土曜特集 貴重な映像や音声 喪失の危機 磁気テープの2025年問題 国立映画アーカイブ富田美香主任研究員に聞く		富田美香 (主任研究員)	『公明新聞』2025年1月18日付4面		R7.1.18
6	今さら聞けない世界 ビデオもカセットも 近づく最終期限、「永遠に視聴できなくなる日」		富田美香 (主任研究員)	『朝日新聞デジタル』2025年1月20日付		R7.1.20
7	極私的『紅い眼鏡』体験記		富田美香 (主任研究員)	『紅い眼鏡プログラムブック』発行：有限会社バルク		R7.3.21
8	五所平之助		玉田健太 (研究員)	「JFDB (日本映画データベース)」 国際交流基金、ユニジャパン		R6.6.21

9	羽田澄子	玉田健太 (研究員)	「JFDB（日本映画データベース）」 国際交流基金、ユニジ ャパン	R6. 6. 21
10	田中絹代	玉田健太 (研究員)	「JFDB（日本映画データベース）」 国際交流基金、ユニジ ャパン	R6. 6. 21
11	篠田正浩	玉田健太 (研究員)	「JFDB（日本映画データベース）」 国際交流基金、ユニジ ャパン	R6. 6. 21
12	『煙突の見える場所』	玉田健太 (研究員)	「JFDB（日本映画データベース）」 国際交流基金、ユニジ ャパン	R6. 6. 21
13	『黄色いからす』	玉田健太 (研究員)	「JFDB（日本映画データベース）」 国際交流基金、ユニジ ャパン	R6. 6. 21
14	『痴呆性老人の世界』	玉田健太 (研究員)	「JFDB（日本映画データベース）」 国際交流基金、ユニジ ャパン	R6. 6. 21
15	『山中常盤』	玉田健太 (研究員)	「JFDB（日本映画データベース）」 国際交流基金、ユニジ ャパン	R6. 6. 21
16	『月は上りぬ』	玉田健太 (研究員)	「JFDB（日本映画データベース）」 国際交流基金、ユニジ ャパン	R6. 6. 21
17	『乳房よ永遠なれ』	玉田健太 (研究員)	「JFDB（日本映画データベース）」 国際交流基金、ユニジ ャパン	R6. 6. 21
18	『夕陽に赤い俺の顔』	玉田健太 (研究員)	「JFDB（日本映画データベース）」 国際交流基金、ユニジ ャパン	R6. 6. 21
19	『乾いた花』	玉田健太 (研究員)	「JFDB（日本映画データベース）」 国際交流基金、ユニジ ャパン	R6. 6. 21
20	人物解説「岡本喜八」	宮本法明 (任期付研究 員)	「JFDB（日本映画データベース）」 国際交流基金、ユニジ ャパン	R6. 6. 21

21	作品解説「暗黒街の対決」	宮本法明 (任期付研究 員)	「JFDB（日本映画デー タベース）」 国際交流基金、ユニジ ャパン	R6. 6. 21
22	作品解説「江分利満氏の優雅な生活」	宮本法明 (任期付研究 員)	「JFDB（日本映画デー タベース）」 国際交流基金、ユニジ ャパン	R6. 6. 21
23	人物解説「中川信夫」	宮本法明 (任期付研究 員)	「JFDB（日本映画デー タベース）」 国際交流基金、ユニジ ャパン	R6. 6. 21
24	作品解説「地獄」	宮本法明 (任期付研究 員)	「JFDB（日本映画デー タベース）」 国際交流基金、ユニジ ャパン	R6. 6. 21
25	作品解説「東海道四谷怪談」	宮本法明 (任期付研究 員)	「JFDB（日本映画デー タベース）」 国際交流基金、ユニジ ャパン	R6. 6. 21
26	人物解説「成瀬巳喜男」	宮本法明 (任期付研究 員)	「JFDB（日本映画デー タベース）」 国際交流基金、ユニジ ャパン	R6. 6. 21
27	作品解説「稲妻」	宮本法明 (任期付研究 員)	「JFDB（日本映画デー タベース）」 国際交流基金、ユニジ ャパン	R6. 6. 21
28	作品解説「二人妻 妻よ薔薇のやうに」	宮本法明 (任期付研究 員)	「JFDB（日本映画デー タベース）」 国際交流基金、ユニジ ャパン	R6. 6. 21
29	人物解説「増村保造」	宮本法明 (任期付研究 員)	「JFDB（日本映画デー タベース）」 国際交流基金、ユニジ ャパン	R6. 6. 21
30	作品解説「青空娘」	宮本法明 (任期付研究 員)	「JFDB（日本映画デー タベース）」 国際交流基金、ユニジ ャパン	R6. 6. 21
31	作品解説「卍」	宮本法明 (任期付研究 員)	「JFDB（日本映画デー タベース）」 国際交流基金、ユニジ ャパン	R6. 6. 21
32	映画批評『ANORA アノーラ』ショーン・ベイカー	宮本法明 (任期付研究 員)	web サイト「NOBODY」	R7. 3. 6

33	大島渚、『新宿泥棒日記』、『少年』	中西香南子 (特定研究員)	「JFDB (日本映画データベース)」 国際交流基金、ユニジャパン	R6. 6. 21
34	小津安二郎、『非常線の女』、『風の中の牝鷄』	藤原征生 (特定研究員)	「JFDB (日本映画データベース)」 国際交流基金、ユニジャパン	R6. 6. 21
35	黒澤明、『生きる』、『生きものの記録』	藤原征生 (特定研究員)	「JFDB (日本映画データベース)」 国際交流基金、ユニジャパン	R6. 6. 21
36	今村昌平、『にっぽん戦後史 マダムおんぼろの生活』	藤原征生 (特定研究員)	「JFDB (日本映画データベース)」 国際交流基金、ユニジャパン	R6. 6. 21
37	麦秋／ニコライ堂／セザンヌ／幽霊～小津安二郎監督作品 「麦秋」とセザンヌ～	山本一郎 (特定専門員)	「映画テレビ技術」 2025 年 1 月号	R7. 1. 1

オ 国立西洋美術館

学会等発表

	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「異文化を見る複数の眼差し——アフリカ・オセアニア美術と西洋 20 世紀美術」	大原美術館特別展 「異文化は共鳴するのか？大原コレクションでひらく近代への扉」記念シンポジウム	田中正之 (館長)	R6. 9. 15	大原美術館 (オンライン)	500
2	「古代とゴールド」	地中海学会	飯塚隆 (主任研究員)	R6. 6. 29	学習院大学	約 100
3	「久我貞三郎と 1920 年代のバリー日仏間の人的ネットワークと芸術交流」	国際共同研究加速基金主催シンポジウム「越境と往還 美術史研究の諸相」	陳岡めぐみ (主任研究員)	R6. 9. 21	東京大学	約 100
4	ギュスターヴ・クールベの狩猟画をめぐる言説と解釈の可能性	日仏美術学会 若手シンポジウム「クールベ研究の現在 新しい解釈・源泉・その政治性」	山根あおい (任期付研究員)	R6. 7. 27	同志社大学	約 50
5	「キュビズムと女性芸術家たち」	京都市京セラ美術館 ほか主催国際シンポジウム「キュビズム、美の革命—その生成と拡張」	久保田有寿 (特定研究員)	R6. 6. 22	京都市京セラ美術館 講演室(本館地下 1 階) および Zoom Webinar によるオンライン配信	会場参加 65、オンライン参加 217

6	「エライザ法(酵素結合免疫吸着法)による美術作品中の膠着材の同定 ― 経年や顔料が与える影響について」	文化財保存修復学会第46回大会	高嶋美穂 (特定研究員)	R6. 6. 22	帝京大学	700
7	「再利用可能な絵画輸送箱の有効性と諸課題」	文化財保存修復学会第46回大会	高嶋美穂 (特定研究員)	R6. 6. 22	帝京大学	700
8	「国立工芸館の所蔵する杉浦非水のグラフィックデザインを対象とした科学的調査」	文化財保存修復学会第46回大会	高嶋美穂 (特定研究員)	R6. 6. 22	帝京大学	700
9	「美術館における鑑賞の妨げとなる反射光に関する研究 展示物の反射指向特性を考慮したグレア予測手法構築に向けた検討」	照明学会全国大会	高嶋美穂 (特定研究員)	R6. 9. 11	鳥取大学	100
10	ポスター発表「ろう学校を対象とした手話による対話型ギャラリートークの実践と課題」	全日本博物館学会	長谷川暢子 (研究補佐員)	R6. 6. 29 ～6. 30	北海道開拓の村	50

雑誌等論文掲載

学術書籍、研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日
1	「エマーユ 色彩の宝石」	飯塚隆 (主任研究員)	梶光夫『炎の芸術エマーユ 美しき女神たちの肖像』	R7. 3. 31
2	「第4章5節 美術館図書室」	黒澤美子 (主任研究員)	『博物館情報・メディア論 ミュージアムの未来をつくる』	R7. 3. 31
3	学位論文「美術科教育と地域美術館活動を両立させるアーティスト・イン・スクール事業―地域行政組織に属するコーディネーターの視点から―」	秋田美緒 (任期付研究員)		R7. 3. 25

【査読有り】論文掲載（学術誌、美術雑誌、館外の展覧会図録等）

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日
1	「色彩多様性指標による美術館照明の評価」	高嶋美穂 (特定研究員)	『照明学会誌』109号	早期公開 日： R6. 6. 14

【査読無し】論文掲載（学術誌、美術雑誌、館外の展覧会図録等）

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日
1	「世紀末バリの小劇場とナビ派」	袴田紘代 (主任研究員)	『日本が見たドニ ドニの見た日本』展図録	R6
2	「審査講評」	秋田美緒 (任期付研究員)	『FACE 展 2025』展覧会図録	R7. 3. 1
3	1861年のサロンにおけるギュスターヴ・クールベの展示戦略（「美術に関する調査研究の助成」研究報告）	山橋あおい (任期付研究員)	『鹿島美術研究 年報』41号別冊	R6. 11. 15
4	III「美術に関する国際交流援助」研究報告（4）会議開催①国際シンポジウム「キュビズム、美の革命―その生成と拡張」	久保田有寿 (特定研究員)	『鹿島美術研究 年報』41号別冊	R6. 11. 15

5	「(研究ノート)国立西洋美術館におけるリニューズブル・クレートの検討と開発」	高嶋美穂 (特定研究員)	『令和4・5年度国立アトリサーチセンター活動報告・研究紀要 Vol. 1』	R6. 12. 23
6	「科学調査による 油彩画の謎解き」	高嶋美穂 (特定研究員)	『化学と工業』 Vol. 78, No. 2	R7. 1. 1
7	「1910-30年代の日本における金銀インキの使用について—国立工芸館所蔵の杉浦非水のグラフィックデザインの調査から」	高嶋美穂 (特定研究員)	『東京国立近代美術館研究紀要』第29号	R7. 3. 31
その他の執筆(機関紙、雑誌、新聞、ウェブサイト等)				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日
1	「「騒々しさ」と「にぎやかさ」——美術館は静かであるべきか」	田中正之 (館長)	『博物館研究』 Vol. 59	R6. 5. 25
2	「国立西洋美術館の65年前を想う」	田中正之 (館長)	『月刊うえの』5, 6月 合併号 no. 776	R6. 6
3	連載「ビーナスに魅せられて」「2話 周到に計算された構図「ビーナスの誕生」」「5話 3方向から描く女神の姿 ルーベンス「パリスの審判」」「6話 謎を込めた愛欲の宮廷絵画 ブロンズイーノ「愛の寓意」」「8話 受胎祈願の絵画 ティツィアーノ「ウルビーノのビーナス」」	渡辺晋輔 (学芸課長)	『時事通信社 フィーチャー』	R6. 12. 8、 12. 29、 R7. 1. 5、 1. 19
4	「オーガスタス・ジョンとその時代 松方コレクションから見た近代イギリス美術」	陳岡めぐみ (主任研究員)	『月刊うえの』 no. 782	R6. 12
5	「第59回保存研究部会会合報告」	邊牟木尚美 (主任研究員)	全国美術館会議ウェブサイト	R6. 8. 15
6	「第60回保存研究部会会合報告」	邊牟木尚美 (主任研究員)	全国美術館会議ウェブサイト	R6. 12. 27
7	ショートエッセイ「軽やかに、熱の手ざわりと、」	秋田美緒 (任期付研究員)	国立東華大學藝術學院 ×岡山大学大学院教育学研究科共同展覧会 「第1回 台日アート文化交流展 藤原洋次郎展—色彩の新たな空間展—」	R6. 9. 5
8	「モネ 睡蓮のとき」	山橋あおい (任期付研究員)	『月刊うえの』 no. 780	R6. 10. 1
9	連載「ビーナスに魅せられて」「1話 両腕が欠けた大理石像「ミロのビーナス」」「3話 美の象徴への昇華 アングル「海から上がるビーナス」」「4話 評価された色濃き官能性 カバネル「ビーナスの誕生」」「7話 恋の行方を見守るビーナス フラゴナール「逢い引き」」「9話 ありのままの新ビーナス像 マネ「オランピア」」「10話 ブロンズによる自由な表現 ロダン「化粧するヴィーナス」」	山橋あおい (任期付研究員)	『時事通信社 フィーチャー』	R6. 12. 1、 12. 15、 12. 22、 R7. 1. 12、 1. 26、2. 2
10	「モネ 睡蓮のとき」展／水面に映る光を求めて	山橋あおい (任期付研究員)	公明新聞	R6. 12. 25

11	「西洋版画を視るーリトグラフ：石版からひろがるイメージ」		久保田有寿 (特定研究員)	『月刊うえの』no. 778		R6. 8. 1
12	「美術館におけるサスティナビリティの試みー再利用可能なクレート（輸送箱）の作成」		高嶋美穂 (特定研究員)	国立アートルリサーチセンターHP		R6. 5. 8
13	「美術品ー設置までプロの技」		高嶋美穂 (特定研究員)	朝日新聞		R6. 11. 8
14	「「恥じらいのヴィーナス」扱うプロの技」		高嶋美穂 (特定研究員)	朝日新聞		R6. 11. 18
カ 国立国際美術館						
学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「戦後美術における蓄積と連続性」	梅津庸一 エキシビジョンメーカー トーク	島敦彦 (館長)	R6. 7. 20	ワタリウム美術館	30
2	学術芸術が溢れるまちの未来像	NAKANOSHIMA PAVILION FESTIVAL シンポジウム	島敦彦 (館長)	R6. 7. 30	大阪国際会議場 12 階 特別会議場	ー
3	オープニング・トーク	ホーム・スイート・ホーム	植松由佳 (学芸課長)	R6. 10. 12	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館	30
4	VOCA の現在ー平面の奥行き	VOCA 展シンポジウム	植松由佳 (学芸課長)	R7. 3. 14	上野の森美術館 展示室	100
5	映像を用いた作品における修復と展示の相互作用ー国立国際美術館所蔵 ナムジュン・パイク《鳥籠の中のケージ》修復報告ー	文化財保存修復学会	小川絢子 (主任研究員)	R6. 6. 22	帝京大学	50
6	トークイベント	「梅田哲也『0 滞』映画上映イベント」	正路佐知子 (主任研究員)	R6. 12. 28	別府ブルーバード会館 3 階フレックスホール	45
7	「展覧会をつくるとはなにか？」	梅津庸一 エキシビジョンメーカー トーク	福元崇志 (主任研究員)	R6. 7. 6	ワタリウム美術館	ー
8	トークイベント	ツアラトウストラ	福元崇志 (主任研究員)	R6. 12. 14	2kw gallery	ー
9	改正博物館法施行 2 年目の現場からー所蔵作品情報の公開とプラットフォーム活用・連携の可能性	全国美術館会議 第 39 回学芸員研修会	児玉茜 (特定研究員)	R7. 3. 7	損保ジャパン本社ビル 2 階大会議室	120
雑誌等論文掲載						
学術書籍、研究報告書等の発行						
	タイトル		執筆者氏名 (職名)	掲載誌名		発行年月 日
1	ザ・プレイー流れの彼方		橋本梓 (主任研究員)	水声社		R7. 3. 20

2	中西夏之の制作と生活	福元崇志 (主任研究員)	中西夏之資料の調査研究 2024	R7. 3. 31
【査読無し】論文掲載(学術誌、美術雑誌、館外の展覧会図録等)				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日
1	「吉原英里展」展覧会評	島敦彦 (館長)	『mysm+Y』	R6. 6. 1
2	かさぶたと皮膚のあいだーセシル・アンドリュの世界	島敦彦 (館長)	「SELECTION 2014-2023 Cécil Andrieu」作品集	R6
3	岩崎貴宏のいとをかしげなる指	島敦彦 (館長)	『岩崎貴宏 Framed Scapes』	R6. 11. 1
4	「VOCA 展 2025 選考所感」	植松由佳 (学芸課長)	『VOCA2025 展 カタロ グ』	R7. 3. 15
5	展示の機会を利用した現代美術作品の修理ーロバート・ラウシェンバーグ《至点》を例に	小川絢子 (主任研究員)	『博物館研究』第 60 巻 第 2 号	R7. 1. 25
6	「表層と内と外」	正路佐知子 (主任研究員)	『Idemitsu Art Award2024』	R6. 12. 1
7	Yuko Mohri as a Resistor: on <i>I/O</i> and Beyond	橋本梓 (主任研究員)	『Yuko Mohri: COMPOSE』(ヴェネチ ア・ビエンナーレ日本 館)	R6. 4. 10
8	The Body/Physicality of the artists from the collection of NMAO, with a focus on video and performance	橋本梓 (主任研究員)	『Connecting Bodies: Asian Women Artists』 (韓国国立現代美術 館)	R6. 9. 2
9	アーカイブズの構築と公開についてーNMAO サーチを例に	児玉茜 (特定研究員)	『NORTHERN OWLS』 vol. 33	R7. 2. 1
その他の執筆(機関紙、雑誌、新聞、ウェブサイト等)				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日
1	「評論家・学芸員が選ぶ注目の新人アーティスト」	島敦彦 (館長)	新人大図鑑 2024『美術 の窓』5月号	R6. 5. 20
2	瀧口修造と土方定一	島敦彦 (館長)	会報「橄欖・富山」	R6. 7. 1
3	アートと巡る建物探訪	島敦彦 (館長)	K PRESS vol. 303	R6. 9. 1
4	選考委員・審査委員講評	島敦彦 (館長)	令和 6 年度第 70 回都城 市美術館展 市美展	R6. 9. 1
5	選考委員・審査委員講評	島敦彦 (館長)	「Kyoto Art for Tomorrow 2025ー京都府 新鋭選抜展ー」	R6. 12. 1
6	万博未来 第 4 部 文化芸術の花開くか アートが問いかける「進歩」	島敦彦 (館長)	産経新聞 朝刊	R6. 12. 19
7	第二回絹谷幸二芸術賞	島敦彦 (館長)	産経新聞 朝刊	R7. 2. 13 R7. 3. 4
8	「美的感覚に訴えかけるコンセプチュアル・アート。ヤン・ヴォーインタビュー」	植松由佳 (学芸課長)	美術手帖 (web 版)	R6. 4. 21

9	「国立国際美術館 学芸課長・植松由佳が語る、国立美術館の作品収蔵とその挑戦」	植松由佳 (学芸課長)	美術手帖 (web 版)	R6. 11. 4		
10	「追悼・田部光子：田部光子という生き方、作品 背中で示した未来への希望」	正路佐知子 (主任研究員)	『西日本新聞』	R6. 5. 6		
11	漏れとともにある	橋本梓 (主任研究員)	artscape	R6. 9. 17		
12	原田裕規の超常的風景	橋本梓 (主任研究員)	artscape	R6. 12. 25		
13	「つくるとは何か」―梅津庸一から考えてみる	福元崇志 (主任研究員)	『文化庁広報誌 ぶんかる』	R6. 6. 27		
14	教美アートギャラリー 国立国際美術館	藤吉祐子 (主任研究員)	Art in EDUCATION 教育美術	R6. 12. 1		
キ 国立新美術館						
学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	人工知能と芸術―メディアアートは主体をどのように扱ってきたのか	藝術学関連学会連 合第 18 回 公開シ ンポジウム「生成 AI 時代の芸術」	伊村靖子 (主任研究員)	R6. 6. 1	東洋大学赤 羽台キャン パス	180
2	人と情報・資料・芸術をつなぐ― 「芸術とアーカイブ」の未来のための試論	京都市立芸術大学 芸術資源研究セン ター開設 10 周年記 念シンポジウム京 都市立芸術大学移 転記念事業「芸術 とアーカイブの未 来像」	伊村靖子 (主任研究員)	R7. 2. 8	京都市立芸 術大学堀場 信吉記念ホ ール	100
3	シンポジウム「ファッション展の現在とキュレーション―歴史・批評・ミュージアム」	京都服飾文化研究 財団 科学研究費 補助金 基盤研究 (B) 「ミュージアムにおけるファッション展の日本的展開に関する総合研究」 (JSPS23H0057 研究代表者：平芳裕子) 神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 人間発達専攻表現系 ファッション文化論研究室	小野寺奈津 (特定研究員)	R6. 11. 4	京都国立近代美術館	75

雑誌等論文掲載				
【査読無し】論文掲載（学術誌、美術雑誌、館外の展覧会図録等）				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日
1	システムの美学をときほぐす 生成 AI とアート	伊村靖子 (主任研究員)	『美術手帖』第 203 号	R6. 10. 1
2	「他者」とは誰か 境界をゆるがす山下麻衣+小林直人の 芸術	伊村靖子 (主任研究員)	『山下麻衣+小林直人 他者に対して、また他 者と共に』	R7. 1. 14
3	東野芳明の謎かけ—残された手がかりから「色彩と空間」 展を読む	伊村靖子 (主任研究員)	『没後 20 年 東野芳明 と戦後美術』	R7. 1. 25
4	推薦文（高木優希）	尹志慧 (特定研究員)	「VOCA 展 2025 現代美 術の展望—新しい平面の 作家たち」カタログ	R7. 3
その他の執筆（機関紙、雑誌、新聞、ウェブサイト等）				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月 日
1	人工知能と芸術—メディアアートは主体をどのように扱っ てきたのか	伊村靖子 (主任研究員)	藝術学関連学会連合ウ ェブサイト	R7. 3. 20
2	「分科会を振り返って」（分科会 3「アクセシビリティと 美術館」報告）	吉澤菜摘 (主任研究員)	『令和 5 年度 全国美術 館会議 第 38 回学芸員 研修会報告書』（一般 社団法人 全国美術館会 議）	R7. 3. 31
3	展覧会レビュー「イヴ・サンローラン展 時を超えるスタ イル」	小野寺奈津 (特定研究員)	『Fashion Talks...』 (京都服飾文化研究財 団)	R6. 12. 25
4	「陸路（スピルオーバー#1）」展覧会レビュー「レクチャ ーとしてのデスヴォイスと呪詛返し of 祝砲」	尹志慧 (特定研究員)	BUG リクルートアート センター	R6. 6. 14
5	クオン・ジョンウオン dialog() - Asian Generative Art Exhibition 2024 vol. 3—ソウル展レポート	尹志慧 (特定研究員)	アートスケープ	R7. 1. 17
6	わたしを変えた展覧会	尹志慧 (特定研究員)	BT	R7. 3 予定
7	吉村麗が語る「CLAMP 展」（国立新美術館）。マンガを美 術館で展示し作家の魅力を引き出すための思考	吉村麗 (特定研究員)	美術手帖オンライン Curator's Voice	R6. 9. 21
8	「各界のマンガ好きが選ぶ このマンガがすごい! [オンナ 編]」	吉村麗 (特定研究員)	『このマンガがすごい! 2025』（宝島社）	R6. 12. 13
9	「特集 THE BEST MANGA このマンガを読め!」選者コメント	吉村麗 (特定研究員)	『フリースタイル 62 特 集：THE BEST MANGA 2025 このマンガを読 め!』（フリースタイ ル）	R6. 12. 24
10	【リレーコラム】毎日のリバイバル	伊澤拓人 (研究補佐員)	『Fashion Tech News』 (株式会社 ZOZO)	R6. 6. 11
11	「売れっ子への道—ムッシュ印象派の華麗なるマーケティ ング戦略」	亀田晃輔 (研究補佐員)	『芸術新潮』（新潮 社）	R6. 10. 24

別表 14 美術作品購入一覧

東京国立近代美術館						
	種別	作者名	作品名	制作年	材質・形状等	寸法(cm)
1	日本画	横山大観 (1868-1958)	迷児	1902 年	絹本木炭 軸	185.7×142.0 cm
2	日本画	結城素明 (1875-1957)	夏山三趣	1918 年	絹本彩色 軸 (三幅)	各 141.8×85.9 cm
3	彫刻 (立体造形)	メダルド・ロッソ (1858-1957)	Ecce Puer (この少年を見よ)	1920-25 年頃	ワックス、石膏	47.0×34.0×32.0 cm
4	写真	石川真生(1953-)	「基地を取り巻く人々」より	1989 (printed c. 1996)	ゼラチン・シルバー・プリント、台紙にマウント	45.7×56.0 cm
5	写真	石川真生(1953-)	「基地を取り巻く人々」より	1990 (printed c. 1996)	ゼラチン・シルバー・プリント、台紙にマウント	44.5×56.0 cm
6	写真	石川真生(1953-)	「基地を取り巻く人々」より	1990 (printed c. 1996)	ゼラチン・シルバー・プリント、台紙にマウント	43.5×56.0cm
7	写真	石川真生(1953-)	「基地を取り巻く人々」より	1991 (printed c. 1996)	ゼラチン・シルバー・プリント、台紙にマウント	45.3×56.0cm
8	写真	石川真生(1953-)	「基地を取り巻く人々」より	1992 (printed c. 1996)	ゼラチン・シルバー・プリント、台紙にマウント	37.4×56.0cm
9	写真	石川真生(1953-)	「基地を取り巻く人々」より	1992 (print date unknown)	ゼラチン・シルバー・プリント	44.5×55.0 (45.6×56.0) cm
10	写真	石川真生(1953-)	「基地を取り巻く人々」より	1993 (printed c. 1996)	ゼラチン・シルバー・プリント、台紙にマウント	44.0×56.0cm
11	写真	石川真生(1953-)	「基地を取り巻く人々」より	1994 (printed c. 1996)	ゼラチン・シルバー・プリント、台紙にマウント	37.2×56.0 cm
12	写真	石川真生(1953-)	「基地を取り巻く人々」より	1994 (printed c. 1996)	ゼラチン・シルバー・プリント、台紙にマウント	37.0×56.0 cm

13	写真	石川真生(1953-)	「基地を取り巻く人々」より	1996 (print date unknown)	ゼラチン・シル バー・プリント	45.5×55.9 cm
14	写真	石川真生(1953-)	「基地を取り巻く人々」より	2004 (printed 2004)	ゼラチン・シル バー・プリン ト、台紙にマウ ント	42.0×34.8 (43.2×35.7) cm
15	写真	石川真生(1953-)	「基地を取り巻く人々」より	2004 (printed 2004)	ゼラチン・シル バー・プリン ト、台紙にマウ ント	55.7×38.4 (56.0×39.4) cm
16	写真	石川真生(1953-)	「基地を取り巻く人々」より	2004 (printed 2004)	ゼラチン・シル バー・プリント	39.4×55.5 (45.6×56.0) cm
17	写真	石川真生(1953-)	「基地を取り巻く人々」より	2004 (printed 2004)	ゼラチン・シル バー・プリン ト、台紙にマウ ント	55.2×38.4 (56.0×39.5) cm
18	写真	石川真生(1953-)	「基地を取り巻く人々」より	2004 (print date unknown)	ゼラチン・シル バー・プリント	45.5×55.5 (45.6×55.9) cm
19	写真	ソン・ヌンギョン (1944-)	現場：逃走中	1985	ゼラチン・シル バー・プリント 2点組、額装	各 23.0×34.5 cm
20	写真	ソン・ヌンギョン (1944-)	現場：オルシグ!	1985	ゼラチン・シル バー・プリント 2点組、額装	各 23.0×34.5 cm
21	写真	ソン・ヌンギョン (1944-)	現場：北朝鮮から来た米	1985	ゼラチン・シル バー・プリント 2点組、額装	各 34.5×23.0 cm
22	写真	ソン・ヌンギョン (1944-)	現場：双方過失衝突	1985	ゼラチン・シル バー・プリント 2点組、額装	各 23.0×34.5 cm
23	写真	ソン・ヌンギョン (1944-)	現場：旧正月	1985	ゼラチン・シル バー・プリント 2点組、額装	各 23.0×34.5 cm
24	日本画	甲斐庄楠音 (1894-1978)	白百合と女	1920 年	絹本彩色 軸	133.0×51.5 cm
25	油彩そ の他	多田美波 (1924-2014)	変電所	1958 年頃	油彩・キャンバ ス	80.1×99.7 cm
26	油彩そ の他	タイガー立石（立 石紘一・立石大河 亜） (1941-1998)	昭和二十一年筑豊之図	1965 年	油彩・キャンバ ス	38.0×45.5cm

27	油彩その他	タイガー立石（立石紘一・立石大河亜） （1941-1998）	Mao's Ecstasy	1970 年	油彩・キャンバス	166.0×120.0cm
28	油彩その他	朴栖甫 （1931-2023）	描法 No. 2-74	1974 年	油彩、鉛筆・キャンバス	130.2×160.5 cm
29	油彩その他	真喜志勉 （1941-2015）	〔無題〕	1977 年	油彩・キャンバス	116.8×91.0 cm
30	油彩その他	桑原正彦 （1959-2021）	漂泊	1995 年	油彩・キャンバス	22.0×27.3 cm
31	油彩その他	桑原正彦 （1959-2021）	ビニール製の夢（男の子）	1995 年	油彩・キャンバス	41.0×41.0 cm
32	油彩その他	桑原正彦 （1959-2021）	ビニール製の夢（ブタ）	1995 年	油彩・キャンバス	41.0×41.0 cm
33	油彩その他	桑原正彦 （1959-2021）	人造ハニー	1995 年	油彩・キャンバス	45.5×33.0 cm
34	油彩その他	桑原正彦 （1959-2021）	ビニール製の夢（青空）	1996 年	油彩・キャンバス	24.2×33.3 cm
35	油彩その他	大竹伸朗（1955-）	残景 0	2022 年	油彩、アクリリック、グワッシュ、油性ガラス用塗料、樹脂、オイルスティック、木炭、鉛筆、その他・板	212.0×161.0×16.0 cm
36	彫刻	鶴岡政男（1907-1979）	転がっている首	1950 年	ブロンズ	16.1×18.0×21.4 cm
37	彫刻	堀内正和（1911-2001）	曲と直	1953 年	石膏	36.0×17.0×23.0 cm
38	彫刻	多田美波（1924-2014）	周波数 37303030MC	1963 年	アルミニウム	155.0×155.0×40.0 cm
39	彫刻	寺内曜子（1954-）	Hot-Line 16	1984 年	電話ケーブル	90.0×88.0×50.0 cm
40	彫刻	寺内曜子（1954-）	Blue Square #2	1985 年	鉛、顔料、アクリリック	26.5×18.0×10.0 cm
41	彫刻	寺内曜子（1954-）	Hot-Line 85	1987 年	電話ケーブル	40.0×64.0×39.0 cm
42	彫刻	豊嶋康子（1967-）	鉛筆	1996 年	鉛筆 12 本、金属ケース	3.2×20.0×18.1 cm
43	彫刻	豊嶋康子（1967-）	鉛筆	1998 年	鉛筆 12 本、金属ケース	3.2×20.0×18.1 cm
44	彫刻	豊嶋康子（1967-）	鉛筆	1999 年	鉛筆 12 本、金属ケース	3.2×20.0×18.1 cm
45	彫刻	豊嶋康子（1967-）	鉛筆	1999 年	鉛筆 12 本、金属ケース	3.2×20.0×18.1 cm
46	彫刻	豊嶋康子（1967-）	鉛筆	1999 年	鉛筆 12 本、金属ケース	3.2×20.0×18.1 cm

47	彫刻	豊嶋康子(1967-)	定規	1996 年	プラスチック定規	2.9×2.7×3.0 cm
48	彫刻	豊嶋康子(1967-)	定規	1996 年	プラスチック定規	0.1×7.5×14.5 cm
49	彫刻	豊嶋康子(1967-)	定規	1996 年	プラスチック定規	2.8×3.5×16.4 cm
50	彫刻	豊嶋康子(1967-)	定規	1996 年	プラスチック定規	2.8×6.0×4.7 cm
51	彫刻	豊嶋康子(1967-)	定規	1996 年	プラスチック定規	4.3×6.3×6.5 cm
52	彫刻	豊嶋康子(1967-)	定規	1996 年	プラスチック定規	0.1×10.3×7.8 cm
53	彫刻	豊嶋康子(1967-)	定規	1996 年	プラスチック定規	0.1×7.9×6.0 cm
54	彫刻	豊嶋康子(1967-)	定規	1996 年	プラスチック定規	0.1×10.8×7.5 cm
55	彫刻	豊嶋康子(1967-)	定規	1996 年	プラスチック定規	3.3×6.7×9.2 cm
56	彫刻	豊嶋康子(1967-)	定規	1996 年	プラスチック定規	5.1×5.5×7.8 cm
57	彫刻	豊嶋康子(1967-)	定規	1996 年	プラスチック定規	5.7×11.8×5.5 cm
58	彫刻	豊嶋康子(1967-)	定規	1996 年	プラスチック定規	0.1×18.0×6.3 cm
59	彫刻	豊嶋康子(1967-)	定規	1996 年	プラスチック定規	0.1×14.0×8.7 cm
60	彫刻	豊嶋康子(1967-)	定規	1996 年	プラスチック定規	0.1×15.7×9.8 cm
61	彫刻	豊嶋康子(1967-)	定規	1996 年	プラスチック定規	0.1×12.9×10.5 cm
62	彫刻	豊嶋康子(1967-)	定規	1996 年	プラスチック定規	0.1×11.3×6.7 cm
63	彫刻	豊嶋康子(1967-)	安全ピン	1996 年	安全ピン 16 点	サイズ可変
64	彫刻	白井美穂(1962-)	Waterfall (Why are you afraid of black and white?)	1993 年	オブジェ (人工毛髪)、木	222.0×486.0×7.0 cm
65	彫刻	大竹伸朗(1955-)	ニューシャネル	1998 年	オブジェ (ドア)、木	179.0×73.5×16.6 cm
66	彫刻	袴田京太郎(1963-)	地底人	2002 年	オブジェ (座卓)、石膏	61.0×105.0×105.0 cm
67	彫刻	袴田京太郎(1963-)	布袋と台座-複製	2012 年	アクリル、木、オブジェ (置物、本) 2 点	各 120.0×56.0×42.0 cm
68	彫刻	多和圭三(1952-)	MIDORINOYAMI	2023 年	スカラー：鉄；一時、奥へー：木炭、鉄粉、カラーインク・紙	スカラー：7.5×50.0×30.0 cm；一時、奥へー：120.0×160.0 cm
69	版画	嶋田美子(1959-)	撃つ女	1992 年	エッチング	45.3×69.5 cm

70	版画	嶋田美子(1959-)	白い割烹着	1993 年	エッチング	45.0×73.5 cm
71	版画	嶋田美子(1959-)	慰めの館	1993 年	エッチング	59.8×39.8 cm
72	版画	嶋田美子(1959-)	風船爆弾・日の丸	1993 年	エッチング 2 点	45.0×59.5 cm
73	版画	嶋田美子(1959-)	Tower of Loyal Spirit I	1995 年	エッチング	49.6×59.5 cm
74	版画	嶋田美子(1959-)	Tower of Loyal Spirit II	1995 年	エッチング	49.6×59.5 cm
75	素描	豊嶋康子(1959-)	マークシート	1990 年	オフセット、鉛筆・紙 2 点	各 18.0×25.7 cm
76	素描	豊嶋康子(1959-)	マークシート	1990 年	オフセット、鉛筆・紙 2 点	各 18.0×25.7 cm
77	素描	豊嶋康子(1959-)	マークシート	1990 年	オフセット、鉛筆・紙 2 点	各 18.0×25.7 cm
78	素描	豊嶋康子(1959-)	マークシート	1990 年	オフセット、鉛筆・紙 2 点	各 18.0×25.7 cm
国立工芸館						
	種別	作者名	作品名	制作年	材質・形状等	寸法(cm)
1	陶磁	北大路魯山人 (1883～1959)	織部蟹絵丸平向付	1957 年	陶土、鉄絵	h3.3 w15.5 d15.7 (1 点)
2	金工	金森宗七 (1821～1892)	花鳥文様象耳付大花瓶	1892 年頃	黄銅、金、銀、 赤銅、四分一、 布目象嵌、高肉 象嵌、平象嵌	h74.0 w42.5 d35.2
3	陶磁	伊藤秀人 (1971～)	白瓷瓶	2014 年	磁土、ロクロ	h24.5 D9.5
4	陶磁	伊藤秀人 (1971～)	練彩大鉢	2016 年	磁土、ロクロ、 練り上げ	h17.5 w50.3 d43.5
5	陶磁	伊藤秀人 (1971～)	青瓷鏡玉	2019 年	半磁器、ロクロ	h2.0 D22.0
6	陶磁	井戸川豊 (1964～)	銀泥彩磁鉢	2015 年	磁器、色絵	h14.0 D41.0
7	陶磁	十四代今泉今右衛 門 (1962～)	色絵雪花薄墨墨はじき萩文鉢	2019 年	磁器、色絵	h14.8 D45.7
8	陶磁	木村芳郎 (1946～)	碧釉漣文器	2020 年	半磁土	h5.0 D54.0
9	陶磁	ハンス・コパー (1920～1981)	ポット	1979 年	陶器	h20.6 w8.9 d8.2
10	陶磁	新庄貞嗣 (1950～)	萩茶碗	2019 年	陶器	h9.0 D12.4
11	陶磁	高橋朋子 (1974～)	金銀彩水指 遊ぶ月	2019 年	磁器、金襴手、 銀襴手、銀彩	h23.4 D17.3
12	陶磁	多田幸史 (1973～)	幾何紋銀彩組鉢	2016 年	磁器、色絵	h6.0 D21.0
13	陶磁	津金日人夢 (1973～)	青瓷鉢	2010 年	陶器	h21.0 w60.2 d49.0
14	陶磁	津金日人夢 (1973～)	青瓷平壺一水天彷彿一	2021 年	陶器	h23.5 D46.5

15	陶磁	増原嘉央理 (1985～)	鉢「紅白鮮斜陽—1907—」	2019 年	陶器	h32.0 D48.5
16	陶磁	松永圭太 (1986～)	蛻（もぬけ）	2024 年	陶器、漆、泥漿 鑄込み	h34.0 w47.6 d33.0
17	陶磁	ジョン・メイソン (1927～2019)	トライアングルズ	1984 年	陶器	h82.6 w213.4 d213.4
18	陶磁	ジョン・メイソン (1927～2019)	Figure, Cobalt Blue	2015 年	陶器	h158.8 w61.0 d62.3
19	陶磁	望月集 (1960～)	花文大鉢「椿」	2021 年	陶器	h23.7 D38.2
20	ガラス	佐々木類 (1984～)	植物の記憶 / うつろい（文月）	2024 年	ガラス、植物、 ライト、木枠/フ ュージング、イ ンクルージュ ン、コールドワ ーク	h84.3 w44.2 d1.9
21	ガラス	佐々木類 (1984～)	植物の記憶 / うつろい（葉月）	2024 年	ガラス、植物、 ライト、木枠/フ ュージング、イ ンクルージュ ン、コールドワ ーク	h84.3 w44.2 d1.9
22	ガラス	佐々木類 (1984～)	植物の記憶 / うつろい（長月）	2024 年	ガラス、植物、 ライト、木枠/フ ュージング、イ ンクルージュ ン、コールドワ ーク	h84.3 w44.2 d1.9
23	ガラス	佐々木類 (1984～)	植物の記憶 / うつろい（神無月）	2024 年	ガラス、植物、 ライト、木枠/フ ュージング、イ ンクルージュ ン、コールドワ ーク	h84.3 w44.2 d1.9
24	ガラス	佐々木類 (1984～)	植物の記憶 / うつろい（霜月）	2024 年	ガラス、植物、 ライト、木枠/フ ュージング、イ ンクルージュ ン、コールドワ ーク	h84.3 w44.2 d1.9
25	ガラス	佐々木類 (1984～)	植物の記憶 / うつろい（師走）	2024 年	ガラス、植物、 ライト、木枠/フ ュージング、イ ンクルージュ ン、コールドワ ーク	h84.3 w44.2 d1.9
26	漆工	二十代堆朱楊成 (1880～1952)	八珍果香合	1910 年	漆、彫漆	h0.5 D5.0

27	漆工	二十代堆朱楊成 (1880～1952)	轡虫香合	1922 年	漆、彫漆	h2.0 D6.5
28	漆工	中田真裕 (1982～)	雲の裏	2023 年	漆、麻布、蒔 醬、乾漆、顔料	h36.0 w24.8 d24.8
29	木工	稲木東千里 (1892～1979)	木製筥	1936 年	木(桑)、指物、 象牙、銀、象嵌	h12.0 w18.5 d26.4
30	木工	中川清司 (1942～)	榎桎合わせ盆	1973 年	榎、桎合わせ	h4.7 D35.6
31	木工	中川清司 (1942～)	高野槇桎合わせ食籠	1980 年	高野槇、桎わ せ	h14.7 D24.5
32	木工	中川清司 (1942～)	春日杉木画色紙箱	1982 年	春日杉、木画	h11.3 w26.5 d29.5
33	木工	中川清司 (1942～)	神代杉木画六角箱	2006 年	神代杉、木画	h8.8 w33.0 d29.0
34	染織	北村武資 (1935～2022)	羅地金襴「菊煌文」	2017 年	絹、羅地金襴	w72.0
35	染織	北村武資 (1935～2022)	透文羅「田相文様」	2020 年	絹、羅	w72.0
36	染織	北村武資 (1935～2022)	渦流文経錦	2021 年	絹、経錦	w72.0
37	金工	高橋賢悟 (1982～)	flower funeral -goat-	2024 年	アルミニウム、 真空加圧鋳造法	h17.0 w29.0 d37.0
38	金工	高橋賢悟 (1982～)	花鋳込軽銀香合 空華	2024 年	アルミニウム、 真空加圧鋳造法	h4.5 w9.0 d4.5
39	金工	高橋賢悟 (1982～)	花鋳込軽銀香合 空華	2024 年	アルミニウム、 真空加圧鋳造法	h3.5 w7.5 d7.5
40	金工	留守玲 (1976～)	蒼のあいづち	2016 年	鉄、熔接、熔 断、鍛金	h114.0 w51.0 d35.0

京都国立近代美術館

	種別	作者名	作品名	制作年	材質・形状等	寸法(cm)
1	陶芸	図案：浅井 忠 (1856-1907)／制 作：四代清水六兵 衛 (1848-1920)	動物園模様四方小皿	明治後期 一大正	磁器・型成型／ 皿	十二客 (各) h. 2.0×8.9×7.9
2	陶芸	図案：浅井 忠 (1856-1907)／制 作：四代清水六兵 衛 (1848-1920)	大津絵中皿	明治後期 一大正	陶器・轆轤成形 ／皿	十一客 (各) 2.6 ×17.0×17.0
3	陶芸	図案：浅井 忠 (1856-1907)／制 作：初代宮永東山 (1868-1941)	高瀬川船曳図陶製額板	1913 (大 正 2)	陶器・木／額	h. 37.8×68.0
4	陶芸	図案：神坂雪佳 (1866-1942)／制 作：四代清水六兵 衛 (1848-1920)	花船向付	明治後期 一大正	陶器・型成型／ 向付	十二客 (各) h. 3.5×16.0× 8.5
5	陶芸	河合栄之助 (1893- 1962)	鉄絵春来去壺	大正一昭 和初期	陶器・轆轤成型 ／壺	h. 21.4×17.2× 17.2

6	陶芸	楠部彌弼 (1897-1984)	澱彩香炉	1924 (大正 13)	陶器・轆轤成型・貼花／香炉	h. 14.5×12.5×12.5
7	陶芸	七代錦光山宗兵衛 (1868-1927)	里芋図大花瓶	明治末―大正初	陶器・轆轤成形・型成形／花瓶	h. 50.5×30.0×26.0
8	陶芸	七代錦光山宗兵衛 (1868-1927)	草花虫文様大花瓶	明治末―大正初	陶器・轆轤成型／花瓶	h. 54.5×43.0×43.0
9	陶芸	図案：武田五一 (1872-1938)／制作：七代錦光山宗兵衛 (1868-1927)	古代百合模様花瓶	1912 (明治 45／大正元) 頃	陶器・轆轤成型／花瓶	H. 41.3×20.0×20.0
10	漆工	図案：澤田宗山 (誠一郎) (1881-1963)／塗：四代岩村哲斎 (貞蔵) (1884-1967)／蒔絵：岩村光真 (真次郎) (1885-1945)	草花模様漆器書棚	1914 (大正 3)	木、漆、蒔絵、螺鈿／棚	H. 71.5×W. 55×D. 29.3
11	漆工	松田権六 (1896-1986)	蒔絵勇馬図平卓	1937 (昭和 12)	木胎、漆、蒔絵／平卓	11.9(h)×54.2×34.8
12	漆工	松田権六 (1896-1986)	蒔絵竹に雀図二段卓	1968 (昭和 43)	木胎、漆、蒔絵、撥鏤／二段卓	27.8(h)×75.2×38.4
13	日本画	鐙木清方 (1878-1972)	ためさるゝ日	1918 (大正 7)	紙本着色／軸装	186.8×78.0
14	日本画	田能村小斎 (1845-1909)	箕面真景図	明治時代	絹本着色／軸装	147.0×72.3
15	日本画	田能村直入 (1814-1907)	一望萬松図	1890 (明治 23)	紙本着色／軸装	164.5×67.5
16	日本画	秦テルヲ (1887-1945)	桃太郎之図	1932 (昭和 7)	絹本着色／軸装	112.9×35.5
17	日本画	福田平八郎 (1892-1974)	雉子 (雉)	1967 (昭和 42)	紙本着色／額装	54.5×73.5
18	日本画	藪 長水 (1814-1867)	青緑山水図	1846 (弘化 3)	絹本着色／軸装	57.3×71.5
19	油彩画	加納光於 (1933-)	身を伏せよ	1982 (昭和 57)	油彩画布	193.9×260.6
20	日本画	入江波光 (1887-1948)	冬の谿	1929	絹本着色／軸装	137.4×41.5
21	日本画	小出檜重 (1887-1931)	松のある山水図	大正期 (1912-1926)	絹本着色／額装	35.6×105.2
22	日本画	都路華香 (1871-1931)	龍門図	c. 1919	絹本着色／軸装	157.0×71.0
23	油彩	青木 繁 (1882-1911)	白壁の家	1909	画布、油彩／額装	10.4×14.7
24	陶芸	八代清水六兵衛 (1954-)	RELATION96-B	1996	陶、タタラづくり	206.0(h)×29.0×195.0

25	彫刻	辻 晉堂 (1910-1981)	寒山拾得	1955	陶彫	35.5(h)×47.0×36.5
26	彫刻	辻 晉堂 (1910-1981)	東山にて	1962	陶彫	68.0(h)×118.0×15.5
27	陶芸	西村陽平 (1947-)	傷ついたヴァイオリン	1993	ヴァイオリン、ヴァイオリンケース、楽譜、鉄、紙、土、植物／4点組	43.5(h)×15.5×18.3、9.2(h)×45.6×16.8、62.0(h)×10.0×19.0、7.0(h)×40.0×50.0
28	陶芸	バーナード・リーチ (1887-1979)	染付彫絵樹下婦人図皿	1920	磁器	3.0×21.0×21.0
29	染織	扇 千花 (1960-)	first frost (初霜)	1994	雁皮、ラミー、紙漉き	180.0×420.0×4.0 (展示サイズ)
30	染織	木村雨山 (1891-1977)	友禅衝立	昭和前期	友禅	139.5(h)×119.0×47.0
31	染織	小林正和 (1944-2004)	WIND-4 (風-4)	1975	綿糸、綴織	195.0×194.0
32	染織	新道弘之 (1941-2024)	シンディゴ・ボール・シリーズ	1981以降	スタイロフォームコア、麻、木綿、金・銀糸、藍染／6点組	大：(各)18.0(径)、小：(各)15.0(径)
33	染織	新道弘之 (1941-2024)	おっこちシリーズ No. 6	1987	手織布 (麻、木綿、芭蕉)、藍染、絞り技法追東風 (オッコチ) による独自技法	293.0×139.0
34	染織	田中千世子 (1941-)	擦られた織物—6つの正方形・藍・W (#301、#302)	1994	亜麻、絹、木綿、黄土で擦られた織物／2点組	#301: 38.5×231.0、#302: 38.5×232.5
35	染織	富田 潤 (1951-)	KASURI No. 36: その2 似て非なるもの	1995	麻、絹、経緋／2点組	(各)235.0×120.0
36	染織	野田涼美 (1951-)	商品価値を持つ言葉: 健康	2023	薬の空パッケージ、PVC糸、平箔、漆糸、木ほか、棒針編み、かぎ針編みほか	246.0×280.0×80.0 (展示サイズ)
37	染織	福本繁樹 (1946-)	八大: 桔梗・朱色、柚子・藤紫、珊瑚・向日葵、瑠璃色・牡丹	2004	綿布、反応性染料、蠟染め、布象嵌／パネル (4点組)	(各)240.0×120.0×6.0
38	写真	ベレニス・アボット (1898-1991)	マンハッタン 40 丁目、6 番街と 7 番街の間	1935	ゼラチン・シルバー・プリント	20.3×25.4

39	写真	ジャン・ウジェーヌ＝オーギュスト・アジェ (1857-1927)	メール通り 61 番地のブティック、パリ	c. 1900	金調色された POP	18.0×22.7
40	写真	ジャン・ウジェーヌ＝オーギュスト・アジェ (1857-1927)	ポントワーズ、旧裁判所	c. 1900	アルブミン・プリント	22.0×18.0
41	写真	マシュー・ブラデイ (c. 1823-1896)	ダニエル・ウェブスターの肖像	c. 1849	ダゲレオタイプ	10.5×7.8
42	写真	ブラッサイ (ギュラ・ハラーズ) (1899-1984)	ポートフォリオ『変成』 (Transmutations)	1934-1935/1967	ゼラチン・シルバー・プリント (クリシェヴェール) /12 点組	
			変成 I : 果物女			23.8×17.9
			変成 II : 裸のセヴィーリヤ女			23.8×17.7
			変成 III : オダリスク			23.8×17.7
			変成 IV : マンドリン女			23.6×17.8
			変成 V : アンフォラ女			23.6×17.7
			変成 VI : 服を脱ぐ娼婦			23.8×17.8
			変成 VII : 鉱物の顔			17.8×23.6
			変成 VIII : 聖アントワヌの誘惑			17.8×23.8
			変成 IX : 夢見る少女			17.9×23.8
			変成 X : 捧げ物			17.7×23.6
			変成 XI : ヴェールをまとった女			17.7×23.7
			変成 XII : 縁日			17.7×23.6
43	写真	クラレンス・シンクレア・ブル (1896-1979)	『インスピレーション』のグレッタ・ガルボ	c. 1931	ゼラチン・シルバー・プリント	33.0×25.4
44	写真	クラレンス・シンクレア・ブル (1896-1979)	『クリスチナ女王』のグレッタ・ガルボ	1933	ゼラチン・シルバー・プリント	33.0×25.4
45	写真	ウィン・バロック (1902-1975)	デルモンテの森	1952	ゼラチン・シルバー・プリント	23.8×19.2
46	写真	ウィン・バロック (1902-1975)	難破船	1968	ゼラチン・シルバー・プリント	26.1×29.8
47	写真	ウィン・バロック (1902-1975)	窓の反射	1971	ゼラチン・シルバー・プリント	17.5×24.3
48	写真	ロバート・カミング (1943-2021)	イングルウッドの丘、カリフォルニア	1973	ゼラチン・シルバー・プリント	18.0×22.5
49	写真	ロバート・カミング (1943-2021)	カードハウスの列を燃やす	1974	ゼラチン・シルバー・プリント	18.0×22.5
50	写真	ロバート・カミング (1943-2021)	円中心から外れた 67 度のボディーク	1975	ゼラチン・シルバー・プリント	18.0×22.5
51	写真	ダニー・ライアン (1942-)	ポートフォリオ『死者との対話』	1967-69	ゼラチン・シルバー・プリント /17 点組	

			テキサス			28.0×35.6
			アーロン・エヴァート・ジョーンズ			35.6×28.0
			統合失調症の受刑者、20年間服役、ウィン刑務所			28.0×35.6
			整地、テキサス州エリス刑務所			28.0×35.6
			綿摘み、テキサス州ファーガソン刑務所			28.0×35.6
			綿摘み、終身刑、強盗			28.0×35.6
			隊列			28.0×35.6
			ブリズンタトゥー			35.6×28.0
			ピケ塔からの眺め、テキサス州ファーガソン刑務所			28.0×35.6
			ボス			35.6×28.0
			ドミノ、テキサス州ウォールズ刑務所			28.0×35.6
			シャワーを浴びる人、テキサス州診療刑務所			35.6×28.0
			犬飼い、テキサス州エリス刑務所			28.0×35.6
			アーロン・エヴァート・ジョーンズ、常習犯			28.0×35.6
			無題			35.6×28.0
			シェイクダウン、テキサス州エリス刑務所			28.0×35.6
			隊列、テキサス州ファガーソン刑務所			28.0×35.6
52	写真	ダニー・ライアン (1942-)	レーサー、インディアナ州シェアービル (『ザ・バイクライダース』より)	1965	ゼラチン・シルバー・プリント	22.2×33.0
53	写真	ダニー・ライアン (1942-)	ステート・フェア、アラバカーキ、ニューメキシコ州	1981	ゼラチン・シルバー・プリント	29.2×44.1
54	写真	マイク・マンデル (1950-)	ベースボール・フォトグラファー・トレーディングカード	1975	ハーフトーン、オフセット (両面印刷) / 2点組	(各) 73.7×58.4
55	写真	バーバラ・モーガン (1900-1992)	マーサ・グレアム、エクスタシス	1935	ゼラチン・シルバー・プリント	44.5×34.8
56	写真	ウィリアム・モートンセン (1897-1965)	ポートフォリオ『絵画的写真』	c. 1930	ゼラチン・シルバー・プリント / 20点組	(各) 22.5×18.0
57	写真	アーロン・シスキ (1903-1991)	アッピア街道、ローマ	1963	ゼラチン・シルバー・プリント	34.0×26.7
58	写真	ヘンリー・ホルムズ・スミス (1909-1986)	フェニックス II	1972-74	写真製版、シルクスクリーン・プリント	162.0×108.0
59	写真	エドワード・スタイク (1879-1973)	グレタ・ガルボ	1928	ゼラチン・シルバー・プリント	42.1×34.0

60	写真	ジェリー N. ・ユー ルズマン (1934- 2022)	無題 [台座上の海辺を歩く人]	1976	ゼラチン・シル バー・プリント	45.0×29.2
61	写真	ブレット・ウェス トン (1911-1993)	無題 [ヌード]	1937/1974	ゼラチン・シル バー・プリント	24.1×17.5
62	写真	エドワード・ウェ ストン (1886- 1958)	ユッカと岩	1939	ゼラチン・シル バー・プリント	24.1×18.9
63	写真	杉浦邦恵 (1942-)	3本のバラ (Three Roses)	1969	写真乳剤、グラ ファイト、キャ ンバス	97.0×145.0
64	写真	杉浦邦恵 (1942-)	50 Cuts : 遺された一瞬	1997-2001	ゼラチン・シル バー・プリント ／50点組	(各)12.7×17.8
65	その他	石原友明 (1959-)	Ectoplasm #4	2005-2013	カラー写真、革 ／2点組	写真: 140.0× 113.0、立体: 135.0×28.0× 28.0
66	その他	風間サチコ (1972-)	McColoniald シリーズ: 泥棒博物館	2003	布、アクリル絵 具、油性ラッカ ー、ステンシル	160.0×140.0
67	その他	風間サチコ (1972-)	McColoniald シリーズ: 世界の山師	2003	布、アクリル絵 具、油性ラッカ ー、ステンシル	160.0×131.0
68	その他	風間サチコ (1972-)	McColoniald シリーズ: ヤング・ア メリカ	2003	布、アクリル絵 具、油性ラッカ ー、ステンシル	155.0×129.0
69	その他	風間サチコ (1972-)	McColoniald シリーズ: 私のカーゴ	2003	布、アクリル絵 具、油性ラッカ ー、ステンシル	156.0×144.0
70	その他	手塚愛子 (1976-)	閉じたり開いたり そして勇気につ いて (拗れ)	2024	絹、ポリエステル、ジャカード 織、木製パネル	141.5×466.7
国立西洋美術館						
	種別	作者名	作品名	制作年	材質・形状等	寸法 (cm)
1	絵画	ルイ＝レオポル ド・ボワイー (1761-1845)	トロンプ・ルイユ: クリストフ・フ ィリップ・オベルカンフの肖像	1815 年	油彩・カンヴァ ス	43.5 x 32 cm
2	絵画	テオドール・シャ セリオー (1819- 1856)	キリスト教徒の虐殺の後、古代の競 技場を歩く聖ペテロ (?)	1840 年	油彩・カンヴァ ス (厚紙に貼り 付け)	31 x 39.2cm
3	版画	ジュゼペ・デ・リ ベーラ (1591- 1652)	詩人	1620-21 年	エッチング	版: 15.9 x 12.3 cm 紙: 16.1 x 12.4 cm

4	版画	フランシスコ・デ・ゴヤ (1746-1828)	鉄輪絞首刑囚	1778-80 年	エッチング、エングレーヴィング	版 : 33.0 x 21.0 cm 紙 : 40.4 x 28.3 cm
5	絵画	ビアージョ・ダン トニオ・トゥッチ (1446-1516)	聖母子と幼児洗礼者聖ヨハネ	1490 年	テンペラ・板	79.2 x 57.7cm
6	絵画	ラヴィニア・フォンターナ (1552-1614)	アントニエッタ・ゴンザレス	1592 年	油彩・カンヴァス	54.5 x 47cm
7	絵画	フェデ・ガリツィア (1578-1630)	ホロフェルネスの首を持つユディト	1622 年	油彩・カンヴァス	127 x 95.5cm
8	版画	アブラハム・ボス (1604-1676)	エングレーヴィング作家とエッチング作家	1643 年	エッチング	25.8 x 32.2cm
9	版画	レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン (1606-1669)	ラザロの復活 (小)	1642 年	エッチング	15.0 x 11.5cm
10	版画	ジャック・ベランジュ (1575-1616)	ボルキアの自害	-	エッチング	24.6 x 18.5cm
11	版画	ウジェーヌ・ドラートル (1864-1938)	オーギュスト・ドラートルの肖像	1894 年	エッチング、アクアティント (多色刷り)	50.0 x 32.6cm
12	版画	メアリー・カサット (1844-1926)	裸足の子ども	1896-1867 年	ドライポイント、アクアティント (多色刷り)	版寸 24.3 x 31.9cm, 紙寸 32.3 x 45.0cm
13	版画	メアリー・カサット (1844-1926)	ソファに座るレーヌとマーゴット	1902 年	ドライポイント	版寸 42.7 x 32.6cm, 紙寸 50.2 x 38.7cm
14	絵画	アントン・ラファエル・メングス (1728-1779)	エジプト逃避上の休息	1767 年	油彩／板	1060 x 834mm
15	版画	アルブレヒト・デューラー (1471-1528)	小受難伝	1511 年	木版	各葉 c.170 x 130 mm
16	版画	コルネリス・ハレ (1576-1650)	ダンテとベアトリーチェ、ウェルギリウス、スタティウスの肖像 (ジョヴァンニ・ストラダヌスの原画にもとづく)	-	エングレーヴィング	275 x 206 mm
17	版画	アダモ・スクルトーリ (1530-1587)	葦笛を吹くファウヌスとニンフ、プットー (ジュリオ・ロマーノの原画にもとづく)	-	エングレーヴィング	198 x 131 mm
18	版画	ディアナ・スクルトーリ (1547-1612)	とげを抜く少年	1571 年	エングレーヴィング	311 x 215 mm

19	版画	マリアーノ・フォルトゥーニ (1838-1874)	セレナータ	1863-64 年	エッチング、アクアチント／紙	版寸 466 x 368 mm, 紙寸 503 x 394 mm
20	書籍	アンリ・マティス (1869-1954)	ステファヌ・マラルメ詩集	1932 年	エッチング／ベランアルシュ紙	330 x 250mm
21	書籍	アンリ・マティス (1869-1954)	バシファエ ミノスの歌 (クレタの人々)	1944 年	リノカット／ベランアルシュ紙	330 x 250mm
22	書籍	アンリ・マティス (1869-1954)	アンティル諸島の詩	1972 年	リトグラフ／ベランアルシュ紙	383 x 293mm
23	版画	ル・コルビュジエ (1887-1965)	モデュロール	1956 年	カラー・リトグラフ／アルシュ紙	画寸 705 x 530mm, 紙寸 732 x 540mm

国立国際美術館

	種別	作者名	作品名	制作年	材質・形状等	寸法 (cm)
1	洋画	エヴェリン・タオ チェン・ワン (1981-)	トルコ人女性たちのブラックベリー	2023 年	油彩、カンバス	200.0 × 200.0 cm
2	洋画	エヴェリン・タオ チェン・ワン (1981-)	有機的な一日	2023 年	水彩、墨、アクリル、宣紙、韓紙、木製パネル	80.2 × 80.2 cm
3	洋画	横山奈美 (1986-)	Shape of Your Words - T.K. -	2023 年	油彩、麻	182.0 × 229.0 cm
4	映像	潘逸舟 (1987-)	White on White	2008 年	シングルチャンネル・ビデオ (モノクロ、サウンド)	4 分 56 秒
5	映像	潘逸舟 (1987-)	波を掃除する人	2018-19 年	シングルチャンネル・ビデオ (モノクロ)	18 分 31 秒
6	映像	潘逸舟 (1987-)	わたしは家運び、家はわたしを移す	2019 年	ダブルチャンネル・ビデオ (モノクロ、サウンド)	24 分 45 秒
7	映像	松井智恵 (1960-)	She dissolves	2000 年	シングルチャンネル・ビデオ (カラー、サウンド)	35 分 56 秒
8	映像	松井智恵 (1960-)	Himalaya	2003 年	シングルチャンネル・ビデオ (カラー、サウンド)	36 分 49 秒
9	映像	松井智恵 (1960-)	HEIDI 46 brick house	2006 年	シングルチャンネル・ビデオ (カラー、サウンド)	15 分 36 秒
10	彫刻	ルース・アサワ (1926-2013)	無題 (S.317、壁掛け式、中央部は開いた五芒星と枝が重なりあう形にワイヤーを縛ったもの)	1965 年頃	銅覆鋼線	208.4 × 208.0 × 35.0 cm

11	彫刻	ヨシダミノル (1935－2010)	Just Curve '67 12 polycycle	1967 年	ステンレススチール、プレキシグラス、蛍光灯、モーター、他	68.0 × 112.0 × 80.0 cm
12	洋画	中園孔二 (1989－2015)	無題	2010 年	クレヨン、木製パネル	145.5 × 145.5 cm
13	洋画	中園孔二 (1989－2015)	無題	制作年不明	油彩、カンバス	162.0 × 130.3 cm
14	彫刻	ソピアップ・ピッチ (1971－)	夜想曲 no. 1	2023 年	竹、ラタン、ステンレススチール、油性インク	201.0 × 203.5 × 16.5 cm
15	洋画	モーリー・ギャレス (1960－)	レイト・オーガスト	2024 年	油彩、板	28.2 × 30.7 cm
16	洋画	田部光子 (1933－2024)	ヤマトタケルノミコト	1950 年代	油彩、アスファルト、板	182.8 × 183.2 cm
17	洋画	田部光子 (1933－2024)	たった一つの実在を求めて	1963 年	石膏、油彩、板、コラージュ(写真)	96.0 × 41.3 × 11.0 cm
18	洋画	森本紀久子 (1940－)	親切的な逆夢	1963 年	クレヨン、インク、水彩、岩彩、油彩、鉛筆、ベニヤ板	130.8 × 97.2 cm
19	彫刻	鎌田友介 (1984－)	Japanese Houses in the Tokonoma (Taiwan/Brazil/Korea/U.S./Japan)	2024 年	アクリル塗料、アクリル板、インクジェットプリント、アルミ複合板、木材	227.5 × 364.0 × 32.5 cm
20	映像	キム・アヨン (1979－)	デリバリー・ダンサーズ・スフィア	2022 年	シングルチャンネル・ビデオ (フルHD、カラー、サウンド)	25 分
21	映像	ミン・ウォン (1971－)	ライフ・オブ・イミテーション	2009 年	2チャンネル・ビデオ・インスタレーション (HD、カラー、サウンド)	12 分 53 秒
22	映像	ミン・ウォン (1971－)	テール・オブ・パンプ・スペースシップ	2019 年	シングルチャンネル・ビデオ (HD、カラー、サウンド)	15 分 35 秒
23	映像	袁廣鳴 (ユエン・グァンミン) (1965－)	エネルギーの風景	2014 年	シングルチャンネル・ビデオ (カラー、サウンド)	7 分 30 秒

24	映像	袁廣鳴（ユエン・グァンミン） （1965－）	日常戦争	2024 年	シングルチャンネル・ビデオ （カラー、サウンド）	10 分 33 秒
25	映像	石原海（1993－）	重力の光	2021 年	シングルチャンネル・ビデオ （HD、カラー、サウンド）	30 分
		石原海（1993－）	重力の揺らぎ	2021 年	ムービングライト	サイズ可変
		石原海（1993－）	イエス・キリストの身体	2021 年	パンの模型	5.3 × 20.5 × 6.5 cm
		石原海（1993－）	ユダの手	2021/24 年	インクジェット プリント	59.1 × 41.6 cm
		石原海（1993－）	天使とマリア	2021/24 年	インクジェット プリント	59.1 × 41.6 cm
		石原海（1993－）	天使の光	2021/24 年	インクジェット プリント	59.1 × 41.6 cm
		石原海（1993－）	天使の輪	2021/24 年	インクジェット プリント	59.1 × 41.6 cm
		石原海（1993－）	弟子 1	2021/24 年	インクジェット プリント	59.1 × 41.6 cm
		石原海（1993－）	弟子 2	2021/24 年	インクジェット プリント	59.1 × 41.6 cm
26	映像	石原海（1993－）	弟子たちの儀式	2021 年	シングルチャンネル・ビデオ （HD、カラー、サウンド）、鉄 製フレーム	16 分 49 秒
27	映像	鎌田友介 （1984－）	Japanese Houses	2022 年	シングルチャンネル・ビデオ （フル HD、カラー、サウンド）	12 分 51 秒
28	映像	高田冬彦	Cut Suits	2023 年	シングルチャンネル・ビデオ （HD、カラー、サウンド）、布	6 分 12 秒
29	彫刻	梅津庸一 （1982－）	窯業と芸術	2024 年	陶、乾燥棚	30 点組、乾燥 棚：126.0 × 181.1 × 90.5 cm
		梅津庸一 （1982－）	標	2021 年	陶	5.0 × 44.0 × 35.0 cm
		梅津庸一 （1982－）	海辺の資材	2021 年	陶	4.0 × 37.0 × 28.0 cm
		梅津庸一 （1982－）	5 枚の反射板	2022 年	陶	12.0 × 21.0 × 16.0 cm

		梅津庸一 (1982ー)	ビルボード	2023 年	陶	36.0 × 46.0 × 20.0 cm
		梅津庸一 (1982ー)	インダストリアル	2023 年	陶	38.0 × 32.0 × 23.0 cm
		梅津庸一 (1982ー)	モダンな壁	2023 年	陶	38.0 × 34.5 × 24.5 cm
		梅津庸一 (1982ー)	ペア	2023 年	陶	18.0 × 26.0 × 16.0 cm
		梅津庸一 (1982ー)	ビルボード	2023 年	陶	30.0 × 33.0 × 22.0 cm
		梅津庸一 (1982ー)	共同体	2023 年	陶	14.0 × 53.0 × 22.0 cm
		梅津庸一 (1982ー)	公民館	2023 年	陶	18.0 × 24.0 × 19.0 cm
		梅津庸一 (1982ー)	通称「ビスケットサンド」	2023 年	陶	18.0 × 18.0 × 18.0 cm
		梅津庸一 (1982ー)	堆積物	2023 年	陶	13.0 × 31.0 × 9.0 cm
		梅津庸一 (1982ー)	柔らかい資材で作られた小屋	2023 年	陶	9.0 × 13.0 × 11.0 cm
		梅津庸一 (1982ー)	衛星都市	2023 年	陶	14.0 × 30.0 × 26.0 cm
		梅津庸一 (1982ー)	クリスタルパレス	2023 年	陶	33.0 × 22.0 × 19.0 cm
		梅津庸一 (1982ー)	インダストリアル	2023 年	陶	29.0 × 22.0 × 16.0 cm
		梅津庸一 (1982ー)	煙突	2023 年	陶	27.0 × 15.0 × 15.0 cm
		梅津庸一 (1982ー)	水難	2023 年	陶	9.0 × 29.0 × 27.0 cm
		梅津庸一 (1982ー)	保管所	2024 年	陶	29.0 × 26.0 × 17.0 cm
		梅津庸一 (1982ー)	物見櫓	2024 年	陶	23.0 × 15.0 × 14.0 cm
		梅津庸一 (1982ー)	通称「ビスケットサンド」	2024 年	陶	21.0 × 21.0 × 16.0 cm
		梅津庸一 (1982ー)	月の観覧場	2024 年	陶	27.0 × 35.0 × 24.0 cm
		梅津庸一 (1982ー)	ボトルメールシップ	2024 年	陶	27.0 × 30.0 × 22.0 cm
		梅津庸一 (1982ー)	Pillars	2024 年	陶	26.0 × 24.0 × 24.0 cm
		梅津庸一 (1982ー)	4 枚の反射板	2024 年	陶	18.0 × 12.0 × 21.0 cm
		梅津庸一 (1982ー)	黒の社	2024 年	陶	29.0 × 33.0 × 25.0 cm
		梅津庸一 (1982ー)	納骨船	2024 年	陶	14.0 × 23.0 × 15.0 cm

		梅津庸一 (1982ー)	遭難	2024 年	陶	9.0 × 53.0 × 24.0 cm
		梅津庸一 (1982ー)	ボトルメールシップ	2024 年	陶	25.0 × 27.5 × 21.0 cm

別表 15 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催

ア 東京国立近代美術館						
(本館)						
1	セミナー・シンポジウム タイトル		山城知佳子 アーティスト・トーク			
	開催日	令和 6 年 7 月 21 日	場所	所蔵品ギャラリー12 室	聴講者数 (人)	42
	講師・パ ネリスト 等の氏名 (職名)	山城知佳子（アーティスト）、佐原しおり（美術課研究員）				
	内容	所蔵作品展「MOMAT コレクション」内での山城知佳子《肉屋の女》（2016 年）の展示に際して作者を招き、《肉屋の女》を中心にこれまでの作家活動について語っていただいた。				
2	セミナー・シンポジウム タイトル		シュルレアリスム宣言 100 年記念講演会（第二弾）			
	開催日	令和 6 年 11 月 23 日	場所	地下 1 階講堂	聴講者数 (人)	50
	講師・パ ネリスト 等の氏名 (職名)	長名大地（企画課主任研究員）、長尾天（成城大学ほか非常勤講師）、進藤久乃（國學院大學文学部准教授）、石井祐子（九州大学基幹教育院准教授）				
	内容	シュルレアリスム宣言から 100 周年を記念して、シュルレアリスム美術と展覧会をテーマにシンポジウムを開催した。発表テーマは「シュルレアリスムの展覧会実践におけるイメージ・テキスト・機能——「イヴ・タンギーとアメリカのオブジェ」展（1927 年）を例として」（長尾）、「シュルレアリスムの展覧会と印刷空間——機関誌、ビラ、カタログ」（進藤）、「シュルレアリスムが美術館に展示されるとき——マックス・エルンストとメレット・オッペンハイムを中心に」（石井）。				
3	セミナー・シンポジウム タイトル		コレクションによる小企画「フェミニズムと映像表現」トークイベント			
	開催日	令和 6 年 12 月 15 日	場所	地下 1 階講堂	聴講者数 (人)	142
	講師・パ ネリスト 等の氏名 (職名)	小林紗由里（本展企画者、東京国立近代美術館研究員）、森卓也（本展共同企画者、東京国立近代美術館補佐員）、横山由季子（本展共同企画者、東京国立近代美術館研究員）、田尻歩（東京理科大学講師）、遠藤麻衣（アーティスト）、百瀬文（アーティスト）				
	内容	ギャラリー4 で開催された「フェミニズムと映像表現」展の関連プログラムとして、1960-70 年代のアメリカにおけるフェミニズムとアートの結びつきについて研究されている田尻氏、出品アーティストの遠藤氏、百瀬文氏を招き、それぞれのプレゼンテーションの後、企画した研究員を交えたトークセッションを行った。				
(国立工芸館)						
1	セミナー・シンポジウム タイトル		“反復と偶然” がもたらす工芸の魅力			
	開催日	令和 7 年 2 月 9 日	場所	国立工芸館多目的室	聴講者数 (人)	46
	講師・パ ネリスト 等の氏名 (職名)	宮田亮平（東京藝術大学名誉教授、国立工芸館顧問） 聞き手：三木敬介（国立工芸館主任研究員）				
	内容	「反復と偶然展」に関連し、東京藝術大学名誉教授・国立工芸館顧問の宮田亮平氏を招聘し、金工作家の家庭で育った経験や兄・三代宮田藍堂（宏平）氏および自作について語ってもらうトークイベント。				
2	セミナー・シンポジウム タイトル		反復と偶然－視点を変えて考えてみる			
	開催日	令和 7 年 2 月 22 日	場所	国立工芸館多目的室	聴講者数 (人)	31

	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	渋谷拓（金沢美術工芸大学教授）				
	内容	博物館学、近現代美術を専門とする金沢美術工芸大学の渋谷拓教授を招聘し、視点を変えて「工芸」作品を見ることで新たに見える側面について考えるトークイベント。 ＊石川県との連携事業として開催				
イ 国立西洋美術館						
1	セミナー・シンポジウム タイトル		作品と作品をつなぐもの——解釈、応答、変奏			
	開催日	令和6年4月20日	場所	Zoom ウェビナー（オンライン）	聴講者数 (人)	222
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	田中正之（国立西洋美術館長）				
	内容	企画展「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？」関連講演会				
2	セミナー・シンポジウム タイトル		ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？			
	開催日	令和6年5月11日	場所	Zoom ウェビナー（オンライン）	聴講者数 (人)	308
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	新藤淳（国立西洋美術館主任研究員）				
	内容	企画展「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？」関連講演会				
3	セミナー・シンポジウム タイトル		スライドトーク「内藤コレクション—写本 いとも優雅なる中世の小宇宙」			
	開催日	令和6年6月14日	場所	講堂	聴講者数 (人)	92
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	中田明日佳（国立西洋美術館主任研究員）				
	内容	企画展「内藤コレクション—写本 いとも優雅なる中世の小宇宙」の展覧会概要を説明するもの。ロジャー（デジタルワイヤレス補聴援助システム）を導入。なお、8月16日（金）夜間にも手話通訳付きでの実施を予定していたが、台風により中止した。				
4	セミナー・シンポジウム タイトル		スライドトーク「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？」			
	開催日	令和6年6月23日	場所	講堂	聴講者数 (人)	48
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	新藤淳（国立西洋美術館主任研究員）				
	内容	企画展「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？」の展覧会概要を説明するもの。手話通訳付きでの実施。				
5	セミナー・シンポジウム タイトル		モネの庭			
	開催日	令和7年1月18日	場所	Zoom ウェビナー（オンライン）	聴講者数 (人)	409

	講師・パネリスト等の氏名(職名)	山根あおい(国立西洋美術館任期付研究員)				
	内容	企画展「モネ 睡蓮のとき」関連講演会				
ウ 国立国際美術館						
1	セミナー・シンポジウム タイトル	「コレクション1 彼女の肖像」アーティスト・トーク				
	開催日	令和7年1月12日	場所	国立国際美術館 講堂	聴講者数(人)	46
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	谷原菜摘子(出品作家)				
	内容	「コレクション1 彼女の肖像」展では、2023年度の新収蔵品である谷原菜摘子氏の作品を出品した。展覧会関連イベントとして谷原氏を招き、自画像である当館所蔵作品の制作背景や、制作の変遷や主題について話を伺った。				
2	セミナー・シンポジウム タイトル	「コレクション1 彼女の肖像」アーティスト・トーク				
	開催日	令和7年1月25日	場所	国立国際美術館 講堂	聴講者数(人)	61
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	片山真理(出品作家)				
	内容	「コレクション1 彼女の肖像」展では、2023年度の新収蔵品である片山真理氏の作品を出品した。展覧会関連イベントとして片山氏を招き、当館所蔵作品の制作背景や、「ハイヒール・プロジェクト」(義足でハイヒールを履きステージに立つまでのプロジェクト)の成り立ちについて話を伺った。				

別表 16 シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等とのネットワークの構築

ア 国立アトリサーチセンター						
1	セミナー・シンポジウム タイトル	NCAR トーク 001：木戸龍介さん、島袋道浩さんとタイランド・ビエンナーレ チェンライ 2023 を語る				
	開催日	令和 6 年 8 月 3 日	場所	東京藝術大学芸術未来研究場	聴講者数 (人)	31
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	木戸龍介 (アーティスト、東京藝術大学芸術未来研究場 特任准教授)、島袋道浩 (アーティスト) モデレーター：飯田志保子 (キュレーター)				
	内容	国際連携・発信グループの様々な活動を身近に感じより深く知っていただくために、毎回ゲストをお呼びして一つのテーマのもと、参加者の方々と共に開かれた対話の場を作り出すことを目指して NCAR トークを開設した。1 回目は「アーティストの国際発信支援プログラム」プレ事業として採択され、令和 5 年 12 月 9 日から令和 6 年 4 月 30 日まで開催された「タイランド・ビエンナーレ チェンライ 2023」に出展したアーティスト、木戸龍介氏と島袋道浩氏をゲストとしてお迎えし、キュレーターの飯田志保子氏をモデレーターとして、ビエンナーレの制作滞在にまつわるエピソードと、今後の活動について広く伺った。				
2	セミナー・シンポジウム タイトル	国立新美術館 法人向けアーティスト・ワークショップ< 1 > 流 麻二果『日本の色』				
	開催日	令和 6 年 8 月 28 日	場所	Bridgestone Innovation Park	聴講者数 (人)	23
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	流 麻二果 (アーティスト)				
	内容	法人向けアーティストワークショップ (国立新美術館との共同企画) は、昨今のビジネスシーンにおけるアートへの関心の高まりを踏まえ、ビジネスパーソンに対して、企業活動においては体験できないアートやデザインに触れる場を提供するもの。美術館との接点が少ない企業・団体とのつながりを生み出すとともに、美術館の活動領域を広げることが目的として実施した。 このうち、< 1 > 『日本の色』は、アーティストの流麻二果氏によるワークショップ。「色と向き合うことで、100 人いれば 100 通りのものの見方、感じ方があることを意識する」をコンセプトとして、企業のアート思考に関する社内企画として実施した。				
3	セミナー・シンポジウム タイトル	NCAR シンポジウム 003 美術館のアクセシビリティー共生社会に向けて、対話のある”合理的配慮”とは？				
	開催日	令和 6 年 9 月 23 日	場所	国立新美術館 講堂	聴講者数 (人)	172
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	光島貴之 (美術家・鍼灸師)、松山沙樹 (京都国立近代美術館研究員)、栗原剛 (森美術館「手話ツアー」参加者)、白木栄世 (森美術館ラーニング・キュレーター)、カミジョウ・ミカ (アーティスト・「みんなでミュージアム」参加者)、柴崎由美子 (NPO 法人エイブル・アート・ジャパン代表)、日比野克彦 (東京藝術大学学長、障害者文化芸術活動推進有識者会議座長)、片岡真実 (国立アトリサーチセンター長)、稲庭彩和子 (同センター主任研究員)、鈴木智香子 (同センター研究員)、伊東俊祐 (同センター客員研究員)				
	内容	令和 6 年 4 月に改正障害者差別解消法が施行され、「合理的配慮」の提供が全事業者に義務化されたなか、美術館がすべての人にとって利用しやすい場となるための具体的な取組事例を紹介。事業者 (美術館関係者)、障害のある人、それらを繋ぐ中間支援組織それぞれの視点から意見を交わした。				
4	セミナー・シンポジウム タイトル	NCAR レクチャー 002 アナログ写真の発展と文化遺産としての写真の保存				
	開催日	令和 6 年 10 月 26 日	場所	京都国立近代美術館	聴講者数 (人)	54

	講師・パネリスト等の氏名（職名）	ゲノラ・フュリック（写真保存修復専門家） 白岩洋子（写真保存修復専門家）				
	内容	白岩洋子氏は「進化する写真-その技法と表現を追う」と題して、幕末から現代までの日本の写真の展開を技法の変遷として語り、ゲノラ・フュリック氏は「文化遺産としての写真の保存と維持管理」と題して、氏がこれまでフランスで手掛けてきた保存修復事例を紹介しながら、写真が適切な環境で保管されないと、どのように劣化・破損するか、それを防ぐためにはどのようにすべきか、といった問題を具体的に論じた。				
5	セミナー・シンポジウム タイトル	文化財保存修復に関するワークショップ ー写真の識別と保存についてー				
	開催日	令和6年10月29日～31日	場所	東京文化財研究所	聴講者数（人）	35
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	ゲノラ・フュリック（写真保存修復専門家）				
	内容	絵画に比べて技法として歴史の浅い写真について、用いられている技法に応じた適正な保存方法を習得するワークショップ。1日目は「写真技法の歴史、技術、および識別方法」、2日目は「劣化、損傷の類型とその原因」、3日目は「写真コレクションの予防的保存」と題して、各日とも午前中は講義、午後は具体的な作例をもとにした実習を行った。1日目の実習では古典的手法を用いて実際に写真を現像する作業を体験し、2日目は古写真の技法的識別を実物サンプルを用いて行い、3日目は劣化した作例の状態調査と分析、ディスカッションを行った。				
6	セミナー・シンポジウム タイトル	MUSEUM TRIP 写真の中を旅しよう！				
	開催日	令和6年11月16日	場所	川崎市役所本庁舎 復元棟 205 会議室	聴講者数（人）	20
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	稲庭 彩和子（NCAR 主任研究員）、鈴木勇一郎（川崎市市民ミュージアム学芸員）				
	内容	1960 年代ごろの川崎市写真コンクール入賞写真を、川崎市のアートコミュニケータ「ことラー」と一緒におしゃべりしながら楽しむ鑑賞ワークショップ。 地域のアートや文化資源を活かし、特に認知症が気になる方とそのご家族も一緒に楽しめる文化的処方プログラムとして、国立アトリサーチセンター、東京藝術大学、川崎市市民ミュージアムが共同して開催した。				
7	セミナー・シンポジウム タイトル	NCAR トーク 002：オーストラリアにおけるアートシーンのいま：ニュー・サウス・ウェールズ州立美術館のコレクションを中心に				
	開催日	令和6年11月22日	場所	NCAR 大会議室	聴講者数（人）	27
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	登壇者：ニコラス・チェンバーズ氏（ニュー・サウス・ウェールズ州立美術館シニア・キュレーター）				
	内容	第二回目の NCAR トークでは、国際発信・連携グループが実施調整を担う「日豪美術館学芸員交流事業」（日本国とオーストラリアとの間の友好協力基本条約に基づき、両国が 30 年以上にわたり推進してきている事業）で招聘したシドニーのニュー・サウス・ウェールズ州立美術館 (AGNSW) シニア・キュレーターのニコラス・チェンバーズ氏に登壇いただき、AGNSW の 20 世紀および 21 世紀のコレクション収集と、先住民アートにフォーカスした近年の展示方針を詳細に渡りご紹介いただいた。				
8	セミナー・シンポジウム タイトル	MUSEUM TRIP 写真の中を旅しよう！				
	開催日	令和6年11月23日	場所	川崎市役所本庁舎 復元棟 205 会議室	聴講者数（人）	20
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	稲庭 彩和子（NCAR 主任研究員）、鈴木勇一郎（川崎市市民ミュージアム学芸員）				

	内容	1960 年代ごろの川崎市写真コンクール入賞写真を、川崎市のアートコミュニケータ「ことラー」と一緒におしゃべりしながら楽しむ鑑賞ワークショップ。 地域のアートや文化資源を活かし、特に認知症が気になる方とそのご家族も一緒に楽しめる文化的処方のプログラムとして、国立アトリサーチセンター、東京藝術大学、川崎市市民ミュージアムが共同して開催した。ワークショップを行った小企画展「写真の中のかわさき」は、令和 6 年 11 月 16 日から令和 7 年 1 月 26 日までの会期中、4,676 人の観覧者を得た（目標 1,500 人）。				
9	セミナー・シンポジウム タイトル	こどもタッチ&トーク☆しまじろうがみた・さわったアレやコレ				
	開催日	令和 6 年 11 月 24 日	場所	国立工芸館	聴講者数 (人)	65
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	国立工芸館教育普及室研究員、ガイドスタッフ 協力：(株) ベネッセコーポレーション				
	内容	幼児向け教育番組「しまじろうのわお！」内「アートのわお！～国立工芸館編」のコラボレーションプログラムとして実施。番組内でしまじろうが観察したお皿やスプーン、茶碗を国立工芸館の研究員・ガイドスタッフのファシリテーションのもとで触察した。 また、屋外展示作品の鑑賞も実施した。				
10	セミナー・シンポジウム タイトル	国立新美術館 法人向けアーティスト・ワークショップ< 2 > SPREAD 『Life Type』				
	開催日	令和 6 年 12 月 11 日	場所	国立新美術館 別館 3 階	聴講者数 (人)	6
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	クリエイティブ・ユニット SPREAD (山田春奈氏、小林弘和氏)				
	内容	法人向けアーティストワークショップ (国立新美術館との共同企画) は、昨今のビジネスシーンにおけるアートへの関心の高まりを踏まえ、ビジネスパーソンに対して、企業活動においては体験できないアートやデザインに触れる場を提供するもの。美術館との接点が少ない企業・団体とのつながりを生み出すとともに、美術館の活動領域を広げることが目的として実施した。 このうち、< 2 > 『Life Type』は、山田春奈と小林弘和によるクリエイティブ・ユニット SPREAD が手掛けるワークショップ。参加者は、自分の人生で起こった出来事や瞬間をふり返り、アルファベットと記号で表現したグラフィック作品を制作する。企業の幹部人材の育成プログラムの一環として実施した。				
11	セミナー・シンポジウム タイトル	NCAR トーク 003：アルル国際写真フェスティバル～アーティスト&キュレーター・トーク				
	開催日	令和 7 年 1 月 17 日	場所	NCAR 大会議室	聴講者数 (人)	31
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	登壇：岩根愛 (写真家)、藤井光 (アーティスト) モデレーター：天田万里奈 (キュレーター)				
	内容	令和 6 年度「アーティストの国際発信支援事業」で採択され、令和 6 年 7 月 1 日～9 月 30 日まで開催された「アルル国際写真展」で展覧会をキュレーションした天田万里奈氏をモデレーターとして迎え、9 名の出展作家から写真家の岩根愛氏、アーティストの藤井光氏を交えて実施した本会は、世界有数の写真フェスティバルであるアルルでの実践を知り、また展覧会を企画したキュレーターや参加アーティストの声を直接聞くことのできる貴重な機会となった。				
12	セミナー・シンポジウム タイトル	NCAR シンポジウム 004・第 7 回多摩美術大学アートアーカイヴシンポジウム「マルセル・デュシャン《大ガラス》レプリカをめぐる一ストックホルム、ロンドン、東京、パリ」				
	開催日	令和 7 年 3 月 1 日	場所	多摩美術大学八王子キャンパスレクチャーホール A	聴講者数 (人)	150
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	アンナ・テルグレン (ストックホルム近代美術館 写真部門キュレーター、リサーチ部門長)、ナタリア・シドリナ (テート美術館 国際近代美術部門キュレーター)、光田由里 (AAC 所長、多				

		摩美術大学教授)、パスカル・ゴブロ(映像作家)、折茂克哉(東京大学大学院総合文化研究科 駒場博物館助教)、有福一昭(有明教育芸術短期大学教授)				
	内容	「国際的な課題を議論する研究会・トーク等事業」において、多摩美術大学アートアーカイヴセン ター(AAC)とNCARの共催にて国際シンポジウム「マルセル・デュシャン《大ガラス》レプリカを めぐって―ストックホルム、ロンドン、東京、パリ」を3月に開催した。AACにおける《大ガラス 東京ヴァージョン》試作群の正式アーカイブ化を記念し、ヨーロッパと日本にて《大ガラス》レプ リカを所蔵する美術館のキュレーターや研究者、制作者らが一同に介し、それぞれのレプリカの制 作経緯や関連資料の情報を共有するとともに、今後の保存や活用方法について議論を交わした。				
13	セミナー・シンポ ジウム タイトル	NCAR シンポジウム 005 美術館の持続可能な運営モデルとは?～寄附・寄贈の可能性				
	開催日	令和7年3月7日	場所	日経カンファレンスルーム	聴講者数 (人)	222
	講師・パネリスト 等の氏名(職名)	山口俊浩(文化庁企画調整課 博物館振興室 建築資料調査官)、山内真理(公認会計士・税理 士)、藤原誠(東京国立博物館長)、大林剛郎(株式会社大林組取締役会長・公益財団法人大林財 団理事長・国際芸術祭「あいち」組織委員会会長)、廣安ゆきみ(READYFOR 株式会社ファンドレ イジング事業部文化部門長)、川谷承子(静岡県立美術館上席学芸員)、田口美和(タグチアート コレクション共同代表)、牧寛之(株式会社バッファロー代表取締役社長)、保坂健二郎(滋賀県 立美術館ディレクター)、片岡真実(国立アトリサーチセンター長)				
	内容	美術館運営の現状と課題、個人や企業などからの支援や寄附・寄贈に関する制度などを整理した上 で、芸術的価値、社会的価値の醸成を担うわが国の美術館にとって、持続可能な運営モデルとはど のようなものを多角的に議論した。 ※共催：日本経済新聞社				
14	セミナー・シンポ ジウム タイトル	国立工芸館 企業・団体向けプログラム(トライアル)				
	開催日	令和7年3月17日	場所	国立工芸館 多目的室・展 示室	聴講者数 (人)	13
	講師・パネリスト 等の氏名(職名)	唐澤昌宏(国立工芸館長)、岩井美恵子(国立工芸館工芸課長)、中川智絵(国立工芸館任期付研 究員)				
	内容	国立工芸館 企業・団体向けプログラム(国立工芸館との共同企画)は、日本の工芸・デザインの 魅力をレクチャー形式でビジネスパーソンに伝えるとともに、国内他地域・海外からのビジネスユ ースに応える内容とすることで、観光都市金沢に立地する国立美術館として文化観光振興に資する ことを目的として提供するもの。開発中のプログラム・制度設計の参考にするとともに、企業等 に向けた本事業のPRの機会とした。 国立工芸館研究員による、ビジネスパーソン向けの日本の工芸・デザインに関するレクチャーや展 覧会のギャラリートークを提供した。				
15	セミナー・シンポ ジウム タイトル	NCAR トーク 004: ポンピドゥー・センター デザイン・産業部キュレーター、オリヴィエ・ゼトゥ ン氏を迎えて				
	開催日	令和7年3月26日	場所	東京日仏学院エスパスイマ ージュ	聴講者数 (人)	75
	講師・パネリスト 等の氏名(職名)	登壇：オリヴィエ・ゼトゥン(Olivier Zeitoun) ポンピドゥーセンターデザイン産業部アソシエ イトキュレーター モデレーター：高 美玲(Ko Miryon) 国立新美術館国際連携室長				
	内容	第4回目となるNCAR トークでは、国立美術館が今年度より相互にキュレーター派遣を行う交流事 業を開始したパリのポンピドゥー・センターより、デザイン・産業部キュレーターのオリヴィエ・ ゼトゥン氏を迎え、ポンピドゥー・センターが誇るデザインコレクションのほか、サステナブル・ デザイン、女性デザイナーの活躍推進、ポストコロニアルのアプローチによって育まれたグローバ ルデザインなど、センターのデザイン部門による最新のプロジェクトや研究について広く紹介いた だいた。				

イ 東京国立近代美術館						
(本館)						
1	セミナー・シンポジウム タイトル	「TRIO パリ・東京・大阪 モダンアート・コレクション」展 企画者クロストーク TRIO 展の舞台裏				
	開催日	令和 6 年 6 月 29 日	場所	東京国立近代美術館 講堂	聴講者数 (人)	83
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	高柳有紀子 (本展企画者、大阪中之島美術館主任学芸員)、横山由季子 (本展企画者、東京国立近代美術館研究員)				
	内容	パリ市立近代美術館、東京国立近代美術館、大阪中之島美術館のコレクションによる TRIO 展は、3 館のキュレーターの共同企画によって実現しました。なぜこの 3 館で展覧会を開催することになったのか、トリオという枠組みがどのように生まれたのか、そしてどのようにトリオを組んでいったのか。東京と大阪の企画者が、TRIO 展というユニークな展覧会の舞台裏について語る。				
2	セミナー・シンポジウム タイトル	TRIO パリ・東京・大阪 モダンアート・コレクション トークセッション あこがれのまなざし				
	開催日	令和 6 年 7 月 20 日	場所	東京国立近代美術館 講堂	聴講者数 (人)	83
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	松浦弥太郎 (エッセイスト、クリエイティブ・ディレクター)、横山由季子 (本展企画者、東京国立近代美術館研究員)				
	内容	エッセイストの松浦弥太郎氏と、展覧会担当研究員がトリオ展やコレクションの楽しみ方を語った。				
3	セミナー・シンポジウム タイトル	ヒルマ・アフ・クリント展 開催記念 特別講演会				
	開催日	令和 7 年 3 月 4 日	場所	東京国立近代美術館 講堂	聴講者数 (人)	135
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	ウルフ・ワーグナー氏 (ヒルマ・アフ・クリント財団理事)、イエシカ・フグルンド氏 (ヒルマ・アフ・クリント財団 CEO)、司会：三輪健仁 (東京国立近代美術館美術課長)				
	内容	「ヒルマ・アフ・クリント展」の開催を記念し、ヒルマ・アフ・クリント財団のお二人を招いた特別講演会を実施した。これまでの研究の歴史と最新の成果を踏まえながら、あらためて、作家没後から現在までの約 80 年間のスウェーデンにおける作品調査や、ヒルマ・アフ・クリント財団設立の経緯、さらに国際的な美術史研究における受容などについてお話しいただいた。				
(国立工芸館)						
1	セミナー・シンポジウム タイトル	茶碗の魅力、志野の魅力				
	開催日	令和 6 年 4 月 6 日	場所	国立工芸館多目的室	聴講者数 (人)	28
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	加藤亮太郎 (陶芸家) 聞き手：唐澤昌宏 (国立工芸館長)				
	内容	「卒寿記念 人間国宝 鈴木藏の志野展」に関連し、幸兵衛窯八代目 加藤亮太郎氏が「志野」の魅力・面白さについて語るトークイベント。 ＊石川県との連携事業として開催				
2	セミナー・シンポジウム タイトル	工芸とアートの境界線				
	開催日	令和 6 年 5 月 6 日	場所	国立工芸館多目的室	聴講者数 (人)	54
	講師・パネリスト等の氏名 (職名)	長谷川祐子 (金沢 21 世紀美術館長)、石田潤 (GQ JAPAN 編集長) 聞き手：岩井美恵子 (国立工芸館工芸課長)				

	内容	工芸とアートの境界に関心を抱く現代アートの専門家とファッションの専門家に工芸の専門家が話を聞くことで、工芸の認知度や捉えられ方、昨今の工芸ブームの要因を考察。 *石川県との連携事業として開催				
3	セミナー・シンポジウム タイトル	私小説を表現すること				
	開催日	令和6年9月7日	場所	国立工芸館多目的室	聴講者数 (人)	45
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	沖潤子(美術作家)、高橋賢悟(鋳金作家) ファシリテーター: 岩井美恵子(国立工芸館工芸課長)				
	内容	「心象工芸展」出品作家の沖潤子氏、高橋賢悟氏のお二人をお招きし、「私小説を表現すること」をテーマにお話を伺った。				
4	セミナー・シンポジウム タイトル	記憶や思い出の中の風景を可視化すること				
	開催日	令和6年9月21日	場所	国立工芸館多目的室	聴講者数 (人)	41
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	中川衛(彫金作家、重要無形文化財「彫金」保持者) ファシリテーター: 岩井美恵子(国立工芸館工芸課長)				
	内容	「心象工芸展」出品作家の中川衛氏をお招きし、「記憶や思い出の中の風景を可視化すること」をテーマに象嵌を実演していただきながらお話を伺った。 *石川県との連携事業として開催				
5	セミナー・シンポジウム タイトル	景色を作品にこめる				
	開催日	令和6年9月28日	場所	国立工芸館多目的室	聴講者数 (人)	43
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	中田真裕(漆芸作家) ファシリテーター: 岩井美恵子(国立工芸館工芸課長)				
	内容	「心象工芸展」出品作家の中田真裕氏をお招きし、「景色を作品にこめる」をテーマに蒔絵の技法を実演していただきながらお話を伺った。				
6	セミナー・シンポジウム タイトル	土地との関わり				
	開催日	令和6年10月5日	場所	国立工芸館多目的室	聴講者数 (人)	31
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	佐々木類(ガラス作家/アーティスト)、松永圭太(陶芸作家) ファシリテーター: 岩井美恵子(国立工芸館工芸課長)				
	内容	「心象工芸展」出品作家の佐々木類氏、松永圭太氏のお二人をお招きし、「土地との関わり」をテーマにお話を伺った。				
7	セミナー・シンポジウム タイトル	超絶技巧と言われること				
	開催日	令和6年11月23日	場所	国立工芸館多目的室	聴講者数 (人)	33
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	池田晃将(工芸美術家)、澤谷由子(陶芸家) ファシリテーター: 岩井美恵子(国立工芸館工芸課長)				
	内容	「食を彩る工芸 現代工芸と茶懐石の器展」出品作家の池田晃将氏、澤谷由子氏のお二人をお招きし、「超絶技巧と言われること」をテーマにお話を伺った。				
8	セミナー・シンポジウム タイトル	金沢で工芸を制作する				
	開催日	令和6年11月23日	場所	国立工芸館多目的室	聴講者数 (人)	34

	講師・パネリスト等の氏名（職名）	五月女晴佳（漆作家）、杉本小百合（漆芸家）、時田早苗（漆芸家） ファシリテーター：岩井美恵子（国立工芸館工芸課長）				
	内容	「食を彩る工芸 現代工芸と茶懐石の器展」出品作家の五月女晴佳氏、杉本小百合氏、時田早苗氏の3名をお招きし、「金沢で工芸を制作する」をテーマにお話を伺った。				
9	セミナー・シンポジウム タイトル	茶懐石の器				
	開催日	令和6年12月1日	場所	国立工芸館多目的室	聴講者数（人）	41
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	谷村庄太郎（谷庄）、高木慎一郎（銭屋） 聞き手：岩井美恵子（国立工芸館工芸課長）				
	内容	「食を彩る工芸 現代工芸と茶懐石の器展」の関連トークイベントとして、そもそも茶懐石とはいったいどういったものなのかを、古美術商と料理人の立場から、株式会社谷庄代表取締役谷庄の谷村庄太郎氏と日本料理銭屋主人の高木慎一郎氏のお二人の識者にお話を伺った。 ＊石川県との連携事業として開催				
ウ 京都国立近代美術館						
1	セミナー・シンポジウム タイトル	トークセッション「版画／現代美術の断層」				
	開催日	令和6年7月20日	場所	1階講堂	聴講者数（人）	64
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	播磨みどり（アーティスト）、高橋耕平（アーティスト）、牧口千夏（京都国立近代美術館主任研究員）				
	内容	展覧会「印刷／版画／グラフィックデザインの断層 1957-1979」の関連イベントとして、アーティストの播磨みどり氏と高橋耕平氏を迎え、トークセッションを実施した。				
2	セミナー・シンポジウム タイトル	記念講演・対談「倉俣史朗——その時代と表現」				
	開催日	令和6年6月22日	場所	1階講堂	聴講者数（人）	66
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：沖 健次（インテリアデザイナー、元東京造形大学教授） 聞き手：橋本啓子（近畿大学教授）				
	内容	展覧会「倉俣史朗のデザインー記憶のなかの小宇宙」の関連イベントとして、インテリアデザイナー、元東京造形大学教授の沖健次氏と近畿大学教授の橋本啓子氏を迎え、講演会と対談を実施した。				
3	セミナー・シンポジウム タイトル	トークセッション 菊地敦己×西澤徹夫「デザインと表現」				
	開催日	令和6年7月13日	場所	1階講堂（オンライン配信あり）	聴講者数（人）	83
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	菊地敦己（グラフィックデザイナー）、西澤徹夫（建築家）				
	内容	展覧会「倉俣史朗のデザインー記憶のなかの小宇宙」の関連イベントとして、グラフィックデザイナーの菊地敦己氏と建築家の西澤徹夫氏を迎え、トークセッションを実施した。				
4	セミナー・シンポジウム タイトル	木内俊克×砂山太一×本橋 仁「イメージと言葉：モダン／ポストモダンのポスト」				
	開催日	令和6年7月17日	場所	4階展示室（公開はオンライン配信のみ）	聴講者数（人）	—
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	木内俊克（建築家）、砂山太一（建築家）、本橋 仁（金沢21世紀美術館レジストラー）				

	内容	展覧会「倉俣史朗のデザイナー—記憶のなかの小宇宙」の関連イベントとして、建築家の木内俊克氏と砂山太一氏、金沢 21 世紀美術館レジストラーの本橋仁氏を迎え、鼎談を実施した。				
5	セミナー・シンポジウム タイトル	プレ・セミナー				
	開催日	令和 6 年 5 月 18 日	場所	1 階ロビー	聴講者数 (人)	98
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	朝吹真理子(作家)、小泉智貴(デザイナー)				
	内容	展覧会「LOVE ファッション—私を着がえるとき」の関連イベントとして、作家の朝吹真理子氏とデザイナーの小泉智貴氏を迎え、プレ・セミナーを実施した。				
6	セミナー・シンポジウム タイトル	アーティストによるギャラリー・トーク				
	開催日	令和 6 年 9 月 14 日	場所	1 階講堂	聴講者数 (人)	58
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	松川朋奈(作家)、横山奈美(作家)、原田裕規(作家)				
	内容	展覧会「LOVE ファッション—私を着がえるとき」の関連イベントとして、アーティストの松川朋奈氏、横山奈美氏、原田裕規氏を迎え、ギャラリー・トークを実施した。				
7	セミナー・シンポジウム タイトル	記念講演会 服は人を作る—物語のなかの「よそおい」				
	開催日	令和 6 年 10 月 12 日	場所	1 階講堂	聴講者数 (人)	83
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	柴田元幸(翻訳家/東京大学名誉教授)				
	内容	展覧会「LOVE ファッション—私を着がえるとき」の関連イベントとして、翻訳家、東京大学名誉教授の柴田元幸氏を迎え、講演会を実施した。				
8	セミナー・シンポジウム タイトル	シンポジウム「ファッション展の現在とキュレーション—歴史・批評・ミュージアム」				
	開催日	令和 6 年 11 月 4 日	場所	1 階講堂	聴講者数 (人)	76
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	平芳裕子(神戸大学大学院人間発達環境学研究科 准教授) 司会 小形道正(大妻女子大学 家政学部 専任講師) 小野寺奈津(国立新美術館 特定研究員) 高木 遊(金沢 21 世紀美術館 アシスタント・キュレーター) 五十棲亘(京都服飾文化研究財団 アシスタント・キュレーター)				
	内容	近年話題のファッション展をつくり上げてきたキュレーターとともに、「ファッションのキュレーション」の実践とそれにまつわる諸問題について討議した。				
9	セミナー・シンポジウム タイトル	ギャラリートーク (インスタ LIVE)				
	開催日	令和 6 年 12 月 21 日	場所	3 階展示室(公開はオンライン配信のみ)	聴講者数 (人)	—
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	黒田悟一(黒田辰秋孫)、宮本貞治(木工家、重要無形文化財「木工芸」保持者)、大長智広(京都国立近代美術館主任研究員・本展担当者)				
	内容	展覧会「生誕 120 年 人間国宝 黒田辰秋—木と漆と螺鈿の旅—」の関連イベントとして、黒田辰秋の孫の黒田悟一氏と木工家の宮本貞治氏を迎え、ギャラリートークを実施した。				
10	セミナー・シンポジウム タイトル	講演会「黒田辰秋・新宮殿の椅子とものづくりの思想」				

	開催日	令和7年1月25日	場所	1階講堂（オンライン配信あり）	聴講者数（人）	70
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	中川輝彦（飛騨産業株式会社デザイン室長）				
	内容	展覧会「生誕120年 人間国宝 黒田辰秋―木と漆と螺鈿の旅―」の関連イベントとして、飛騨産業株式会社デザイン室長の中川輝彦氏を迎え、講演会を実施した。				
11	セミナー・シンポジウム タイトル	ギャラリートーク（インスタ LIVE）				
	開催日	令和7年2月1日	場所	3階展示室（公開はオンライン配信のみ）	聴講者数（人）	—
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	黒田悟一（黒田辰秋孫）、鷺珠江（河井寛次郎孫、河井寛次郎記念館学芸員）、大長智広（京都国立近代美術館主任研究員・本展担当者）				
	内容	展覧会「生誕120年 人間国宝 黒田辰秋―木と漆と螺鈿の旅―」の関連イベントとして、黒田辰秋の孫の黒田悟一氏と河井寛次郎記念館学芸員の鷺珠江氏を迎え、ギャラリートークを実施した。				
12	セミナー・シンポジウム タイトル	クロージングトーク				
	開催日	令和7年3月16日	場所	京都国立近代美術館1階ロビー	聴講者数（人）	12
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	黒部駿人（VUILD 株式会社／VUILD DESIGN デザインディレクター／フォトグラファー） 長岡勉（VUILD 株式会社／VUILD DESIGN デザインディレクター） 松山沙樹（京都国立近代美術館研究員） 牧口千夏（京都国立近代美術館主任研究員）				
	内容	企画に関わった美術館の担当者とデザインを担当した VUILD DESIGN のメンバーを迎え、「リング・リング・ロング」で目指したことやデザインの意図を話すクロージングトークを実施した。				
13	セミナー・シンポジウム タイトル	講演会「クラクフと〈若きポーランド〉の象徴主義」				
	開催日	令和7年3月25日	場所	1階講堂（オンライン配信あり）	聴講者数（人）	28
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	ウルシュラ・コザコフスカ＝ザウハ（クラクフ国立博物館学芸員・近代美術部門長／本展企画者）				
	内容	展覧会「〈若きポーランド〉―色彩と魂の詩 1890-1918」の関連イベントとして、クラクフ国立博物館学芸員・近代美術部門長のウルシュラ・コザコフスカ＝ザウハ氏を迎え、講演会を実施した。				
エ 国立映画アーカイブ						
1	セミナー・シンポジウム タイトル	TIFF 映画教育国際シンポジウム 2024 《世界のこどもたちが映画を待っている》 ～社会課題と向き合う映画教育～				
	開催日	令和6年11月2日	場所	小ホール	聴講者数（人）	116
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	【講演】 テーマ：「こども映画教室20年の軌跡と今後の展望」 講 師：土肥悦子 氏（一般社団法人こども映画教室® 代表理事・プロデューサー） テーマ：「アリシア・ベガの教えと現在～ラテン・アメリカにおける芸術教育の現状～」 講 師：セバスティアン・リフォ・バルデベント 氏 （アリシア・ベガ文化財団ディレクター／チリ） テーマ：「シネマ・アン・クルスの20年～居場所としての映画～」 講 師：ライア・コレル・アパリシオ 氏 （A Bao A Qu 創立者・共同ディレクター／スペイン） テーマ：「フィルムラボ・パレスチナの活動における映画教育の重要性」				

		講 師：ハンナ・アタッラー 氏 (Filmlab Palestine 創業者・芸術監督／パレスチナ) 【パネルディスカッション】 テーマ：「社会課題と映画教育の可能性」 登壇者：セバスティアン・リフォ・バルデベント、ハンナ・アタッラー、 ライア・コレル・アパリシオ、土肥悦子 各氏 司 会：富田美香 (国立映画アーカイブ主任研究員)				
	内容	主催：公益財団法人ユニジャパン(第37回東京国際映画祭実行委員会) 共催：東京都、国立映画アーカイブ 企画・運営：一般社団法人こども映画教室® 内容：「こども映画館」など小中学生を主な対象とした事業を2002年から毎年開催しており、 2023年度には初めて東京国際映画祭(TIFF)と「映画教育国際シンポジウム」を共催し、フランス、 スコットランド、韓国の専門家と映画教育の社会的意義などについて議論した。				
2	セミナー・シンポジウム タイトル	映画と義太夫——旧劇映画の声と音				
	開催日	令和6年5月7日	場所	早稲田大学小野記念講堂	聴講者数 (人)	119
	講師・パネリスト 等の氏名(職名)	○第一部 【講 演】 テーマ：「サイレント時代の映画館と義太夫：九島資料を手掛かりに」 【作品解説】 講 師：児玉 竜一 氏 (早稲田大学文学学術院教授、同演劇博物館長) 上 映：『朝顔日記』(約10分、無音上映) ○第二部 【講 演】 テーマ：「資料から見る”義太夫出語り”旧劇映画の魅力」 講 師：富田 美香 (国立映画アーカイブ主任研究員) 【トーク】 上 映：『旧劇 太功記十段目 尼ヶ崎の場』[弁士説明版] (20分) 登壇者：鶴澤 津賀寿 氏 (義太夫節三味線演奏家)、児玉 竜一 氏				
	内容	主催：早稲田大学演劇映像学連携研究拠点、国立映画アーカイブ 協力：科学研究費特別研究員奨励費「サイレント期の札幌における地方映画興行と 映画配給網の研究：九島資料を中心に」(研究代表者・柴田康太郎) 内容：サイレント時代の日本では弁士の語りだけでなく多彩な声の文化が映画上映を演出しており、 演劇映像学連携研究拠点は2018年度以来、演劇博物館所蔵のサイレント映画を用い、かつて の多彩な上映スタイルを「再現」する試みをおこなっている。今回は義太夫入りの上映に光を当 て、演劇博物館所蔵の『朝顔日記』といった「旧劇映画」の義太夫入り上映を実現するための考証 プロセスをワークショップとして公開した。				
3	セミナー・シンポジウム タイトル	全国映画資料アーカイブサミット2025				
	開催日	令和7年1月24日	場所	オンライン開催	聴講者数 (人)	224
	講師・パネリスト 等の氏名(職名)	【第1部/報告】 テーマ：令和6年度アーカイブ中核拠点形成モデル事業の実施概要について 登壇者：佐藤友則 氏(事務局) 【第2部/報告】 ○テーマ：映画資料ポータルサイト「映画遺産」について				

4		登壇者：宮本法明（国立映画アーカイブ 任期付研究員）、佐藤いつみ※（国立映画アーカイブ 研究補佐員）※連名による発表・当日の登壇なし 【第3部/セミナー】 テーマ：デジタルアーカイブ構築における著作権について 講 師：数藤雅彦 氏（五常総合法律事務所 パートナー弁護士） 【第4部/報告】 テーマ：映画資料展—2023-24 年現地報告 1. 映画のレシビ（会場：香川県立ミュージアム） 登壇者：黛 友明 氏（香川県立ミュージアム 専門学芸員） 2. Afternote 山口市 映画館の歴史（会場：山口情報芸術センター[YCAM]） 登壇者：前原美織 氏（山口情報芸術センター[YCAM] シネマキュレーター） 3. 世田谷文学館コレクション展「衣裳は語る——映画衣裳デザイナー・柳生悦子の仕事」（会場：世田谷文学館） 登壇者：瀬川ゆき 氏（世田谷文学館 学芸員） 【第5部/セミナー】 テーマ：「須賀川特撮アーカイブセンター」と特撮資料の保存 講 師：三好 寛 氏（特定非営利活動法人アニメ特撮アーカイブ機構 事務局長） 【第6部/セミナー】 テーマ：映画資料アーカイブの重要性について 登壇者：岡田秀則（国立映画アーカイブ 主任研究員）				
	内容	主催：国立映画アーカイブ（令和6年度アーカイブ中核拠点形成モデル事業） 運営：特定非営利活動法人映像産業振興機構 内容：「令和6年度アーカイブ中核拠点形成モデル事業*」の一環として、デジタルアーカイブ構築における著作権についてのセミナー、映画分野の展覧会キュレーション、特撮資料のアーカイブに関する発表等の多様なプログラムを実施し、望ましい映画資料アーカイブの構築に向けて議論を深め、映画資料関係者のネットワークの拡大を図る場となった。				
	セミナー・シンポジウム タイトル	ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント マグネティック・テープ・アラート： 磁気テープ映像の保存に向けてできること				
	開催日	令和6年10月5日	場所	長瀬記念ホール OZU	聴講者数 (人)	255
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	【ビデオレクチャー】 テーマ：「磁気テープは待ってくれない：ビデオテープの保存とデジタル化の課題」 講 師：モーガン・モレル 氏 *日本語字幕付き (アメリカ議会図書館 国立視聴覚資料保存センター・ビデオラボ・スーパーバイザー) 【発表/ディスカッション】 テーマ：「磁気テープ資料の活用・保存・デジタルファイル化について」 デジタルファイル化とその保存について基本的な考え方と国立映画アーカイブの方針を解説後、貴重な調査やパフォーマンスの記録として、磁気テープ原版の資料映像を多く製作・保存している分野の代表的な国立機関から、当該分野における磁気テープ資料の貴重性、デジタルファイル化やデータ保存に関する活動について報告。 ディスカッションではマイグレーションなど含めた保存のあり方や課題などを検討。 【講演】 テーマ：「ビデオテープ映像のデジタルファイル化とその保存について」 講 師：中西智範（国立映画アーカイブ 学芸課映画室 特定研究員） テーマ：「フィールド調査の映像・音声資料の保存・活用について」				

		講 師：内田順子 氏（大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館 副館長・教授） テーマ：「国立劇場公演記録の作成・保存における磁気テープについて」 講 師：宮崎信子 氏（独立行政法人日本芸術文化振興会 国立劇場調査養成部副部長 兼 調査資料課長） テーマ：「国立国会図書館所蔵資料における磁気テープのデジタル化の取組等について」 講 師：小沼里子 氏（国立国会図書館 利用者サービス部音楽映像資料課長）				
	内容	主催：国立映画アーカイブ 内容：ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」（10月27日）を記念して、2021年10月に開催した「[緊急フォーラム] マグネティック・テープ・アラート：膨大な磁気テープの映画遺産を失う前にできること」に引続き、再生機の生産と保守の完全終了、技術者の減少、テープの経年劣化などから、2025年頃にはテープのデータを移すことができなくなる可能性を警告する特別イベントを開催した。 1895年の映画誕生から映像の時代が始まり、その映像をさらに人々の日常生活に浸透させたメディアが、磁気テープであり、ビデオなどの磁気テープは放送業界をはじめ、民俗学や歴史の調査、舞台芸術や音楽、スポーツの記録など、広範な分野で活用され、1980年代には家庭や学校、地域でも多くの人々が映像を撮影し残してきた。その膨大なビデオテープの映像が、2025年までにデジタルファイル化しなければ永遠にアクセスできなくなりかねない—という警告をユネスコが発しており、本年のイベントでも、改めてこの問題に向き合った。このイベントにより、歴史的かつ文化的遺産である映画・映像のアーカイブの活動への理解をさらに深める機会となった。				
オ 国立西洋美術館						
1	セミナー・シンポジウム タイトル	トークセッション《オメガとアルファのリチュアル》				
	開催日	令和6年5月4日	場所	講堂	聴講者数 (人)	84
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	遠藤麻衣（出品作家）、宇佐美なつ（出品作協力・出演者）、京谷啓徳（ゲスト/学習院大学教授）、新藤淳（モデレーター/国立西洋美術館主任研究員）				
	内容	企画展「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？」関連アーティストトーク＆セッション。出品作家：遠藤麻衣の作品の作品から、裸体表現・フェミニズム・舞台表現など多岐に渡るトークを展開。				
2	セミナー・シンポジウム タイトル	書物の中の小宇宙—文字と彩飾の饗宴				
	開催日	令和6年6月23日	場所	講堂	聴講者数 (人)	101
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	駒田亜紀子（実践女子大学美学美術史学科教授）				
	内容	企画展「内藤コレクション—写本 いとも優雅なる中世の小宇宙」関連講演会				
3	セミナー・シンポジウム タイトル	西洋中世写本の生産、流通、蒐集				
	開催日	令和6年7月6日	場所	講堂	聴講者数 (人)	95
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	松田隆美（慶応義塾大学名誉教授）				
	内容	企画展「内藤コレクション—写本 いとも優雅なる中世の小宇宙」関連講演会				
4	セミナー・シンポジウム タイトル	【トークコンサート】写本から読み解くいにしへの響き				
	開催日	令和6年7月19日・20日	場所	講堂	聴講者数 (人)	202

	講師・パネリスト等の氏名（職名）	出演：相澤紀恵、鎗木綾、櫻井元希、渡辺研一郎（アンサンブル・サリクス） 企画・トーク：櫻井元希（歌手・指揮者）				
	内容	中世写本に書かれた楽譜を読み解き歌うコンサート。またその読み解きに関するトークを交える。 各回完結（同一の内容を2回繰り返すもの）				
5	セミナー・シンポジウム タイトル	マルモッタン・モネ美術館の美しき物語 1934-2024				
	開催日	令和6年10月5日	場所	講堂	聴講者数（人）	103
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	エリック・デマジエール（マルモッタン・モネ美術館館長）				
	内容	企画展「モネ 睡蓮のとき」関連講演会				
6	セミナー・シンポジウム タイトル	モネと日本—相愛の物語				
	開催日	令和6年11月16日	場所	Zoom ウェビナー（オンライン）	聴講者数（人）	368
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	馬淵明子（前国立西洋美術館長／日本女子大学名誉教授）				
	内容	企画展「モネ 睡蓮のとき」関連講演会				
7	セミナー・シンポジウム タイトル	スライドトーク 企画展「モネ 睡蓮のとき」				
	開催日	令和6年11月1日、12月6日、 12月19日、令和7年1月9日	場所	講堂	聴講者数（人）	458
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	町野陽輝（展覧会アシスタント）、吉原里花（展覧会アシスタント）				
	内容	企画展「モネ 睡蓮のとき」の展覧会概要を説明するもの。ロジャー（デジタルワイヤレス補聴援助システム）を導入。12月6日には手話通訳付きの実施。				
8	セミナー・シンポジウム タイトル	ルネサンスから近代まで：サンディエゴでの美術コレクション収集				
	開催日	令和7年3月11日	場所	講堂	聴講者数（人）	103
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	マイケル・ブラウン（サンディエゴ美術館ヨーロッパ美術担当学芸員／本展共同監修者）				
	内容	企画展「西洋絵画、どこから見るか？—ルネサンスから印象派まで」関連講演会				
9	セミナー・シンポジウム タイトル	スライドトーク 企画展「西洋絵画、どこから見るか？—ルネサンスから印象派まで」				
	開催日	令和7年3月21日	場所	講堂	聴講者数（人）	99
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	星野琉（展覧会アシスタント）				
	内容	企画展「西洋絵画、どこから見るか？—ルネサンスから印象派まで」の展覧会概要を説明するもの。ロジャー（デジタルワイヤレス補聴援助システム）を導入。				
カ 国立国際美術館						
1	セミナー・シンポジウム タイトル	「梅津庸一 クリスタルパレス」アーティスト・トーク				
	開催日	令和6年6月8日	場所	国立国際美術館 B3 展示室前	聴講者数（人）	73
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	梅津庸一（出品作家）				

	内容	「梅津庸一 クリスタルパレス」展の出品作家である梅津庸一氏を招き、アーティスト・トークを開催した。「パーブルーム」というコレクティブの活動から、近年集中して取り組んでいる陶芸、版画にいたるまで、自身の活動の全体について話を伺った。				
2	セミナー・シンポジウム タイトル	「梅津庸一 クリスタルパレス」連続対談				
	開催日	令和6年8月3日、8月17日、 9月7日、9月21日	場所	国立国際美術館 B3 展示室 前	聴講者数 (人)	186
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	8月3日(土) 連続対談1 梅津庸一(出品作家)×福元崇志(国立国際美術館主任研究員) 8月17日(土) 連続対談2 梅津庸一(出品作家)×筒井宏樹(現代美術研究者) 9月7日(土) 連続対談3 梅津庸一(出品作家)×福元崇志(国立国際美術館主任研究員) 9月21日(土) 連続対談4 梅津庸一(出品作家)×藤谷千明(フリーライター)				
	内容	連続対談1「アーティストとキュレーターが協働すること」 連続対談2「梅津庸一 解体新書!! 梅津年表から解剖する」 連続対談3「クリスタルパレス展はこうして生まれた」 連続対談4「v系の5年は美術における50年に相当する?」				
3	セミナー・シンポジウム タイトル	「梅津庸一 クリスタルパレス」特別対談				
	開催日	令和6年10月5日	場所	国立国際美術館 B3 展示室 前	聴講者数 (人)	90
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	梅津庸一(出品作家)×浅田彰(京都芸術大学教授)				
	内容	「梅津庸一 クリスタルパレス」展の関連イベントとして、出品作家である梅津庸一氏、京都芸術大学の浅田彰氏を招き、特別対談を開催した。				
4	セミナー・シンポジウム タイトル	エクスチェンジプログラム vol.2 / 国立国際美術館×大阪中之島美術館 コレクションをめぐる ナイトミュージアム ツアー&トーク				
	開催日	令和6年11月23日	場所	国立国際美術館、大阪中之島美術館	聴講者数 (人)	23
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	安来正博(国立国際美術館研究員) 高柳有紀子(大阪中之島美術館 主任学芸員)				
	内容	国立国際美術館と、隣接する大阪中之島美術館でそれぞれ開催している「線表現の可能性」、 「TRIO パリ・東京・大阪 モダンアート・コレクション」の二つの展覧会をめぐるツアー&トークを開催した。				
5	セミナー・シンポジウム タイトル	第27回 中之島映像劇場「1970年」				
	開催日	令和7年3月15日	場所	国立国際美術館 講堂	聴講者数 (人)	195
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	馬定延(国立国際美術館客員研究員) 吉見俊哉(社会学者・東京大学名誉教授・國學院大学教授)				
	内容	第27回 中之島映像劇場「1970年」の開催に際して、映像作品を上映するとともに社会学者の吉見俊哉氏を招き、「大阪万博と映像」についての講演を行った。				
キ	国立新美術館					
1	セミナー・シンポジウム タイトル	対談：岡崎乾二郎(造形作家、批評家)×米田尚輝(本展監修者) 「アネムネーシス(想起す)のマティス」				
	開催日	令和6年4月13日	場所	国立新美術館 3階講堂	聴講者数 (人)	162
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	岡崎乾二郎(造形作家、批評家)、米田尚輝(国立新美術館主任研究員)				

	内容	岡崎乾二郎（造形作家、批評家）を招いてマティスについて対談を行った。最初に、マティスが1917年以降ニースに滞在していた時期に集中的に制作された、室内の女性を主題とした絵画におけるオブジェの役割について議論を行った。次いで、マティス晩年の総合芸術作品とも言えるヴァンス礼拝堂の室内を飾る、陶板壁画に描かれた図像の系譜について議論を行った。				
2	セミナー・シンポジウム タイトル	トークパフォーマンス 福永信 ひとり対談 クリストファー・スティヴンズとは誰か？ 福永信が迫る、アートカタログ翻訳者の人生				
	開催日	令和6年5月11日	場所	国立新美術館3階研修室AB	聴講者数 (人)	21
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	福永信（クリストファー・スティヴンズ研究家・遠距離現在展図録執筆者）、クリストファー・スティヴンズ（翻訳家）				
	内容	本展カタログの英訳者であり、多くのアートカタログの奥付にクレジットされているクリストファー・スティヴンズ氏のインタビューに基づき、彼の人生と日本のカタログ全般に関して、本展図録執筆者でもある小説家の福永信氏が語るトークパフォーマンスを行った。				
3	セミナー・シンポジウム タイトル	ヒト・シュタイエル × トレヴァー・パグレン 対談				
	開催日	令和6年5月25日	場所	国立新美術館3階講堂	聴講者数 (人)	158
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	ヒト・シュタイエル（遠距離現在展出品作家）、トレヴァー・パグレン（遠距離現在展出品作家）				
	内容	遠距離現在展にあわせ、出品作家2名による対談イベント。ゲーテ・インスティトゥート東京の協力を得て行われた。イメージを通して社会の様々な事象、問題を浮かび上がらせる作品を制作するという共通点をもつ本展出品作家2人により、ポストパンデミック社会におけるイメージとテクノロジーをめぐる議論が展開された。なお、本対談は、遠距離現在展のカタログにも収録されたポンピドゥーセンターでの2018年の対談の続きとして企画された。				
4	セミナー・シンポジウム タイトル	シンポジウム：田名網敬一の現在地				
	開催日	令和6年9月14日	場所	国立新美術館3階講堂	聴講者数 (人)	92
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	登壇者：池上裕子（美術史家、大阪大学大学院人文学研究科教授）、ジュリアン・ロス（ライデン大学助教）※オンライン参加、束芋（美術作家）、朝吹真理子（小説家） 司会・モデレーター：小野寺奈津（国立新美術館特定研究員）				
	内容	田名網敬一と交流があった内外の様々な分野の研究者、アーティストを迎え、展覧会開幕後に逝去した田名網の生前の幅広い活動を改めて検証し、なぜ今田名網の作品が見直され、注目されているかの議論が展開された。また、田名網の人柄が、多くの若い世代の研究者やアーティストに影響を与え、才能を育んできたかについても語られた。日・英通訳付きで行い、後日アーカイブ動画（日・英）を配信した。				
5	セミナー・シンポジウム タイトル	シンポジウム：日本の現代美術の変遷—1989年を起点として				
	開催日	令和6年11月8日	場所	国立新美術館3階講堂	聴講者数 (人)	130
	講師・パネリスト等の氏名（職名）	登壇者：キャシー・ハルブライヒ（インディペンデント・キュレーター、フィランソロピー・アドバイザー）、神谷幸江（美術評論家、インディペンデント・キュレーター）、皮力（ピー・リー）（大館当代美術館 アート部門長）、ドリアン・チョン（M+ アーティスティック・ディレクター、チーフ・キュレーター）、イザベラ・タム（M+ キュレーター（ビジュアル・アート部門）） 尹志慧（国立新美術館特定研究員） 司会：尹志慧（国立新美術館特定研究員）				
	内容	2025年9月より国立新美術館とM+香港の共同企画として開催される日本の現代美術展「時代のプリズム：日本で生まれた美術表現 1989-2010」（仮称）展1年前イベント。本展で取り扱う1990				

		年代および 2000 年代に、国際的なコンテキストにおいて日本の現代美術がどのようにとらえられてきたのかを各登壇者が証言。美術史を支えていく美術館等の組織の在り方や、クローパリズム、キュレトリアルの手法など、本展で扱うテーマの実現に向けた議論が展開された。				
6	セミナー・シンポジウム タイトル	国際シンポジウム「リビング・モダニティ—過去・現在・未来」				
	開催日	令和 7 年 3 月 20 日	場所	国立新美術館 3 階講堂	聴講者数 (人)	145
	講師・パネリスト等の氏名(職名)	ケン・タダシ・オオシマ(ワシントン大学教授、リビング・モダニティ展ゲスト・キュレーター)、パトリック・モゼ(ル・コルビュジエ ヴィラ "ル・ラク" キュレーター)、松隈章(一般社団法人 聴竹居倶楽部 代表理事)、田中厚子(建築史家、神奈川大学非常勤講師)、マルセロ・カルヴァーリョ・フェラス(建築家、元バルディ財団ディレクター)、ティモ・リエッコ(アルヴァ・アアルト財団 チーフ・キュレーター)、松下希和(建築家・芝浦工業大学 教授)、佐々木啓(リビング・モダニティ展アソシエイト・キュレーター)				
	内容	「リビング・モダニティ 20 世紀の住まいの実験 1920s-1970s」展の開幕を記念し、展覧会で特に力を入れて紹介する傑作 14 邸から国内外 6 邸の研究に携わる研究者やキュレーターを招いたシンポジウム。約 100 年前から行われた建築家たちの住まいの実験がどのように現在の私たちの暮らしに息づいているのか、彼らの描いたモダン・ハウスの夢を次代にどう繋いでいくのかについて、つくり手、使い手、伝え手の、多角的な視点からのプレゼンテーションとディスカッションを行った。				

様式 1 公表されるべき事項

独立行政法人国立美術館の役員報酬・給与等について(令和6年度)

I 役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

① 役員報酬の支給水準の設定についての考え方

国立美術館は、美術館を設置して、美術(映画を含む)に関する作品その他資料を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、これに関連する調査及び研究並びに教育及び普及の事業等を行うことにより、芸術その他の文化の振興を図ることを目的としている。

そうした組織の中で、理事長は、法人全体の活動を総括する一方で、我が国における芸術文化の創造と発展、国民の美的感性の育成を使命とし、美術振興の中心拠点として、高いマネジメント能力やリーダーシップに加え、高度な専門性が求められる。理事においてもこれら多岐に渡る業務を遂行する理事長の職務を補佐するにあたり、相当の能力と専門性が求められる。

以上により役員報酬の設定にあたっては、国家公務員の指定職、文化分野の保存・活用等を図ることを主要な業務とする他法人の長を参考とした。

② 令和6年度における役員報酬についての業績反映のさせ方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

独立行政法人国立美術館役員報酬規則により、役員に支給される報酬のうち、期末特別手当においては、文部科学大臣が行う業績評価、役員としての業務に対する貢献度等を総合的に勘案して理事長が決定する評価に基づき、期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができるものとしている。令和6年度においては、業績反映という観点では、特に顕著な業績や失態がなかったと判断し、役員報酬の増減は行っていない(ただし人事院勧告に基づく報酬額の引上げは実施した)。

③ 役員報酬基準の内容及び令和6年度における改定内容

法人の長

役員報酬支給基準は、月額及び期末特別手当から構成されている。月額については、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、俸給月額(979,000円)及び地域手当の月額。期末特別手当については、俸給月額及び地域手当の月額に100分の20を乗じて得た額、並びに俸給月額に100分の25を乗じて得た額の合計額に、6月に支給する場合においては100分の170、12月に支給する場合においては100分の175を乗じて得た額としている。また、文部科学大臣が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができることとしている。

なお、令和6年度においては、人事院勧告に基づき、国家公務員指定職俸給表と同等の報酬額及び期末特別手当支給割合の改定(引上げ)を実施した。

理事

役員報酬支給基準は、法人の長と同様である。月額については、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、俸給月額(716, 000円から979, 000円の範囲内)及び地域手当の月額。期末特別手当については、並びに俸給月額及び地域手当の月額に100分の20を乗じて得た額、並びに俸給月額に100分の25を乗じて得た額の合計額に、6月に支給する場合においては100分の170、12月に支給する場合においては100分の175を乗じて得た額としている。また、文部科学大臣が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができることとしている。

なお、令和6年度の報酬額等改定についても法人の長と同様である。

理事(非常勤)

独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、非常勤役員手当として月額120,000円としている。なお、令和6年度においては改定は行っていない。

監事(非常勤)

独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、非常勤役員手当として月額120,000円としている。なお、令和6年度においては改定は行っていない。

2 役員の報酬等の支給状況

役名	令和6年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況		前職
		報酬(給与)	賞与	その他(内容)	就任	退任	
法人の長	千円 19,975	千円 11,893	千円 5,562	千円 2,519 (地域手当) (通勤手当)			※
A理事	千円 15,816	千円 9,380	千円 4,384	千円 2,051 (地域手当) (通勤手当)			◇
B理事	千円 16,960	千円 10,069	千円 4,711	千円 2,179 (地域手当) (通勤手当)			※
C理事 (非常勤)	千円 1,440	千円 1,440	千円 0	千円			
A監事 (非常勤)	千円 1,440	千円 1,440	千円 0	千円 ()			※
B監事 (非常勤)	千円 1,440	千円 1,440	千円 0	千円 ()			

注1:総額、各内訳が千円未満切り捨てのため、総額と各内訳の合計額が一致しない。

注2:「その他」欄には手当等が支給されている場合は、例えば通勤手当の総額を記入する。

注3:「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付す。
退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄

3 役員の報酬水準の妥当性について

【法人の検証結果】

法人の長

国立美術館は、美術館を設置して、美術(映画を含む。)に関する作品その他資料を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、これに関連する調査及び研究並びに教育及び普及の事業等を行うことにより、芸術その他の文化の振興を図ることを目的としている。

そうした組織の中で、理事長は、法人全体の活動を総括する一方で、我が国における芸術文化の創造と発展、国民の美的感性の育成を使命とし、美術振興の中心拠点として、高いマネジメント能力やリーダーシップに加え、高度な専門性が求められる。また、理事長の年間報酬額は、事務次官の年間給与額(2,337万円)と比較してもそれを下回っている。文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人の長の年間報酬額(約1,800万円)と比すると100万円超上回っているが、これは地域手当の差に起因するものであって俸給額としては同水準であるため、こうした職務内容の特性や他法人等との比較を踏まえても、報酬水準は妥当であると考えられる。なお、令和6年度報酬総額は令和5年度に比べ増となったが、これは令和5年度人事院勧告に基づき国家公務員指定職と同等の報酬額の改定を行ったためである。

理事

理事の職務においては、上記理事長の多岐に渡る業務を補佐するにあたり、相当の専門性を求めている。その報酬は、国家公務員における指定職俸給表をベースとして算定しており、文化分野の保存・活用等を図ることを主要な業務とする他法人の理事の年間報酬額(約1,600万円)とも同水準となっている。こうした職務内容の特性や他法人等との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

理事(非常勤)

理事(非常勤)については、国家公務員における指定職俸給表1号俸相当をベースに、業務内容、想定勤務日数、勤務状況等を総合的に勘案し算出している。また、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人の理事(非常勤)の報酬額との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

監事(非常勤)

監事(非常勤)については、国家公務員における指定職俸給表1号俸相当をベースに、業務内容、想定勤務日数、勤務状況等を総合的に勘案し算出している。また、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人の監事(非常勤)の報酬額との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

【主務大臣の検証結果】

職務内容の特性や国家公務員指定職適用官職、他の同規模の独立行政法人、民間企業との比較などを考慮すると、役員の報酬水準は妥当であると考えられる。

4 役員の退職手当の支給状況(令和6年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

区分	支給額(総額) 千円	法人での在職期間 年 月	退職年月日	業績勘案率	前職
法人の長	該当なし				
理事A	該当なし				
理事B	該当なし				
理事C (非常勤)	該当なし				
監事A (非常勤)	該当なし				
監事B (非常勤)	該当なし				

注:「前職」欄には、退職者の役員時の前職の種類別に以下の記号を付す。
退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後
独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄

5 退職手当の水準の妥当性について

【主務大臣の判断理由等】

区分	判断理由
法人の長	該当者なし
理事A	該当者なし
理事B	該当者なし
理事A (非常勤)	該当者なし
理事B (非常勤)	該当者なし
監事A	該当者なし
監事B	該当者なし
監事A (非常勤)	該当者なし
監事B (非常勤)	該当者なし

注:「判断理由」欄には、法人の業績、担当業務の業績及び個人的な業績の検討結果を含め、業績勘案率及び退職手当支給額の決定に到った理由等を具体的に記入する。

6 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

当法人においては、期末特別手当について、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、文部科学大臣が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができることとしている。

II 職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項

① 職員給与の支給水準の設定等についての考え方

独立行政法人通則法第50条の10第3項に基づき、業務の実績を考慮し、かつ、社会一般情勢(国家公務員の給与水準)に適合するよう、学歴、試験、経験及び職務の責任の度合いを基に給与水準を決定している。

② 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

勤務評定等の結果を踏まえた勤務成績を考慮し、昇格、昇給の実施及び勤勉手当の成績率の決定を行っている。

〔能率、勤務成績が反映される給与の内容〕

給与種目	制度の内容
俸給月額 (昇格)	従事する職務に応じ、かつ、総合的な能力の評価により1級上位の級に昇格させることができる。
俸給月額 (昇給)	昇給期間における勤務成績等に応じて、上位の号俸に昇給させることができる。
賞与:勤勉手当 (査定分)	基準日以前6箇月以内の期間における、勤務成績に応じて決定される支給割合(成績率)に基づき支給される。

③ 給与制度の内容

独立行政法人国立美術館職員給与規則に則り、俸給及び諸手当(扶養手当、地域手当、住居手当、通勤手当、単身赴任手当、超過勤務手当、休日出勤手当、夜勤手当、管理職手当、主任研究員手当、期末手当及び勤勉手当)としている。
 期末手当については、期末手当基準額(俸給+扶養手当+地域手当+役職段階別加算額+管理職加算額)に支給割合を乗じ、さらに基準日以前6箇月以内の期間におけるその者の在職期間に応じた割合(在職期間別割合)を乗じて得た額としている。
 勤勉手当については、勤勉手当基準額(俸給+地域手当+役職段階別加算額+管理職加算額)に成績率を乗じ、さらに基準日以前6箇月以内の期間におけるその者の在職期間に応じた割合(期間率)を乗じて得た額としている。

④ 給与制度の令和6年度における主な改定内容

令和6年度は、国家公務員の給与改定に準拠し、①人事院勧告による官民較差等の状況を踏まえ、初任給を始め若手層に重点を置いて、俸給水準を平均3.0%引き上げ(令和7年1月期において令和6年4月に遡及して引き上げを実施)、②期末手当支給割合及び勤勉手当成績率の引き上げ(年間0.1ヶ月分※各手当に0.05ヶ月分ずつ配分)の改定等を実施した。

2 職員給与の支給状況

① 職種別支給状況

区分	人員	平均年齢	令和6年度の年間給与額(平均)			
			総額	うち所定内		うち賞与
				うち通勤手当等		
常勤職員	人 106	歳 47	千円 8,297	千円 6,083	千円 150	千円 2,214
事務・技術	人 46	歳 43.3	千円 6,812	千円 4,957	千円 157	千円 1,855
研究職種	人 60	歳 49.8	千円 9,436	千円 6,947	千円 146	千円 2,489
技能・労務職種	人 —	歳 —	千円 —	千円 —	千円 —	千円 —

任期付職員	人 11	歳 48.5	千円 9,876	千円 7,153	千円 128	千円 2,723
研究職種	人 7	歳 37.2	千円 6,661	千円 4,890	千円 110	千円 1,771
指定職種	人 4	歳 68.3	千円 15,503	千円 11,114	千円 159	千円 4,389

再雇用職員	人 —	歳 —	千円 —	千円 —	千円 —	千円 —
研究職種	人 —	歳 —	千円 —	千円 —	千円 —	千円 —

非常勤職員	人 43	歳 45.5	千円 6,155	千円 6,155	千円 139	千円 0
事務・技術	人 20	歳 45.8	千円 5,476	千円 5,476	千円 126	千円 0
研究職種	人 23	歳 45.4	千円 6,746	千円 6,746	千円 150	千円 0

注1: 常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再雇用職員(再任用職員)を除く。

注2: 技能・労務職種とは、守衛の業務、又は映写技術に関する業務に従事する職種をいう。

注3: 技能・労務職種の該当者は2人以下の為、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、職種のみ記載している。

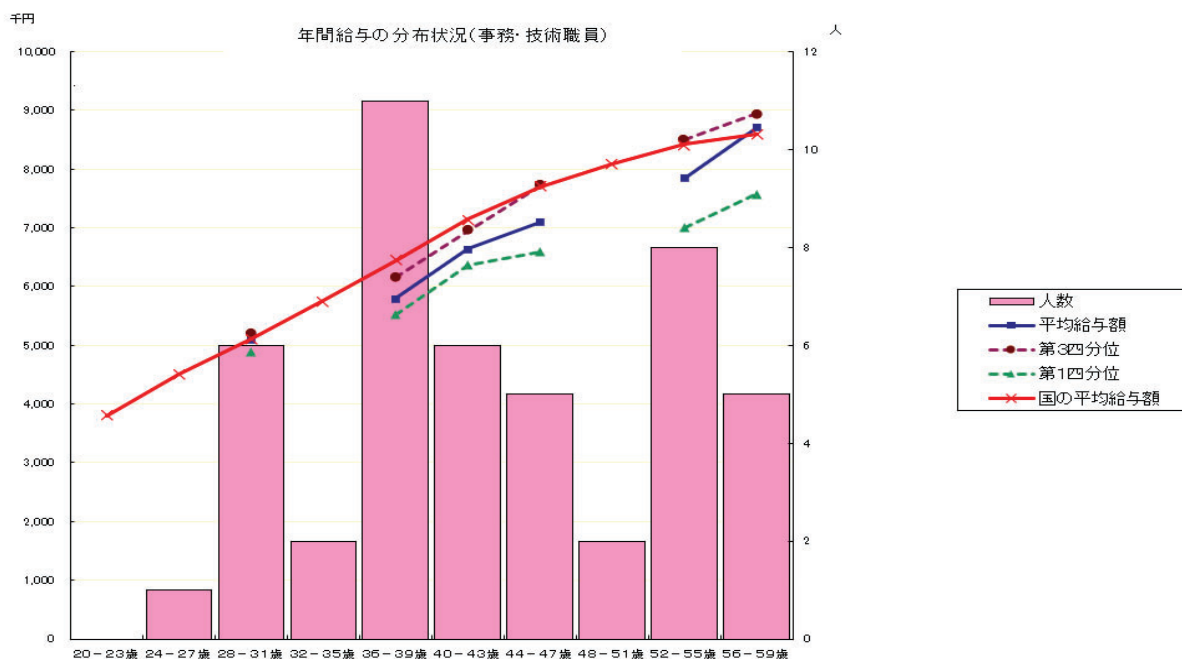
注4: 再雇用職員の該当者は2人以下の為、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、該当者のいる職種のみ記載している。

注5: 常勤職員、非常勤職員のうち医療職種(病院医師)、医療職種(病院看護師)及び教育職種(高等専門学校教員)、在外職員については、該当する者がいないため欄を省略した。

注6: 「年間給与額」は、時間外手当を除く給与の額

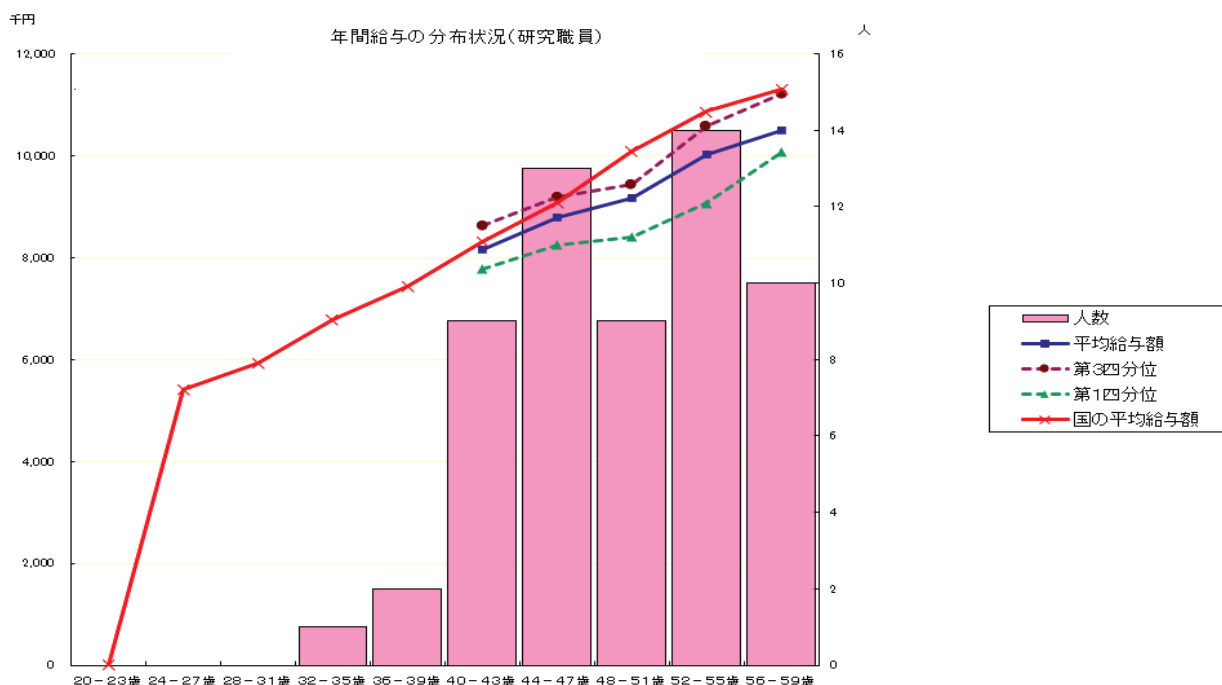
注7: 「通勤手当等」は、通勤手当と在宅勤務等手当の合算

② 年齢別年間給与の分布状況(事務・技術職員／研究職員〔在外職員、任期付職員及び再雇用職員を除く。以下、④まで同じ。〕



注1: ①の年間給与額から通勤手当等を除いた状況である。以下、④まで同じ。

注2: 年齢24-27歳、32-35歳及び48歳-51歳の該当者については4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、平均給与及び第1・第3四分位を表示していない。



注3: 32歳-35歳、36歳-39歳の該当者については4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、平均給与額及び第1・第3四分位を表示していない。

③ 職位別年間給与の分布状況(事務・技術職員／研究職員)
(事務・技術職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	年間給与額		
			平均	最高～最低	
	人	歳	千円	千円	千円
代表的職位					
本部部長	1				
本部課長	1				
本部室長	3	55.5	7,978		
本部係長	8	43.9	6,715	8,199	6,163
本部主任	1				
本部係員	1				
地方課長	3	55.2	8,703		
地方室長	5	51.1	7,602	8,080	6,585
地方係長	8	46.6	6,826	7,607	5,756
地方主任	3	36.8	5,873		
地方係員	12	32.7	5,047	5,767	4,612

注1: 本部部長、本部課長、本部主任、本部係員の該当者は2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、平均年齢以下の項目を記載していない。

注2: 本部室長、地方課長、地方主任の該当者は4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、最高～最低を記載していない。

(研究職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	年間給与額		
			平均	最高～最低	
	人	歳	千円	千円	千円
代表的職位					
本部学芸担当課長	1				
副館長	3	57.8	13,021		
学芸課長	7	54.6	10,838	12,173	8,689
主任研究員	47	48.9	8,906	10,310	6,068
研究員	2				

注1: 本部学芸担当課長、研究員の該当者は2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、平均年齢以下の項目を記載していない。

注1: 副館長の該当者は4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、最高～最低を記載していない。

④ 賞与(令和6年度)における査定部分の比率(事務・技術職員／研究職員)
(事務・技術職員)

区分		夏季(6月)	冬季(12月)	計
管理職員	一律支給分(期末相当)	% 44.5	% 42.3	% 43.4
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	% 55.5	% 57.7	% 56.6
		%	%	%
	最高～最低	55.5～55.5	57.7～57.7	56.6～56.6
一般職員	一律支給分(期末相当)	% 54.6	% 54.2	% 54.4
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	% 45.4	% 45.8	% 45.6
		%	%	%
	最高～最低	49.8～36	49～43.2	48.6～40.8

(研究職員)

区分		夏季(6月)	冬季(12月)	計
管理 職員	一律支給分(期末相当)	49.3	48.3	48.8
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	50.7	51.7	51.2
	最高～最低	53.6～43.8	55.9～44.0	54.8～43.9
一般 職員	一律支給分(期末相当)	54.5	54.3	54.4
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	45.5	45.7	45.6
	最高～最低	49.8～40.3	49.8～43.6	48.6～42.4

3 給与水準の妥当性の検証等

事務・技術職員

項目	内容
対国家公務員 指数の状況	・年齢勘案 94.1 ・年齢・地域勘案 88.1 ・年齢・学歴勘案 92.0 ・年齢・地域・学歴勘案 86.4
国に比べて給与水準が 高くなっている理由	該当なし
給与水準の妥当性の 検証	【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 78.8% (国からの財政支出額 8,657百万円、支出予算の総額 10,986百万円： 令和6年度予算) 累積欠損額 0円(令和6年度決算) 支出総額に占める給与・報酬等支給額の割合 9.8% (支出総額(令和6年度決算ベース) 12,819,738千円、給与・報酬等支出 総額 1,259,399千円) 管理職の割合 2%(常勤職員数49名中1名) 大卒以上の割合 93.8%(常勤職員数49名中46名) (法人の検証結果) 俸給表、諸手当等の給与体系は国家公務員に準拠しており、国からの財 政支出の割合は大きいものの、対国家公務員指数(年齢勘案は国を5.9ポ イント下回っており、令和6年度の事務・技術職員の給与水準は適切なもの であると認識している。 (主務大臣の検証結果) 法人の職員の給与水準は、職務の特性や国家公務員、民間企業の従業 員の給与等を勘案し、設定の考え方を明らかにすることが求められており、 国家公務員と比べて給与水準が高い法人は、その合理性及び妥当性に ついて、説明責任を果たすべきこととされている。(独立行政法人改革等 に関する 基本的な方針(平成25年12月24日閣議決定)) 当該法人は、国家公務員の給与及び業務の実績等を総合的に勘案したう えで、職員の給与水準を設定しており、法人における給与水準の妥当性 の検証結果から、適切な対応が執られていると考える。引き続き、適切な給 与水準の設定に努めていただきたい。
講ずる措置	引き続き適正な給与水準を維持する。

研究職員

項目	内容
対国家公務員 指数の状況	・年齢勘案 93. 8 ・年齢・地域勘案 92. 5 ・年齢・学歴勘案 93. 6 ・年齢・地域・学歴勘案 92. 3
国に比べて給与水準が 高くなっている理由	該当なし
給与水準の妥当性の 検証	【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 78.8% (国からの財政支出額 8,657百万円、支出予算の総額 10,986百万円： 令和6年度予算) 累積欠損額 0円(令和6年度決算) 支出総額に占める給与・報酬等支給額の割合 9.8% (支出総額(令和6年度決算ベース) 12,819,738千円、給与・報酬等支出 総額 1,259,399千円) 管理職の割合 5%(常勤職員数55名中3名) 大卒以上の割合 100%(常勤職員数55名中55名) (法人の検証結果) 俸給表、諸手当等の給与体系は国家公務員に準拠しており、国からの財 政支出の割合は大きいものの、対国家公務員指数(年齢勘案は国を6.2 ポイント下回っており、令和6年度の研究職員の給与水準は適切なもので あると認識している。 (主務大臣の検証結果) 法人の職員の給与水準は、職務の特性や国家公務員、民間企業の従業 員の給与等を勘案し、設定の考え方を明らかにすることが求められており、 国家公務員と比べて給与水準が高い法人は、その合理性及び妥当性に ついて、説明責任を果たすべきこととされている。(独立行政法人改革等 に関する基本的な方針(平成25年12月24日閣議決定)) 当該法人は、国家公務員の給与及び業務の実績等を総合的に勘案したう えで、職員の給与水準を設定しており、法人における給与水準の妥当性 の検証結果から、適切な対応が執られていると考える。引き続き、適切な給 与水準の設定に努めていただきたい。
講ずる措置	引き続き適正な給与水準を維持する。

4 モデル給与

(扶養親族がいない場合)

○ 22歳(大卒初任給)

月額 220, 000円 年間給与 3, 415, 632円

○ 35歳(本部主任)

月額 334, 560円 年間給与 5, 602, 540円

○ 50歳(本部室長)

月額 450, 120円 年間給与 7, 639, 436円

※扶養親族がいる場合には、扶養手当(配偶者6, 500円、子1人につ
き13, 000円)を支給

5 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

昇格、昇給の実施及び勤勉手当の成績率の判定については、規則に基づく勤務の評
定、または業務において特に優秀な成績を修めた職員の勤務成績を考慮している。

Ⅲ 総人件費について

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
給与、報酬等支給総額 (A)	千円 992,509	千円 1,083,746	千円 1,227,552	千円 1,259,399
退職手当支給額 (B)	千円 112,376	千円 61,742	千円 48,913	千円 22,987
非常勤役職員等給与 (C)	千円 585,488	千円 637,048	千円 739,188	千円 829,948
福利厚生費 (D)	千円 239,529	千円 247,110	千円 303,419	千円 315,926
最広義人件費 (A+B+C+D)	千円 1,929,902	千円 2,029,646	千円 2,319,072	千円 2,428,260

注：中期目標管理法人及び国立研究開発法人については中期目標期間又は中長期目標期間の開始年度分から当年度分までを記載する。行政執行法人については当年度分を記載する。

総人件費について参考となる事項

人事院勧告による俸給水準の引き上げが行われたため、常勤職員・非常勤職員ともに増となり、「給与、報酬等支給総額」は対前年度比102%、「非常勤役職員給与」は対前年度比112%となった。また、これに伴い社会保険料額等による「福利厚生費」の増加があった（前年度比104%）。「退職手当支給額」は、前年度に比べ退職者が少数となったため減じた（前年度比46%）。これらを総合して、「最広義人件費」は対前年度比104%となった。

Ⅳ 定年制度及び60歳以上の職員の給与制度

事務・技術職員、研究職員の定年は61歳である。令和5年4月1日から令和13年3月31日までの期間で毎年度、段階的に定年65歳への引き上げをはかる。定年年齢の引き上げに伴い、60歳に達した管理監督の職員は非管理監督職に降任する制度を設けているほか、職員の基本給について60歳に達する年度から7割水準とすることとした。

Ⅴ その他

特になし。